

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成17年7月

福井工業高等専門学校

目 次

対象高等専門学校の現況及び特徴	1
目的	2
基準ごとの自己評価	
基準1 高等専門学校の目的	7
基準2 教育組織（実施体制）	19
基準3 教員及び教育支援者	27
基準4 学生の受入	43
基準5 教育内容及び方法	69
基準6 教育の成果	129
基準7 学生支援等	167
基準8 施設・設備	187
基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	207
基準10 財務	235
基準11 管理運営	247
選択的評価基準	
研究活動の状況	281
正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	291

対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

福井工業高等専門学校

(2) 所在地

福井県鯖江市

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，
電子情報工学科，物質工学科，
環境都市工学科

専攻科：生産システム工学専攻，
環境システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成17年5月1日現在）

学生数

単位：名

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	40	40	40	41	35	196
電気電子工学科	40					40
電気工学科		40	42	40	39	161
電子情報工学科	40	40	43	40	37	200
物質工学科	40	42	41	39	37	199
環境都市工学科	40	40	40	41	36	197
計	200	202	206	201	184	993

専攻科課程	1年	2年	計
生産システム工学専攻	13	17	30
環境システム工学専攻	13	11	24
計	26	28	54

教員数（長期海外渡航者を除く）

単位：名

区 分	教授	助教授	講師	助手	計
一般科目	9	12	4	0	25
機械工学科	5	3	1	2	11
電気電子工学科	5	4	0	1	10
電子情報工学科	4	4	1	2	11
物質工学科	5	3	2	2	12
環境都市工学科	5	2	1	1	9
計	33	28	9	8	78

2 特徴

福井工業高等専門学校は、実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和40年4月に設置された。これまでに5,503名の本科卒業生及び158名の専攻科修了生を送り出している。現在、「機械工学科」、「電気電子工学科」、「電子情報工学科」、「物質工学科」、「環境都市工学科」の5学科において、実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく、5年一貫教育を行っている。また、平成10年4月には専攻科を設置し、「生産システム工学専攻」、「環境システム工学専攻」において、さらに進んだ教育も行っている。

教育の特徴としては、豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため、「ものづくり教育」を進め、NHKアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し、平成5年度、平成9年度の2度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得している。

本校を目指す中学生に対しては、アドミッションポリシーを示すと共に、平成17年度には、入学時に学科を決められない中学生のために、2年次より転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また、福井高専は地元で立脚した学校及び地元に関わられた学校を目指し、産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では、地元で密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者の組合である、福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置し、和紙に関する共同研究を行っている。

さらに、福井高専の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地である。福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し、眼鏡枠材料に関する共同研究を「地場産業支援室」の設置により行っている。また、平成17年5月には、これら地域社会との連携をさらに深めるため、近隣2市1町と本校は包括的な連携である「地域連携協定」を結び、さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組むこととした。これらの研究により、科学研究費補助金の採択件数・金額は全国高専中飛び抜けた存在となっている。

国際連携としては、海外学生派遣制度の他、平成17年度からオーストラリアのBallarat大学と提携し、学生の相互交換留学制度を開始することとした。

学校運営の評価として、平成14年度に校外の有識者による外部評価委員会（平成16年度より評議員会）を設置し、開催後に結果の開示を行っている。

また、平成17年5月には日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定校となった。その後も、公開授業、学生・教員相互からの評価などにより、恒常的な教育改善に努めている。

目的

福井工業高等専門学校の使命

基本理念

- ・創造性豊かな人材の育成
- ・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
- ・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
- ・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
- ・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を修得させる
2. 個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、かつ達な資性のかん養を図る

教育目標

- A. 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- B. 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- C. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- D. 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- E. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

養成する人材像

地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。

(準学士課程・専攻科課程等ごとの独自の目的)

各学科の目的

機械工学科

- (1) 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- (2) 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- (3) 創造性、実践的能力等の育成と、社会の期待に応えるための人間の育成

電気電子工学科

- (1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成
- (2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成
- (3) 独創力およびコミュニケーション能力の育成

電子情報工学科

- (1) 基礎的な学力と能力の育成
- (2) 変化するIT社会に対応できる応用力の育成
- (3) 実験実習や卒業研究をととした実践的能力や創造能力の育成

物質工学科

- (1) 物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成
- (2) 材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成
- (3) 実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

環境都市工学科

- (1) 環境都市工学に必要な基礎的な学力と能力の育成
- (2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成
- (3) 実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力の育成

専攻科の目的

生産システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

環境システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

(選択的評価基準「研究活動の状況」に係る目的)

本校の研究活動の目的は大きく二つからなる。一つは、本校の基本理念を達成するための教育的研究と各教員の教育者・研究者としての資質を向上するための研究である。二つ目は、本校の研究成果を地域に還元するための産官学共同研究である。地域との共同研究も教員の資質向上につながるものである。これらについて詳しく述べたい。

本校の基本理念は、「創造性豊かな人材の育成」、「幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」、「高度に情報化した国際社会に対応する教育」、「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」と定めている。したがって、学生の創造性を育むような研究、学生の基礎力・応用力を涵養するのに役立つ研究、情報化社会・国際社会に対応した人材育成に関係した研究、学生のものづくり、環境作り能力の向上に関係した教育的な研究活動の目的としている。

さらに、福井県は繊維、機械、電子機器、眼鏡が基幹産業であるが、アジア諸国の経済成長、技術力向上などを背景に激しい国際競争にさらされている。こうした状況の下、本校が産官学共同研究のネットワークの中心として、21世紀の福井県を支えることのできる新たな産業の創出、製品の高付加価値化を図るための企業支援も本校共同研究の目的である。また、学生が企業にインターンシップ、校外研修に出かけ、地元の企業への理解を深め、教員と一緒に共同研究を行う場合もある。このような学生参加の共同研究により、地域産業を担う人材の育成も図っている。

本校が共同研究に取り組んでいる研究分野は、新製造技術関連分野、バイオテクノロジー分野、自動車技術関連分野、福祉関係技術分野、新エネルギー関連分野、情報・通信関連分野、環境関連分野などである。さらに、福井県は生活文化関連の産業が多いことから、県全体としてデザイン立県を提唱しているので、本校ではこれに対応し、学習・教育目標に「デザインマインド」を掲げている。デザイン技術は、ものづくり教育の原点であるので、工学的企画・計画などの幅広い意味でのデザイン教育にも取り組んでいる。

また、本校が立地する、武生市、今立町(本年10月より二つが合併し、越前市となる。)、鯖江市は、和紙工業、漆器工業、打ち刃物工業、窯業などの伝統産業や、眼鏡枠工業、織物工業などの地場産業が盛んである。平成17年5月に、この2市1町と本校は、共同研究の実施などを約束する「地域連携協定」を締結した。今後、このような伝統産業、地場産業企業、組合、自治体と幅広い共同研究などを実施していく予定である。このような伝統産業・地場産業との共同研究に学生を参加させ、研究方法を教育すると共に、研究の面白さ・楽しみを学生に与えたい。

さらに、本校は平成12年度より平成17年度までの(独)科学技術振興機構、福井県との共同研究により福井県結集型共同研究、並びに平成16年度より平成17年度までの福井県及び同機構との都市エリア型共同研究などの大型の産官学共同研究にも参加してきた。これは本校の地元社会への研究による支援を目的としているが、学生にも卒業研究・特別研究として共同研究に従事させ、先端研究を行う場で教育も同時に行い、学生に研究の方法を教えることも本校の教育研究の大きな目的である。

(選択的評価基準「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的)

本校は、地域社会、住民対象に、公開講座、出前授業、リカレント教育など幅広い活動を行っている。これらは、本校基本理念に掲げているように「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」ことを目指しているものである。出前授業は毎年50件以上行っており、福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。本校の出前授業は、高学年の学生及び専攻科生を帯同し、学生が小学生・中学生の前で実験・説明を行っている。これは、学生が教えることによって、自らも学び取することを目的としている。

また、福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し、地域住民対象開放講座である、福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に毎年、哲学、環境関係の講師を派遣しており、事後のアンケートで好評を博している。これは、地域社会への貢献を目的とするほか、本校の知名度を向上し、入学者の増加、学校情報の周知をも目的としている。

福井県は強力磁石の世界的な生産拠点となっている。本校では、近隣する武生市の新しい地場産業である、強力磁石を製造する企業とともに、児童・生徒、学生の理科離れを防ぐために、マグネットを用いたアイデアコンテストを平成7年度より実施しており、全国の小・中学生、高校生、大学生から寄せられるアイデア数は700件を超えている。

同様に、本校が位置する鯖江市は全国の眼鏡枠の90%を生産する世界的な眼鏡枠生産地である。平成16年1月に福井県眼鏡枠協会より、眼鏡に関する様々な共同研究の依頼があった。本校では、その共同研究の一環として、「めがねワク waku コンテスト」を実施し、全国の生徒・学生より800件を超えるアイデアが寄せられた。これらは上記のマグネットコンテストと同様に本校学生を中心とした、本校教育目標である「デザインマインド」教育の一環であると共に、青少年の理科離れを防ぐことを目的としている。さらに、地域の産業を全国に情報発信し、地域の活性化を図ることも目的としている。

本校はNHKアイデア対決ロボットコンテストに早期より参加し、これまで大賞を二度受賞するなど好成績を挙げてきた。このため、県内各地よりロボットの実演や、実験指導の依頼が多い。これは地域小・中学生などの科学への興味を喚起することと、本校情報の周知を目的としている。

さらに、平成17年5月、近隣の2市1町と包括的な友好協定である「地域連携協定」を締結した。この協定により、本校が近隣市町の住民に、公開講座、出前授業、リカレント教育を実施する。地域では、高齢化社会を迎え様々な学習ニーズが高まっている。本校はこのようなニーズに公開講座・講演会開催・生涯スポーツ施設の提供などで応えたい。また、出前授業によって小学生・中学生・地域住民に科学の面白さを伝えたい。このように、協定締結により、地域における様々な学習の機会を整備充実させるとともに、豊かで住みやすい「まちづくり」を支援することも目的としている。

また、昨年の「福井豪雨」には本校の学生・教職員が多数ボランティアとして活動した。これは地域への支援を目的としているが、学生への人間性の涵養をも大きな目的としている。今後も地域のボランティア社会の構築のために、ボランティア活動を行いたい。

基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校は昭和 40 年 4 月に創立され、翌、昭和 41 年度に教育方針が制定された。当時の制定の説明に「優秀な技術者を養成するため、将来に向かって大きく伸びる力、進歩と創造と開発が可能となる力としての基礎的学力知識を身につけた技術者に成長させることが念願である」とある。これらを記した、昭和 60 年度刊行の福井工業高等専門学校 20 年史の部分を(資料 1 - 1 - - 1) に示す。

(資料 1 - 1 - - 1)

「昭和 41 年度における教育方針の制定」

教育方針の制定 本校の教育方針を次のように定めた。

- 1 技術者として必要かつ十分な基礎的学力と専門技術を修得させる。
- 2 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。
- 3 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する。
- 4 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
- 5 規律ある日常生活に徹し、明朗かつ遠な資性のかん養を図る。

優秀な技術者を養成することであり、将来に向かって大きく伸びる力、進歩と創造と開発が可能となる力としての基礎的学力知識を身につけた技術者に成長させることが念願である。

(出典 福井工業高等専門学校 20 年史)

また、平成 15 年 4 月には、J A B E E 受審を目指して、教育方針に地域社会の本校への要請などを考慮に入れた「教育目標」5 項目が制定され、翌、平成 16 年度に、本校が独立行政法人へ移行したとき、その中期計画の冒頭に「基本理念」、「養成すべき人材像」が制定された。この基本理念は、伝統的な「教育方針」、平成 15 年度に制定された「教育目標」によるものである(資料 1 - 1 - - 2, 別添「学生便覧」冒頭)。また、教育目標の制定に併せて、「各学科の目的」、「専攻科の目的」も制定された(資料 1 - 1 - - 3, 別添「学生便覧」冒頭)。

さらに、平成 16 年度には、5 項目の「教育目標」をさらに具体的に理解しやすくするために、3 5 項目の小項目が追加された(資料 1 - 1 - - 4, 別添「学生便覧」冒頭)。

(分析結果とその根拠理由)

学校教育法に規定された、高等専門学校の目的により、昭和 41 年度に本校の教育の方針を定めた。その後、これに則り、教育目標を定め、社会の要請を含めた基本理念、養成すべき人材像を策定した。また、各学科の目的を分かりやすい言葉で設定した。したがって、これらにより、達成しようとしている基本的な成果が明確に定められている。

観点 1 - 1 - : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

学校教育法第 70 条の 2 において、「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定められている。

本校では、昭和 41 年度より、教育方針に「技術者として必要かつ十分な専門技術の修得」を掲げ、第「70 条の 2」項目に沿った教育を行うことを明言している。さらに、独創力の養成と人間性の涵養を挙げている。これらは現代の技術者にとっても重要なことである。「基本理念」はこれらに、現在の本校の地域社会からの要請を加えたものである。

「教育目標」では、さらに詳しいことが述べられており、教育目標 B では「幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成」として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としている。さらに、本校独自の視点として、教育目標 C として「豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成」を掲げている。これは、本校の卒業生は就職する学生の半数以上が福井県内に就職し、進学者の多くも、進学後福井県内に就職していることに起因している。福井県の主要な産業は繊維産業、眼鏡枠工業やその関連産業の染色、メッキ工業などであるが、これらの産業において、デザイン関連の知識が重要なことや、デザイン知識は現代の技術者に求められる必要条件から、学習・教育目標の一つとしたものである。

また、教育目標 A 「地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成」、教育目標 D 「高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成」、学習・教育目標 E 「体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成」は、いずれも職業に必要な能力である。

これらのことより、本校「基本理念」、「教育方針」、「教育目標」はいずれも学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に合致したものである。

(分析結果とその根拠理由)

本校の「養成すべき人材像」、「各学科、専攻科の目的」と学校教育法に定められている高等専門学校の目的を比較したものが(資料 1- 1 - - 1)である。これによれば、本校の養成すべき人材像、各学科、専攻科の目的は学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に合致するものである。

(資料 1 - 1 - - 1)

「学校教育法における高等専門学校の目的と本校の目的」

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>学校として養成する人材像のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力 	<p>学校として養成する人材像のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者を育成する
<p>機械工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械技術者として必要な基礎学力の育成 	<p>機械工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成 ・創造性、実践的能力等の育成と、社会の期待に応えるための人間の育成
<p>電気電子工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成 	<p>電気電子工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い専門分野に適応できる応用力の育成 ・独創力およびコミュニケーション能力の育成
<p>電子情報工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力と能力の育成。 	<p>電子情報工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化するIT社会に対応できる応用力の育成 ・実験実習や卒業研究をとした実践的能力や創造能力の育成
<p>物質工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成 ・材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成 	<p>物質工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成
<p>環境都市工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境都市工学に必要な基礎的な学力と能力の育成 	<p>環境都市工学科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成 ・実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成
<p>専攻科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授 	<p>専攻科目的のうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造力を持った実践的技術者の育成を図ります

(出典 自己点検・評価委員会資料)

観点 1 - 2 - : 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

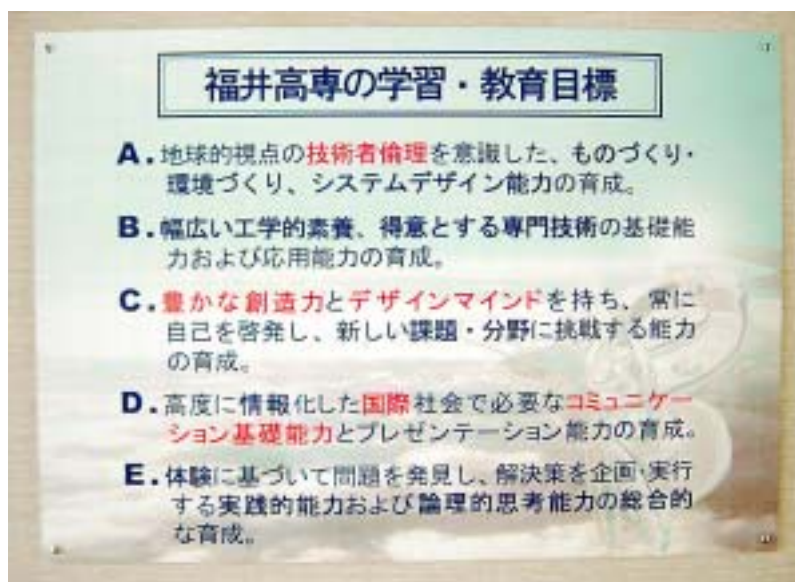
教育方針は、40年間にわたって学生便覧の冒頭に示されている。また、教育目標は、学習・教育目標の大項目を平成15年10月に、全ての教室、実験室、廊下に掲示するとともに、再度、学生全員に対する学習・教育目標の説明会を、担任・専攻科委員・JABEE委員の協力のもとクラスごとに実施した。具体化・細分化した小項目の説明は、平成16年1月に本科4・5年次及び専攻科1・2年次の全学生に対してクラスごとにJABEE委員が行った。

教員へは、平成14年12月に実施した校内JABEE説明会にて教職員全員に対して教育目標の説明がなされた。また、平成17年度より、学生便覧の冒頭には、教育方針に加えて、基本理念、教育目標を掲げており（前出資料1-1-2、別添「学生便覧」冒頭）、また、各教室・実験室などに掲示するとともにホームページでも、これらと各学科の目的、専攻科の目的を掲載している（資料1-2-1）。さらに、シラバスには、各授業がどの教育目標にどの程度相当するかを数字で明記してある（資料1-2-2）。各授業担当者は、最初の授業や、その都度、教育目標との関連を教室前のボードを示しながら、学生に説明している。

学校要覧、学生便覧、シラバス、ウェブページなどの広報関係あるいは、教室・実験室などにおける、本校の学校目的などの掲示についてまとめたものが（資料1-2-3）である。

（資料1-2-1）

「教室、実験室に示した学習・教育目標」



（出典 各教室・実験室）

(資料 1 - 2 - - 2)

「シラバスに掲示されている，各授業と教育目標の関連」

【福井高専学習・教育目標】

C5(O.24):グループでの協議および共同作業を通して，解決方法について複数の候補を見だし，その中から最も適切なものを選択できること。

D7(O.16):原稿などを作成するにあたり，読者や聴衆を意識して内容を整えられること。

D6(O.16):説明の必要に応じて，正確で分かりやすいグラフや図などを描けること。

E1(O.16):与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し，提示された方法を計画・実行することにより，定められた期限までに妥当な結果を導けること。

E4(O.24):問題解決のプロセスを計画するにあたり，得られる情報を最大限に活用して，適切な実験・解析方法を選択できること。

【到達目標】

C5(O.24):自分の選択した実験テーマについて，グループでひとつの考えをまとめることができること。

D7(O.16):フープロフトを用いて，実験概要書やレポート作成ができること。

D6(O.16):ひとつの科学的現象について，ポスターやスライドで簡単な紹介が紹介できること。

E1(O.16):選択した実験テーマについて，期限内にチームでひとつの意見を出すことができること。

E4(O.24):書籍を利用して，実験テーマについて調査することができること。

(出典 ウェブページ)

(資料 1 - 2 - - 3)

「学校目的と周知場所」

	基本理念	教育方針	教育目標	対象者
学校要覧	あり	あり	あり	全教職員・外部
学生便覧	あり	あり	あり	学生・全教職員
シラバス	あり	あり	あり	学生・全教職員
ウェブページ	あり	あり	あり	全教職員・学生・外部
教室・実験室	なし	なし	なし	学生

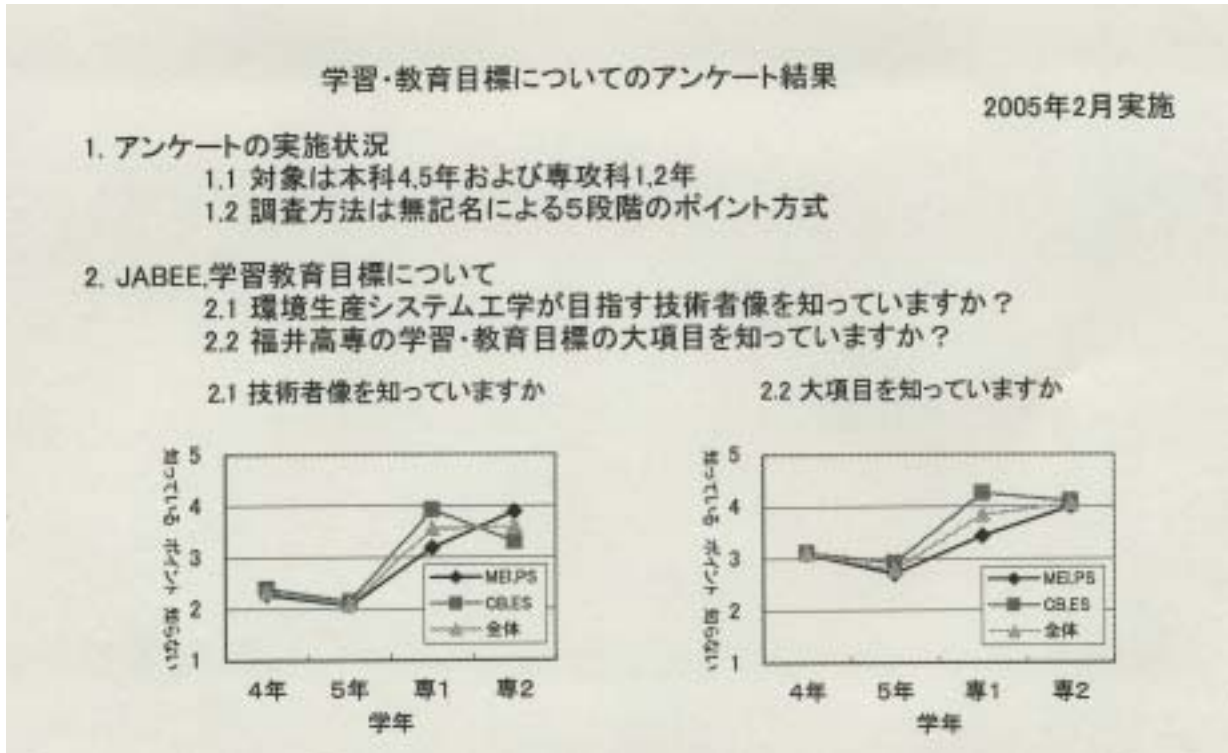
(出典 自己点検・評価委員会)

(分析結果とその根拠理由)

上記のように，平成15年10月には，教育目標を全ての教室・実験室に掲示するとともに，学生全員に対する学習・教育目標の説明会を実施している。また，JABEE委員会では，本科4・5年次及び専攻科を対象に，半年毎に学生に対しアンケートを実施している(資料1-2--4)。

これによれば，高学年になるにつれて教育目標に対する理解度が高くなっていることがわかる。また，教職員に対しても，学校目的の認知度を確認する調査を定期的に行っている。平成17年7月に行った結果を(資料1-2--5)に示す。これによれば，基本理念，教育方針，教育目標，養成すべき人材像，いずれに対しても，ほとんどの教員が「必要に応じて確認」あるいは，「いつも確認」している。

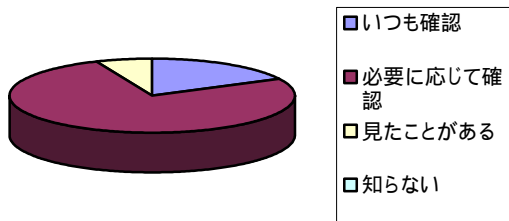
(資料 1 - 2 - - 4)
 「教育目標などアンケート」



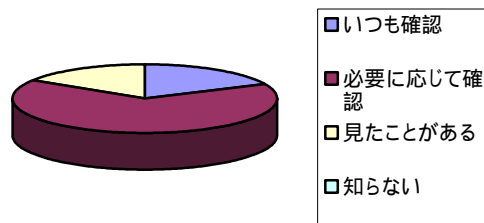
(出典 J A B E E 委員会)

(資料 1 - 2 - - 5)

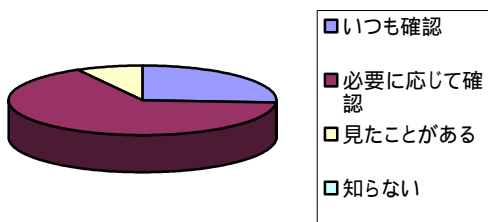
「学校の目的に関する教員アンケート結果」



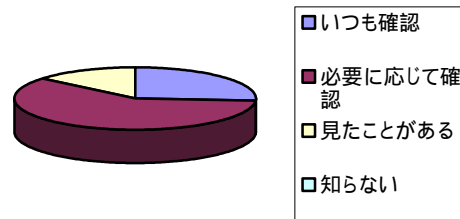
基本理念について



教育方針について



教育目標について



養成すべき人材像について

(出典 教員会議)

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

基本理念・教育方針・教育目的・学科の目的、専攻科の目的をウェブページで公表している(資料 1 - 2 - - 1)。毎年夏季に中学生・保護者・中学校関係者が参加して行われるオープンカレッジに約 700 名の参加者がある。参加者の推移と、各学科がオープンカレッジに開催する内容を(資料 1 - 2 - - 2)、(資料 1 - 2 - - 3)に示す。

また、6月から7月にかけて、県下の全中学校と滋賀県の中学校を担当教員が入試案内に巡回して訪問している(資料 1 - 2 - - 4)。この時、中学生に対する本校紹介パンフレットを全中学生分(1,400部)持参・配布している。そのパンフレットには(資料 1 - 2 - - 5)のように各学科の教育内容が紹介されている。秋季に開催される数度の中学校説明会でもこれらの目的を説明している。また、学校要覧には、教育目標を掲載すると共に同要覧(資料 1 - 2 - - 6, 別添「学校要覧」冒頭)を配布し、本校の目的の説明を、中学生、保護者、中学校関係者に行っている。

(資料 1 - 2 - - 1)

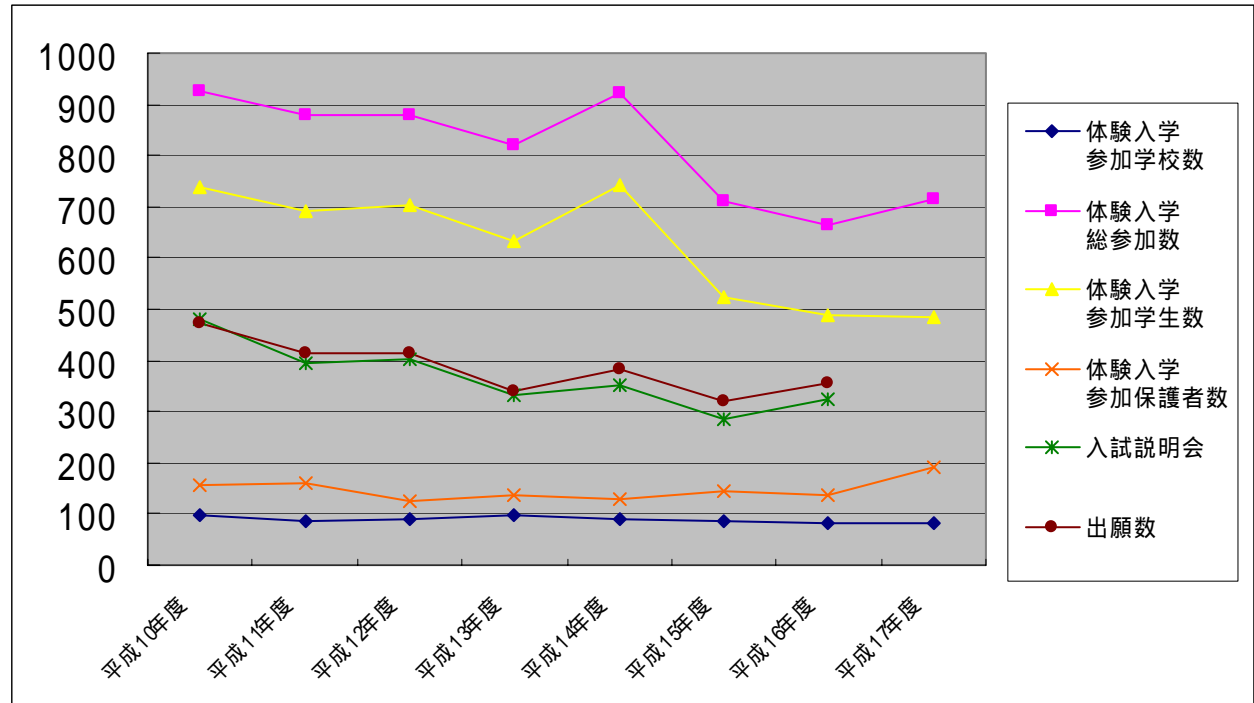
「ウェブページ掲載の基本理念・教育方針・教育目標」

The image shows a screenshot of a website page titled 'Guidance' (学校案内). The page is organized into several sections:

- Guidance (学校案内)**: The main header.
- Education Objectives (教育目標)**: A sub-section header.
- Basic Concepts (基本理念)**: A section containing five bullet points:
 - ・創造性豊かな人材の育成
 - ・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
 - ・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
 - ・環境を認識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
 - ・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る
- Education Policy (教育方針)**: A section containing five numbered points:
 1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を修得させる
 2. 個性を伸ばし、発想的能力の開発に努める
 3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する
 4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強い人な耐久力を育成する
 5. 規律ある日常生活に習し、明朗、かつ遠な個性のかん養を図る
- Education Objectives (教育目標)**: A section containing five numbered points:
 1. 地球観念の技術者倫理を意図した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
 2. 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
 3. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を更新し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
 4. 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
 5. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

(出典 ウェブページ)

(資料 1 - 2 - - 2)
「オープンカレッジ参加者の推移」



(出典 学生課)

(資料 1 - 2 - - 3)
「オープンカレッジ各学科プログラム」

学 科 名	実 験 テ ー マ	実 験 場 所
機 械 工 学 科	愛・機械博 ~ Legend of Mechanical Engineering ~	大講義室 (1 階)
電 気 電 子 工 学 科	エレクトロニクスの世界へようこそ!	電気磁気学実験室 (2 階) 高電圧実験室前の路上
電 子 情 報 工 学 科	IT技術を体験しよう	専攻科棟, 電情棟 (3 階) 講義室 1, 2 ゼミ室 3
物 質 工 学 科	化学と生物が織りなすふしぎな世界へどうぞ	会議室 (2 階)
環 境 都 市 工 学 科	クイズ “シビリオネア”	環境都市工学科棟 (3 階)
交 流 コ ー ナ ー	5年生からのメッセージ	合併教室 (3 階)
進 学 相 談 コ ー ナ ー	高専に進学するうえでの質問等	主事室 (1 階)

(出典 学生課)

(資料 1 - 2 - - 4)

「県内中学校訪問先」

地 区	中 学 校 名	担当教員
福井市	国見，川西，棗，鷹巣，殿下，大安寺	田 中（嘉）教員
	安居	吉 村（忠）教員
	福大附属，灯明寺，森田	電気電子工学科
	光陽，至民，明倫，成和，進明，明道	大久保 教 員
	藤島，社，足羽，足羽第一，大東	原 田 教 員
吉田郡，足羽郡	松岡，永平寺，上志比，美山	坪 川 教 員
大野市， 勝山市	開成，陽明，上庄，尚徳， 勝山中部，勝山北部，勝山南部	前 川 教 員
あわら市，坂井郡	三国，芦原，春江，坂井	藤 田 教 員
敦賀市	気比，松陵，角鹿，粟野，愛発	太 田 教 員
小浜市，三方郡， 遠敷郡	小浜，小浜第二，美浜，名田庄	太 田 教 員
武生市	武生第一，武生第二，武生第三，武生第五， 武生第六，万葉	川 本 教 員
鯖江市	鯖江，中央，東陽	山 本 教 員
丹生郡	朝日，系生，織田，清水	津 田 教 員
	宮崎，越前，越廼	小 林 教 員
今立郡	南越，池田	太 田 教 員
南条郡	南条，今庄，河野	辻 野 教 員

(出典 学生課)

(資料1 - 2 - - 5)

「中学生募集案内パンフレット例」

電
気
電
子
工
学
科

「電気電子工学」は現代社会を支える基盤技術であり、これから益々発展する分野です。電気電子工学科では、社会からの要請が大きい電気電子工学分野の技術者を育成しています。



社会を支える電気電子工学

現代社会における電気は、発電や送電といったエネルギー分野、テレビ、ラジオ、携帯電話などに代表される通信・エレクトロニクス分野、電化製品などの内部処理をつかさどるICやLSIなどに代表される電子工学分野、コンピュータやネットワークなどの情報分野があります。いずれも現代社会においてなくてはならぬものです。今後、ますますその重要性が高まることが予想されます。

電気電子の幅広い分野をカバーする科目構成

- ◎基礎系科目：情報通信工学、電気磁気学、電気回路 他
- ◎通信・エレクトロニクス分野：電子回路、通信工学、計測工学 他
- ◎電子物性分野：電子工学、電気材料、電子応用工学 他
- ◎情報分野：情報処理、デジタル技術、情報処理システム論 他
- ◎エネルギー分野：電力システム、電気機器 他

体験を重視したカリキュラム

- ★演習や実験を重視した教育体系
「情報処理」「電気電子工学実験」
- ★ものづくりを重視した教育
「電気創作コンテスト」(2年生)
「電子創造工学」(3年生)

多くの資格取得が可能

電気電子工学科では、多くの資格に関して認定校になっており、学科試験が免除される場合があります。また、在学中に取得可能であり、社会的評価の高い資格としては、電気主任技術者、無線従事者、電気工事士、X線作業主任者などがあります。

卒業後の進路

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

既にウェブページや、文書で本校の目的を広く公開している。特に、夏季に開催されるオープンカレッジでは、約700名の中学生、保護者、中学校関係者に対し本校の目的を紹介している。また、春季の中学校説明会ではそれぞれ、各学科の目的が書かれた入学案内のパンフレット(1,400部)を福井県内、滋賀県の3年生全員に配布している。また、秋季の入学説明会では多くの参加者(保護者、中学校関係者)に学校の目的の書いた学校要覧を配布している。これらのことより、社会に広く本校の目的を公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

伝統的な教育方針と福井県の地域社会からの要請に鑑み、基本理念、教育目標を定めた。これらは学校教育法に定められた、高等専門学校の目的に合致している。このような学校の目的を高く掲げながら、各学科の目的を定め、すべての授業設計を行っている。さらに、本校目的を中学生、保護者、中学校関係者に広く公表している。

(改善を要する点)

教育目標を設定してから、まだ2年の経過であるので、今後とも社会・学生に周知を図りたい。さらに、学生の意見をアンケートによって汲み取りながら、目標の達成のための工夫をさらに行いたい。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校では、学校教育法第70条の2に則り、昭和41年度に学校の教育方針を定めた。これは、「基礎的学力と専門技術の修得」、「個性の伸長と独創的能力の開発」、「教養の向上と国際人としての成長」の学習に関する3項目と「健康の増進と肉体的精神的な耐久力の育成」、「日常生活の心構えの涵養」を規定した2項目であった。その後、40年を経て、前者の学習目的3項は現在の学習・教育目標42項目となっている。後者の2項目は、現在でもそのまま教育目標となっている。さらに、各学科の目的を早期に規定し、改訂を加えながら学生便覧に明記し、その目的に合致した教育を行っている。専攻科の教育目的も専攻科設置時に規定し、今日に至っている。

また、平成16年度に独立行政法人へ移行したことに伴い、「基本理念」、「養成すべき人材像」を制定すると共に、さらにより一層の個性化、活性化、高度化を図り、本校独自の新しい工夫による精選されたカリキュラムで「ものづくり教育」を中心とする教育を行っている。

これらは、学校教育法第70条の2より策定した教育方針から定めたものであるもので、本校の目的は、学校教育法の規定から外れるものではない。

これら学校の基本理念、教育方針、教育目標は学校要覧、学生便覧、ウェブページ、シラバスなどで公表し、社会・学生に周知を図っている。教職員に対しては、本校の目的とその意義をFDなど様々な機会の説明して理解を深め、学生への教育にあたっている。また、社会から広く本校の養成すべき人材像への意見を求めると同時に、有識者からなる評議員会においても審議を行っている。

今後とも「基本理念」、「教育方針」、「教育目標」の学生・社会・教職員への周知を図っていくと共に、その実現に向けて、教職員は努力を続ける。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2 - 1 - : 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

昭和 40 年度に本校は「機械工学科，電気工学科，工業化学科」の 3 つの学科で発足した。これは，工学の基礎となる機械・電気・化学となる学科が構成されたものであるが，工業化学については福井県が繊維，及び染色関係の企業が多いことにより設置されたものである。

また，昭和 45 年度には「土木工学科」が設置されたが，これは，福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であると共に，当時の土木技術者不足によるものである。さらに，昭和 63 年度に情報社会の到来を受けて，ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が設置された。

その後，平成 5 年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として改組した。また，平成 7 年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し，バイオコースと新素材コースの二つのコース制とした。さらに，平成 17 年度には，電気工学科を「電気電子工学科」とした。これは電気工学科卒業生にも，近年の進展する電子技術を基礎より教育する必要があるため，学科の改組を行ったものである。

したがって，現在の学科構成は「機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科」の 5 学科による構成となっている。これは，本校の基本理念（前出資料 1 - 2 - - 6，別添「学校要覧」冒頭）のうち，4 番目に掲げる環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行うための学科構成となっている。

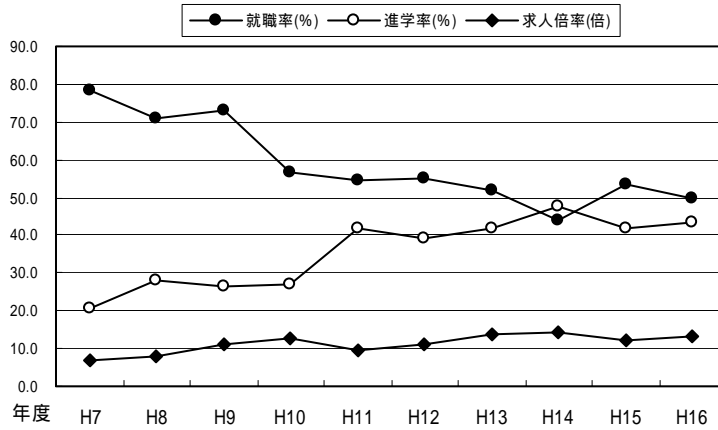
すなわち，福井県の主幹産業である，繊維工業，化学工業，眼鏡枠工業，電子電気工業，環境土木産業に基づいたものとなっている。福井県の産業には，繊維工業，眼鏡枠工業などデザイン技術が重要なものが多い。

したがって，本校の教育目標（前出資料 1 - 2 - - 6，別添「学校要覧」冒頭）では，ものづくり・環境づくり，システムデザイン能力の育成を掲げ，5 つの学科で共通にこれらのことを学ぶシステムとなっている。さらに，一般科目では専門の基礎科目，文科系科目を履修し，専門課程での学習に十分に教育効果をあげることができるようになっている。

また，最近 10 年間の各学科の求人倍率は，各学科とも 10.0 倍を超えて，各学科は社会から受け入れられていることを示している（資料 2 - 1 - - 1）。

(資料 2 - 1 - - 1)

「最近 10 年間の各学科の求人倍率」



(出典 学生課)

(分析結果と根拠理由)

本校の教育理念，学習・教育目標に沿った学科構成となっている。また，地域社会の産業が繊維工業，眼鏡枠工業などであることを考慮した学科構成ともなっている。したがって，卒業生の就職における求人率も高いものとなっている。

観点 2 - 1 - : 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

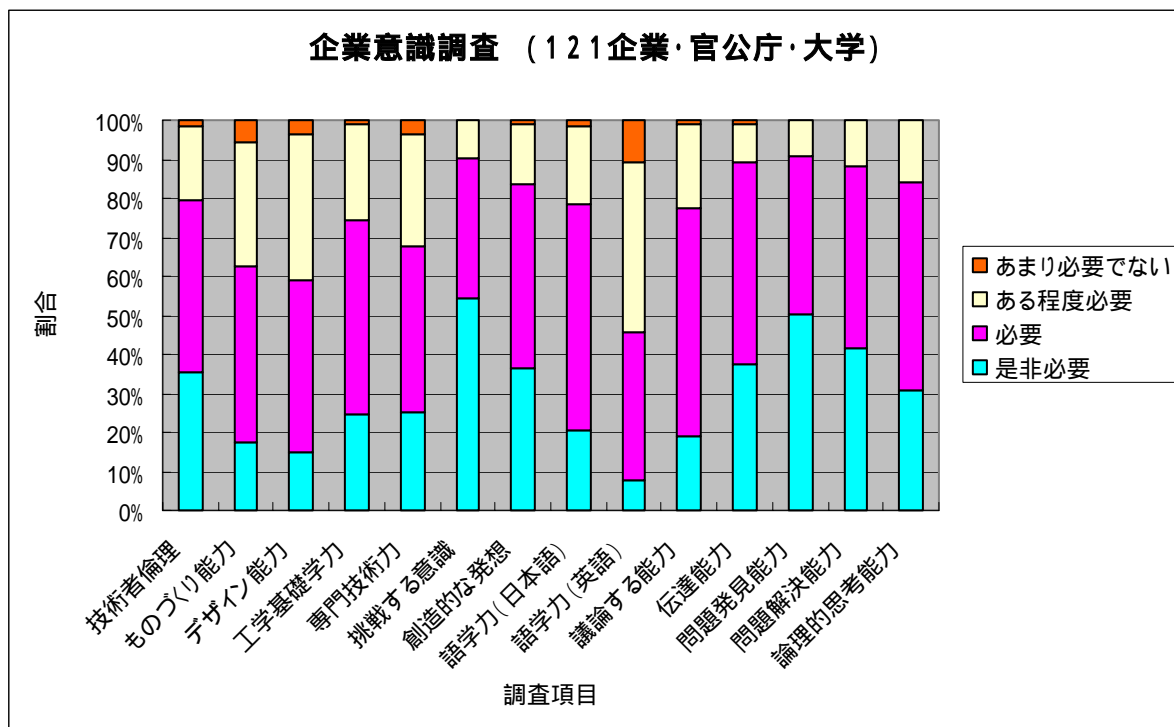
専攻科の「生産システム工学専攻」は、本科の機械工学科・電気電子工学科・電子情報工学科出身の学生が進学し、「環境システム工学専攻」は、本科の物質工学科・環境都市工学科出身の学生が進学するが、その教員は全員が本科と兼任で教育にあっている。担当科目については、専攻科委員会で専門分野周辺の科目を担当するように計画・実施されている。このような教育により、教育の目的を達成できる構成となっている。

(分析結果と根拠理由)

本科の学科構成を融合・複合させた二つの専攻となっており、本校の学習・教育目標をそのまま学習できるような構成となっている。平成16年度に専攻科の学習・教育目標について、福井県の企業、大学に対しアンケートを実施した結果を(資料2-1--1)に示すが、概ね、評価された内容となっている。

(資料2-1--1)

「企業における本校教育目標アンケート」



(出典 教員会議資料)

観点 2 - 1 - : 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校における全学的なセンターとして、「図書館」、「総合情報処理センター」、「地域連携テクノセンター」、「実習工場」を設置している。これらのすべての施設には LAN が張り巡らされているとともに教育・研究のための様々な設備備品が導入されている。平成 16 年度には、自己点検及び外部評価によって施設の現況と問題点が分析されている。施設の保守・管理にあたっては定期点検が毎年度実施されており、さらに平成 16、17 年度に実施された労働安全衛生診断の際に指摘された項目について改善が行われている。

図書館は、学生の自学自習の場であるほか、近年、資格試験取得を目指す学生が多く学習していることがアンケートなどにより判明した。

総合情報処理センターは、平成 17 年度に情報機器が一新され、情報処理教育のほか、後述(基準 7)のように学生の放課後の自習場所ともなっている。

地域連携テクノセンターでは、産官学共同研究が行われていると共に、卒業研究、特別研究のための設備も充実している。平成 16 年度には「伝統産業支援室」、平成 17 年度には「地場産業支援室」が完成し、地域との共同研究を進めるとともに、インターンシップの事前、事後学習にも使用されている。

実習工場では、ほとんどの学科の機械実習を行うとともに、教育研究支援を行うために技術職員で組織化された、教育研究支援センターの設備の一環として教育研究にあっている。

(分析結果とその根拠理由)

「図書館」、「総合情報処理センター」、「実習工場」を完備し、自助努力で総合情報処理センター以外の情報処理施設を設置している。また、本校の特徴とも言える、地域社会との産官学共同センターとして「地域連携テクノセンター」を設置し、さらに、同センター内には、地域との共同研究のために「伝統産業支援室」、「地場産業支援室」を設置して、積極的に共同研究や学生の卒業研究・特別研究に使用されている。

観点 2 - 2 - : 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

全ての重要な企画において校長がリーダーシップを取り、それを 3 主事、専攻科長からなる副校長がバックアップする体制が整っている。具体的には、教育課程全体を企画調整するために、校長、副校長、部長、課長からなる、「校務打ち合わせ会議」を毎月 1 回開催している。さらに、校長、副校長、部長、課長、各学科・教室主任、センター長、図書館長からなる「協議会」を置き、毎月 1 回の審議を行っている。その結果を全教員からなる、「教員会議」で審議・報告を行っている。さらに、長期を見据えた企画・計画は将来構想検討委員会で行っている。これを、教務委員会、入試委員会、補導委員会などの各種委員会で実行している。さらに、その点検を、自己点検・評価委員会や外部評価である評議員会で行っている。これらは(資料 2 - 2 - - 1, 別添「学校要覧」29 頁)のように、Plan (計画) Do (実施及び運用) Check (点検・検証) Action (見直し, 改善) という 4 段階の役割を果たしている。

(分析結果とその根拠理由)

上記 PDCA が機能し、そのスパイラルアップに努めている。

観点 2 - 2 - : 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。
(観点に係る状況)

平成 15 年 12 月に教員間教育ネットワーク会議が発足し、平成 16 年 4 月より発展的に解消され、教員間ネットワーク委員会として活動を開始している。この教員間教育ネットワーク委員会は、各学科及び一般科目の教員によって構成され、学校教育に関する諸問題について議論を行っている。特に、専門科目と一般科目の関連科目の担当者間では、授業の内容・順序・進度などの調整の必要が生じる場合もあり、話し合いの場が持たれている。例えば、「一般化学」と専門科目の物質工学科における連携について、「一般物理」と専門科目である「工学基礎物理」の連携について議論を行っている。また、「工学基礎物理」担当の応用物理所属専門教員は「一般物理」も担当し、人事間の連携も進めている。その他、専攻科生の TOEIC 点数取得に関し、専攻科関連教員と一般科目英語科教員の教育ネットワーク会議なども開催されている。教育ネットワーク委員会議事録の例を(資料 2 - 2 - 1)に示す。

(資料 2 - 2 - 1)

「教育ネットワーク委員会議事録例」

議 事 録

会議の名称	教員間ネットワーク委員会 平成 17 年度(第 1 回)
日 時	平成 17 年 6 月 21 日(火) 16:30~17:30
出席者	教員間ネットワーク委員: 太田教務主事、藤田、野村、津田、小林 その他参加者: 山本裕(化学科主任)、岡本(物理科主任) 森貞(英語科主任代理) 宮田(数学科主任) 坪川(一般科目(自然)主任)、小寺(一般科目(人文)主任)

議題

「工学基礎コースを中心とした 1 年生対象の特別講義」について

資料に基づき委員長より特別講義の概要について以下のとおり説明があった。

- ・ 1 回 60 分で年間約 20 回の特別講義とし、平成 17 年度は後期のみ約 10 回。
- ・ 英語・数学を実施する科目の中心とする。
- ・ 常勤職員のほか、必要に応じて非常勤教員を登用する。

この説明に基づき、実施について委員及び担当教員の意見が交わされた。

教科担当の発言

- ・ 半期で 10 回程度の実施で基礎力の充実を図れるのか?
- ・ 英語・数学とも授業が 1 コマ多く、上級生よりも基礎力充実は図られている。
- ・ 対象学生がどのような意識を持っているのか、まず考える必要がある。
- ・ F5 ではすでに数学の補習を行っている。英語も増えることに負担を感じないか?
- ・ F5 はばかりを重視するのは、推薦入学者をないがしろにする可能性がある。
- ・ 有能な非常勤講師を確保するのは難しい。
- ・ 文章読解力は重要だと考えるが、国語は対象にはならないのか?

(出典 ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目と専門科目との連携は教育ネットワーク委員会、教員会議などによって、連携が機能的に行われていると言える。

観点 2 - 2 - : 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

教育支援体制として、本校は学生課・庶務課を中心とした事務方の全面的な支援体制が整っている。学生課教務係は、学生の成績及び進学などの教務関係・入試関係を担当している。学生課学生係は、厚生補導関係・就職関係を担当している。また、学生課寮務係は、寮務全般に関して様々な支援を行っている。これらの事務は十分に教員を支援している。なお寮務に関しては、教育寮であるため教員による宿日直が行われ、寮生の生活指導や学習相談などを行っている。

平成 16 年度からは、新たな教育支援組織として、教育研究支援センターと進路指導室が新設された。進路指導室では講師招聘に係わる事務処理のほかに、進路情報管理システムへのデータ入力や、インターンシップを含む校外実習の依頼書や礼状の送付、就職・進学関連資料の整理など多様な方面から支援を行っている。

また、本校には共同利用施設として、図書館、総合情報処理センター、地域連携テクノセンター及び実習工場がある。図書館は、学生課図書係が支援を行っており、総合情報処理センター及び地域連携テクノセンターは庶務課の専門職員が支援している。実習工場は、教育研究支援センターから 4 名の技術職員が派遣されて活動している。さらに、教育研究支援センターは各学科へ 2 名の技術職員を派遣し、実験を中心とした体験型学習の指導にあたっている。

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動を教育研究支援センターの技術職員が支援し、さまざまな教員の学生学習・生活支援を事務が果たしている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育研究支援センターによる教育支援は組織的であり、非常に機能的であると言える。NHKアイデア対決ロボットコンテストにおける大賞（最高賞）2度の受賞も、本校の「ものづくり教育」とこのシステムによるところが大きい。

(改善を要する点)

専攻科と本科の指導体制の整備などが挙げられる。

(3) 基準 2 の自己評価の概要

当初の学科の構成は、設立時に地元社会の要請、近隣大学・高等専門学校の学科構成を考慮して決めたものである。その後、学校の目的を確実に実行できる学校全体の組織構成を考え、さらに、社会変遷による地元社会・産業界の要請を考慮して現在の学科構成となっている。専攻科の学科構成も、学校の目的の達成と、地元社会の要請を考慮して決めたものである。

学校の目的を達成するために、さらに教育サービスを重点化させて、図書館、総合情報処理センター、地域連携テクノセンターなどの全学的なセンターを充実させている。特に地域連携テクノセンターは、福井県の産学共同体制の重要なネットワークの一つとなっている。

教育活動を展開する上で、重要な企画において校長がリーダーシップを取り、それを3主事、専攻科長からなる副校長がバックアップする体制が整っている。さらに、校長、副校長、部長、課長、各学科・教室主任、センター長、図書館長からなる「協議会」を置き、審議を行っている。その結果を全教員からなる、「教員会議」で審議・報告を行っている。各学科・教室での連絡体制、一般科目と専門科目との連携は教員間ネットワーク委員会などの様々な制度によって十分な連絡を取り合っている。また、教育研究支援センターを設置して、技術職員が教育を支援する体制を作っているほか、事務による教育に対する支援体制も整っている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1- : 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の一般科目担当教員は常勤25人、非常勤24人、計49人で構成される(資料3-1-1)。これは高等専門学校設置基準第6条の要件を満たすものである。また、本校の教育目標(前出資料1-2-1)を達成するために必要な科目が配置され、それぞれに質の高い教員が配置されている。本校独自の工学基礎コース、1年時の混合学級及び2年時以降の学科の要請に対応するよう教員配置が考慮されている。これらの内容は学校要覧(資料3-1-2, 別添「学校要覧」8頁~23頁)において公表されている。

(資料3-1-1)

「一般科目担当教員の配置」

一般科目担当教員の配置状況

自然系			人文系		
科目名	常勤	非常勤	科目名	常勤	非常勤
数学	坪川武弘 長水壽寛 宮田一郎 中谷実伸 柳原祐治 井之上和代	梅木富士夫 国村正子	国語	前田安信 大久保弦 中村吉秀	木村幹夫
応用数学	朝倉相一		中国語		林文嫻
工学基礎物理	太田泰雄 北浦守	上田正紘 千葉明朗	法学		峯金弥士郎
物理	岡本拓夫	鈴木茂雄	倫理社会	森芳周	
化学	山本裕之	福岡俊孝	政治経済	廣重準四郎	
生物		中野勇	歴史	荻野繁春	松田友幸
保健体育	島田茂 小林秀紹 山田孝禎	乾博美 内藤嘉昭 高野昭三 三上肇	地理		駒野與説 門井直哉
人数計	14	11	政治・経済		金森洋司
			音楽		石井美鶴
			美術		岩本宇司
			ドイツ語		田中まり
			英語	小寺光雄 吉田三郎 森貞 原口治 瀬川直美	中島孝 澤田昌紀 上野敬子
			人数計	11	13

(出典 学校要覧データ)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成に照らして一般科目の教員は適切に配置されている。高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく、高等専門学校の工学の専門性と全人教育が効果的に機能する状況にある十分な質の教員が配置されている。

観点3 - 1 - : 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

高等専門学校設置基準第6条及び本校の教育目標(前出資料1 - 2 - - 1)に則り、機械、電気電子、電子情報、物質工学及び環境都市の各学科は(資料3 - 1 - - 1)に示す開講科目に対し、適切な人数の専任及び非常勤の教員を配置している。また、J A B E E 認証に伴う技術者の養成を鑑み、企業経験者の配置等を意識している。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成に照らして学科の教員は適切に配置されている。教育課程は時代の要請に応じて適宜見直され、適切なカリキュラムの構成がなされている。これに対する人員配置も、高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく、そのカリキュラムの内容を専門とする教員が適切に配置されている。

観点3 - 1 - : 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校専攻科は、生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻より構成され、学習・教育目標(前出資料1 - 2 - - 6, 別添「学校要覧」冒頭)を掲げている。この目標を達成するために高等専門学校設置基準第6条に則り、教員配置がなされている。また、J A B E E 認証の本校教育プログラムの水準を満たすために選考基準(資料3 - 1 - - 1)に則り、厳格かつ適切な配置がなされている。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成はもとより、学位授与及びJ A B E E 認定の水準を維持すべく、設定目標に即した当該科目を担当する教員配置が適切に配置されている。

観点3-1-1: 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育活動を適切に行うために、組織を構成する人員の特徴は考慮されるべきである。本校においても高等専門学校設置基準に則り措置を講じている。年齢構成比率のパイチャート及び教員年齢構成一覧表（資料3-1-1-1）からわかるように30、40、50歳代の比率がほぼ等分され、5歳区分の教員人数においても30歳以降10名前後で安定している。教員採用には年齢の均衡を図るための条件を提示している。

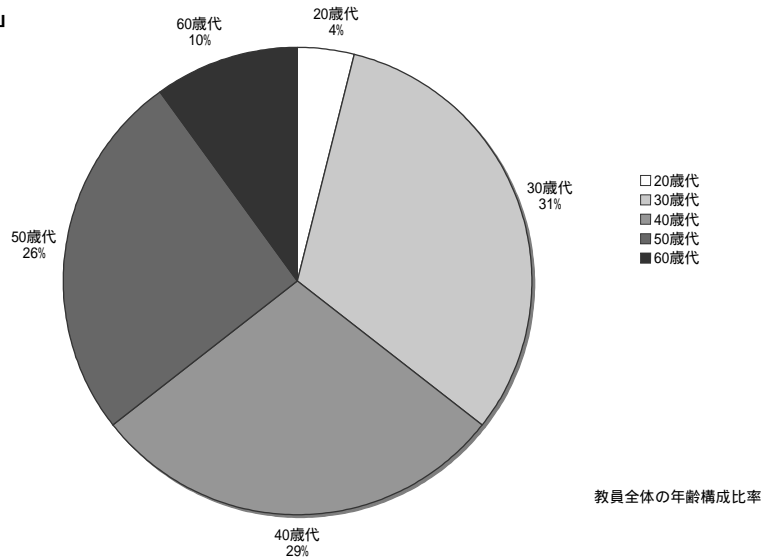
また、教員組織がより効果的に成立するよう、FD活動や以下の資料に示す優秀教員評価制度がある（資料3-1-1-2）。これらの現状は、本校ウェブページ及び教員総覧（冊子）にまとめられている（資料3-1-1-3、資料3-1-1-4）。

（分析結果とその根拠理由）

年齢構成は各学科等において若干の差異があるものの、各年代にわたってバランスのある構成になっている。学位取得状況、海外渡航状況及び文部科学省の各種研究員派遣状況の各数値に、これまで教育・研究活動の活性化に取り組んできた実績が反映されている。

（資料3-1-1-1）

「教員年齢構成の一覧」



職階	年代								合計
	25	30	35	40	45	50	55	60	
教授	0	0	0	0	5	9	11	7	32
助教授	0	1	11	10	9	1	0	0	32
講師	0	6	2	0	0	0	0	0	8
助手	3	5	1	0	0	0	0	0	9
合計	3	12	14	10	14	10	11	8	81

注)数字は人数

（出典 教員総覧より作図及び作表）

(資料 3 - 1 - - 2)

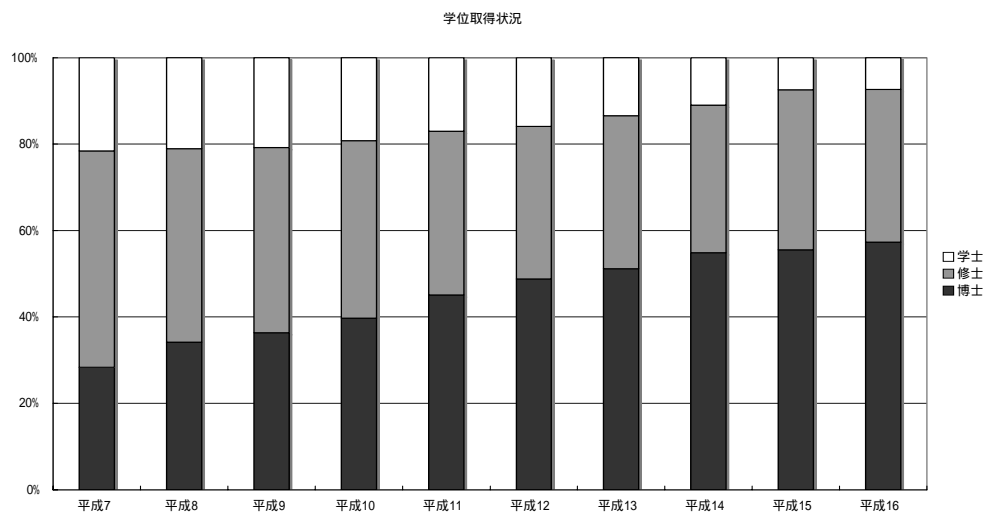
「校長表彰規則」



(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料 3 - 1 - - 3)

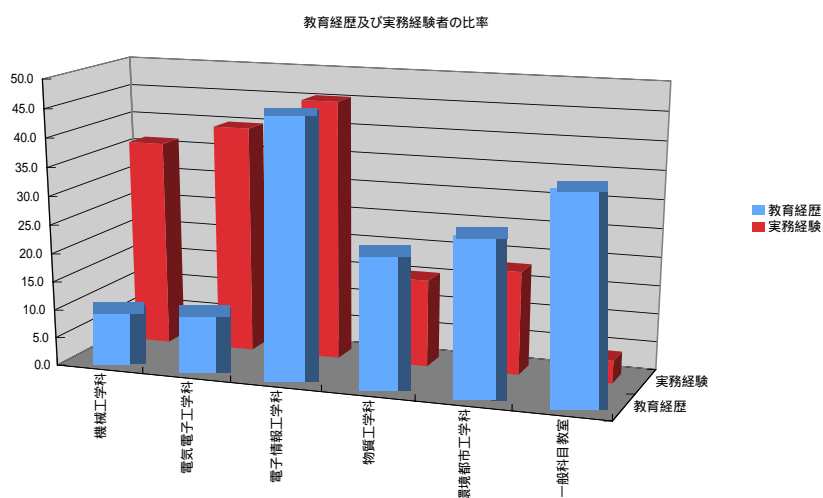
「学位取得状況」



(出典 教員総覧)

(資料 3 - 1 - - 4)

「教育経歴，実務経験を持つ者の任用状況」



(出典 教員総覧より作図)

観点 3 - 2 - : 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

本校専任教員の任用等（採用・昇任）にあたっては，基本的に教育公務員特例法第 13 条第 2 項，教育公務員特例法施行令第 3 条及び人事に関する権限の委任等に関する規程第 4 条第 1 項の規定に基づき行っている。本校専任教員の任用等（採用・昇任）に関しては，福井工業高等専門学校教員選考規則（資料 3 - 2 - - 1）を制定し，当該規程により実施・運用している。また中途退職や定年退職における教員の欠員補充で，認可を受けた教員採用計画以外の教員の採用についても，同規程により実施・運用している。

その選考手続き及び選考基準の概要は，教員採用・昇任手続き（資料 3 - 2 - - 2 ~ 資料 3 - 2 - - 4）の通りである。本校では任用等の審査に関し特に審査基準は制定していないが，任用教員の審査については現行の規程において，「研究業績及び教育業績，教授能力の基準としては高等専門学校設置基準に規定する教員の資格に準拠し，優れた人格及び見識を有し，かつ本学の建学の理念に深い理解を有する者の内から選考する」と規定されていることを鑑み，教授能力の評価を複数の選考員（推薦委員会委員）によって慎重に議論し，手続きを行っている。

(資料 3 - 2 - - 1)

「福井工業高等専門学校規則集 第 4 章人事 第 1 編 規則・内規」

福井工業高等専門学校教員選考規則（平成 13 年 12 月 20 日 規則第 12 号）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、教育公務員特例法（昭和 24 年法律第 1 号第 13 条第 2 項、教育公務員特例法施行令（昭和 24 年政令第 6 号）第 3 条及び人事に関する権限の委任等に関する規程（平成 13 文部科学省訓令第 3 号）第 4 条第 1 項の規程に基づき、福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授、助教授、講師及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任に係る選考手続きに関し必要な事項を定めるものとする。

（選考基準）

第 2 条 教員の選考基準は、高等専門学校設置基準（昭 36 年文部省令第 23 号）及び国立高等専門学校教員専攻方針（昭 37 年 3 月 30 日文部大臣裁定）の定めるところによる。

（専攻の発議）

第 3 条 校長は、教員を採用し、又は昇任させようとするときは、必要に応じ当該教員が所属することとなる学科又は一般科目教室（以下「学科等」という。）の主任の意見を聴取の上、その都度、次条に規定する推薦委員会を設置し、候補者の推薦を求めるものとする。

2 前項の場合において、校長は、原則として公募を行い、これに応募した者の中から候補者の推薦を求めるものとする。

（推薦委員会）

第 4 条 推薦委員会は、当該学科等の教授 3 名及びその他の学科等の教授 2 名の計 5 名の委員をもって構成する。

2 推薦委員会の委員長及び委員は、校長が指名する。

（候補者の推薦）

第 5 条 推薦委員会は、第 2 条に規定する選考基準に基づき審査の上、複数の候補者について推薦順位を付し、候補者に係る次の資料を添えて校長に推薦するものとする。

- (1) 履歴書
- (2) 教育研究上の業績
- (3) 人格及び識見に関する意見

2 候補者が 1 名であるときは、推薦委員会は、その理由書を添付するものとする。

（候補者の決定）

第 6 条 校長は、推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し、その結果を推薦委員会に通知するものとする。

2 校長は、必要に応じ校外の学識経験者の意見を聴取するものとする。

（非常勤講師の任用）

第 7 条 非常勤講師を任用する場合は、第 3 条から第 6 条までの規定にかかわらず、当該学科等から推薦された候補者について、別に定めるところにより校長が適否を決定する。

附則

この規則は、平成 13 年 12 月 20 日から施行する。

（出典 福井工業高等専門学校規則集）

(資料 3 - 2 - - 2)

「教員採用・昇任手続き一覧」

手 続 き 事 項	関 係 条 文
任用等を希望する該当学科主任から校長に任用等の申し出	規則第 3 条
校長から推薦委員会設置の協議	規則第 7 条第 1 項
推薦委員会の委員選出（当該学科教授 3 名その他の学科等の教授 2 名を選出）	規則第 4 条
推薦委員会による任用等の審議及び候補者の推薦	規程第 5 条
校長は任用候補者を決定	規則第 6 条

（出典 福井工業高等専門学校規則集より作表）

(資料3 - 2 - - 3)

「教員採用・昇任実績」

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
採用	教授			1	1	
	助教授					
	講師	2	1			
	助手			3	5	1
昇格	教授	1		4	6	4
	助教授	1	5	5	2	3
	講師		1	1	4	

注) 数次は人数

(出典 庶務課議事録より作表)

(資料3 - 2 - - 4)

(教員の採用及び昇任における推薦委員会への提出様式)

No. 1

推 薦 委 員 会 報 告 書	
氏 名	
審 査 資 格	福井工業高等専門学校 <small>(学科・教室名) (職 名)</small>
選 考 年 月 日	平成17年 月 日
教員資格審査 適 用 状 況	高等専門学校設置基準第 条第 号
選考の経緯及び選考理由	

	平成 年 月 日
上記のとおり推薦します。	
<small>(学科・教室名)</small>	
推薦委員会委員長	教 授 .
委 員	教 授 .
委 員	教 授 .
委 員	教 授 .
委 員	教 授 .

(出典 庶務課資料)

（分析結果とその根拠理由）

教員の退職に伴う新規教員の採用等については、前述の規則・審査基準が適切に定められ、推薦委員会を中心に適切に運用されてきた。これまで任用手続きには特に問題もなく、スムーズに教員の任用がなされている。

観点 3 - 2 - : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では学校内部の自己点検・評価委員会規則（資料 3 - 2 - - 1）に則り、教育活動の評価及び評価結果を改善策に結びつけるシステム（資料 3 - 2 - - 2）がある。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために、本校では 2 つの体制を軸に整備している。一つは学生による教育（授業）評価、もう一つは教員本人による教育（授業）自己評価である。前者は教育活動、特に授業の改善は早くから個々の教員レベルで実施されてきたが、平成 14 年度から全ての授業を対象にアンケートを実施し（資料 3 - 2 - - 3）、その結果を各教員に提示し、コメントを求め、今後の課題を記述した報告書を作成し、公表している（資料 3 - 2 - - 4）。後者は（資料 3 - 2 - - 5）、（資料 3 - 2 - - 6）に示す内容を各教員に記入、提示させ、得点化、校内ランキングを作成して公表し、フィードバックしている。

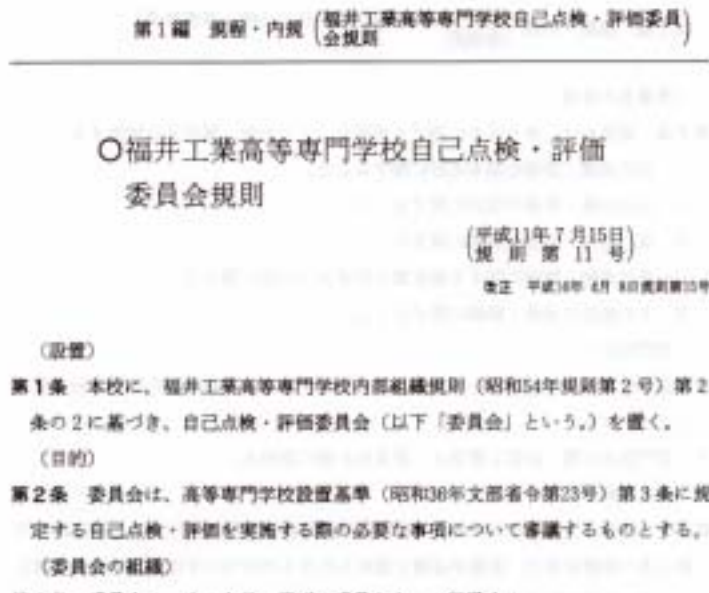
授業評価アンケートの結果の冊子及び教員の教育活動自己評価の結果をもとに、経年的な推移から教育レベルの向上を図っている。主な企画として、公開授業を実施し、同僚教員を中心とした専門家による評価を受け、質の向上を図っている。システムに参加する教員は、専門及び教科教育法の立場から多面的な評価ができるよう配置され、教員の F D 活動としても重要である。半期に 7 名の教員が公開授業を実施し、それぞれ 5 名の教員が評価及び討論をする。その結果は報告書の形で評価教員及び委員会へ提出し、最終的に次時期授業アンケートの結果において改善の程度を検討する。このシステムにおいて 1 年間にほぼ全ての教員が参加する。以上の教育改善委員会を中心としたシステムの在り方、さらに全校的な観点から教育システム評価委員会においても検討される。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教員の教育活動の定期的な評価は、その体制が整備され、詳細な評価がなされている。ただ、教員の教育活動の評価は様々な観点から行われるべきであり、その内容も今後常に改善されていく必要がある。

(資料3 - 2 - - 1)

「自己点検・評価委員会規則」

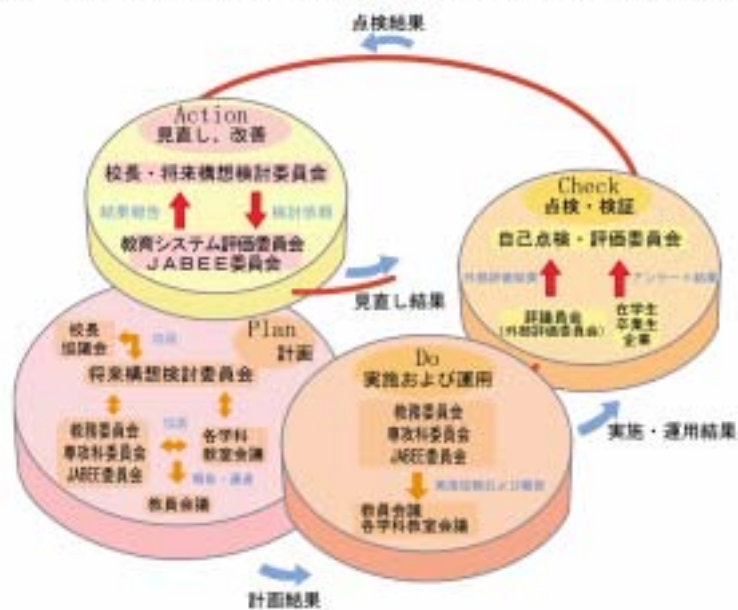


(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料3 - 2 - - 2)

「自己点検・評価委員会等の構成図」

福井高専 教育点検・改善システム (学習・教育目標、学習保証時間)



(出典 本校ホームページ)

(資料 3 - 2 - - 3)

「授業評価アンケート等の実施手順」

授業アンケートの実施手順について

教育改善委員会

授業アンケートについては日ごろから各教員のご協力を賜り、感謝申し上げます。さて、下記のとおり授業アンケートの実施に関する手順を確認したくお知らせしますので、承知願います。

1. 調査の実施

- ・各教員は期末試験終了後の授業（特別学習等）において、授業アンケートを学生に実施してください（期末試験を実施しない場合は、調査の回答に不都合が生じないようにしてください）。
- ・調査票はできるだけ「科目名」「学科」「学年」が予め印刷された調査票を準備し、お使い下さい（学生の誤記入を防ぐため）。
- ・基本的に担当教員が調査を実施していただきますが、事情により実施できない場合は各学科の教育改善委員にその旨お知らせ下さい。

2. 調査票の回収

- ・回収した調査票は学科事務室あるいは教務係に提出してください。
- ・提出の際はクラスごとにまとめて「科目名」「学科」「学年」「担当教員名」を熱るべき場所に記載してください（封筒でまとめた場合は封筒に記載してください）。

3. 調査結果

・各教員の授業改善のための参考資料として、各教員に送付いたします。この際、結果

(出典 教務委員会資料)

(資料 3 - 2 - - 4)

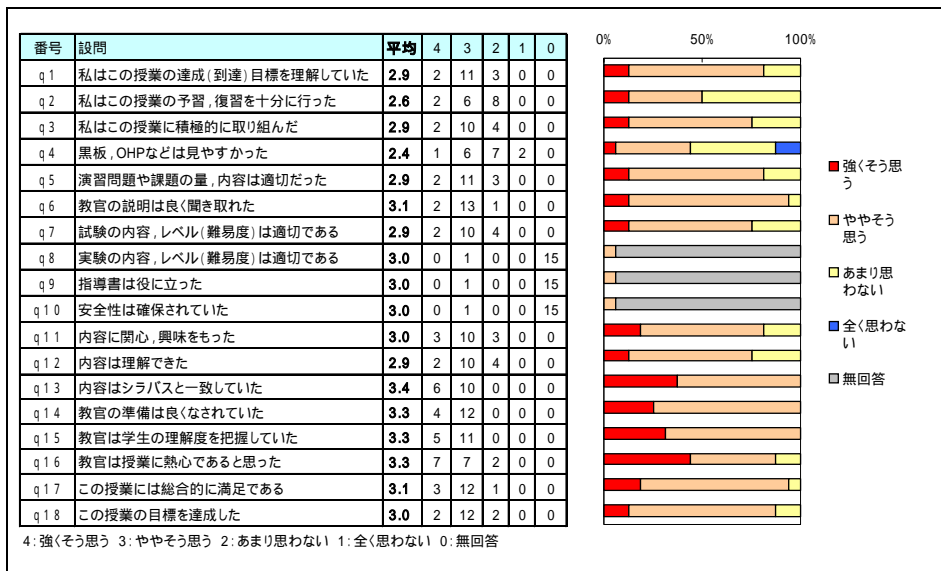
「授業評価アンケート等の実施報告」

学科：物質工学科

学年：4年

科目：有機材料化学

(必修 2 単位)



【担当教員による分析、今後の課題】

小人数(20人)の授業であるため、比較的集中度も高く、学生の総合的評価はほぼ及第点であった。しかし学生の予習・復習への取り組み、内容の理解度は満足の結果ではない。

後期は高性能高分子や機能性高分子について各自一人ずつプレゼンテーション(予め前刷りを準備し、発表はOHP使用)を実施し、関心と興味を喚起したい。

(出典 学生・教員授業達成度調査報告書)

(資料3 - 2 - - 5)

「教育活動に関する自己評価の状況」

福井高専における教育評価

教育改善委員会

1. 教員の教育活動評価の趣旨

本校の教育目的は、学生に深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することである。そして、この目的達成のために、常に教育水準の維持向上に努めるとともに、教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努めている。また、地域に対する貢献も重要であり、共同研究の実施、各種

(出典 教育改善委員会資料)

(資料3 - 2 - - 6)

「教員の教育活動評価シート」

2. 教員の教育活動評価

第1部 教員の自己評価

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は1学期の早年度を書いてください(2学期関係を除く)。
- (2) 完全に当てはまらないような箇所、両者に対しては適度判断して書えてください。
- (3) 小数字が戻るような場合、0.5を記入してください。

評価項目等(最大120点)		配点
A 授業等の状況		32点
1 授業について		8点
(1)	適当な授業単位数時間数ほどだけですか？(最速 3 学期の平均をとる。1 単位時間約 30 分。実験、実習を含む。専修科の授業を含む。卒業研究は含まない) 1) 7 単位時間以上 2) 6 単位時間 3) 5 単位以下	3点 1点 0点
(2)	上記の授業のほかには補習授業を行っていますか？(不定期に実施しているものを含む) 1) 高学・就職希望者、資格試験受験者および進捗度の低い学生に実施している 2) 高学・就職希望者および資格試験受験者について実施している 3) 進捗度の低い学生についてのみ実施している 4) 上記の授業で十分理解されていると自信をもっているため、補習授業は行っていません 5) 補習授業をまったく考えていない	3点 2点 2点 1点 0点
2 授業内容・方法		14点
(1)	シラバスを有効に利用していますか？ 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している 2) シラバスを配布し、持ち帰りなどをサポートしている 3) シラバスは未だ配布していない	3点 2点 0点
(2)	教科書および参考書は活用していますか？ 1) 自身の教科書・参考書および自分で印刷した資料の教科書を使用している 2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で印刷した教科書を使用している 3) 自分で作った教科書を用いるので、教科書・参考書は活用していない 4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している	3点 2点 2点 1点
(3)	教育方法の工夫 1) グループ学習、ディスカッションなど新しい教育方法を実施している 2) 一方的な授業ではなく、双方両方の授業になるように工夫している 3) 通常の講義形式で授業を行っている	3点 2点 1点
(4)	学生による評価の取り入れ 1) 授業の中で学生の学習到達度を自己評価できるように工夫をしている 2) 学生による授業評価などを取り入れ、学生の要望にも対応できる授業を行っている	2点 1点
3 公開授業の実施		3点
	1) 今年度、公開授業を既に 1 回以上実施した 2) 既に、公開授業を計画・準備中であり、今年度、実施する 3) 公開授業を実施する計画はない	3点 2点 0点
4 成績評価		8点

(出典 教育改善委員会資料)

観点 3 - 3 - : 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

教育課程を適切に展開するために、本校は(資料 3 - 3 - - 1) に示す事務職員及び技術職員が配置されている。技術職員は教育研究支援センターの規則及び構成図(資料 3 - 3 - - 2 ~ 資料 3 - 3 - - 3) に則り、機能的なシステム及び配置がなされている。

(資料 3 - 3 - - 1)

「事務組織図」

事務職員				技術職員			
所属1	所属2	職名	氏名	所属	職名	氏名	
事務部	事務部長		糸崎 喜一		技術長	技術専門職員 三好 正行	
庶務課	庶務課長		加藤 和人	第一技術班	班長	技術専門職員 孝久 和郎	
		専門職員(企画調査担当)	柴田 裕司			技術専門職員 吉田 敏實	
		事務補佐員	林 綾子		技術専門職員 藤沢 秀雄		
	専門職員(事務情報化担当)		西野 正敏		技術専門職員 木村 操		
		専門職員付情報処理主任	田中 好美		技術専門職員 水島 宏和		
	庶務係	庶務係長	寺川 秀樹		技術専門職員 北川 浩和		
		庶務主任	高橋 利枝		技術専門職員 三好 正行		
	人事係	人事係長	石山 隆三		技術専門職員 齋藤 弘一		
		人事主任	三好 敦子		技術専門職員 堀井 直宏		
		事務補佐員	奥村 ふじみ		技術職員 清水 幹郎		
事務情報化推進室	室長(併)		西野 正敏	第三技術班	班長	技術職員 内藤 岳史	
		室員(併)	田中 好美			技術専門職員 瀬戸川 城将	
		西川 岩雄	技術専門職員 荒木 俊幸				
会計課	会計課長		西川 岩雄			技術専門職員 野村 栄市	
	総務係	総務係長	塚崎 真由			技術専門職員 坪川 茂	
		予算主任	入澤 啓文			技術専門職員 片岡 裕一	
		共済主任	中出 智美				
	用度係	用度係長	岡部 歌子				
		用度主任	山岸 春喜				
		契約主任	朝倉 奈苗				
		事務補佐員	山崎 真澄				
	出納係	出納係長	手塚 哲夫				
		経理主任	上田 紀章				
一般職員		立花 健二					
施設係	施設係長	吉田 清隆					
	技術職員	佐野 豪亮					
学生課	学生課長		長谷川 篤志				
	専門員(学務担当)		吉田 文男				
	教務係	教務係長		長谷川 雅則			
		入学試験主任		小林 利津子			
		一般職員		岩田 憲保			
	学生係	学生係長		松井 正隆			
		学生主任		田中 敏子			
		一般職員		酒井 友幸			
		看護師		大西 淑子			
	寮務係	事務補佐員		竹内 佐斗子			
		寮務係長		塚崎 卓美			
		事務補佐員		土川 光枝			
	図書係	図書係長		山本 益示			
		図書系職員		三上 恵子			
		事務補佐員		青山 千鶴子			
事務補佐員			栗田 まり				
	教育後援会		山田 陽子				

(出典 庶務課)

(資料 3 - 3 - - 2)

「教育研究支援センター規則」

福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則

(設置)

第 1 条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に福井工業高等専門学校教育研究支援センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、本校において教育研究支援に携わる技術職員(以下「技術職員」という。)の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援のための基本計画の策定
- (2) 教育研究に対する技術支援
- (3) 技術職員の研修、技術発表会・講演会の企画及び実施
- (4) 教育研究関連機器の保守・管理・操作
- (5) 技術の継承及び保存
- (6) 技術資料の作成、保管及び提供
- (7) 所掌業務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (8) その他本校における教育研究支援業務に関すること。

(職員)

第 5 条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 技術長
- (3) 技術班長
- (4) 技術員

(センター運営委員会)

第 8 条 センターの円滑な運営を図るため、福井工業高等専門学校教育研究支援センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、校長が別に定める。

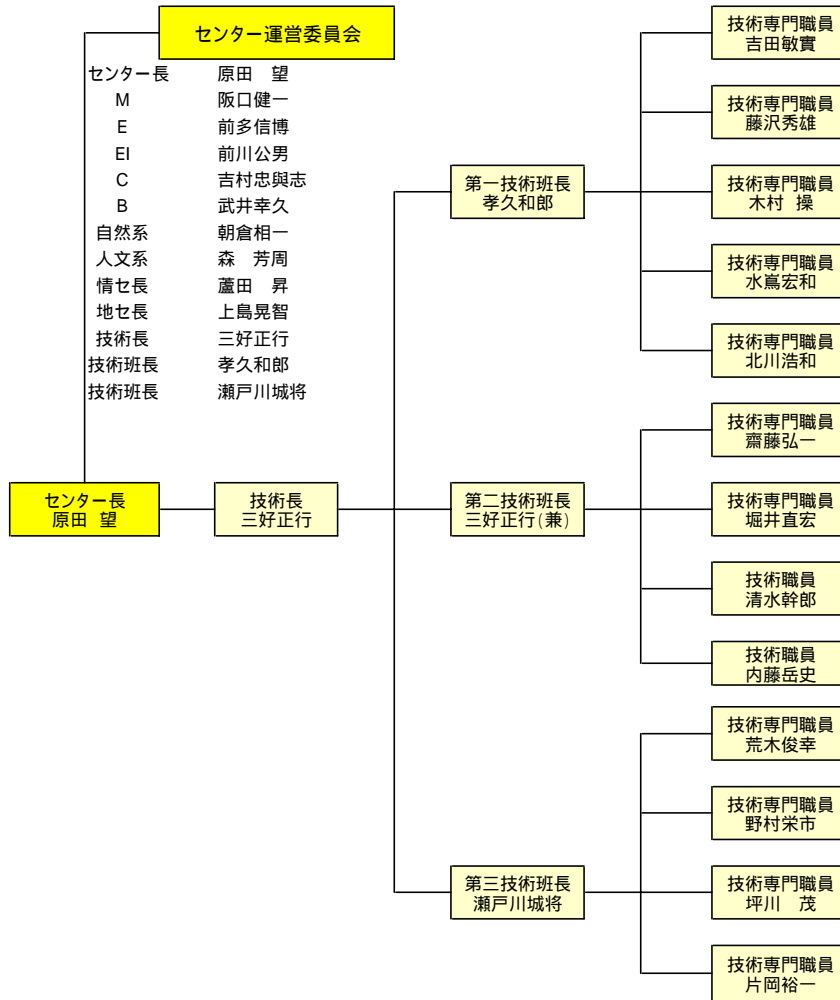
附則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料3 - 3 - - 3)
「教育支援センター構成図」

福井工業高等専門学校教育研究支援センター組織図(平成17年度)



(出典 ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

効率的な人員配置により、少ない人数ながらもレベルの高い事務が執り行われている。また、教育活動についても、事務職員及び技術職員との連携がシステムレベル、ヒューマンリレーションレベルにおいて効果的に機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教員及び教育支援者に関する取り組みは、各種委員会によって様々な角度から検討されている。学生アンケート等の見直し等、教育活動の現体制を通して明らかにされた種々の改善点は教育改善・点検システムに則り適宜当該委員会にて検討され、見直されている。

(改善を要する点)

様々な取り組みからわかるように改善に対する意欲は高い一方、システムとしては完成ではなく、改善の余地が散見される。個人の裁量に委ねられていた部分を見直し、より良い教員及び教育支援者の設置が継続的に実施される環境の整備が必要である。

(3) 基準3の自己評価の概要

本校の目的を達成するために、各教員の専門性を活かして一般科目教員・専門科目教員の各授業の担当者を決めている。また、その授業内容と研究内容・業績の確認を行っている。専攻科を担当する教員も専攻科委員会が専門分野周辺の教員を選んで決めている。学校の目的を達成するために、企業経験者の採用、技術士の採用を心がけている。また、教員活動をより活発化させるため、適正な年齢構成を各学科・教室で講じている。

教員の採用及び昇格に際しては、規則で明文化し、公募するなど適切な運営が行われている。さらに、本校の教員及び教育支援者に関する取り組みは、高等専門学校設置基準等の法令に照らして、適切に行われている。また、本校の目標に合致した取り組みとして、教員及び教育支援者の配置、教育活動評価システムの整備が行われている。

現状の自己評価は適切であると判断される一方、体制としては社会の要請等を踏まえて常に改善しなければならない。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1- : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜(例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。)の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

(観点に係る状況)

学生の受入機会は、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜及び専攻科入学者選抜である。

平成18年度準学士課程入学者選抜に向けて、平成17年6月の教員会議において、アドミッション・ポリシーを改訂し(資料4-1- -1)、カレッジガイド(資料4-1- -2)、学校要覧、学生便覧、ウェブページに掲載し、本校構成員と中学校への周知を行っている。

アドミッション・ポリシーは、学校としてのものと、各学科のものがある。学校のアドミッション・ポリシーは教育方針(前出資料1-1- -1)、基本理念及び教育目標(前出資料1-1- -2、別添「学生便覧」冒頭)に対応し定められている。また、各学科のアドミッション・ポリシーは、各学科の目的(前出資料1-1- -3、別添「学生便覧」冒頭)に合わせて定められている。

(資料4-1- -1)

「アドミッションポリシーの改訂」

6月定例教員会議議事要旨

日 時 平成17年6月16日(木) 15時～15時50分
場 所 合併教室
出席者 校長、議長：森、構成員58名 計61名
列席者 事務部長、庶務部長、会計課長、学生課長、学生課専門員、庶務係長、
教務係長、武蔵土任

議 事

1 報告事項

1. 校長報告

1) 独立行政法人国立高等専門学校機構校長・事務部長会議報告
校長から、資料1に基づき報告があった。

2. 教務主事報告

1) 入学試験委員会報告

① アドミッションポリシーについて

教務主事から、資料2に基づき、アドミッションポリシーの改訂について、報告があった。

② 学校説明会について

教務主事から、学校説明会を6月23日(木)18:30～、大講義室において実施する旨の案内があった。

③ 事務部長報告

(出典 教員会議議事録)

(資料4 - 1 - - 2)

「準学士課程アドミッションポリシー(カレッジガイド)」

本校は、入学者として次のような人を広く求めます。
Fukui National College of Technology seeks the students with the following attributes.

■ 全学科としてのアドミッションポリシー

- (1) ものづくり、環境づくりに興味がある人
- (2) 基礎学力が優れている人
- (3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
- (4) 国際社会で活躍したいと想っている人
- (5) 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

■ 各学科のアドミッションポリシー

■ 機械工学科

- (1) 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムに興味がある人
- (2) 自然現象の仕組みを応用したもののづくりに興味がある人
- (3) 文化や歴史を考えたもののづくりに興味がある人

■ 電気電子工学科

- (1) ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御や、プログラミング技術を学びたい人
- (2) 情報家電や光通信などに使用する電子回路や、情報通信技術を学びたい人
- (3) 電気自動車や太陽光発電などに使われる、環境にやさしいクリーンエネルギーや、新材料技術を学びたい人

■ 電子情報工学科

- (1) コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- (2) ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- (3) 未来のIT機器の開発をやってみたい人

■ 物質工学科

- (1) 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出した人
- (2) 地球に優しいものづくりをしたい人
- (3) バイオの技術で社会に貢献したい人

■ 環境都市工学科

- (1) 自然と共生し、持続可能で安全・快適な施設・都市・環境づくりに関心がある人
- (2) 道路や河川など社会資本の計画・設計・建設・維持管理システムに興味がある人
- (3) まちづくり、防災、環境の監視や保全の方法について実践的に学ぶことを望む人

2

(出典 カレッジガイド2006 2頁)

カレッジガイドと学校要覧は、各中学校へ郵送のほかに、本校で開催する学校説明会（資料4 - 1 - - 3）、入学試験委員会委員が行う中学校訪問（前出資料1 - 2 - - 4、資料4 - 1 - - 4）と入試説明会、及び、オープンカレッジ（資料4 - 1 - - 5）において、中学生、保護者、中学校教諭に対して配付すると同時に口頭での説明も行っている。

（資料4 - 1 - - 3）

「学校説明会日程と参加者数」

学校説明会日程

1. 期 日	平成17年6月23日（木）		
2. 日 程	13:30～13:40	受 付	
	13:40～13:50	校長挨拶	大講義室
	13:50～14:30	授業見学	各教室、実験室、実習工場
	14:30～15:30	学校説明 各学科紹介 質疑応答	大講義室
	15:30	閉 会	

平成17年度 学校説明会出席者名簿

番号	中学校名	出席者名		見学コース
		教諭	生徒	
1	明倫中学校			
2	滋明中学校			
3	徳和中学校			
33	松陰中学校			
39	黒野中学校			
40	奥浜中学校		(保護者3名)	
41	社中学校			

※出席者 93名（教諭40名、生徒36名、保護者17名）

（出典 学生課）

編入学生選抜では、準学士課程入学選抜のアドミッション・ポリシーを適用し、編入学生募集要項（資料4-1-7）及びウェブページに掲載している。募集要項の配付実績を（資料4-1-8）に示す。また、募集要項は教員会議で検討された後、本校教員に配付されている。

（資料4-1-7）

「編入学生選抜アドミッション・ポリシー」

2 入学選抜方針

本校は入学生として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

- (1) ものづくり、環境づくりに興味がある人
- (2) 基礎学力が確立している人
- (3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
- (4) 国際社会で活躍したいと思っている人
- (5) 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

各学部のアドミッションポリシー

機械工学科

- (1) 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムに興味がある人
- (2) 自然現象の仕組みを理解したもののづくりに興味がある人
- (3) 文化や歴史を考えたものづくりに興味がある人

電気電子工学科（電気工学科）

- (1) ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- (2) 制御回路や光通信などに使用する電子回路や制御回路技術を学びたい人
- (3) 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいグリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

電子情報工学科

- (1) コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- (2) ネットワークを構築したり、監視ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- (3) 未来のIT構築の発展をやってみたい人

物質工学科

- (1) 化学と生物の境界へ第一歩を踏み出したい人
- (2) 地球に優しいものづくりをしたい人
- (3) バイオの技術で社会に貢献したい人

環境都市工学科

- (1) 自然と共生し、持続可能で安全・快適な施設・都市・環境づくりに関心がある人
- (2) 資源や材料など社会資本の計画・設計・実証・維持管理システムに興味がある人
- (3) まちづくり、防災、環境の監視や保全の方法について実証的に学ぶことを望む人

（出典 平成18年度編入学生募集要項1頁）

（資料4-1-8）

「編入学生募集要項配付実績」

様式	送付先	送付者	送付回数	備考
別紙1	各高等学校長	校長	各2部	毎年 30校
	高等学校 福井工業技術専門学校			
別紙2	文部科学省高等教育課	*	1部	毎年 27校
	専門教育課長			
別紙3	各国立高等専門学校長	*	各1部	大数 1校
別紙4	教育委員会	*	各1部	
別紙5	福井・滋賀・石川県 国立高等専門学校の連携本部	学生課長	1部	
別紙6	電通機関各社	*	10部	(1)
	記者クラブ			
	福井新聞社			
	福井ケーブルテレビ			

（出典 学生課）

専攻科入学者選抜のアドミッション・ポリシーは、学生便覧（資料4-1- - 9，別添「学生便覧」冒頭）に掲載されている。また、同じものが選抜方針という名称で専攻科学生募集要項（資料4-1- - 10）とウェブページに記載されている。専攻別の教育目標は専攻科ガイド（資料4-1- - 11），及び学校要覧（資料4-1- - 12，別添「学校要覧」26頁）に掲載されている。専攻科ガイドと学校要覧は、本校の学生と保護者，企業に配付されている。また，学生便覧，専攻科ガイド，学校要覧，募集要項は本校教員にも配付され，学内関係者に対しても周知が図られている。

（資料4-1- - 10）

「専攻科選抜方針」

II 選抜方針

専攻科では、ものづくりの資質ならびに高等教育レベルの十分な素養をそなえている者、及び、社会人として活躍している技術者で高等専門学校卒業程度の学力を有する者の中から、公正かつ適正な方法で選抜する。

（出典 平成18年度専攻科学生募集要項1頁）

（資料4-1- - 11）

「専攻科専攻別学習内容と育成する人材（専攻科ガイド）」

生産システム工学専攻

21世紀に必要とされる技術者には、技術の高度化と複雑化に対応できる総合的な能力と各種課題解決のための創造性が求められます。この中には、各種のシステム全体を統括するソフトウェアの設計・開発というような分野も含まれています。つまり、機械の分野、電子・電気の分野、あるいは情報系の分野といったような線割りの領域に留まらず、技術の高度化を前提として、問題を解決することは困難になります。

本専攻は、本科5年の教育課程で修得した基礎学力を基盤として、機械設計、システム設計、システム制御、電子・電気及び情報・通信の分野の知識を広く教授します。その中では、具体的な問題に取り組み、総合的な能力と創造性を育て、先進的な生産システムをはじめ、様々なシステムの開発研究を行うことができる、柔軟な思考力を兼ね備えた、実践的技術者の育成を目指します。



人間機械システム工学専攻

環境システム工学専攻

現代の社会は、環境を保全する意識が高まり、環境にやさしい製品や高効率性を前提とした製品の製造プロセスの開発等が求められています。こうした社会のニーズは今後さらに高まっていくと考えられます。一方、地球環境や地域の環境を保全しつつ、自然災害に強い、より安全で快適な居住づくりの必要性も、非常に大きくなっています。

本専攻は、本科5年の教育課程で修得した基礎学力を基盤として、生物化学、電気や材料、環境分析、水環境学や環境工学及び都市や防災システム分野の知識を広く教授します。具体的には、省エネルギーや資源品の開発研究、並びに都市環境を改善するための知識と技術を修得した技術者の育成を目指します。



（出典 専攻科ガイド3頁）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程は、本校全体と各学科それぞれの教育の目的に沿ったアドミッション・ポリシーが明確に定められ、カレッジガイド、学校要覧及びウェブページに掲載すると同時に、各種説明会において直接説明し広く周知されている。本校の構成員に対しては、カレッジガイド、学校要覧、学生便覧の配布及び教員会議等で周知されている。編入学のアドミッション・ポリシーは、準学士課程と同じものを適用し、募集要項の配付とウェブページに掲載していることで学内外共に周知されている。専攻科生選抜のアドミッション・ポリシー（選抜方針）は、学生便覧、募集要項及びウェブページに掲載されている。また、教育目標が専攻科ガイドと学校要覧に掲載されるなど、周知が図られている。

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、
実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程入学者選抜は、推薦による選抜・学力検査による選抜があり(資料 4 - 2 - - 1) ,
入学者選抜実施要綱(資料 4 - 2 - - 2)に基づいて実施している。

(資料 4 - 2 - - 1)

「準学士課程入学者選抜方法」

平成17年度学生募集要項

I 募集人員、出願資格及び入学者の選抜

1 募集人員

各学科の募集人員は、次のとおりとします。

学 科	募 集 人 員	学力による募集人員	推薦による募集人員
機 械 工 学 科	40名	各学科とも、募集人員の 70%程度(円、円未満は は工学基礎コース)	各学科とも、募集人員の 30%程度
電 気 工 学 科	40名		
電子情報工学科	40名		
物 質 工 学 科	40名		
環境都市工学科	40名		
計	200名		

※工学基礎コースは各学科8名を定員とし、2年課程時に本人の志望と成績により転科可能となるコースである。

2 出 願 資 格

出願資格は、次のいずれかに該当する者としてします。

- ① 中学校もしくは、これに準ずる学校を卒業した者又は平成17年3月に卒業見込みの者
- ② 中等専門学校の前科課程を修了した者又は平成17年3月に修了見込みの者
- ③ 中学校卒業と同等以上の学力があると認められた者(学校教育法施行規則第63条に該当する者)

3 入学者の選抜

入学者の選抜は、推薦によるものと、学力検査によるもの二つの方法で行います。

(出典 平成17年度学生募集要項 1頁)

(資料 4 - 2 - - 2)

「入学者選抜実施要綱」

平成17年度福井工業高等専門学校入学者選抜実施要綱

平成17年度福井工業高等専門学校入学者の選抜は、平成17年度学生募集要項に定めるもののほか、この要綱の定めるところにより実施する。

第1 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、次に掲げる2つの方法で行う。

- (1) 推薦による入学者の選抜(以下「推薦選抜」という。)
- (2) 学力検査による入学者の選抜(以下「学力検査選抜」という。)

第2 推薦選抜の方法等

(出典 入学者選抜実施要綱 1頁)

推薦選抜には推薦要件アとイがある。アの要件では、推薦書、調査書、健康診断、作文及び面接の結果を総合して判定する。イの要件では、これに科学の分野における優秀な成果の口頭発表に対する評価が加わる（資料4-2- - 3）。作文（資料4-2- - 4）及び面接内容は学科毎に選抜方針に沿った課題を指定している。作文、面接の評定は選抜方針に沿って行い、各学科で評定結果について検討した後、入学試験委員会を経て教員会議において合否を判定する。

（資料4-2- - 3）

「準学士課程入学選抜方法」

II 推薦による入学者の選抜

1 推薦要件

平成17年3月に中学校を卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を修了見込みの者（以後「卒業（修了）」という。）で、次の要件を備え、学校長が推薦するものとします。

- (1) 本校への入学意欲が強固であること。
- (2) 志望学科に対して、適性、興味及び関心があること。
- (3) 人物が豊れ、調査書の名記述が優良であること。
- (4) 次のア又はイに該当すること。
 - ア 9教科(英語以外の選択科目を除く。)の学習の総評の評定の合計が、次のいずれかの基準を満たしていること。ただし、卒業(修了)見込者の第3学年は12月末日現在とする。
 - (イ) 第1学年から第3学年までが5段階評定の場合、105以上
 - (ロ) 第1学年及び第2学年が5段階評定、第3学年が10段階評定の場合、140以上
 - イ 科学の分野に強い関心を有し、次のいずれかに該当すること。
 - (イ) 国、地方公共団体又は民間の団体が主催する科学の分野に関するコンテスト等において優れた成果を収めた者
 - (ロ) 校内の活動において、科学の分野に関し特に優秀な成果を収めたと認められる者

3 選抜方法

- (1) 推薦要件の(4)のアによる選抜は、推薦書、調査書、健康診断、作文及び面接の結果を総合して判定します。
 - (2) 推薦要件の(4)のイによる選抜は、推薦書、調査書、健康診断、作文、面接及び口頭発表の結果を総合して判定します。
- 注：「口頭発表」では、科学の分野に関して収めた成果についての発表と質疑を行う。（発表は10分以内）
発表題材として本校において、OHPを準備します。

(3) 選抜の期日及び場所

期 日	平成17年1月25日(火)
場 所	福井工業高等専門学校 鯖江市下町可（「V学力検査場案内図」参照）

(4) 作文・面接及び口頭発表

ア 実施時間

作 文	面 接（口頭発表）
9：00～9：50	10：00～

イ 作文は課題により、面接は個人面接により実施します。

(5) 健康診断

調査書の「健康の状況」欄の健康状況について審査し、特に必要と認める者については、精密検査を行います。精密検査の必要な者には、面接終了時に通知します。

なお、精密検査の結果、修学に耐えられないと認められた者は、入学を許可しないことがあります。

（出典 平成17年度学生募集要項2頁）

(資料 4-2-①-4)
「推薦選抜作文課題」

様式第 5 号

平成十五年 福井工業高等専門学校 推薦入学 者選抜作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	私がつくりたい夢のロボット
電気工学科	エレクトロニクス技術と私の夢
電子情報工学科	私の夢と希望、そしてそれを実現するために まず私のすべきこと
物質工学科	二十一世紀における化学の役割
環境都市工学科	都市基盤の整備において 土木技術者が果たす役割について

(注) 本表の課題を希望する学科の欄に記入する。

様式第 6 号

平成十六年 福井工業高等専門学校 推薦入学 者選抜作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	“福井高専機械工学科で何を学びたいか。”
電気工学科	中卒時代に最も力をいれて取り組んだこと ① 読書、クラブ活動、趣味などから
電子情報工学科	「マイナーについてどう考えますか」
物質工学科	二十一世紀における化学の役割と可能性
環境都市工学科	高専に入つたらしらした事

(注) 本表の課題を希望する学科の欄に記入する。

様式第 7 号

平成十七年 福井工業高等専門学校 推薦入学 者選抜作文課題

志望学科	課題名
機械工学科	ボランテニアについて
電気工学科	電気工学科で 取り組みたいこと
電子情報工学科	インターネット社会の将来 あるべき姿
物質工学科	福井高専物質工学科に 入学して学びたいこと
環境都市工学科	まちづくりにおける防災と共生

(注) 本表の課題を希望する学科の欄に記入する。

(出典 学生課)

学力検査による選抜では、学力検査，調査書，健康診断の結果を総合して判定する（資料4 - 2 - 5）。学力検査では，国立高等専門学校入学者選抜学力検査問題（資料4 - 2 - 6）を使用している。アドミッション・ポリシーにおける，基礎学力が備わっている人，国際社会で活躍したいと思っている人，自分で課題を考え，解決する能力を身に付けたい人，という項目に対応して，5科目において偏りなくバランスの良い成績の学生を受け入れている。

（資料4 - 2 - 5）

「学力検査選抜方法」

2 選 抜 方 法

(1) 学力検査による選抜は，学力検査，調査書及び健康診断の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査の期日及び場所

期 日	平成17年2月20日(日)	
場 所	本校検査場	福井工業高等専門学校（鯖江市下町町）
	遠隔系検査場	滋賀大学経済学部（彦根市馬場1丁目1-1）

(3) 学力検査の検査科目及び検査時間

理 科	英 語	数 学	国 語	社 会
9:30～10:20	10:40～11:30	11:50～12:40	13:30～14:20	14:40～15:30

(4) 健康診断

調査書の「健康の状況」欄の健康状況又は健康診断書について審査し，特に必要と認められる者については，精密検査を行います。精密検査の必要な者には，学力検査終了後通知します。

なお，精密検査の結果，修学に附えられないと認められた者は，入学を許可しないことがあります。

（出典 平成17年度学生募集要項7頁）

（資料4 - 2 - 6）

「入学者選抜学力検査問題」



（出典 ウェブページ）

専攻科入学者選抜は、推薦による選抜・学力による選抜・社会人特別選抜の三種がある（資料4 - 2 - - 9）。推薦による選抜は年一回行われ、推薦書・調査書・面接（専門科目に関する口頭試問を含む）及び健康診断書の内容の総合判定により行う（資料4 - 2 - - 10）。学力による選抜は年に二回（前・後期）行われる。国際的コミュニケーション能力と工学的素養を確認するための英語と数学の筆記試験と面接（専門科目に関する内容の口頭試問を含む）及び調査書ならびに健康診断書の内容の総合判定により行う（資料4 - 2 - - 11）。社会人選抜は年一回行われる。社会人技術者の再教育を目的とし、所属長の推薦書、出身学校長の調査書及び面接の内容の総合判定により行う（資料4 - 2 - - 12）。総合判定は福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領（資料4 - 2 - - 13）に従って行われる。面接の内容及び評定は選抜方針に沿って行い、各専攻で評定結果について検討した後、専攻科委員会を経て教員会議において合否を判定する。

（資料4 - 2 - - 9）

「専攻科生選抜方法」

Ⅲ 選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜、学力検査による選抜（前期・後期）及び社会人特別選抜とし、次のとおり行います。

選 抜 区 分	試 験 期 日	選 抜 人 数
推 薦 に よ る 選 抜	平成17年 6月 5日(日)	各専攻とも定員の半数程度
学 力 検 査 に よ る 選 抜	前 期 平成17年 7月16日(土)	各専攻とも定員の半数程度
	後 期 平成17年12月10日(土)	
社 会 人 特 別 選 抜	平成17年12月10日(土)	若干名

（出典 平成18年度専攻科学生募集要項1頁）

（資料4 - 2 - - 10）

「出願資格と選抜方法（推薦選抜）」

Ⅳ 推薦による選抜

1. 出願資格

次の各号に該当する者としします。

- (1) 平成18年3月に高等専門学校卒業見込みの者で、出身学校長が人物、健康ともに優れていると認め推薦する者
- (2) 学年末の学業成績が在籍したクラスの上位1/2以内である者(第3学年と第4学年の平均順位または第4学年の順位が、上位1/2以内である者)

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、在籍学校長から提出された推薦書及び調査書、面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）並びに健康診断書の内容の総合判定により行います。

- (1) 検査期日 平成17年6月5日(日)
当日は、午前9時15分までに集合してください。
- (2) 検査内容 面接
- (3) 検査会場 福井工業高等専門学校

（出典 平成18年度専攻科学生募集要項1頁）

(資料4 - 2 - - 11)

「出願資格と選抜方法(学力選抜)」

V 学力検査による選抜【前期】

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 高等専門学校を卒業した者又は平成18年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成18年3月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査(数学、英語)、面接(専門科目に関する口頭試問を含む。)及び調査書並びに健康診断書の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日等

期 日	科目等	時 間
平成17年7月16日(土)	数 学	9:45~10:45
	英 語	11:00~12:00
	面 接	13:00~

当日は、午前9時15分までに、集合してください。

(2) 学力検査科目及び出題範囲

科 目	出 題 範 囲
数 学	線形代数、微分積分(1変数及び2変数、微分方程式を含む。)
英 語	一般英語

(3) 検査会場 福井工業高等専門学校

VI 学力検査による選抜【後期】

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 高等専門学校を卒業した者又は平成18年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成18年3月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査(数学、英語)、面接(専門科目に関する口頭試問を含む。)及び調査書並びに健康診断書の内容の総合判定により行います。

(1) 検査期日等

期 日	科目等	時 間
平成17年12月10日(土)	数 学	9:45~10:45
	英 語	11:00~12:00
	面 接	13:00~

当日は、午前9時15分までに、集合してください。

(2) 学力検査科目及び出題範囲

科 目	出 題 範 囲
数 学	線形代数、微分積分(1変数及び2変数、微分方程式を含む。)
英 語	一般英語

(3) 検査会場 福井工業高等専門学校

(出典 平成18年度専攻科学生募集要項4頁)

(資料 4 - 2 - - 1 2)

「出願資格と選抜方法(社会人特別選抜)」

Ⅶ 社会人特別選抜

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、所属する企業等の長が勤務成績、人物及び健康とも優れていると認め推薦する者としてします。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、提出された推薦書及び調査書、面接(専門科目に関する口頭試問を含む。)並びに健康診断書の内容の総合判定により行います。

- (1) 検査期日 平成17年12月10日(土)
当日は、午前9時15分までに、集合してください。
- (2) 検査内容 面接

(出典 平成18年度専攻科学生募集要項 8頁)

(資料 4 - 2 - - 1 3)

「専攻科生選抜実施要領」

福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領

制定 平成10年4月 1日

改正 平成17年5月12日

(趣旨)

第1 「この要領は、福井工業高等専門学校専攻科の入学者選抜(以下「試験」という。)の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(出典 専攻科入学者選抜実施要領 1頁)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程入学者選抜は、推薦と学力検査による選抜が実施されている。推薦選抜は、学科毎にアドミッション・ポリシーに沿った内容の作文と面接が実施されている。また、科学の分野における優秀な成果の口頭発表を評価に加える出願要件を設けており、多様な方法で選抜が実施されている。学力検査はアドミッション・ポリシーに沿って5科目で偏りのない成績の学生を受け入れている。編入学生選抜では、学科毎にアドミッション・ポリシーに沿った内容の学力検査と面接が実施されている。専攻科生入学者選抜は、推薦と学力検査及び社会人選抜とがあり、それぞれアドミッション・ポリシーに沿った内容の面接、学力検査が実施されている。

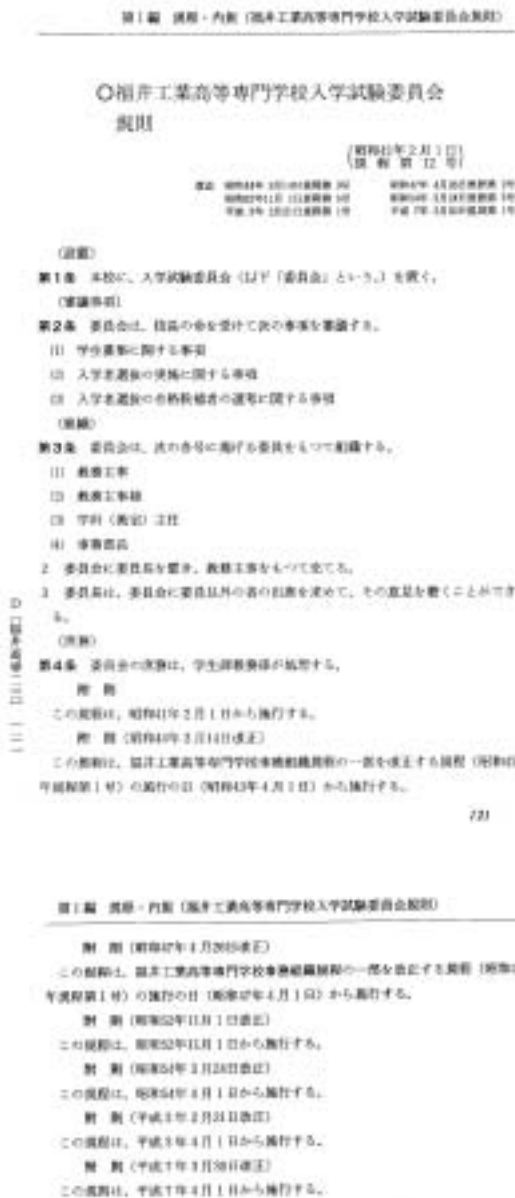
観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

学生募集，入学者選抜の実施，入学者選抜の合格候補の選考に関する事項を審議する入学試験委員会が置かれ，教務主事，教務主事補，学科（教室）主任，事務部長によって組織されている（資料 4 - 2 - - 1）。

(資料 4 - 2 - - 1)

「入学試験委員会規則」



(出典 福井工業高等専門学校規則集 1 2 2 頁)

また、教務委員会（資料4 - 2 - - 2）において、入学後の学生に対して一斉テストを実施して基礎学力の検証を行い（資料4 - 2 - - 3）、入試委員会と連携して入学者選抜の改善を検討している（資料4 - 2 - - 4）。

準学士課程入学者選抜における推薦選抜、及び編入学生選抜では、選抜方針に沿った作文課題を各学科から出題している。面接内容は、各学科で選抜方針に沿った内容になるよう面接担当者が事前に協議した上で、面接に当たっている。

（資料4 - 2 - - 2）
「教務委員会規則」



（出典 福井工業高等専門学校規則集 1 1 1・7頁）

(資料 4 - 2 - - 3)

「1年生一斉テストの実施」

議 事 録

会議の名称	教務委員会	平成16年度(第1回)
日 時	平成16年4月15日(木) 16時30分～17時15分	
出席者	会議構成員15名(定員15名) その他の職員3名 計18名	
会 場	会議室	

(2) 1年生一斉テストの実施について
委員長から、英語・数学・国語の3教科について、入学試験「調査書評定」の信憑性を確認すること等を目的に一斉テストを実施する旨の報告及び協力依頼があった。

(出典 教務委員会議事録)

(資料 4 - 2 - - 4)

「1年生一斉テスト結果の検討」

議 事 録

会議の名称	入学試験委員会	平成16年度(第3回)
日 時	平成16年6月9日(水) 15時00分～16時30分	
出席者	会議構成員 15名(定員15名) その他の職員4名 計19名	
会 場	主事室	

3. その他
・委員長から、先日実施された1年生対象の業者テストの結果が委員に回覧され、今後入学時の調査書と照らし合わせ集計を出し今後の参考としていきたい旨案内があった。

(出典 入学試験委員会議事録)

専攻科生選抜においては、専攻科委員会が入学者選抜等に関することについて検討している(資料 4 - 2 - - 5)。専攻科委員会では、受験希望者に対して適切な情報を開示するため、選抜方法を明記した平成18年度募集要項についての検討を行い、改訂している(資料 4 - 2 - - 6)。

(資料 4 - 2 - - 5)

「専攻科委員会規則」

<p style="text-align: center;">第1編 総則 - 内則 (福井工業高等専門学校専攻科委員会規則)</p> <p style="text-align: center;">○福井工業高等専門学校専攻科委員会規則</p> <p style="text-align: right;">(平成18年1月20日) 規則第1号 第2 平成18年11月29日改訂第1号</p> <p>(設置)</p> <p>第1条 福井工業高等専門学校規則第38条の規定に基づき、福井工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)を置く。</p> <p>(組織事項)</p> <p>第2条 委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入学希望者等に関すること。 2) 教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。 3) 学生の進学及び就職に関すること。 4) 学生の厚生給養に関すること。 5) その他専攻科の運営に関すること。 <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会は、次の各号に附ける委員をもって組織する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専攻科長 2) 専攻科長 3) 学科(教室)の代表 1名 4) 学生議員 <p>2 前項第3号の委員は、校長の命ずる。</p> <p>3 第1項第3号の委員の任期は、1年とし、再任を許さない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(委員長)</p> <p>第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって定む。</p> <p>2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。</p> <p>(委員以外の者の出席)</p> <p>第5条 委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことが</p>	<p style="text-align: center;">第1編 総則 - 内則 (福井工業高等専門学校専攻科委員会規則)</p> <p>である。</p> <p>(改訂)</p> <p>第6条 委員会の定数は、学生議員は別定する。</p> <p>制 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。 2 福井工業高等専門学校専攻科設置準備委員会規則(平成9年9月24日制定)を、廃止する。 <p>制 期 (平成14年12月29日制定)</p> <p>この規則は、平成18年4月1日から施行する。</p>
---	--

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料 4 - 2 - - 6)

「募集要項の改訂」

第10回専攻科委員会議事録

日 時：平成18年11月29日(月) 16:30～18:25

場 所：小会議室

出席者：吉村(志)委員長、藤田、米田、下条、小泉、奥村、岡本、戸島各委員
(欠席：長谷川委員)

議 程

1. 平成18年度専攻科募集要項(案)について
委員長から、資料№1により説明があり、了承された。

(出典 専攻科委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び編入学生選抜では、学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が、入学後の学生については教務委員会が検討している。両委員会が連携して、入学者選抜の改善を検討している。また、専攻科生選抜では、専攻科委員会が選抜方法の改善を検討している。

観点 4 - 3 - : 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程入学者選抜における定員は、各学科 40 名である。推薦選抜ではその 30% 程度とし、学力選抜を含めて定員を満たすよう合格判定を行っている。ただし、学力選抜のうち各学科 8 名以内を工学基礎コースとしている(前出資料 4 - 2 - - 1)。本校の合格辞退者は極めて少ないため、定員の 40 名を合格とし、辞退者がある場合には追加合格により定員を満たすようにしている。準学士課程における現員と実入学者数は(資料 4 - 3 - - 1, 別添「学校要覧」37 頁)である。

入学試験委員会では、中学生の減少を受け、定員の確保のための受験者数増加の方策を検討している。平成 16 年度推薦選抜において、各中学校から各学科へ 1 名のみという枠を撤廃し、推薦選抜の受験がしやすくなるよう配慮した。また、学力選抜においては、2 年進級時に転科が可能な工学基礎コースを設置し、中学時点での学科選択という高専希望者にとっての敷居を低くし、受験者増への取組みを行った(資料 4 - 3 - - 2)。

(資料 4 - 3 - - 2)

「工学基礎コース」

「工学基礎コース」ができました!

高専へ行きたいけど、学科がまだ決まらないうちから入学したい。そんな人のために、入学1年後に本人の希望と成績により、各専門学科に転科できる「工学基礎コース」が平成17年度(平成18年度)より設置されます。専修科(大学3,4年課程)・国立大学3年編入が2割となっているので、新編科科に重点をおいた教育を行います。

1年間、各学科の中に、8名を設定します

入学定員は従来どおり、機械、電気、電子情報、物質、環境都市各学科とも40名(全200名)ですが、各学科の定員40名の中で、8名を「工学基礎コース」とし、1クラスを構成します。

コースの特徴 来年度より、第1年とは、「ものづくり科学」という授業で専門分野にとらわれない体験型学習科目に取り替えます。自主研究として、各自がこれら研究テーマの趣づかに取り組めます。「工学基礎コース」は各学科の専門にとらわれないテーマを選択し、1年間かけて、ゆっくと専門分野を追究することができます。また、最近、国立大学3年や、専修科に進学する人が増えていますので、基礎的な教育にも重点を置きます。

Q. 推薦入学者数はなくなるのですか?
A. 推薦定数はそのままです
 推薦入員は従来どおり、各学科専修科の枠内推薦が基本入員です。各学科が枠いっぱいになっている人については、推薦定数の枠内推薦枠を減らして入員枠を確保します。

Q. 学力試験の合格はどのように決めるのですか?
A. 「工学基礎コース」をまず決めます
 まず、「工学基礎コース」について、第1年間の学力を考慮して決めます。その後、残る枠の中から学力の高い人と他の枠から試験合格で、各学科の枠の合格者を決めさせていただきます。

Q. 「工学基礎コース」に入ると、推薦の枠は他の学科に変わりますか?
A. 転科を希望しければそのままです
 「工学基礎コース」に入ると、1年間の成績に拠り、転科を希望する枠はその従来の学科での入学者枠となります。

Q. 推薦学科は決まっていますか?
A. 「工学基礎コース」は専修科から決めさせていただきます
 「工学基礎コース」では体験型学習など新しい教育を行います。各学科で有利なことはありませんが、専修科から決めてください。

福井高専 <http://www.fukui-nct.ac.jp>
 学生課連絡先 (0778) 62-1118

(出典 学生課)

編入学生選抜における定員は、各学科若干名である（資料4 - 3 - - 3）。受入予定のクラスの人数が教育に支障をきたさないよう合格者数を検討し、合否判定を行っている。4，5学年の現員は（前出資料4 - 3 - - 1，別添「学校要覧」37頁）に、編入学選抜における実入学者数は（資料4 - 3 - - 4）に示す。

（資料4 - 3 - - 3）

「編入学選抜定員」

1 募集学科、募集人員及び編入学年

募集学科	募集人員	編入学年
機械工学科 電気工学科 電子情報工学科 物質工学科 環境都市工学科	各学科とも 若干名	第4学年

（出典 平成17年度編入学生募集要項1頁）

（資料4 - 3 - - 4）

「編入学選抜実入学者数」

表 編入学入学者数

入学年度	入学者数				
	機械	電気	電子情報	物質	環境都市
平成15年度	1	2	0	1	3
平成16年度	0	1	0	1	3
平成17年度	1	2	0	0	2

（出典 学生課）

専攻科生選抜における定員は、(資料4-3- - 5)に示す。専攻科生選抜における実入学者数は(前出資料4-3- - 1, 別添「学校要覧」37頁)である。定員20名に対して30名程度入学している。専攻科では、定員25名の講義室1, 定員40名の講義室2, 定員16名のゼミ室3, 及び、10名程度収容できるゼミ室1とゼミ室2を利用して講義を行っている。学年別や専攻別の講義は講義室を使い、少人数で行う演習などではゼミ室を利用している。工学実験では専攻科生を少人数のグループに分けて、複数の教員がそれぞれの実験室等を利用して実施している。また、特別研究では、指導教員1名に対して、専攻科生1, 2名程度であり、それぞれの設備において定員を超過している影響は無いものと考えられる。

(資料4-3- - 5)

「専攻科生選抜定員」

I 募集人員

生産システム工学専攻 12名
環境システム工学専攻 8名

(出典 平成18年度専攻科学生募集要項1頁)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の実入学者数は定員どおりで適正になっている。また、受検者数増に向けた取組みがなされている。編入学生選抜では、入学後のクラスの人数が教育に支障のない事を検討しながら合否判定を行っており適正である。専攻科生選抜では、実入学者数は定員を超過しているが、教育に支障のない講義室、実験室等の設備が備わっており、適正であると考えられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程において、学校説明会、オープンカレッジ、中学校訪問及び入試説明会などを積極的に実施し、学生の受け入れ方針の周知をはかり、本校の教育目的に共感する優秀な学生の確保に努めている。

準学士課程における推薦選抜で、科学の分野における優秀な成果の口頭発表を評価に加える出願要件を設けており、多様な学生を受け入れている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準4の自己評価の概要

学生の受入について、準学士課程、編入学とともに平成18年度入学者選抜に対してアドミッション・ポリシーを改訂し、学校全体のものと各学科のものを定めた。アドミッション・ポリシーは、カレッジガイド、学校要覧、学生便覧及びウェブページに掲載され、中学生向けの学校説明会等の機会でもカレッジガイドを配付しながら直接説明を行うなど、将来の学生、社会及び本校構成員に対しての周知を積極的に行っている。専攻科課程でも、アドミッション・ポリシーを定め、募集要項、学生便覧及びウェブページに掲載している。また、教育目標が学生便覧、専攻科ガイド及び学校要覧に掲載され、本校の学生・保護者ならびに企業等に配付するなど、本校専攻科の教育目標に共感する学生の募集に努めている。

準学士課程及び編入学は入学試験委員会で、専攻科課程は専攻科委員会で、それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜を実施している。準学士課程の推薦による選抜では、科学の分野における優秀な成果についての口頭発表を評価に加える出願要件を設けており、多様な学生を受け入れている。また、実際に入学した学生の基礎学力について一斉テストを実施し検証している。

準学士課程の実入学者数は定員どおりとなっている。編入学の実入学者数は、教育に支障のない人数で適切になっている。専攻科課程の実入学者数は定員を超過しているが、施設・設備及び教育・研究指導において支障のない程度になっている。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到係る状況）

本校の基本理念・教育方針・教育目標、専門学科毎の目的に基づいて各学科の教育課程が体系立てて編成されている（一般科目：資料5-1-①-1，別添「シラバス」G-01～G-11頁），（機械工学科：資料5-1-①-2，別添「シラバス」M-01～M-13頁），（電気電子工学科：資料5-1-①-3，別添「シラバス」E-01～E-11頁），（電子情報工学科：資料5-1-①-4，別添「シラバス」Ei-01～Ei-09頁），（物質工学科：資料5-1-①-5，別添「シラバス」C-01～C-07頁），（環境都市工学科：資料5-1-①-6，別添「シラバス」B-01～B-07頁）。

（分析結果とその根拠理由）

低学年の一般科目での履修内容を基礎とし、学年進行に伴って専門学科毎に特色ある専門教育課程を体系立てて編成している。教育目標と各教科目の関連が明確にされていることから、授業内容が教育課程編成の趣旨に沿っており、教育目的を達成するために適切なものになっている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点到係る状況）

他学科の授業科目の履修については、電気電子工学科（電気工学科）と電子情報工学科第5学年の一部の専門科目において、時間割編成を配慮することにより可能となっている（資料5-1-②-1）。インターンシップによる単位認定については、現在のところ外単位での認定（2単位）となっている（資料5-1-②-2～資料5-1-②-4）。第4学年に受入を行う編入学生に対しては、各学科において必要な補充内容を判断した上で、補充教育が行われている（資料5-1-②-5）。

その他、学生の多様なニーズに応える制度として、海外インターンシップ制度（資料5-1-②-6～資料5-1-②-7）、単位習得認定制度（資料5-1-②-8～資料5-1-②-9）がある。

（分析結果とその根拠理由）

学生、社会からの多様なニーズに対し、相応の対応がなされていると考えられる。特に、科学技術の発展、社会の要請、学生のニーズを絶えず教育課程に反映させている。

(資料5-1-②-4)

「校外実習評価報告書 例 (氏名欄は消去済)」

別紙様式第4号

平成16年度校外実習評価報告書

平成16年度10月4日
福井工業高等専門学校校長 殿
学科 電気工学科
学科主任氏名 **新谷邦弘**

校外実習について、下記のとおり評価しましたので報告します。

No.	学生氏名	実習先	評価	No.	学生氏名	実習先	評価
1		信越化学工業(株)産生工場	合格	21		信越化学工業(株)デニカ工場(ボートセンタ)	合格
2		三菱電機ビルシステムズ	合格	22		大同工業	合格
3		東亜技大	合格	23		東亜技大(株)	合格
4		ソニー株上	合格	24		オリエント電機	合格
5		江守電機	合格	25		NHK福井放送局	合格
6		リコー株上	合格	26		山田技研	合格
7		富士電機システムズ 教育センター	合格	27		ニチコン株上	合格
8		福井テレビジョン放送(株)	合格	28		エッチアム(株)	合格
9		デクニカアライ	合格	29		(株)福井田舎住居所 産生工場	合格
10		東洋電工	合格	30		三菱電機 産生工場	合格
11		企業会社 エムエスエス	合格	31		東亜技大	合格
12		関西電力 県立カレッジ福井センター	合格	32		サンエ電機	合格
13		北陸電力 福井支店技術部	合格	33		エフエム10.5FMエフエムニライ(株)	合格
14		東亜技大	合格	34		日本原子力発電(株)検査センター	合格
15		リコーシステムズビル 人材センター	合格	35		(株)フクダカ 三重工場	合格
16		福井エフエム放送	合格	36		中経電力	合格
17		東洋電工	合格	37		ソニー(株)エスエス(株)東田プラント	合格
18		大東電機(株) 産生工場	合格	38		レンゴー(株)検査センター	合格
19		加パワ	合格	39		東亜技大	合格
20		日本通信社	合格	40			合格

(出典 学生課教務係)

(資料5-1-②-5)

「編入学生に対する補充教育の実施等に関する依頼文」

平成15年 9月 日

各学科主任
英語科主任 殿
数学科主任

校長

平成16年度編入学生に対する補習の実施等について（依頼）

標記のことについて、平成16年度編入学生が入学後、円滑かつ効果的に学習できるよう、事前補習を計画・実施されたくよろしくお願いいたします。

については、該当者を下記のとおり登校させ、説明会を開催しますので、補習の説明・指導方併せてお願いいたします。

記

1. 編入学生氏名	電気工学科	川井洋平
	物質工学科	岩本圭太
	環境都市工学科	宇野達也
	"	八田真澄
	"	清水誠

2. 登校日 平成15年9月19日（金）

3. 日程

13:00~13:30	受付（於 学生課）
13:30~13:50	本校概要・教育課程等について（於 主事室）
13:50~14:20	補習について（英語）（於 主事室）
14:20~14:50	補習について（数学）（於 主事室）
14:50~15:00	各学科図書会議室へ移動
15:00~15:30	補習について（専門科目） （於 各学科図書会議室）

(出典 学生課教務係)

(資料 5-1-②-8)

「単位習得認定制度の学生向け説明文」

英語検定の資格をとろう

今や英語力は学校の授業だけのものというものではありません。多くの企業においても英語力が問われ、昇進や昇給に関係したり、海外派遣の条件として要求されています。

英語検定の中には、実用英語技能検定(実用英検)や工業英語能力検定(工業英検)というものがあり、卒業までにはこのような検定試験に合格しておくことが望まれます。

また、本校における優遇措置として、上記の検定に合格すると本校の英語科の科目として単位が認定されるという特典もあります。

英語検定の合格による単位認定について

英語検定の合格により認定される単位数は次の表のとおりです。ただし、一度単位の修得を認定された後、さらに上位の審査基準に合格した場合は、当該上位単位数と既に認められた単位数との差が修得単位として認定されます。

(1) 実用英検

審査基準	準2級	2級	準1級	1級
認定単位数	1	2	4	6

(注) 準2級に関しては、第1学年から第3学年までの間に合格した場合のみ認定。

(2) 工業英検

審査基準	4級	3級	2級	1級
認定単位数	1	2	4	6

(注) 4級に関しては、第1学年から第3学年までの間に合格した場合のみ認定。

認定された単位の科目名は、それぞれ「実用英語技能検定*級」、「工業英語能力検定*級」として認定され、授業科目の評価は「優」となります。

認定された単位は、実用英検については一般科目の選択科目として、工業英検については専門科目の選択科目として取り扱い、卒業要件の単位数には含められません。

単位の認定を希望する場合は、合格した年度の末日までに、「技能審査単位修得申請書」に「合格を証する書類」(写)を添えて、学生課教務係に提出します。

認定単位の振替について

認定された単位のうち1単位を第5学年の選択必修科目「英語特講」の単位に充当(単位振替)することができ、この科目の履修は免除されます。ただし、工業英検にあつては、審査基準の4級を除きます(平成11年度入学生から適用)。また、単位振替を希望する単位は、第4学年までに認定されなければなりません。

単位振替を希望する場合は、第5学年に進級する時に、「技能審査合格修得認定単位振替申請書」を添えて、学生課教務係に提出します。

(出典 学生課教務係)

(資料5-1-②-9)

「技能審査合格単位習得認定申請書 申請例 (申請書式と認定証)」

教授主任	学生課長	専門員	教務係長	主任	起業者	学務主任	学務担任

技能審査合格単位修得認定申請書

平成 16 年 2 月 5 日

福井工業高等専門学校 校長

学 科 _____ 年 _____ 氏 名 _____

私は、技能審査に下記のとおり合格しましたので、合格書(写)を添えて単位の特修の認定を申請します。

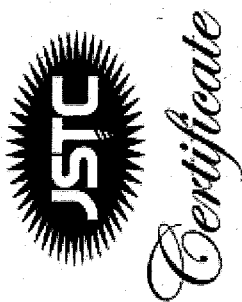
記

技能審査の名称	工業英語能力検定
審査段階(級)	3 級
合格年月日	2003 年 2 月 25 日

(注) ① 技能審査とは、実用英語技能検定及び工業英語能力検定とする。
② 技能審査の合格による認定する修得単位数は、次のとおりとする。

区分	実用英語技能検定				工業英語能力検定			
審査段階(級)	準2級	2 級	準1級	1 級	4 級	3 級	2 級	1 級
単位数	1	2	4	6	1	2	4	6

(備考) 実用英語技能検定の準2級及び工業英語能力検定の4級については、第1学年から3学年までの合格の者に限る。



工業英検3級
認定証

CERTIFICATE No. 02441

貴殿は、社団法人日本工業英検協会が主催した
English Technical Writing の
試験に顕著な成績を修められました
ここに、認定証を授与いたします

This is to certify that the person named above
has successfully passed the
English Technical Writing Test
conducted by the Japan Society for Technical Communication and
authorized by the Japan Ministry of Education, Culture, Sports,
Science and Technology.

FEBRUARY 25, 2003

社団法人日本工業英検協会 会長

大島 英次

Eiji Oshima
President
Japan Society for Technical Communication

工業英検協会 会長
クリー D. ブルマード

LEE D. BOURMARD
Chairman, Testing Committee
Japan Society for Technical Communication

工業英検協会 会長
中村 新一

Shinichi Nakamura
President
ROKCHI NAGAMURA
Vice-Chairman, Testing Committee
Japan Society for Technical Communication

(出典 学生課教務係)

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各学科における教育目的の細目、各教科目の授業目標に応じ、授業形態を変えて行われている。通常の授業の他に、授業の内容によって複数教員・技術職員によるサポート、または少人数のグループに分けた上で指導を行う少人数教育体制等を敷いている（資料5-2-①-1、別添「シラバス」M-19頁）、（資料5-2-①-2、別添「シラバス」E-16頁）、（資料5-2-①-3、別添「シラバス」C-22頁）、（資料5-2-①-4、別添「シラバス」B-12頁など）。また、新たな学習指導法の工夫として、各学科、教科目の特性に合わせたいくつかの取り組みがなされており、（資料5-2-①-5、別添「シラバス」A-01頁）、（資料5-2-①-6、別添「シラバス」G-62頁）、（資料5-2-①-7、別添「シラバス」E1-27頁）にその一例を示す。

また、講義と実験・実習の比率は（資料5-2-①-8-1～資料5-2-①-8-2）のように、低学年から高学年になるにつれて実験・実習が次第に増加し、専門的な知識を実験・実習で履修する。

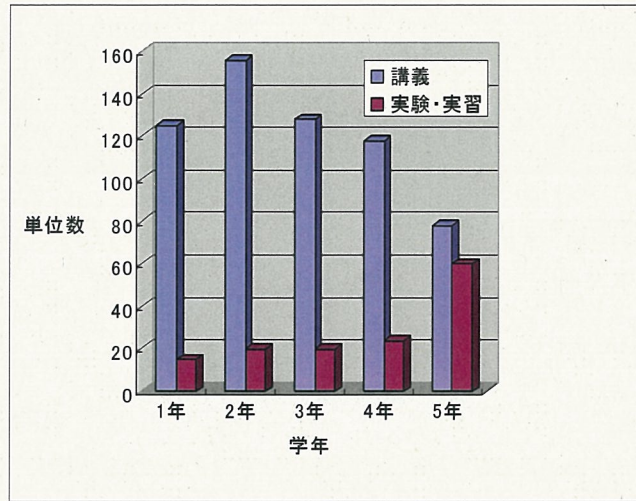
職業上の能力を育成する科目としては、（資料5-2-①-9）のように、低学年から高学年になるにしたがって、授業数を増加させる楔形教育となっている。本校は、基本理念に「創造性豊かな人材の育成」を掲げているが、このため、（資料5-2-①-10）のような創造力を育成する授業を行っている。これらの授業の単位数は（資料5-2-①-11）のように高学年になるにしたがって増加する。また、本校は基本理念に「国際性に対応した教育を行う」こともあげているが、5年間の英語、ドイツ語、中国語の習得単位数は（資料5-2-①-12）のようである。さらに、授業アンケートや公開授業を行い、教材を工夫する際の基礎資料としている（資料5-2-①-13～資料5-2-①-17）。基礎学力不足の学生に対しては、各学期末の「特別指導期間」、及び学年末の「特別学習期間」を設け、成績の向上を図っている（資料5-2-①-18）。

（分析結果とその根拠理由）

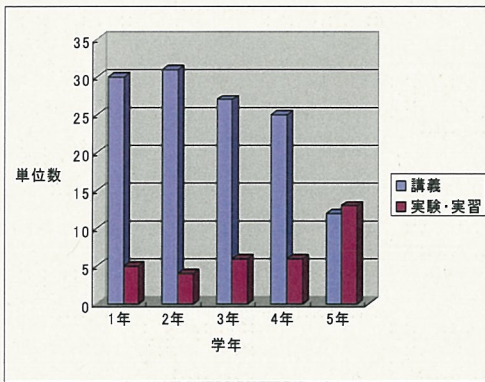
まず、カリキュラムが教育の目的に合わせ体系立てて編成されており、授業科目毎にその目的にふさわしい授業形態が選択されている。

(資料5-2-①-8-1)

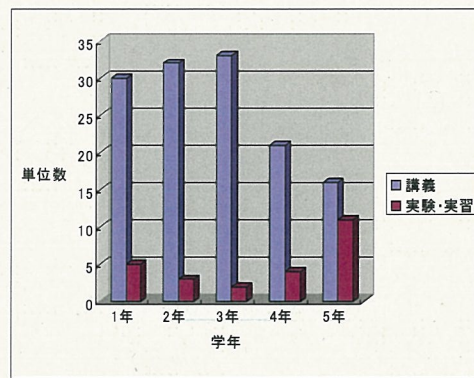
「専門科目の授業形態の割合を示すグラフ」



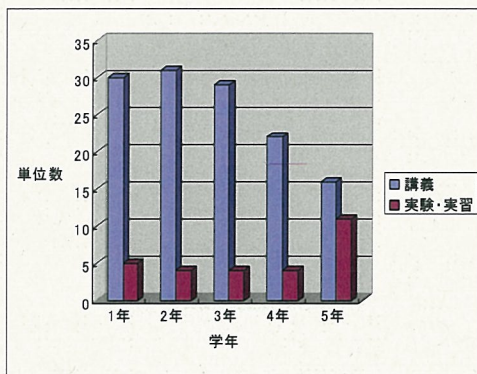
全体



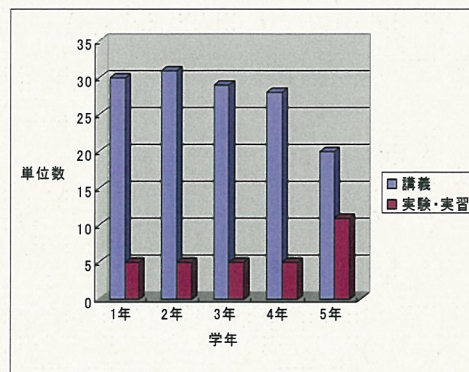
機械工学科



電気電子工学科



電子情報工学科

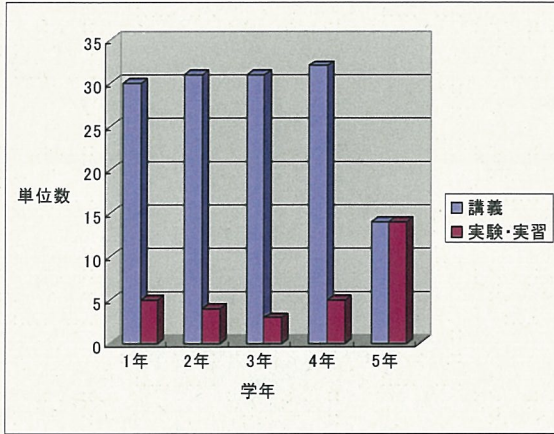


物質工学科

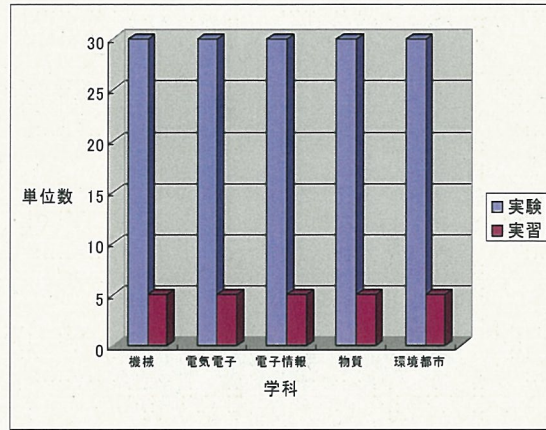
(出典 学生便覧データより)

(資料5-2-①-8-2)

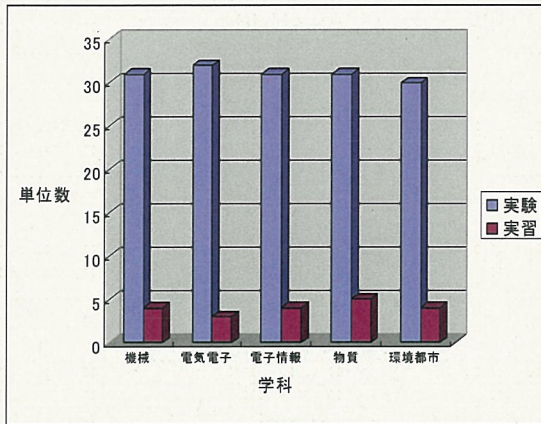
「専門科目の授業形態の割合を示すグラフ」



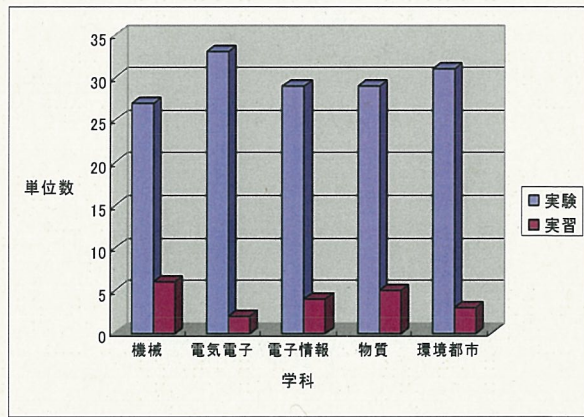
環境都市工学科



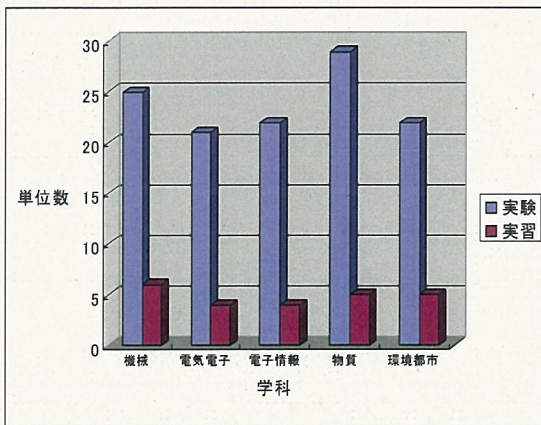
1年生



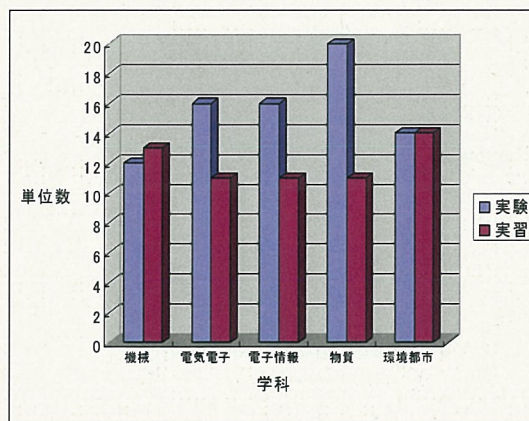
2年生



3年生



4年生

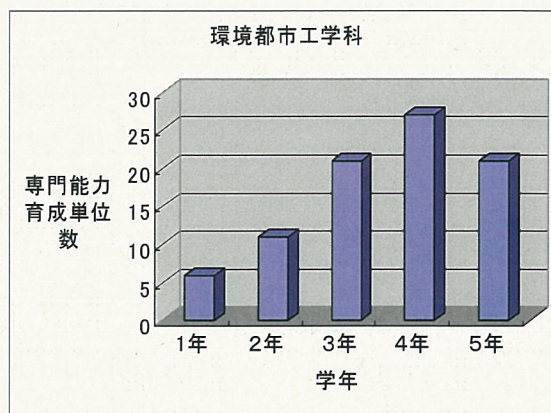
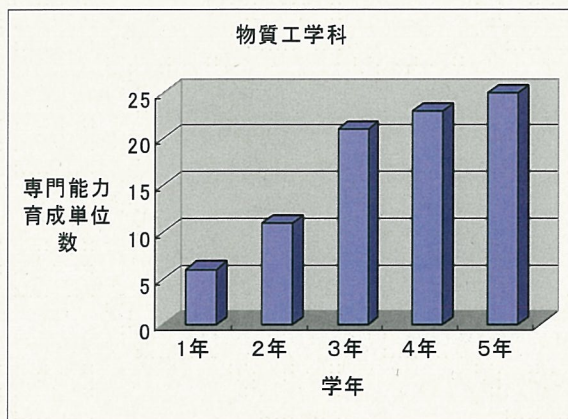
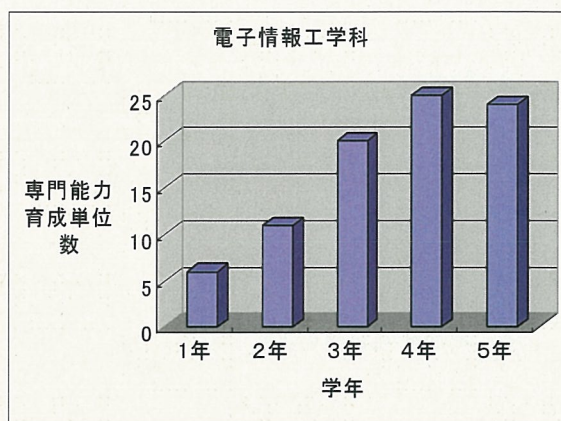
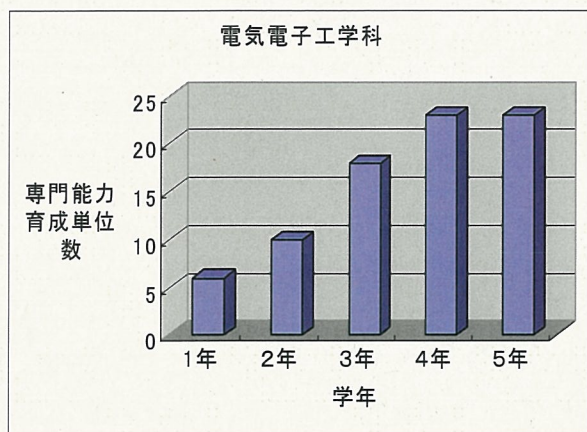
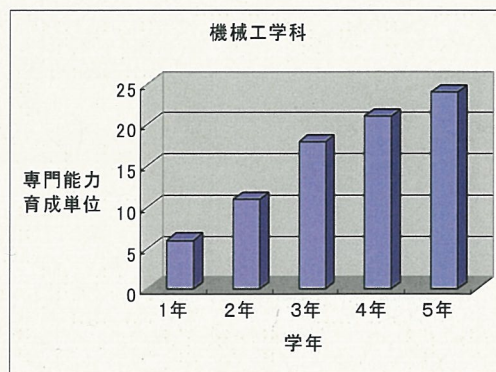
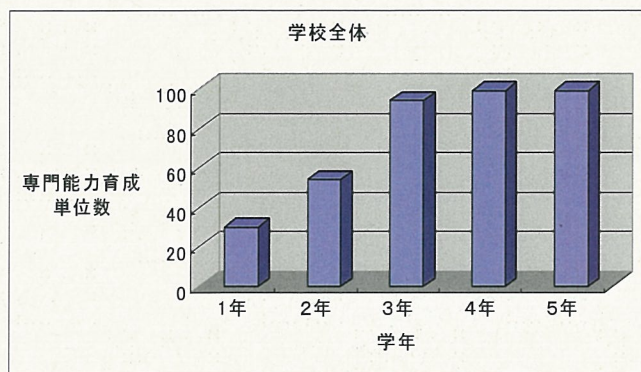


5年制

(出典 学生便覧データより)

(資料5-2-①-9)

「専門的な能力を育成する単位数」



(出典 学生便覧データより)

(資料5-2-①-10)

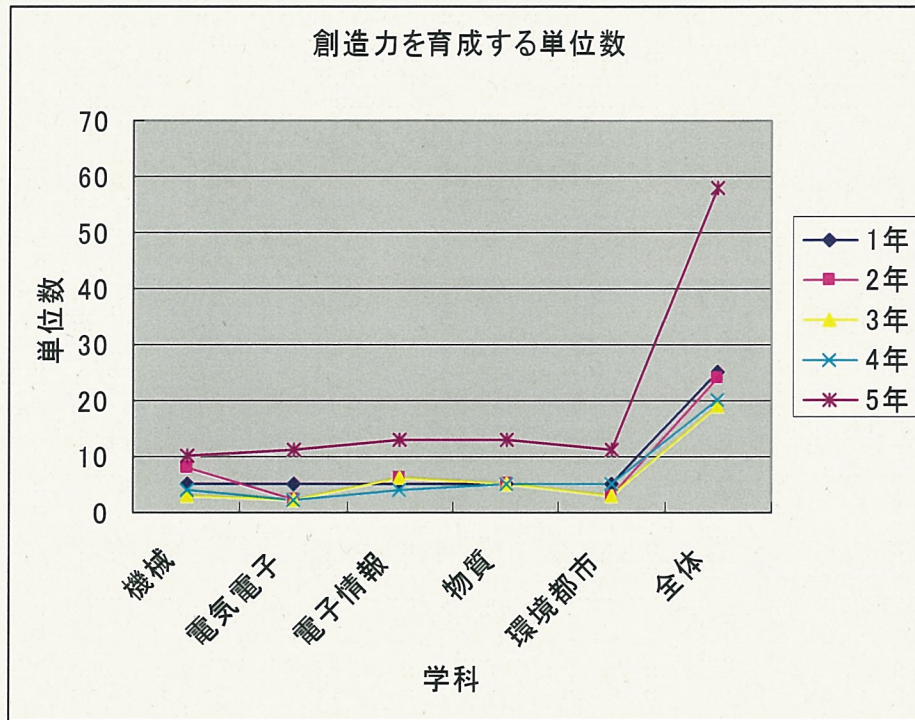
「創造性豊かな人材を育成する単位数」

	1年	2年	3年	4年	5年
機械工学科	ものづくり科学(3) コンピュータ科学入門(2)	機械製図(4) 機械工作実習(4)	創造工学演習(3)	知能機械演習(2), センサ工学(1), 機械設計法(2)	システム工学(1), 卒業研究(9)
電気電子工学科	ものづくり科学(3) コンピュータ科学入門(2)	電気電子工学実験I(2)	電子創造工学(2)	電気電子工学実験III(2)	電気電子工学実験IV(2), 卒業研究(9)
電子情報工学科	ものづくり科学(3) コンピュータ科学入門(2)	電子情報工学実験I(4) プログラミング基礎(2)	電子情報工学実験II(4), プログラミング応用(2)	電子情報工学実験III(4)	電子情報工学実験IV(4), 卒業研究(9)
物質工学科	ものづくり科学(3) コンピュータ科学入門(2)	物質工学実験I(5)	物質工学実験II(5)	物質工学実験III(5)	卒業研究(8), 生物工学実験(3), 材料工学実験(3)
環境都市工学科	ものづくり科学(3) コンピュータ科学入門(2)	都市工学実験実習I, II(3)	都市工学実験実習III(3)	都市工学実験実習IV(3) 都市工学設計製図I(2)	都市工学設計製図II(2) 卒業研究(9)

(出典 シラバスデータより)

(資料 5-2-①-11)

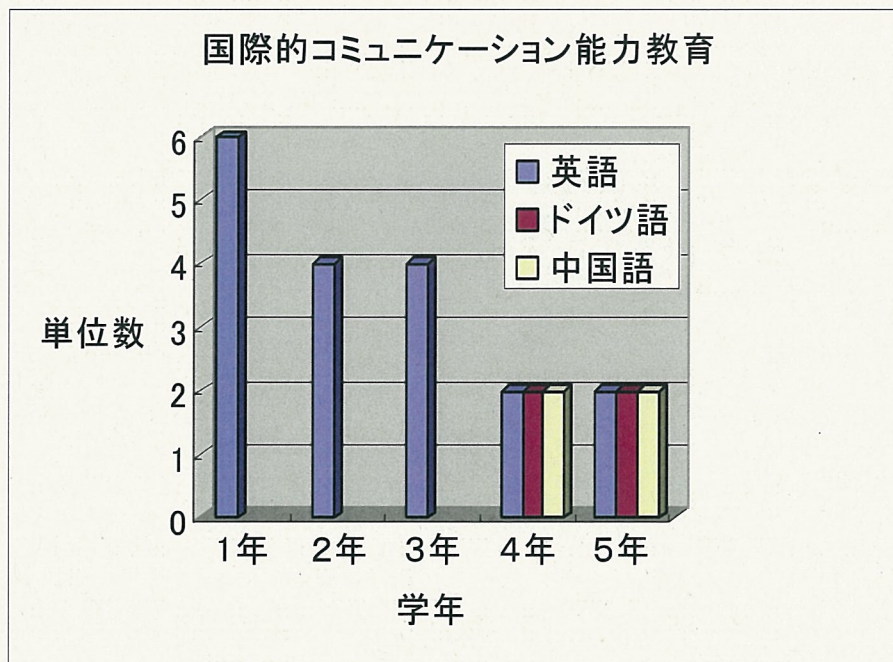
「創造性を育成する単位数」



(出典 学生便覧データより)

(資料 5-2-①-12)

「国際社会に対応する教育を行う単位数」



(出典 学生便覧データより)

(資料5-2-①-13)

「授業アンケート回答用紙 (平成16年3月実施)」

授業に関するアンケート (学年末試験終了後)

講義名: _____
 学籍番号: _____
 専 科: M E I C B 学年: 1 2 3 4 5
 専攻科: P S E S 学年: 1 2

この調査は、学生の皆さんが授業についてどのようになっているかを調査することにより、授業を改善しておくことを目的としたものです。
 以下の設問について、該当するところに○印をつけてください。

強く思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない
------	------	---------	--------

●この授業に対するあなたの取り組みについて

- 私はこの授業の達成 (到達) 目標を理解していた
- 私はこの授業の予習、復習を十分に行った
- 私はこの授業に積極的に取り組んだ

●講義、実験・実習別の評価

講義 (製図を含む) の場合 (実験・実習の場合は記入不要)

- 黒板、OHP などは見やすかった
- 演習問題や課題の量、内容は適切だった
- 教官の説明は良く聞き取れた
- 試験の内容、レベル (難易度) は適切である
- 実験・実習の場合 (講義の場合は記入不要)
- 実験の内容、レベル (難易度) は適切である
- 指導書は役に立った
- 安全性は確保されていた

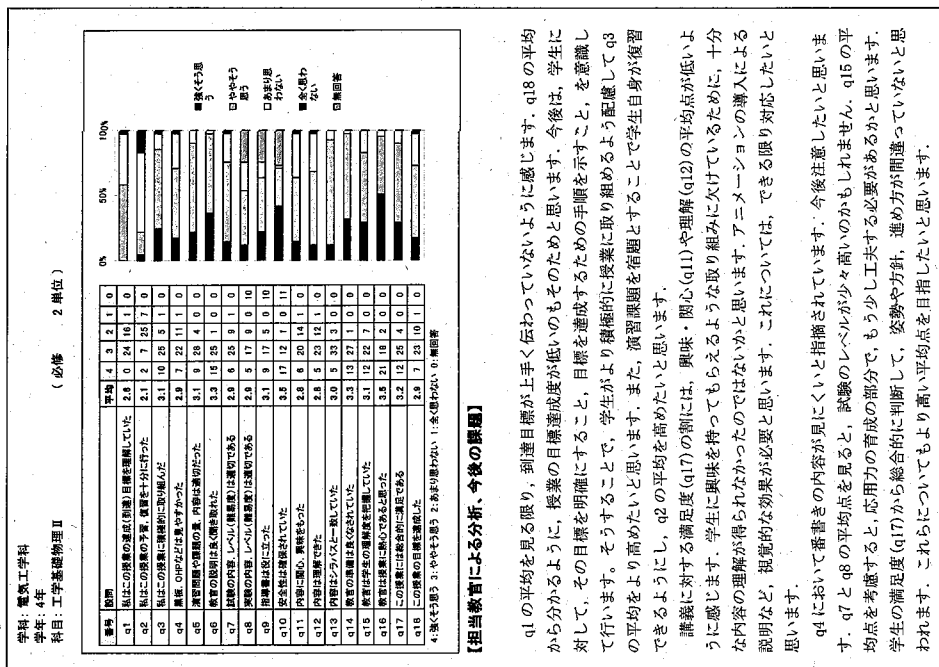
●講義、実験・実習共通の評価

- 内容に關心、興味をもった
- 内容は理解できた
- 内容はシラバスと一致していた
- 教官の準備は良くなされていた
- 教官は学生の理解度を把握していた
- 教官は授業に熱心であると思った
- この授業には総合的に満足である
- この授業の目標を達成した

(出典 教育改善委員会)

(資料5-2-①-14)

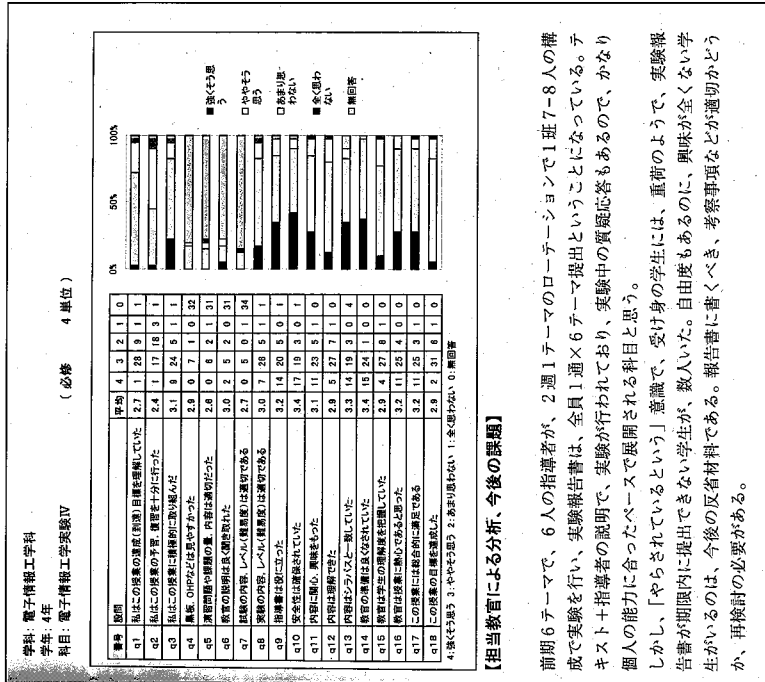
「授業アンケート結果・分析例 (平成16年度)」



(出典 学生・教員授業達成度調査報告書 平成16年3月)

(資料5-2-①-15)

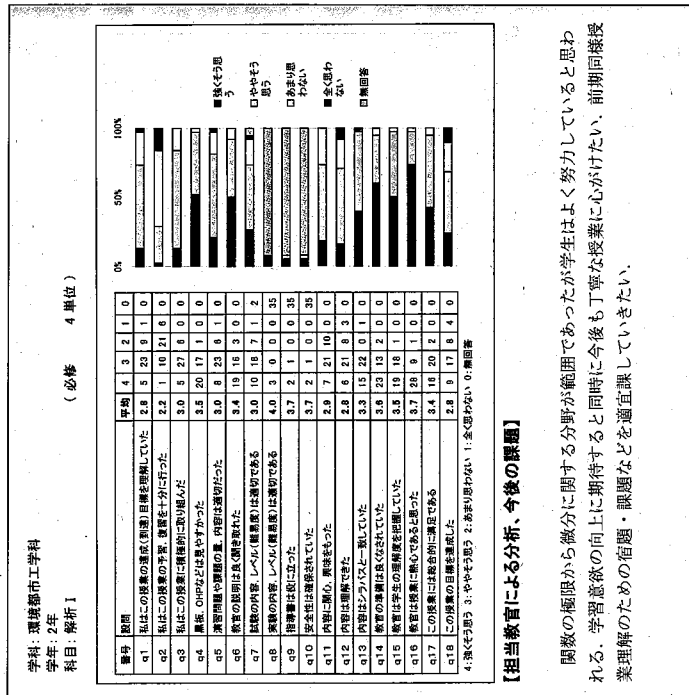
「授業アンケート結果・分析例(実験・実習系科目)」



(出典 学生・教員授業達成度調査報告書 平成16年3月)

(資料5-2-①-16)

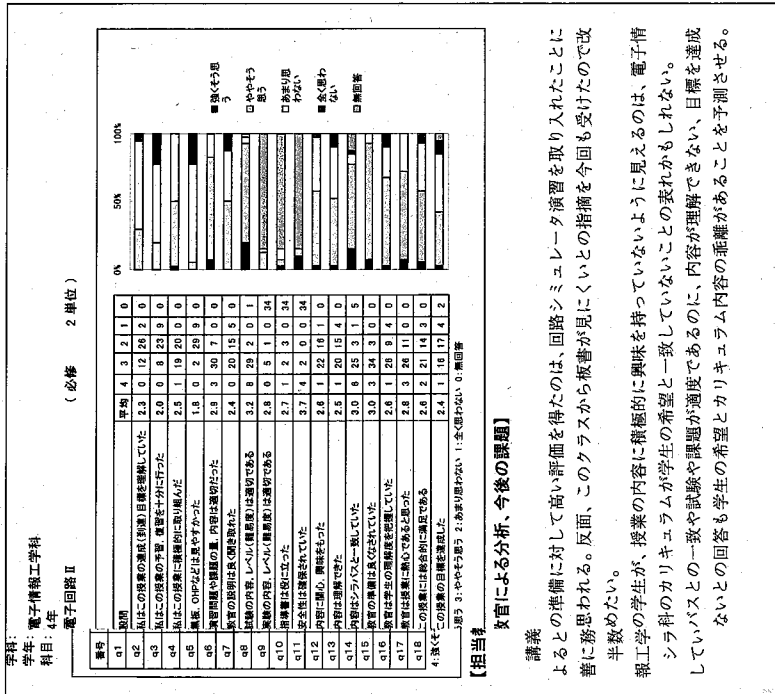
「授業アンケート結果・分析例(解析I)」



(出典 学生・教員授業達成度調査報告書 平成16年3月)

(資料5-2-①-17)

「授業アンケート結果・分析例(電子回路Ⅱ)」



【担当者による分析、今後の課題】

講義の準備に対して高い評価を得たのは、回路シミュレータ演習を取り入れたことによると思われる。反面、このクラスから概書が見にくいとの指摘を今回も受けたので改善半教めたい。

電子情報工学科の学生が、授業の内容に積極的に興味を持っていないように見えるのは、電子情報工学科のカリキュラムが学生の希望と一致していないことの影響かと思われる。授業の進め方や課題が適度であるのに、内容が理解できない、目標を達成していないとの回答も学生の希望とカリキュラム内容の乖離があることを予測させる。

(出典 学生・教員授業達成度調査報告書 平成16年3月)

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

平成7年度よりシラバスを作成し、活用している。またそれ以降、記載項目に関する改訂を重ね、現在に至っている(資料5-2-②-1)、(資料5-2-②-2)。また、ウェブページにシラバスを公開している(資料5-2-②-3)。本校シラバスの特徴は、本校学習・教育目標とその授業との関係が定量的に説明つきで付いていることである。また、(資料5-2-②-4、別添「シラバス」G-58頁)のように、自習が必要な場合はその説明を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

シラバスに学習・教育目標を記入する欄を設けている。記載項目についても精査・改訂を重ね、シラバスがより有効に活用されるよう努めている。

(資料 5-2-②-3)

「ウェブによるシラバスの公開」

Syllabus **授業内容(シラバス)**

福井工業高等専門学校シラバス

—授業の指針と概要—

- ▶ 平成16年度
- ▶ 平成15年度

シラバスとは…
講義の内容、達成課題、使用テキスト、参考書、テスト方法などについて記した計画書のことです。

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校 〒916-8507 福井県鯖江市下町町 TEL:0778-62-1111(代表) FAX:0778-62-2597
Copyright (c) FUKUI NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY. All rights reserved.

(出典 ウェブページ)

観点 5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

1年生で「ものづくり科学」3単位を全員が受講する。この授業では、学生が自分で研究を計画、遂行、プレゼンテーションを行う（資料5-2-③-1，別添「シラバス」A-01頁）。また，2年次以降でもPBL授業を行っている（その例として（資料5-2-③-2，別添「シラバス」M-14頁），（資料5-2-③-3，別添「シラバス」M-29頁），（資料5-2-③-4，別添「シラバス」Ei-22頁），（資料5-2-③-5）等が挙げられる）。

また，本科4年次の学生を対象にインターンシップ（夏季校外実習）が行われる。9月には学科ごとに「校外実習報告会」が開催され，実習に参加した学生全員の報告を評価して，外単位で単位を与えている（前出資料5-1-②-4～資料5-1-②-6）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の創造性を育む教育方法（PBLなど）や，インターンシップの活用によって，学生の自発的な学習活動を支援し，教育効果を上げる体制が整備されている。

（資料5-2-③-5）

「創造性を育む教育方法の工夫例（ライントレース・マシンの製作）」

<p>福井工業高等専門学校 電気工学科 電気電子情報工学実験Ⅲ</p> <p>ライントレース・マシンの製作</p> <p>1. 実験の目的 本実験の目的は，光センサを用いた電子回路を利用することによって，ラインに沿って移動することの出来るマシンを製作することです。この実験において，ライントレース・マシンの製作において生じる様々な問題点や改良点を今まで講義や実験で学習したことを利用や自分達で調べた知識の適用によって克服して下さい。</p> <p>4. ライントレース・マシンとは？ ライントレース・マシンは，白い線に黒線または黒い線に白い線に沿って進む機械です[1][2]。工場や倉庫の荷物運搬などに利用されています。また，最近では，大學生のロボコン[3]やロボサッカーク[4]などでも同様の技術がよく用いられています。 ライントレースの原理は，光を床に照射し，床から反射する光を検知することによって，黒の線上にマシンが存在するかどうかの判断を行います。この判断から線に沿ってマシンが進むようにモータの制御を行います。センサが一つの場台にライントレース・マシンの動きとセンサの判断を以下の図に示します。</p>	<p>図1、ライントレース・マシンの動作原理の概略図</p> <p>初期状態 (a) で左タイヤのみが動くことによって時計回りにマシンが動く。状態 (b) に示されるように黒いラインから外れた瞬間に稼働するモータが切り換わり，右側のモータが動く。状態 (c) に示されるように，黒いライン上にセンサが反応すると稼働するモータが切り換わります。このような動きを繰り返しながら，マシンはジグザグに走行しながらラインに沿って進みます。</p> <p>5. 実験 本実験では，まず上述のライントレース・マシンの製作を行います。その後，そのマシンをベースにして各班で改良を行い，各マシンの発表会と競技会を行います。その後には，自分たちが製作したマシンの製作方法，改良点と問題点についてレポートを提出します。 ライントレース・マシンの製作には，マシンの土台の作製とユニバーサル基板上への回路の作製があります。</p>
---	---

（出典 電気電子情報工学実験Ⅲ 指導書）

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

認定に関する規定が策定され、それが明記されている学生便覧を、入学時に全学生に配布している(資料5-3-①-1, 別添「学生便覧」4頁), (資料5-3-①-2, 別添「学生便覧」6頁), (資料5-3-①-3, 別添「学生便覧」100頁)。これを、多様な機会を通じて学生に周知している。さらに、「教務に関する申合事項集」(資料5-3-①-4)に記載し、必要に応じて学生に説明を行っている。成績評価は、シラバスに記載している[評価方法]に沿って行われている(資料5-3-①-5, 別添「シラバス」各教科[評価方法]欄)。年度末(3月)に開催される教員会議において審議の上、進級・卒業の認定が行われる(資料5-3-①-6~資料5-3-①-7)。

(分析結果とその根拠理由)

進級・卒業規定が策定されており、きめ細かく指導・周知を行うことのできる体制が整っている。成績評価については、シラバスに評価基準が明記されており成績評価、認定が適切に実施されている。

(資料5-3-①-4)

「進級および卒業の認定に関する事項」

第7 進級及び卒業の認定に関する事項

1 福井工業高等専門学校成績審査・成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則(昭和41年規則第4号。この事項において「規則」という。)第10条及び第12条第2項の規定の解釈について
 第10条 成績評定が不可の科目及び欠履時数が年間授業総時数(※1)の3分の1を超える科目は、不合格とする。
 2 特別活動の欠履時数が年間総時数(※2)の3分の1を超える場合は、不合格とする。

(1) ※1の解釈
 「年間授業総時数」とは、各科目の実際に実施した授業時数ではなく、30週(前期15週、後期15週)授業を行ったものとして算出した時数とする。

(2) ※2の解釈
 上記(1)の解釈を適用する。
 (平成8.9.19)

《参考》
 第12条 略
 2 次の各号の一に該当する者は、原則として進級及び卒業を認めない。
 (1) 福井工業高等専門学校規則第1及び第2並びに福井工業高等専門学校規則の一部を改正する学則附則第2項の取扱規則第2条に規定する学年別履修単位数に満たない者
 (2) 福井工業高等専門学校規則第3に規定する特別活動が不合格である者

2 規則の運用について
 進級に関し、規則第12条第2項の規定にかかわらず次のとおり取扱うものとする。
 (1) 進級の認定基準
 ア 規則第12条第2項第1号に定める学年別履修単位数に満たない者のうち
 (イ) 不合格科目が3科目以上ある者は、原級留置とする。
 (ロ) 不合格科目が2科目以内の者で、それらの点数が全て50点以上の場合は普通の上級進級とする。
 (ハ) 不合格科目が2科目以内の者で、その中に49点以下の科目がある者については、普通の上級進級又は、原級留置のいずれかとする。
 《運用説明》
 (1)ア(イ)に該当する場合は、教員会議で審議をして原級留置か原級留置かを決定する。教員会議に先立って教務委員会において既案が作成される。49点以下の成績を提出した担当教官は教務委員会において学生への成績評価と指導状況等の説明が求められる。

(出典 教務に関する申合事項集)

(資料5-3-①-7)

「卒業認定資料(学籍番号, No., 氏名欄は消去済み)」

学籍番号 NO		氏名	第1学年～第4学年		第5学年		修得単位 合計	認定
			必須科目 修得単位	選択科目 修得単位	必須科目 修得単位	選択科目 修得単位		
			137		24	9	170	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			35		24	8	67	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	7	168	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	10	171	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	8	169	
			137		24	10	171	
			137		24	8	169	
			137		24	9	170	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
			35		24	7	66	
			137		24	8	169	
			137		24	7	168	
			137		24	7	168	
			137		24	10	171	
			137		24	10	171	

注：氏名欄の*印は編入学生を、◇印は外国人留学生を示す。

(出典 学生課教務係)

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

1年～3年までは、週1回(50分)の特別活動の時間があり、学生と教員の膝を交えての懇談やアドバイス、あるいは文化講演やスポーツなどを実施している(資料5-4-①-1)。また、各学年での行事(資料5-4-①-2)として、1年生の1泊2日のオリエンテーション(資料5-4-①-3～資料5-4-①-5)、1～4年生の遠足(資料5-4-①-6～資料5-4-①-7)、2年生の校外研修(資料5-4-①-8)、3年生の工場見学旅行(資料5-4-①-9～資料5-4-①-11)等が行われ、人間としての素養の涵養がなされるように配慮されている。

(分析結果とその根拠理由)

学年毎に、適切な時期に適切な行事をバランスよく配置し、学生が年間を通じて学校生活を快適に、しかし緊張感を持って過ごせるように考慮されている。各種のFD活動(資料5-4-①-12～資料5-4-①-143)により教員の資質向上を図り、特別活動のより有効な活用を図っている。

(資料5-4-①-1)

「特別活動計画表(平成16年度後期)」

月日	学級	1M	1E	1I	1C	1B	2M	2E	2I	2C	2B	2M	2E	2I	2C	2B	備考
10月6日	高等祭準備	役員・係選出	保護者懇談会について	高等祭について	後期の心構え	後期役員高等祭	後期役員・係決め	高等祭の話	高等祭準備	高等祭の分組	役員選出	先輩課程・役員選出	後期役員決定	役員選出	見学旅行について		
10月13日																	
10月20日	高等祭まとめ	(スポーツ)	特別講演会	連絡・掃除	座替え・etc	後期に向けて	国際交流会	ビデオ鑑賞(1)	前期成績について(個人指導)	前期成績について(個人指導)	JABEEについて	見学旅行準備	見学旅行について(1)	自主研修旅行予定決め	見学旅行について(2)	神戸市に関する学習	2E:大講義室
10月27日			特別講演(性教育):大講義室			五年生の話	(スポーツ)	ビデオ鑑賞(2)									1年生特別講演会:大講義室
11月3日																	
11月5日																	
11月10日	ビデオ鑑賞	よのなか学習1	(スポーツ)	学科主任の話	個人面談												見学旅行について
11月17日	担任の話	スポーツ	個人面談	(スポーツ)	個人面談	専攻科生の話	校外研修を終えて	室内ゲーム	校内美化活動	校外研修の作文							特別講演(交通講話):視聴覚ホール
11月24日	特許に関する講演会	学科講演会	個人面談	専攻科主任の話	(スポーツ)	読書と発表⑤	うで相撲大会	図書館利用	留学生との交流会	自分の将来	専攻科長の話	M科と合同講演会	見学旅行の感想文	見学旅行の反省	賞罰をしよ		3E:大講義室
12月3日	担任の話	試験の注意	試験について	中間テストについて	試験準備	中間試験に向けて	中間試験に向けて	中間試験に向けて	中間試験に向けて	中間試験準備	テストの対策	連絡アンケート	試験対策、試験前の注意	試験前の注意	中間試験に向けて		
12月8日																	
12月15日	座替え	冬休みの注意	冬休みについて	冬休みについて	冬休みについて	試験の反省、etc											
12月12日	担任の話	新年を迎えて	今年の目標	連絡・掃除	冬休みを振り返って	ビデオ鑑賞	指相撲大会	新年の抱負を言い合う会	連絡について	今年の抱負	先輩課程	(スポーツ)	個人面談	コース分けについて	新年を迎えての決意		2M:合併教室
1月19日	かるた大会(2Mと合同)	よのなか学習2	担任の話	読書	担任の話etc	1Mと合同新年会	ビデオ鑑賞	ビデオ鑑賞(3)	文庫作り	資格試験について	連絡について	担任の話	個人面談	専攻科長の話	専攻科長の話		1M, 2M:心利館
1月26日	担任の話	運動見聞ゲーム	担任の話	ビデオ鑑賞	座替え・etc	読書と発表②	ビデオ鑑賞	ビデオ鑑賞(4)	文庫作り	個人面談	自動車通学について	専攻科長の話	専攻科説明会	(スポーツ)	連絡の話		3E, 3I:視聴覚ホール
2月2日	ビデオ鑑賞	よのなか学習3	担任の話	ビデオ鑑賞	生活調査	読書と発表③	講演会	節分まがいの行事	文庫作り	個人面談2	担任の話	ビデオ鑑賞	OBの話	連絡について	(スポーツ)		1M:合併教室
2月9日	担任の話	試験の注意	試験について	期末テストについて	試験準備	期末試験に向けて	期末試験に向けて	期末試験に向けて	(スポーツ)	期末試験準備	(スポーツ)	試験対策	試験対策、試験前の注意	試験前の注意	期末試験に向けて		3E:視聴覚ホール
2月16日																	
2月23日																	
3月2日	学年のまとめ	一年間の反省	二年生へ	一年のまとめ	試験の反省	二年を終えて	一年間を振り返って	一年間を振り返って	(スポーツ)	最後の担任の話	新年へ向けて	四年生へ向けて	連絡指導	春休みに向けて	1年を振り返って		
3月9日																	

1. 合併教室、大講義室を使用する際は、鍵(合併教室入り口、大講義室教室下)を連絡指導室まで取りに来てください。
2. スポーツ用具(バドミントン、ソフトバレー、バスケットボール、ソフトボール、サッカー、バレーボール、ハンドボール)は教務係にありますので申し出てください。

(出典 学生課教務係)

(資料5-4-①-2)

「年間行事予定表(平成16年度)」

13	火	
14	水	新入生オリエンテーション合宿研修(国立若狭湾少年自然の家)
15	木	新入生オリエンテーション合宿研修(国立若狭湾少年自然の家)
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	午前休講 新入生歓迎会 クラブ紹介
21	水	
22	木	学生総会(14:40~)
23	金	
24	土	開校記念日
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	みどりの日
30	金	遠足(1~4年) 交流会(5年,専攻科)

7	日	ロボコン2004東海北陸地区大会・鈴鹿
8	月	3年見学旅行
9	火	3年見学旅行
10	水	3年見学旅行 2年校外研修
11	木	3年見学旅行
12	金	3年見学旅行
13	土	
14	日	

(出典 青武台だより(学校便り) No.165)

(資料5-4-①-3)

「新入生オリエンテーション合宿研修のしおり」

平成15年度

新入生オリエンテーション合宿研修

期日 平成15年4月10日(木)~11日(金)

場所 国立若狭湾少年自然の家

福井工業高等専門学校

(出典 学生課学生係)

(資料5-4-①-4)

「新入生オリエンテーション合宿研修要項 (しおりより抜粋)」

平成15年度 新入生オリエンテーション合宿研修	
1. 目的	新入生に高専における学習と生活を紹介し、新しい環境への適応をはかるとともに、緑と海に囲まれた自然の中で集団生活を体験し、学生間相互、教職員との親睦を深めることを目的とする。
2. 期日	平成15年4月10日(木)・4月11日(金) 1泊2日
3. 場所	国立若狭湾少年自然の家 福井県小浜市田島区大浜 (Tel 0770-54-3100)
4. 対象	学生 1年生 200名 内訳 機械工学科 40名(内女子0名) 電気工学科 40名(内女子1名) 電子情報工学科 40名(内女子11名) 物質工学科 40名(内女子14名) 環境都市工学科 41名(内女子8名)
5. 引率者	教職員 校長、教務主事、学生主事、学生相談室長、電気工学科主任、 電子情報工学科主任、物質工学科主任、環境都市工学科主任、 環境都市工学科教官、学生主事補(6名) 学級担任(5名)、 学生課長、学生係長、学生係員、看護師 計24名
6. 日程	別紙1のとおり
7. 輸送	借り上げバス(5台) 官用車(2台)
8. 係分担	(1) 総務係、記録係、体育係 ……各1名 (2) 室長、食事係、清掃係 ……各2名 (3) 生活係 ……各2名 (4) つどい係 ……5学科で6名
9. 服装	制服、運動靴
10. 携行品	詳細は別紙2のとおり (1) 学生便覧、シラバス、筆記用具(ノート、鉛筆、消しゴム等) (2) 運動靴(内ばき用) (3) 体操服 (4) 着替え用下着類、寝間着等 (5) 洗面用具(タオル・石けん等) (6) 「健康保険証」の写 (7) 水筒(500mlペットボトルでも可)
11. 名札	期間中各自の胸に名札を付ける 機械工学科(M):緑、電気工学科(E):青、電子情報工学科(EI):緑、 物質工学科(C):白、環境都市工学科(B):黄、教職員:白
12. 部屋割	別紙3のとおり
13. 経費	学生負担額 M,EI科 1,400円 E,C,B科 1,700円 (後日、学級担任を通じて集金)

(出典 学生課学生係)

(資料5-4-①-5)

「新入生オリエンテーション合宿研修日程表 (「しおり」より抜粋)」

別紙1		平成15年度新入生オリエンテーション合宿研修日程表		[4月10日(木)]	
時刻	事項	内容	備考	備	考
8:15	学校玄関前集合 出欠調査	学科別に乗車 バス(5台)	学級担任		
8:30	本校出発				
	バス乗車中	担任紹介、合宿の説明、担当係 部屋割り、バッド・メイク 説明 他			
10:45	自然の家到着				
11:00	始まりの式(玄關前)	1. 校長挨拶 2. 自然の家入所説明 3. 学生代表挨拶	進行: 戸島教官 自然の家職員 EI科1名		
11:30	各宿舎へ移動	荷物の整理、シューズ・ゴミ袋受取、 ベッドメイキング	指導: 岡田・荒川・高久教官 生活係(リネン室)		
12:30	昼食	部屋単位	指導: 高久・杉森教官 食事係		
13:10	写真撮影(学科別)		進行: 戸島教官		
14:00	校長の講話 教務主事の話 学生相談室長の話 (フレイホール)				
14:50	各学科の学習紹介 (M科: 研修室1) (E科: 利用デラ・VJ室) (EI科: 研修室2) (C科: 研修室3) (B科: プレイホール) ホームルーム	学科別(各学科で構成) (学生便覧、シラバス特参)	学生主事 電気工学科主任 電子情報工学科主任 物質工学科主任 環境都市工学科主任 学生主事補 学級担任		
16:00	夕食	学科別(各担任で構成) 授業、学生生活など	食事係		
17:15	入浴(補習者)	部屋単位			
19:30	ホームルーム 午後の続き	学科別(各担任で構成) レクレーションなど	学級担任 学生主事補 指導: 荒川教官		
20:30	校歌練習 (フレイホール)				
21:30	就寝準備	人員点呼、健康確認等	学級担任		
22:00	消灯・就寝				

(出典、学生課学生係)

(資料5-4-①-6)

「遠足・交流会の実施通知」

平成16年 4月 26日

クラス担任・同補佐 各位

教 務 主 事

平成16年度遠足・交流会の実施について (通知)

このことについて、下記のとおり実施しますので遅滞のないようお願いします。
また、学生への周知につきましてもよろしくお願いします。

記

1. 実施期日 4月30日(金) (雨天決行)
計画とおりの実施が困難と思われる場合は、行程を適宜変更して事故のないように充分配慮いただきますようお願いいたします。
2. 行程等 クラス別行程、引率及び付添教員は、別紙「平成16年度遠足・交流会行程表」のとおり。
3. 出欠について 出席簿へ欠席者の記入をしてください。
4. その他
 - ① 台流場所・時間等について、各クラス充分打ち合わせてください。
 - ② 緊急態を必要とする場合は、4月28日(水)にお渡ししますので、教務係に、前もってお知らせください。
 - ③ 解散後直ちに学生課教務係 (Tel. 0778-62-1118) へ連絡してください。

(出典 学生課学生係)

(資料5-4-①-7)

「遠足・交流会行程表 (平成16年度)」

平成16年度遠足・交流会行程表

クラス	行き先	行程	引率	教員	集合場所	集合時間
1M	金沢市中央公園	JR 福井駅→JR 金沢駅→石川県立歴史博物館 10:30/11:50 金沢市中央公園 → JR 福井駅 12:00/14:10 15:22 16:40 (乗換) JR 福井駅→福井県立歴史博物館 10:00 11:00/13:00 福井県立歴史博物館→JR 福井駅 (乗換) 13:20/14:30 15:30	付 村 吉 秀 坂 口 健 一	JR 福井駅 西口乗換前 8:15		
1E	福井県立美術館 福井県立歴史博物館	JR 福井駅→JR 福井駅 13:20/14:30 15:30	柳 原 祐 虎	JR 福井駅 10:00		
1E1	一乗滝 一乗滝	JR 福井駅→JR 福井駅 9:02 9:20 10:00 道内各地(後元式乗換)→乗滝→御倉氏 遺跡資料館→JR 福井駅 15:41 15:58 (乗換)	我 野 繁 香 高 久 川 有 男 前 田 隆 井	JR 福井駅 8:45		
1C	福井県立美術館 福井県立歴史博物館	JR 福井駅→JR 福井駅 10:00 11:00/13:00 福井県立美術館→JR 福井駅 (乗換) 13:20/14:30 15:30	井之上 和 代 松 井 修 子 平 井 憲 子	JR 福井駅 10:00		
1B	福井県立歴史博物館 プランピア	福井県立歴史博物館→福井県立歴史博物館(10:00集合) →福井県立歴史博物館(14:00出発) (15:30着・乗換) JR 福井駅→JR 福井駅 9:13 9:30 10:30/14:30 →金沢駅前→香林坊→JR 福井駅 15:00 集合 15:22 JR 福井駅→JR 福井駅 17:01	王 生 正 博 田 安 正 茂	福井県立歴史博物館 10:00		
2M	金沢	JR 福井駅→JR 福井駅 9:13 9:30 10:30/14:30 →金沢駅前→香林坊→JR 福井駅 15:00 集合 15:22 JR 福井駅→JR 福井駅 17:01	長 水 善 寛 芳 廣 正 和	JR 福井駅 8:00		
2E	一乗滝	JR 福井駅→JR 福井駅 9:02 9:20 10:30/14:30 →JR 福井駅→JR 福井駅 15:41 15:58	瀧 川 直 及 米 田 知 晃	JR 福井駅 8:40		
2E1	金沢市中央公園	JR 福井駅→JR 福井駅→JR 金沢駅→金沢市中央公園 10:41 11:30/14:30 (乗換) 金沢城北公園 → JR 金沢駅→ JR 福井駅 (乗換) 15:06	森 村 保 之 真	JR 福井駅 8:50		
2C	一乗滝	JR 福井駅→JR 福井駅 9:02 9:20 10:30/14:30 →JR 福井駅→JR 福井駅 15:41 15:58	前 田 安 信 松 井 崇 裕 山 本 希 之	JR 福井駅 8:40		
2B	南桑町小坂ノ下	JR 福井駅→レインボウパーク南桑→JR 南桑駅 10:43 11:00/14:00 14:26 解散 (小川ノ下+下ノ下+上ノ下)	北 浦 裕 二 生 謙 辻 西 野 田 雅 樹	JR 南桑駅 10:43		

JR 福井 → 乳鉄 *** バス → 自転車 ☆☆☆ 徒歩
注) 行程中出発地は、新江江市です。

(出典 学生課教務係)

(資料5-4-①-8)

「校外研修に関する記事」

(14)

青武台だより

校 外 研 修

校外研修を終えて

機械工学科2年 青 山 英 雄

今回の工場見学では、工場に入った時、あらゆる機械のスケールの大きさにおどろきました。切削機械、プレス機械の部品の一つ一つ、他にも運搬用クレーンなどすべてに圧倒されていました。

また、工場内の所々にはホワイトボードがあり作業を行うための注意点や、事故を防ぐための対処策が書いてあった。やはり、工場内では多くの機械を扱い危険なので、作業員の身の安全を確保することがすごく大切になるのだと実感しました。他にも、工場の中心部には事故未発生連続日数のボードもあって、本当に安全面にはすごく力を入れていることが分かった。だから、エイチアンドエフの様な機械関係の工場では、作業員の安全の事を重要視しなければならないと思った。また、一年から行っている学校の機械工作実習の時、先生からの注意は自分の身を守るため、一番重要だとあらためて感じました。

このように工場見学して、より一層機械について興味がわきました。だから、これからも一生懸命に勉強がんばりたいです。

校外研修について

電気工学科2年 玉 村 翔

私たち二年電気工学科は、ニチコンへ校外研修へ行きました。まず、会議室のようなところに案内され、椅子にすわりました。左手の方には、社員が5、6人立っていました。胸につけてある名札をまじまじと見てみると……。な、なんと、副工場長と書いてあるではないか！ 私は、“高専生は期待されている？”と、自分勝手ながら考えてしまった。また、背すじがスツと伸びた。

いろいろな話を聞いたが、一番印象に残っているのが“ECDQS”の方針だ。

- E：環境によいもの
- C：コストを少なくする
- D：納期を守る
- Q：品質のよいもの
- S：サービス

この方針は、どの会社に行っても通じることであると思う。だから“ECDQS”の方針を、いつも頭の中にたたき込んでおこうと思う。そして、今後の学校生活、また社会に出ても忘れずに活用していきたい。

平成15年度 2 学年校外研修先一覧

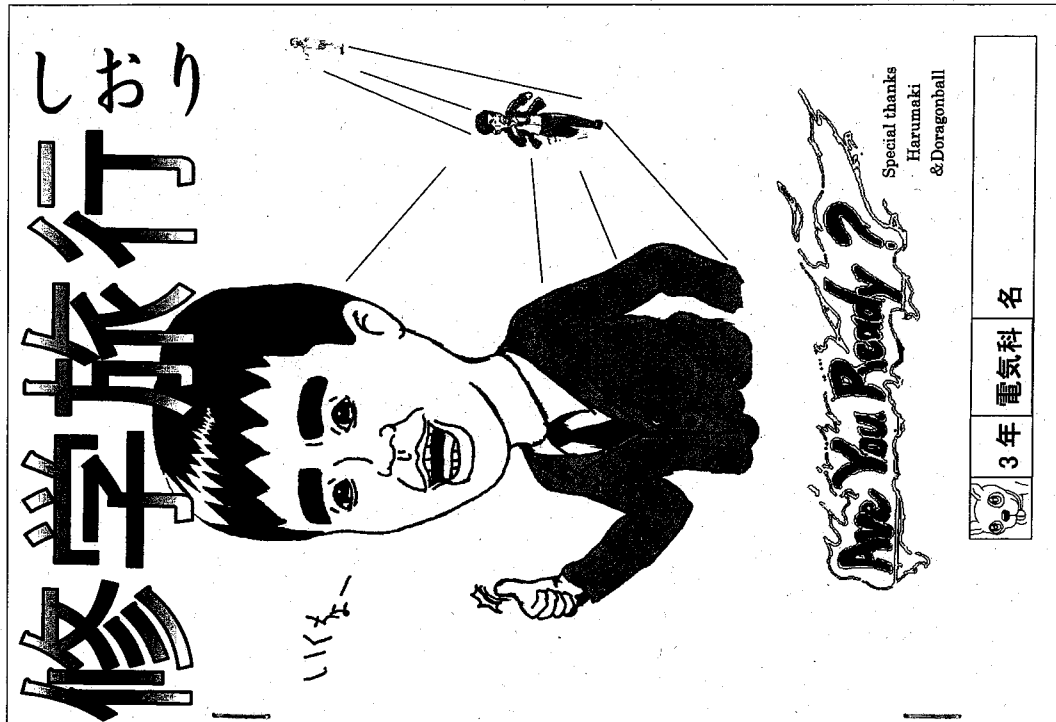
学 科	日 時	研 修 先	引 率 者
機 械 工 学 科 2 年	11月12日(水)	株式会社エイチアンドエフ 福井県立歴史博物館	原 口 治 藤 田 克 志
電 気 工 学 科 2 年	11月13日(木)	ニチコン株式会社 大野工場 白山平泉寺神社周辺の散策	岡 本 拓 夫 荒 川 正 和
電子情報工学科 2年	11月14日(金)	NHK福井放送局 福井県立恐竜博物館	中 谷 実 伸 野 村 保 之
物 質 工 学 科 2 年	11月10日(月)	東洋紡績株式会社 敦賀工場 日本原子力発電株式会社 敦賀原子力館	山 次 俊 介 加 藤 敏
環境都市工学科 2年	11月11日(火)	福井土木事務所 幸橋(橋梁整備) 武生市家久浄化センター	坪 川 武 弘 前 島 正 彦 田 安 正 茂

16(3336)

(出典 青武台だより (学校便り) No.165)

(資料5-4-①-9)

「工場見学旅行のしおり」



(出典 学生課教務係)

(資料5-4-①-10)

「工場見学旅行旅程表 (しおりより抜粋)」





ご旅程表

福井工業高等専門学校 電気工学科 御中

2004年度見学旅行

二旅行先 関西・九州 方面 旅行期間 2004年 11月8日(月)～2004年 11月11日(木) 3泊4日 (旅館・ホテル4泊、船・車中×泊) 参加人員 学生 男性 39人 教員2名

JTB 福井支店
〒910-0005 福井市大学3-1-1
TEL (0776) 27-7712
支店長 松下 秀司
取扱主任者 内藤 勝仁
担当者 佐藤 吉紀
作成日 2004年 10月27日

日次	月日(曜)	行	報	宿泊地
1	11/8 (月)	バス 学校===== <u>鯖江IC</u> ===== <u>ダイキン工業㈱滋賀製作所</u> ===== <u>料食(レストラン)</u> ===== 7:30 10:00 12:00 12:30 13:20 ===== <u>鐘淵化学工業㈱滋賀工場</u> ===== <u>大保山マーケットプレイス</u> ===== <u>大阪泉大津港</u> ===== 14:00 16:00 17:30 19:30 20:00 ~~~~= <u>新門司港</u> ===== <u>水前寺公園</u> ~~~~= <u>昼食</u> ===== <u>本田技研熊本製作所</u> ===== 8:10 8:30 11:00 12:00 14:00 16:00		阪九フェリー
2	11/9 (火)	===== <u>阿蘇(泊)</u> ===== 17:00	 水前寺成道園	(阿蘇) 阿蘇ホテル一番館 〒869-2301 熊本県阿蘇郡阿蘇長門内牧129-1 0967-32-0525
3	11/10 (水)	阿蘇===== <u>阿蘇山(火口見学/草千里)</u> ===== <u>熊本JC</u> ===== <u>途中休憩</u> ===== <u>長崎IC</u> ===== 8:00 8:30 9:30 ===== <u>ハウステンボス</u> ===== <u>博多市内ホテル(泊)</u> ===== 13:10 16:50 18:30 ※昼食はミールクーポンにて (ホテルで夕食)	  阿蘇山火口 ハウステンボス	(博多) シーホークホテル&リゾート 〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3 092-844-8111
4	11/11 (木)	ホテル===== <u>太宰府天満宮</u> ===== <u>博多家(解散)</u> ===== 8:30 9:20 10:20 11:00	 太宰府天満宮	各自自由に!

(出典 学生課教務係)

(資料5-4-①-11)

「工場見学旅行に関する記事」

第165号

(13)

工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

物質工学科3年 林 達也

3年の11月に工場見学旅行がありました。ここでは、工場見学について書きます。

最初に僕たちが行ったのは、京都ヤクルト工場でした。ここでは、ヤクルトの原料の製造をしており、その過程を見学しました。そこで一番印象に残っているのがヤクルトの空容器でした。消費者から回収した空容器をネットで束ねて廃液の浄化に利用している事でした。物は見方でいろいろな物に化けるんだと思いました。

京都サントリー工場では、ビールの製造過程を見学しました。ここでも、様々な工夫が見られました。例えば、天井を斜めにして露がポタポタと落ちないようにしていました。工場を建てる前に、こうした構想がされていたのはすごいと思いました。

工場見学を終えて、自分達の勉強していることが、どういった場合で活躍するのかが見えてきました。自分達が何になりたいのかよく考えて構想していくための良い材料になったと思います。



見学旅行

環境都市工学科3年 松田つかさ

「見学旅行また行きたいねー。」私が1・2年の頃先輩からよくそういった会話を耳にしていた。現地解散の旅行なんて、最初はありえないと思っていたが、高専で生活していくに従って、そういう旅行があってもおかしくはないと感じていた。なぜなら年齢は同じだとしても高専生は普通の高校生より自立していると言えるからである。それは学校の雰囲気から感じていることだが、こういった旅行が出来たことを本当にうれしく感じている。(今まで見たこともない風景が見たい。) そう思っていた私は京都にも寄ることにした。本当に「感動」という言葉しか出てこないくらい、趣と壮大さを感じられる場所だった。

6日間の旅行は、本当に長くて初めは早く帰りたいと思うくらいだったけど、旅行が終わるに従って、「早かったねー。」という言葉が自然に出ていた。ただ「旅行」というだけじゃなく、私は、本当に今までにない経験をする事が出来、自分にも自信をつけることができた。こういった形の旅行をこれから旅行する後輩も続けていけるよう、高専生という誇りを保っていきたいと思う。



16(3335)

(出典 青武台だより(学校便り) No. 165)

(資料 5-4-①-12)

「FD活動一覧(平成16年度)」

平成16年度 FD活動計画一覧表			
【全教職員または広範囲の教職員を対象とするもの】			
名 称	実施日	担当部署等	備 考
非常勤講師の先生方との懇談会	4月13日	教務主事(学生課)	
学生指導担当職員研修会(Ⅰ)	7月22日	学生主事・寮務主事 (学生課)	メンタルヘルス・生活指導関連、 学生相談室関連、学生寮関連
学生指導担当職員研修会(Ⅱ)	7月28日	学生主事(学生課)	課外活動の安全管理関連
「技術士制度について」の講演会	6月24日	JABEE委員会 (庶務課)	
JABEE自己点検書説明会	10月21日	〃	
JABEE特別講演会	10月5日	〃	
職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止に関する講演会	12月9日	庶務課	
労働安全衛生に関する講演会	11月18日	〃	演題 「労働安全衛生の確保について」 講師 (社)日本労働安全衛生コンサルタント会 福井支部 小林 真次
校長裁量経費にかかる報告会 (前年度分)	9月16日	会計課	
教員の授業達成度評価	10月、3月	教育改善委員会 (学生課)	
公開授業	10月6日	〃	10/6「自動制御」 井上 清一 機械工学科5年クラス
	10月6日		10/6「電子回路Ⅱ」 前川 公男 電子情報工学科5年クラス
	10月12日		10/12「構造力学Ⅰ」 前島 正彦 環境都市工学科3年クラス
	10月25日		10/25「生物化学Ⅰ」 杉森 大助 物質工学科3年クラス
	10月26日		10/26「コンクリート構造学」 阿部 孝弘 環境都市工学科4年クラス
	11月15日		11/15「情報処理の基礎Ⅰ」 原田 望 電気工学科3年クラス
	12月17日		12/17「電気回路Ⅰ」 新谷 邦弘 電気工学科2年クラス
	1月21日		1/21「基礎解析」 坪川 武弘 電子情報工学科1年クラス
	1月27日	1/27「国語」 中村吉秀 機械工学科3年クラス	
JOINT FORUM	6月11日	先進技術教育研究センター	機械学会北陸信越支部共催 (鯖江シティーホテル)
第14回福井高専共同研究発表会	12月3日	〃	(福井商工会議所)

2

科学研究費補助金制度説明会	10月8日	庶務課	説明者：専門職員(企画調査担当)
特許講習会	9月30日	庶務課	講師：先進技術教育研究センター長、教育研究支援センター長
北信越工学教育協会 第3回FD講演会 (福井大学工学部FD委員会)	平成17年1月21日	庶務課	高知工科大学理事・工学部長 坂本 明雄 「高知工科大学における教員評価システム」

(出典 平成16年度 FD活動資料集)

(資料5-4-①-13)

「FD活動一覧(平成16年度)」

名称	実施予定時期	担当部署等	備考
部活動支援トレーニング講習会	5月27日	保健体育科	
理数系教員のためのリフレッシュセミナー	3月26日	数学科	(東京理科大学)
「日本数学会」年会	8月4日～5日	"	日本数学会 会場：鹿児島大学 高専・大学部会
T3 Japan 年会	8月10日～11日	"	筑波大学附属駒場高校
北陸地区T3	6月20日 その他2回	"	福井高等数学科
北陸四県数学会研究会	10月29日	"	高専・大学部会(小浜市)
グラフ電算研究会 (教材研究、教科教育法)	6月19日	"	(福井高等数学科)
S P P サイエンス・パートナーシップ・ プログラム	8月23日～24日		825-824 (講師参加)
	8月25日～26日		東京女子大学理学部
	10月7日～8日		教員研修(東京近畿高校教員)
	10月15日		825-826 (講師参加)
	11月8日		愛知教育大学附属高等学校
	11月26日		特別授業(生徒対象)、教員研修
	12月4日		107-108 (講師参加)
			松山市済美中学校
			特別授業(生徒対象)、教員研修
			10/15 (講師参加)
			水戸市水戸第三高等学校
			特別授業(生徒対象)、教員研修
			11/8 11/26 (講師参加)
		福山市立新築高等学校	
		特別授業(生徒対象)、教員研修	
		12/4	
		福井高専主催	
		数学科教員研修	
		(県内中・高教員)	
英語教育懇話会	毎月	英語科	(福井大学)
日本物理学会(物理教育)	9月12日～15日	応用物理科	(青森大学)
"	3月14日～17日	"	(東京理科大学)
丹南地区高校高専教育相談連絡協議会	6月24日 10月29日 1月28日	学生相談室	世話校：鯖江高校
メンタルヘルス研究協議会	9月15日～16日	"	世話校：東京工業大学
丹南地区中学校高専教育相談連絡協議会	11月26日	"	

(出典 平成16年度 FD活動資料集)

(資料5-4-①-14)

「学生指導関連FD活動の記録」

平成16年度学生指導担当職員研究会・ボランティア活動報告書

I 平成16年度学生指導担当職員研究会報告

I-(i) 安全管理関連

日 時：平成16年7月22日(木) 9:30~10:30
 会 場：福井工業高等専門学校 大講義室
 内 容：課外活動の安全管理に関する講演と意見交換
 「クラブ活動における安全管理を中心とした指導について」
 講師：体育主任 烏田 茂
 参加人数：60名(教員54名、職員6名)

I-(ii) メンタルヘルス関連

日 時：平成16年7月28日(水) 9:30~11:40
 会 場：福井工業高等専門学校 大講義室
 内 容：学生相談室主体の講演・アンケート結果報告と意見交換
 ①学生相談室長の話
 「教員中心の……」から「学生中心の……」へ
 講師：学生相談室長 井上 清一
 ②メンタルヘルス関連講演
 「学生の心理的問題に対する指導援助の方法」
 講師：心理士 寺井 堅祐(本校カウンセラー)
 ③学生主事の話
 「学生の生活実態とボランティアに対する意識調査報告」
 講師：学生主事 安丸 尚樹
 参加人数：70名(教員62名、職員8名)

I 平成16年度学生指導担当職員研究会報告

I-(ii) メンタルヘルス関連

(1) 概要

近年、心の悩みを持つ青少年の増加が社会的に問題となっています。本校では、ファカルティ・ディベロップメントの一環として、毎年夏にメンタルヘルス関連の研究会を学生指導担当職員対象に実施して参りました。本年は下記のように学生相談室を中心とした研究会を企画いたしました。当日は、相談室長の話のあと、本校カウンセラー寺井氏による相談実例やストレスなどに関する学生のアンケート結果を含めた講演、意見交換などを行い、メンタルヘルスの諸問題について考えたほか、互いの意思疎通を深めることができました。また、12年ぶりに実施した学生の生活実態調査の報告を行い、本校学生の休日の過ごし方やインターネットの利用状況などの問題点を再確認いたしました。最後に緊急に発生した福井豪雨ボランティアの活動状況と協力依頼がなされました。

(2) 日 時

平成16年7月28日(水) 9:30~11:40

(3) 会 場

福井工業高等専門学校 大講義室

(4) 日 程

①学生相談室長の話 9:30~10:00
 「教員中心の……」から「学生中心の……」へ
 講師：学生相談室長 井上 清一
 ②メンタルヘルス関連講演 10:05~11:25
 「学生の心理的問題に対する指導援助の方法」
 講師：心理士 寺井 堅祐(本校カウンセラー)
 ③学生主事の話 11:25~11:40
 「学生の生活実態とボランティアに対する意識調査報告」
 講師：学生主事 安丸 尚樹

(5) 参加人数

70名(教員62名、職員8名)

(出典 平成16年度 学生指導担当職員研究会・ボランティア報告書)

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

生活指導面における学生への支援体制については、担任制度(資料5-4-②-1, 別添「学生便覧」52頁), 学生相談室制度(資料5-4-②-2), 寮生会制度(資料5-4-②-3, 別添「学生便覧」41頁), 留学生支援制度(資料5-4-②-4, 別添「学生便覧」93頁), (資料5-4-②-5)がある。また、本校における正課外教育活動として、学生会活動がある。学生会として、学生会活動や部活動(部・同好会)が行われる(資料5-4-②-6, 別添「学生便覧」53頁)。具体的な正課外活動としては、体育祭(5月), 弁論大会, 高専祭(10月)等が挙げられる(前出資料5-2-①-18)。クラブ活動では、体育部門及び文化部門からなるさまざまな活動が行われている(資料5-4-②-7~資料5-4-②-8)。ロボットコンテスト, プログラミングコンテスト等の活動盛んである(資料5-4-②-9)。

(分析結果とその根拠理由)

学級担任, 学生相談室制度によって, きめ細かな教育指導, 学習支援が行われている。留学生支援制度については, 指導教員及びチューターを配属し, きめ細かい対応を行っている。以上のような体制により, 人間としての素養の涵養が図られるように配慮した指導を行っている。

(資料5-4-②-2)

「学生相談室の教室掲示用文書」

平成16年4月21日

学生相談室の利用について

学生相談室長 井上清一

学校生活で困っていることはありませんか

相談室には、下記の時間帯に相談員がいます。カウンセラーの先生は水曜日に来校してもらっています。また、会って話すのはちょっと、と言う人は電話やメールで相談する方法もあります。相談員は皆さんが生き生きとした学生生活を送るためのサポーターになりたいと思っていますので、気軽に利用してください。

相談の内容については秘密を守ります。また、あなたにとって不利益になるような扱いは決してしません。安心して相談室を訪ねてください。

【相談室の場所】

学生相談室は福利施設（食堂・保健室のある建物）の2階にあり、コーヒー・お茶も用意してあります。また、心の健康に関する本や漫画も貸し出します。

【相談員と担当日時】

学生相談室直通電話 0778-62-8213 E-mail spjpn@fukui-nct.ac.jp

曜日	時間帯	担当	所属	電話番号 (研究室)	E-mail
月	12:15~13:00	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	inoue@fukui-nct.ac.jp
	16:15~17:15	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	
火	12:15~13:00	常光 幸美	物質工学科	0778-62-8287	iyokoe@fukui-nct.ac.jp
	16:15~17:15	常光 幸美	物質工学科	0778-62-8287	
水	12:15~13:00	戸島 貴代志	一般科目・人文系	0778-62-8293	tohima@fukui-nct.ac.jp
	14:00~18:00	■	カウンセラー	■	■
木	12:15~13:00	井上 清一	機械工学科	0778-62-8247	
	14:30~16:00	平井 恵子	物質工学科	0778-62-8225	hirai@fukui-nct.ac.jp
金	12:15~13:00	平井 恵子	物質工学科	0778-62-8225	
	16:15~17:15	戸島 貴代志	一般科目・人文系	0778-62-8293	

- * 保健室には看護師さんがおります。相談員不在の時や、健康問題については保健室を訪ねてください。
- * 寺井聖祐先生は専門のカウンセラーで、来校日は水曜日（月2回）です。
- * 相談していないときは、自由に入室してもかまいません。
- * また、随時研究室にて相談に応じます。

(出典 学生相談室)

(資料5-4-②-5)

「留学生名簿」

平成16年度 留学生名簿

学籍番号	入学年度	学科・学年	氏名	生年月日	性	区分	留学期間	国籍	指導教官	チューター	連絡先	寮室
■	14	電子情報工学科 5年	■	■	男	国費留学生	H144~H173	インドネシア	藤原 正敏	■	■	108
■	15	環境都市工学科 4年	■	■	男	国費留学生	H154~H183	ベトナム	田安 正茂	■	■	103
■	16	環境都市工学科 4年	■	■	男	マレーシア政府派遣留学生	H154~H183	マレーシア	廣越 英一	■	■	105
■	16	電子情報工学科 3年	■	■	男	国費留学生	H164~H193	ケニア	斉藤 徹	■	■	104

(出典 学生課教務係)

(資料5-4-②-7)

「体育系部活動の活動状況資料(第39回 北陸地区高専体育大会成績一覧)」

第39回北陸地区高専体育大会成績

◎女子バレーボール 最優秀選手 優秀選手	優勝	CS 田嶋マキ E12 塩谷 理	(東海北陸地区代表決定戦)
◎卓球団体 (男子個人)	優勝		(全国高専体育大会出場)
◎水泳総合成績 (男子)	3位	B3 鎌谷達人 M2 西本諭史	
50m自由形	優勝	M2 今井雅彦 00:27.33	
"	3位	B5 佐高廣宏 00:30.43	
100m自由形	優勝	M2 今井雅彦 00:58.75	(全国高専体育大会出場)
"	2位	C1 清水泰光 01:02.80	(全国高専体育大会出場)
200m自由形	優勝	C1 清水泰光 02:22.84	(全国高専体育大会出場)
400m自由形	2位	E3 平尾拓也 05:48.17	(全国高専体育大会出場)
800m自由形	優勝	E3 山崎弘道 13:23.41	(全国高専体育大会出場)
"	3位	M3 乾 隆一 16:15.31	
100m平泳	優勝	M3 堀 朋貴 01:23.67	(全国高専体育大会出場)
200m平泳	優勝	M3 堀 朋貴 03:07.05	(全国高専体育大会出場)
"	2位	E4 小西佑樹 03:12.89	
100mﾊﾞﾀﾌﾗｲ	3位	E3 平尾拓也 01:11.83	
100m背泳	2位	E4 小西佑樹 01:18.29	(全国高専体育大会出場)
200m背泳	優勝	M5 油谷篤志 02:44.64	(全国高専体育大会出場)
"	2位	B2 壺井和也 03:40.58	
200m個人ﾄﾞﾚｰ	優勝	E3 山崎弘道 03:04.24	(全国高専体育大会出場)
400mﾄﾞﾚｰ	優勝	M5 油谷篤志 04:07.51	(全国高専体育大会出場)
400mﾄﾞﾚｰ	優勝	M2 今井雅彦 E4 小西佑樹 04:46.63	(全国高専体育大会出場)
(女子)	3位	E3 末永 円 C1 水野江里子	
◎女子ソフトテニス団体(オープン競技)優勝	優勝		
◎女子テニス団体(オープン競技)	優勝		(全国高専体育大会出場)
(女子個人)	優勝	B5 森 有希	
シングルス	2位	C5 高橋加奈	
"	優勝	B5 森 有希	(全国高専体育大会出場)
ダブルス	優勝	B5 森 有希 C5 高橋加奈	(全国高専体育大会出場)
◎陸上総合成績 (男子)	4位		
1500m	3位	E1 鈴木大貴 04:37.81	
5000m	3位	B1 吉村 亮 18:21.48	
砲丸投	3位	M3 清水祥史 12m23	
◎男子バレーボール 優秀選手	3位	B4 小原隆紀	

◎男子バスケットボール	2位		
◎女子バスケットボール(オープン競技)	3位		
◎男子ソフトテニス団体(オープン競技)	2位		
◎男子テニス団体	3位		
◎野球	2位		
◎サッカー	4位		
◎男子バドミントン団体	4位		
◎女子バドミントン団体 (女子個人)	3位		
3位	E1 岩見秋花		
2位	C1 多田賢美 E1 岩見秋花		
◎男子剣道団体	2位		
◎女子剣道団体(オープン競技) (女子個人)	2位		(全国高専大会出場)
2位	C3 川島なお美		
3位	E1 石丸寧華		
◎柔道団体 (男子個人)	4位	B4 大坂拓也	
60kg級	3位	B3 西川雄太郎	
79kg級	2位		
◎女子柔道団体(オープン競技)	2位		
(女子個人)	52kg超級	C3 田中 歩	
◎ラゲビー	3位		
◎ハンドボール(オープン競技)	3位		

(出典 学生課学生係)

(資料5-4-②-8)

「部活動活動状況に関する資料(野球部, プラスバンド部)」

2003年(平成15年)7月20日

昨日の勝敗

▼1回戦(県営)

福井高専 8-7丸岡

美 方 10-0 科 技

三 国 8-6 足 羽



第1日

第85回全国高校野球選手権福井大会は十九日、県営球場で開催。初日は開会式と一回戦3試合が行われ、福井高専、美方、三国が一回戦に進んだ。第1試合は福井高専が延長の末、丸岡を8-7のサヨナラで下した。第2試合は打打に圧倒した美方が、科技を10-0の五回コールドで破った。美方の先発投手は、五回参考ながら完全試合を達成した。第3試合は七回に4点を挙げ、逆転した三国が足羽を8-6で振り



切った開会式では、羽水の畑登隆選手が「甲子園にも負けないよう、夢と感動を享えるショートタイムにする」とを誓います。七回強打選手奮闘した。また、前高野連理事長の坂下貞雄氏と、前美方野球部監督の時岡喜一郎氏がそれぞれ、功労表彰と「イヤー・オブ・ザ・コリ」の表彰を受けた。始球式は、少年野球チーム、木田ネービーブルーズの打者、美正博(木田小高専)が務めた。第二日目の二十日は、開球場で一回戦3試合が行われる。

福井高専 8-7丸岡

【9:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:05】丸岡 10-0 福井高専

【9:10】丸岡 10-0 福井高専

【9:15】丸岡 10-0 福井高専

【9:20】丸岡 10-0 福井高専

【9:25】丸岡 10-0 福井高専

【9:30】丸岡 10-0 福井高専

【9:35】丸岡 10-0 福井高専

【9:40】丸岡 10-0 福井高専

【9:45】丸岡 10-0 福井高専

【9:50】丸岡 10-0 福井高専

【9:55】丸岡 10-0 福井高専

【10:00】丸岡 10-0 福井高専

福井高専 サヨナラ

延長 丸岡及ばず

【9:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:05】丸岡 10-0 福井高専

【9:10】丸岡 10-0 福井高専

【9:15】丸岡 10-0 福井高専

【9:20】丸岡 10-0 福井高専

【9:25】丸岡 10-0 福井高専

【9:30】丸岡 10-0 福井高専

【9:35】丸岡 10-0 福井高専

【9:40】丸岡 10-0 福井高専

【9:45】丸岡 10-0 福井高専

【9:50】丸岡 10-0 福井高専

【9:55】丸岡 10-0 福井高専

【10:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:05】丸岡 10-0 福井高専

【9:10】丸岡 10-0 福井高専

【9:15】丸岡 10-0 福井高専

【9:20】丸岡 10-0 福井高専

【9:25】丸岡 10-0 福井高専

【9:30】丸岡 10-0 福井高専

【9:35】丸岡 10-0 福井高専

【9:40】丸岡 10-0 福井高専

【9:45】丸岡 10-0 福井高専

【9:50】丸岡 10-0 福井高専

【9:55】丸岡 10-0 福井高専

【10:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:00】丸岡 10-0 福井高専

【9:05】丸岡 10-0 福井高専

【9:10】丸岡 10-0 福井高専

【9:15】丸岡 10-0 福井高専

【9:20】丸岡 10-0 福井高専

【9:25】丸岡 10-0 福井高専

【9:30】丸岡 10-0 福井高専

【9:35】丸岡 10-0 福井高専

【9:40】丸岡 10-0 福井高専

【9:45】丸岡 10-0 福井高専

【9:50】丸岡 10-0 福井高専

【9:55】丸岡 10-0 福井高専

【10:00】丸岡 10-0 福井高専

鋼 賞 福井工業高等専門学校

吹奏楽部

賞状

吹奏楽団は第四十六回

中部日本吹奏楽コンクール

福井県大会において頭書の

とおり優秀な成績を収め

られたのでこれを賞します

平成十五年七月二十日

中日新聞社

中部日本吹奏楽連盟

(出典 学生課学生係)

基準 5 教育内容及び方法

< 専攻科課程 >

観点 5 - 5 - : 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校の「環境生産システム工学」教育プログラムでは、本科にて専門技術の基礎を学び、専攻科で専門技術の応用と幅広い工学的素養を学ぶことができる。本科 4 年より「環境生産システム工学」教育プログラム授業科目系統図(資料 5 - 5 - - 1, 別添, 「専攻科シラバス」28 ~ 33 頁)に示す学習・教育目標と照らした授業科目の流れを設け、連携された教育課程としている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、本科を基礎とし「環境生産システム工学」教育プログラムに沿って教育課程を編成している。資料では学習・教育目標と対応する科目毎に、本科 4 年より科目の流れが示されている。

観点 5 - 5 - : 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

観点 5 - 1 - (本科), 観点 5 - 5 - (専攻科) で述べたように「環境生産システム工学」教育プログラムに沿って、授業科目は系統立てて編成されており、専攻科修了時まで社会で必要とされる専門的能力を獲得することができる(前出資料 5 - 5 - - 1, 別添「専攻科シラバス」28 ~ 33 頁), (資料 5 - 5 - - 1, 別添「専攻科シラバス」02 頁), (資料 5 - 5 - - 2, 別添「専攻科シラバス」05 ~ 06 頁), (資料 5 - 5 - - 3, 別添「専攻科シラバス」07 ~ 09 頁)。

授業科目のシラバスでは「授業目標」欄により授業内容の趣旨が明記され、「福井高専学習教育目標」欄により教育プログラムのどの学習教育目標の項目達成を目標に実施されているか、目標の細項目と比率が明記されている(資料 5 - 5 - - 4, 別添「専攻科シラバス」55 ~ 115 頁)。

(分析結果とその根拠理由)

学習教育目標の項目と対応付けられた授業科目の系統図と共に授業科目と履修学年が明記されており、科目配置と体系性が明確に確保されている。

観点 5 - 5 - : 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

平成 13 年 3 月に実施された自己点検・評価報告では学外者による委員で構成された外部評価委員会（資料 5 - 5 - - 1）の指摘を受け、学習教育目標の参考としている。また、社会的な動向をうけ「技術者倫理」、「環境工学」、「地球環境」などの科目を平成 15 年度より新設している（資料 5 - 5 - - 2，別添「専攻科シラバス」55 頁，60 頁，69 頁）。

（資料 5 - 5 - - 1）

「社会の要請や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績」

〈4〉 社会の要請や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績

本学が、学習・教育目標の大項目は、公開する以前の 2003 年 2 月 4 日に、自己点検・評価報告書[7]に基づいて学外者による委員[8]で構成された外部評価委員会[9]で評価を受けた。具体的な内容に関する情報はあつたが総合的には高く評価された[9]。その結果については、2003 年 3 月に外部評価委員会として各教員に配布され、内容について周知した。2009 年 11 月における学習・教育目標の具体的な形質は、この影響の範囲を念頭に置いて行われた。また、本校では高専社団法人協議会との懇談会を実施しており、学習・教育目標を作成する際に、このような懇談会における各企業からの意見が参考となった。今後も、これらの懇談会の中で学習・教育目標に対する社会からの要望を聞くこととしている。さらに、平成 15 年度から、企業（就職先等）からみた学習・教育目標への要望および本校卒業生に求める能力・資質に関する調査とならんで、卒業生からみた学習・教育目標および現在必要とされている能力・資質についての要望の調査を継続的に実施している。そして、講演のため来校した技術者に学習・教育目標について説明し、意見を求めるなど、社会の要請の把握に努めている[10]。

学生に対しては、2003 年 2 月に当時の専攻科生を対象に学習・教育目標の必要性に関するアンケートを行い、95%以上の学生が学習・教育目標各項目の必要性を認めた[11]・[12]。学習・教育目標に対するアンケートは今後毎年実施し、本プログラムを終了していく専攻科と専攻科学生の意見を特に重視し、その要望を学習・教育目標の改訂に反映させていくこととしている。

[7] 21 世紀に輝く福井工業高等専門学校の教育と研究 自己点検・評価報告書最終版のコーナー (p.1-31) 実地調査関係資料 4

[8] 外部評価委員名簿 (p.1-32) 実地調査関係資料 4

[9] 外部評価報告書の査読および外部評価検証結果 (p.1-33) 実地調査関係資料 4

[10] 技術士との懇談メモ (p.1-34)

[11] JABEE 初学習・教育目標に関するアンケート結果 (p.1-35)

[12] JABEE 再学習・教育目標に関するアンケート結果 (p.1-36)

（出展 平成 16 年度 JABEE 自己点検書・本文編（2）（ii））

専攻科1年では全員参加のインターンシップを実施し(資料5-5-3, 別添「専攻科シラバス」43頁), 実習報告会(資料5-5-4)を経て単位として認定している。また一般の情報系の資格取得・検定取得を修了認定の条件としており, 実社会で必要とされている技術知識修得を行っている。

(資料5-5-4)

「平成16年度インターンシップ報告集」

インターンシップ報告集 目次

はじめに	福井工業高等専門学校長	野井 謙治郎	1
インターンシップを報告できることの幸せ	専攻科長	吉村 志与志	3
インターンシップ先	氏 名	出身本科	
電通システム工学専攻			
福井日本電気㈱	高 希貴	BI	5
オファム㈱	高 秀範	BI	9
武生物産㈱材料部	上野 雅治	E	13
立や商事㈱	小池 豊利	E	17
㈱マルサンアイ	小泉 美嗣	BI	23
保福化学工業㈱	佐々木 渉	BI	27
㈱川島精機設計事務所	島田 悠一	BI	31
オファム㈱	渡辺 正一	E	35
㈱カスマ	中本 純平	BI	39
立や商事㈱	西塚 佳貴	BI	43
㈱井筒㈱	野尻 益夫	BI	47
㈱武田精機	藤田 祐介	BI	51
日本体育協会	藤野 貴文	BI	55
アイテック㈱	山口 光弘	BI	59
フタヒ化学工業㈱	山本 真康	E	63
㈱印刷研社	吉田 勝俊	BI	69
電通システム工学専攻			
㈱資生堂研部生計画課	浅野 洋明	E	73
㈱森谷㈱	岡島 智雄	E	77
北電技術コンサルタント㈱	岡田 幸之	E	83
武生庁役所環境保全課	加藤 大介	E	89
㈱JFE東亜建設技術研究所	菊 雅美	E	95
㈱JFE東亜建設技術研究所	北口 智広	C	99
㈱ミルコン	志賀 啓樹	E	103
福井県庁河川課	美濃 志丈	E	107
日華化学㈱	高橋 浩治	C	113
月野ファインケミカル㈱	坪川 薫	C	119
㈱サンワロン	西沢 英大	E	125
㈱野村地産コンサルタント	吉田 達也	E	129

出身本科の記号, BI:機械工学, E:電気工学, BI:電子情報工学, C:物質工学, E:情報通信工学

(出展 平成16年度専攻科インターンシップ報告集 目次)

他の教育機関との単位互換として単位互換協定を結んだ教育機関での単位を認定している（資料 5 - 5 - - 5）。また、平成 17 年度から企業で働く専門知識をもつ非常勤講師の講義を織り交ぜ、実践的な技術の知識も取り入れた講義を実施している。

（資料 5 - 5 - - 5）

「福井工業高等専門学校特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則」

福井工業高等専門学校特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則

平成 16 年 1 月 28 日制定

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 福井工業高等専門学校（以下「本学」という。）は、本学と大学（短期大学及び高等専門学校を含む。以下「大学等」という。）間協定に基づき、大学等の授業科目を履修する者（以下「特別聴講派遣学生」という。）及び単位が認められる授業科目を履修する者（以下「特別聴講学生」という。）の処遇に關し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第 2 章 特別聴講派遣学生

（大学等への応募手続）

第 2 条 特別聴講派遣学生を応募する者は、応募する大学等の入学願書と、専攻科目を以て履修に關し出なければならぬ。

（派遣の許可）

第 3 条 特別聴講派遣学生の派遣許可は、校長が行う。

（派遣の期間）

第 4 条 特別聴講派遣学生の派遣期間は、1 年以内とする。

（単位修得状況）

第 5 条 特別聴講派遣学生は、履修が終了したときは、速やかに大学等が履修する単位修得状況を本学に提出しなければならない。ただし、大学等協議により大学等が卒業を認めるところになっている場合は、この限りでない。

（修得の認定）

第 6 条 特別聴講派遣学生が、大学等において修得した単位は、学則第 15 条のみの規定により、本学において修得したものと認定する。

第 3 章 特別聴講学生

（入学資格）

第 7 条 特別聴講学生として入学できる者は、大学、短期大学及び他の高等専門学校（以下「大学等」との範囲に属する。本学における授業科目を履修しようとする者とする。）の卒業生とする。

（入学時期）

第 8 条 特別聴講学生の入学の時期は、卒業又は卒業の相当とする。

（入学の申請手続）

第 9 条 特別聴講学生として入学を申請する者は、入学願書を卒業の大学等に提出して、校長に提出しなければならない。

（入学許可）

第 10 条 校長は、前条の入学の申請について、審査を完了しない場合に限り、推薦の上、入学を許可する。

（出席期間）

第 11 条 特別聴講学生の出席期間は、当該学期又は年度とし、1 年以内とする。

（履修科目等）

第 12 条 特別聴講学生が履修できる授業科目は、専攻科の関連科目のうち指定するものとす。

第 13 条 履修科目を履修し、その修得に合格した者は、所定の単位を授与する。

第 14 条 卒業の認定により単位を授与したときは、履修した授業科目の単位修得同等書を交付する。

（単位の種類）

第 15 条 履修科目に係る単位の種類は、「福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の種類等に関する規則」の規定に基づいて行う。

（履修科目等）

第 16 条 特別聴講学生の履修科、大学科及び授業科目は、決定しない。

（退学）

第 17 条 特別聴講学生が修得可能な単位により退学しようとするときは、校長の許可を受けて、退学することができる。

第 18 条 特別聴講学生が卒業の見込がないと認められるときは卒業後の学内滞留中に退学したとき、校長は、退学を命ずることができる。

第 4 章 雑則

（学則等の準則）

第 19 条 この規則に定めらるるもののほか必要な事項は、学則等の学内規程を準則する。

附則

この規則は、平成 16 年 3 月 31 日から施行する。

（出展 教務課）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・外部評価の指摘や学問的動向をうけ、いくつかの科目新設等が実施され教育課程の編成見直しなどが実施されている。インターンシップなどの実施により、企業での就労経験・実社会の技術動向把握などが行われ学外での補充教育効果が得られている。

観点 5 - 6 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

専攻科教育プログラムでは創造性を育むために、「創造デザイン演習（1年）・ものづくり情報工学（2年）」を専門共通の必修科目として開講している。「創造デザイン演習」では、数人のグループに分かれて与えられたテーマの解決方法を討論や実験を通して、自ら問題解決する意識作り・多様な視点での検討考察を行う演習を行っている。（前出資料 5 - 5 - - 4，別添「専攻科シラバス」56頁）「ものづくり情報工学」では情報技術をベースとしてものづくり・環境づくり・融合・副業分野で活躍できる学生の育成を目指した開発型実践技術者の育成を目指した講義を、グループ討議や情報機器を用いたシミュレーションなど行いながら、複数の教員により実施している（前出資料 5 - 5 - - 4，別添「専攻科シラバス」58頁）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の問題解決能力の向上を目指し、実践的な問題解決をテーマとした実験を中心とした科目を設け、学習意欲向上を図っている。

観点 5 - 6 - : 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

観点 5 - 6 - で述べたように、「創造デザイン演習」（1年）・「ものづくり情報工学」（2年）などの科目で、実践的なテーマに対して、テーマの解決方法を討論や実験を通して問題解決意識作りや多角的な検討考察・演習を行っている（前出資料 5 - 5 - - 4，別添「専攻科シラバス」55～115頁）。

「ものづくり」教育を実践するための取り組みについては、平成13年度『「ものづくり」教育の現状と新しい在り方について』にて、本校の取り組みがまとめられている（資料 5 - 6 - - 1）。

（資料 5 - 6 - - 1）

「「ものづくり」教育の現状と新しい在り方について」



（出展 平成13年度「ものづくり」教育の現状と新しい在り方について）

インターンシップは、専攻科1年学生全員を対象に、一ヶ月程度期間で参加している。これらはインターンシップ報告書・発表会での内容を踏まえ評価を行い、研修期間に応じて単位として認定している（前出資料 5 - 5 - - 2，別添「専攻科シラバス」43頁）。

（分析結果とその根拠理由）

教育プログラムでは、学習・教育目標の大項目（C）にて「豊かな想像力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成」を掲げ、それに対応した科目により創造性を育むシラバスとなっている。さらに、インターンシップについても本科4年での取り組みに加え、専攻科1年でもインターンシップにて全学生の参加を行っている。

観点 5 - 6 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスは教務委員会によって示された記入方針(資料 5 - 6 - - 1)に従い、授業目標・概要と方法・各週の授業内容・教科書などが記載されている。福井高専の教育目標との対応が細項目と比率により明記され、教育課程の編成の趣旨との対応を確認することができる。到達目標も「単位取得時に受講生に要求される能力」として具体的に記載されており、「評価方法」も成績の算出式などを用いて具体的に記載している(前出資料 5 - 5 - - 4, 別添「専攻科シラバス」5 5 ~ 1 1 5 頁)。

(資料 5 - 6 - - 1)

「シラバスの書き方の注意点」非常勤講師へのシラバス記入の説明文書(平成 1 6 年度)」

シラバスの書き方の注意点

授業項目の欄

頁 13, 30 項目は理論の解説、演習、授業アンケートなど

福井高専学習・教育目標の欄(本科 4, 5 年, 専攻科 1, 2 年)

本校の学習・教育目標は同封の文書のように全 35 項目となっております。
授業年の内容を考慮して A①: 0.4, B①: 0.8 ように主要部分とした学習・教育目標を記入し、そのあとに内容を記入のこと。
ただし、進学では学習・教育目標は最大 3 つまで記入可。
科目→教員は複数指定のないこと。
比率は合計が 1 になるようにする。
比率は、0.2, 0.4, 0.6, 0.8 の数値だけを用いること。

到達目標の欄

上記の学習・教育目標と比率を考慮して具体的に記述のこと。
文例は、・・・ができること、・・・にすることが望ましい。

評価方法の欄

数値を用いて具体的な記述、「総合的評価」の「総合的」は使わない。
「総合的」以外に、「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」「整理」の言葉を用いない。
例 4 回の試験の平均を求め、レポート 1 冊とする。
例 4 回の試験を平均とする。但し、この平均が 60 点以上にならない場合、1 の初回試験のレポートを 1 冊だけ評価し、試験の点数に記入する。
例 4 回の試験の平均を求め、レポート 1 冊、プレゼン 1 冊とする。
上記の例では、成績の 20%まで、レポート等の記述が求められることとなる。この場合は、レポートの提出状況の一覧表とポスター形式のレポート全部および発表、最終のレポートが対象である。
「出席率」と言う言葉は、絶対に使わない。どうしても考えた人は、毎週レポート課題を提出する、そのレポートで記述すればよい。

評価基準の欄

学年成績前点

オフィスアワーの欄

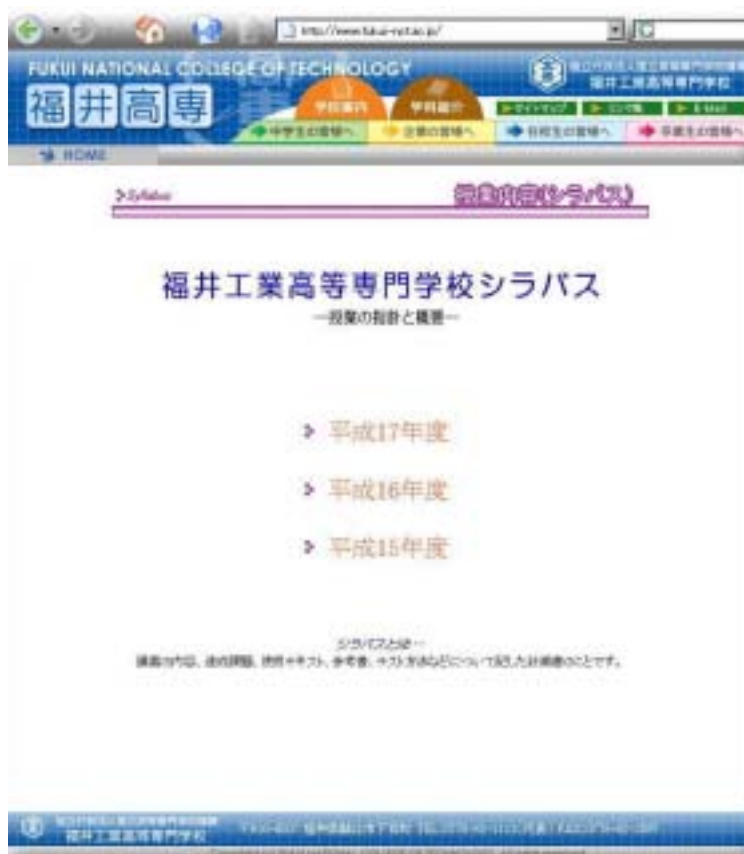
各学科・教室のホームページまたは内務部から掲載

(出展 学生課教務係)

学生には入学時のシラバス配布，各授業初回講義のシラバス印刷配布を行っている。さらにシラバスはウェブページにより学外・学内から自由に閲覧可能となっている（資料 5 - 6 - - 2）。

（資料 5 - 6 - - 2）

「授業内容（シラバス）<http://www.fukui-nct.ac.jp/syllabus/>」



（出展 福井工業高等専門学校ウェブページ）

教員も半期毎に実施されている「教員側からの達成度評価」の際に、これらのシラバスと授業進度の確認を行い、活用がなされている（資料 5 - 6 - 3）。

（資料 5 - 6 - 3）

「教員側からの達成度評価アンケート」

教員側からの達成度評価アンケート
(対象期間：平成15年度後期)

教務担当教員

■次の(ア)～(イ)に回答いただき、各学科・教室の教務担当教員にEメールの送付ファイルで送付ください。

(ア) 両側の記入欄（黄色で塗られている部分）にご記入ください。横線をとおして科目名を記入し、横線に上がついて数字（1～5）まで記入ください。

項目	記入欄	備考
教 員 姓 名		科目担当教員（複数の場合は代表者1名）氏名をご記入ください。
科 目 名		科目名をご記入ください。
学 期 ・ 週 次 の 別		学期：1、2 週次：1、2
学 科		本 科：1、2、3、4、5、6、7、8、9 本学共通：10 理学院：11、12、13、14、15 理学院共通：16
学 年		本科1年：1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12 理学院1年：1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12
教 室 名		授業室をご記入ください。
履 修 コー 数		授業における週あたりの履修（コマ）数をご記入ください。
担当教員氏名：A		【達成度評価方法】 各科目の学習・授業評価（5から1）について、当該科目の毎授業時（1回）ごとに、ご自身の達成度について評価をお願いします。複数回ご回答ください。評価内容に留意のない項目については評価する必要はありません。 予定以上におこなった：1 ほぼ予定通り進んだ：2 予定通りに進まなかった：3
担当教員氏名：B		
担当教員氏名：C		
担当教員氏名：D		
担当教員氏名：E		

(イ) もし、上記達成度評価より「予定通りに進まなかった」と評定した場合は、その理由をさらに添削（例えば、授業内容）を具体的に下部欄にお書きください。

【各科目の学習・教育目標】

A. 体系的知識の習得を重視した、少人数・少人数制による、システムデザイン能力の育成

B. 幅広い工学的知識、技能とする専門的知識の基礎力および応用能力の育成

C. 豊かな創造力やデザインマインドを養い、高い目標を設定し、新しい知識・技能に挑戦する能力の育成

D. 高度な専門化した技術分野で必要なコミュニケーション基礎能力（プレゼンテーション能力）の育成

E. 社会に即して問題解決し、製品開発企画・実行する実践的力および倫理的思考能力での総合的な育成

（出展 平成 15 年度教務委員会 メールによる配布資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生は印刷物のシラバスや WWW ページでのシラバス等で授業の内容を確認でき、授業の事前準備に備えることができるようになっている。これらのシラバスの実施状況は、教員への授業達成度アンケートによりフィードバックされている。

観点 5 - 7 - : 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

特別研究では、専攻科 2 年当初に中間発表（資料 5 - 7 - - 1 ~ 資料 5 - 7 - - 3 ）、専攻科在学中の学外での研究発表（資料 5 - 7 - - 4 ）、学位授与機構での学位取得などを修了要件の一部として実施している。これらの過程を踏まえることで、指導教員との十分な討議・研究指導を実施している。さらに指導教官以外の副査教員を割り当て（資料 5 - 7 - - 5 ）、研究発表・特別研究論文作成などでの指導（資料 5 - 7 - - 6 ）が行われている。

専攻科委員の教員は学生の達成度評価などの調査といった特別研究以外の学習面で学生の指導に携わっている。

（資料 5 - 7 - - 1 ）

「特別研究中間発表実施状況の一例」

専攻科特別研究中間発表会(平成 17 年度)発表要項

1. とき、 4 月 20 日(水) 15:40 より
2. ところ 講義室 503
3. 発表時間 1 人につき発表 10 分 討論 2 分 交代時間入れて計 13 分
4. レジメ A4 1 枚 2 段組
タイトル 発表者 指導教官 参考,引用文献を明記
文字大きさ行数などは制限しない。
5. 23 日当日, 教官, 学生分 30 部用意して, 配布のこと。
6. 発表のタイトルを 4.11(月)までに専攻科委員(下條)へ提出のこと

学生氏名	タイトル	指導教員
東 裕貴	コース管理システムの導入と改善	蘆田 昇
島田 悠一	歩行者誘導装置のための汎用 USB デバイスの開発	斉藤 徹
西端 祐貴	中世陶磁器の Web データベースシステムの構築	藤原正敏
野尻 益未	画像処理を用いた眼鏡の試着システム	斉藤 徹
細井 貴文	ベンチのシミュレーションにおける誤差	下條雅史
吉田 勝俊	CML を用いた沸騰モデルのシミュレーション	高久有一

（出展 平成 17 年度 生産システム工学 電子情報系 専攻科特別研究中間発表会）

(資料 5 - 7 - - 2)
「特別研究中間発表例1」

CMLを用いた複雑系モデルのシミュレーション
The simulation of the complexity system model using CML

吉田 剛俊 (福井工業高等専門学校)
Katazaki Yoshida (Fukui National College of Technology)

1. 研究目的

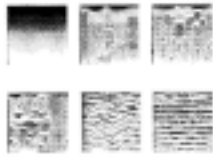
複雑系とは、現在の科学では説明が困難な事象の個々の理解を深めるために考えられた分野である。本研究では、複雑系を理解するため、カオスやフラクタル、カップルドマップナニクス (CML) などと学習し、それらを用いて実際の現象をコンピュータ上でシミュレートすることを目標とする。

2. 研究内容

本研究では、複雑系を自然現象のひとつとして従来の議論を挙げ、その個々の理解を深めることを目標とした。実際に複雑系モデルを構築する際には、CMLの考え方を導入した。CMLとは、元の空間と時間を離散化し、状態変数を連続的に考えたものである。つまり、モデル全体の状態をセルと呼ばれる格子状のもの (離散的空間) が置かれている個々のセルと見做す。その各セルの状態 (状態変数) がステップ (離散的時間) ごとに変化するものとしてモデルを構築する。今回のモデルでは、セルの状態変数は速度である。即ち、位置 (x,y) におけるセルの速度を $v(x,y,t)$ とすれば、次の時刻 $t+1$ のセルの速度は、次の3つを考慮することで考えられるものとする。[引用]

- (1) 隣のセルによる速度変化
- (2) 相転移による速度の急激な伴う速度変化

(3) 外部効果による速度変化
これを、各時刻のモデル全体について次々と求めていくことで、状態状態から複雑状態にいたるまでのモデルの変化を観察することができる。



3. まとめ
今回の複雑系モデルによって、複雑の様子を確かめることができる。しかしながら、このモデルはあくまで2次元のものであるのに対し、実際の現象は3次元での振舞いとなる。したがって、本研究では次のステップとして、複雑モデルの3次元への拡張および可視化を目指す。

<参考文献>
[1]Thoughts Tatsuo
"Coupled map lattice model for boiling"
Physica Letters A 108 (1982) 405-408
[2]岡田清志・前田俊夫
"複雑系入門、近代科学社 (2005)

(出展 平成16年度生産システム専攻特別研究中間発表配布資料)

(資料 5 - 7 - - 3)
「特別研究中間発表例2」

特別研究 (中間発表) 評価シート

テーマ: コース管理システムの導入と改善 学生氏名: [redacted]

- 予備として、その発表がどのくらいよく理解されたかを評価しているか (Y/N) 並
 (1) 目的・背景・意義・効果・成果が説明されているか (2) 発表の目的が明確に述べられているか (3) 発表の目的が明確に述べられているか (4) 発表の目的が明確に述べられているか
- 発表を聴いた後、知識がどの程度に蓄積されたか (Y/N) 並
 (1) 発表の目的が明確に述べられているか (2) 発表の目的が明確に述べられているか (3) 発表の目的が明確に述べられているか (4) 発表の目的が明確に述べられているか
- 発表の目的が明確に述べられているか (Y/N) 並
 (1) 発表の目的が明確に述べられているか (2) 発表の目的が明確に述べられているか (3) 発表の目的が明確に述べられているか (4) 発表の目的が明確に述べられているか
- 発表の目的が明確に述べられているか (Y/N) 並
 (1) 発表の目的が明確に述べられているか (2) 発表の目的が明確に述べられているか (3) 発表の目的が明確に述べられているか (4) 発表の目的が明確に述べられているか
- 発表の目的が明確に述べられているか (Y/N) 並
 (1) 発表の目的が明確に述べられているか (2) 発表の目的が明確に述べられているか (3) 発表の目的が明確に述べられているか (4) 発表の目的が明確に述べられているか

審査員署名 下 浩 剛

(出展 専攻科システム専攻1年特別研究中間発表 評価シート)

(資料 5 - 7 - - 4)

「専攻科学生の学外の研究発表事例」

平成16年度
学生による
研究発表会
D-10

多層CNTのPMMA中での分散状態のSEM観察
○山本 真彦 (日本 京)
(福井工業高等専門学校)
Observation by FISSM of multi-wall carbon nanotube dispersed in PMMA
Masaki Yamamoto Akira Kawazoto
Fukui National College of Technology

1. はじめに
高分子にカーボンナノチューブ (CNT) を分散することにより、高分子の導電性が向上することが報告されている。しかしながら、その電導向上に際してCNTの分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。CNTの分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。CNTの分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。



図3 分散状態のSEM観察 (500nm) 図4 分散状態のSEM観察 (100nm)

図1に分散状態のSEM観察を示す。分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。分散状態の観察は十分に明らかに行われていない。

分散方法	ポリマー中のCNT割合 (%)	分散状態
超音波	100nm (1.0)	5.00nm (10.0)
フェリスチックス	100nm (0.5)	11.17nm (16.0)
超音波分散	100nm (1.0)	5.70nm (16.0)
CNT粉末	100nm (1.0)	7.87nm (16.0)

表1 多層CNTの分散状態

参考文献
(1) 藤田 隆：高分子ナノテクノロジー 第1巻、1998
(2) 下村 博：高分子ナノテクノロジー 第2巻、2004

(出展 平成16年度学生による研究発表会(金沢高専) 発表原稿D-10)

(資料 5 - 7 - - 5)

「専攻科特別研究主査・副査の状況」

学生氏名	主査	副査
東 裕貴	蘆田 昇	青山 義弘
島田 悠一	斉藤 徹	石川 和彦
西端 祐貴	藤原 正敏	蘆田 昇
野尻 益未	斉藤 徹	青山 義弘
細井 貴文	下條 雅史	野村 保之
吉田 勝俊	高久 有一	野村 保之

(出展 特別研究 生産システム電子情報系 専攻科特別研究主査・副査の状況)

観点 5 - 8 - : 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

専攻科は、専攻科修了要件(資料5-8--1,別添「専攻科シラバス」03頁),達成度評価方法(資料5-8--2,別添「専攻科シラバス」16~19頁)を設け、単位修得の認定基準を60点とし、各講義科目のシラバスの評価基準で明記している(前出資料5-5--4,別添「専攻科シラバス」55~115頁)。

各科目の成績はシラバスに記載された評価方法にて実施し、成績評価資料として保存されている。(資料5-8--3,資料5-8--4)特別研究においても客観的な評価基準に基づく判定を実施している(資料5-8--5)。また、学生が履修した科目等については、(資料5-8--2)で示した達成度評価方法により学生自身によるチェックや専攻科委員によるチェックや、大学評価・学位授与機構審査など(資料5-8--4~資料5-8--9)を経て、最終的に教員会議にて修了認定が行われている。

(資料 5 - 8 - - 3)

「定期試験の解答用紙と採点の事例(担当 斉藤 徹)」

The image shows two pages of handwritten answers for a computer system exam. The left page is titled '1. 次項の、第一問題' and contains several numbered questions. The right page is titled '2. 第一問題(×16)' and contains more questions. The answers are written in black ink, and there are red annotations (circles, lines, and numbers) indicating grading points. A large handwritten number '-6=94' is written at the top of the left page. Other handwritten numbers include '2' and '-3' in circles. The text is somewhat blurry but legible.

(出展 平成16年度生産システム計算機システム1成績資料)

(資料 5 - 8 - - 6)

「大学評価・学位授与機構審査結果」

平成17年2月10日

■■■■■■■■■■ 殿
(〒■■■■■■■■■■)

独立行政法人 大学評価・学位授与機構
審査部 学位審査課

学士の学位授与の申請に係る「学修成果・試験の審査」結果について

あなたからの学士の学位授与申請（平成15年度10月期）について、下記のとおり「学修成果・試験の審査」結果を通知します。

なお、本申請では、修得見込みの単位を含めて申告しています。そのため、単位修得の成否に関わらず、修得見込みで申告した単位の修得証明書を、学位審査課まで提出する必要があります。

この証明書が提出されない限り、「修得単位の審査」は終了しませんので、該当する単位修得証明書を同封の封筒を使用し簡易書留で、4月1日（金）までに提出してください。

（修得見込みの単位を修得できずに当該証明書が発行されない場合には、その旨を記載したメモを提出してください。）

期限までに提出がない場合の可否判定は、「不合格」となりますのでご注意ください。

記

修得単位の審査	未確定 <small>※単位修得証明書の提出が必要です</small>
学修成果・試験の審査	可

担当：学修審査第1係
TEL 042-353-1550

(出典 学生課)

(資料 5 - 8 - - 7)

「専攻科修了生のTOEIC取得一覧, および外部資格・総合試験結果」

TOEIC取得一覧 (20)

専攻科名	氏名	テスト種類等	点 数	取得年月日
電気システム工専攻科		公開試験	413	平成16年1月21日
"		16年度ITテスト	370	平成16年10月29日
"		公開試験	398	平成16年5月23日
"		16年度ITテスト	470	平成17年1月18日
"		公開試験	545	平成16年1月21日
"		16年度ITテスト	360	平成16年9月1日
"		16年度ITテスト	380	平成16年10月29日
"		16年度ITテスト	480	平成16年5月23日
"		公開試験	440	平成16年3月18日
"		公開試験	360	平成16年3月18日
"		公開試験	485	平成16年1月21日
"		公開試験	492	平成16年3月18日
"		16年度ITテスト	315	平成17年1月18日
"		16年度ITテスト	365	平成16年10月29日
"		16年度ITテスト	395	平成16年9月1日
"		16年度ITテスト	475	平成17年1月18日
"		公開試験	385	平成16年3月18日
"		公開試験	488	平成16年3月18日
"		16年度ITテスト	405	平成16年9月1日
電気システム工専攻科		16年度ITテスト	400	平成16年10月29日
"		16年度ITテスト	468	平成16年10月29日
"		公開試験	418	平成16年3月18日
"		公開試験	385	平成16年3月18日
"		公開試験	478	平成16年1月21日
"		16年度ITテスト	495	平成16年9月1日
"		16年度ITテスト	348	平成17年1月18日
"		16年度ITテスト	318	平成16年9月1日
"		公開試験	418	平成16年3月18日
"		16年度ITテスト	400	平成17年1月18日

※平成17年2月24日現在の最新状況

外部資格又は総合試験 (16)

学生氏名	外部資格	取得年月日	資格取得状況	取得点
4184	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4183	CAD利用技術検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	15年度
4181	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4184	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4184	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4186	基本情報技術者試験	経済産業省	合格	04/12/19
4129	基本情報技術者試験	経済産業省	合格	04/12/19
4113	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4113	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4112	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	05/1/18
4112	CAD利用技術検定1級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4114	CAD利用技術検定1級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4118	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4117	CAD利用技術検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4114				04/12/19
4172	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	05/1/18
4171	パソコンリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	05/1/18
4171	基本情報技術者試験2級	経済産業省	合格	04/12/19
4122	キーボード操作技能検定	加賀県工業会	合格	
4122	キーボード操作技能検定	加賀県工業会	合格	
4122	キーボード操作技能検定	加賀県工業会	合格	
4124	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4124	パソコンコンピュータリテラシー検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4122	キーボード操作技能検定	加賀県工業会	合格	
4126	CAD利用技術検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	04/12/19
4126	CAD利用技術検定2級	北信濃人パソコンリテラシー検定試験委員会	合格	
4121	キーボード操作技能検定	加賀県工業会	合格	
4121				04/12/19

(出展 平成16年度専攻科修了生のTOEIC取得状況・外部資格総合試験結果)

(資料 5 - 8 - - 8)

「達成度評価の事例」

③

「環境生産システム工学」教育プログラムの学習教育目標達成度ポイント算出シート

生産システム専攻 中 学籍番号: [] 氏名: [] 志趣 No. []

授業科目名	単位	達成度ポイント						全点	履修科目の達成度ポイント合計科目のポイントを記載する					備考		
		A5	A3	A2	A1	A0	合計		A5	A3	A2	A1	A0			
応用数学	2						0									
工学基礎特論	2						40									
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		16	16	24	24				計65の達成度
電子基礎	2						20									
電気回路	2		10	10	24	24	0		8	8	16	40				
電子工学	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
計算機基礎	2		10	10	24	24	0		24	12	36	72				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0									本専攻の共通科目は16単位に満たない場合は16単位と見做す
システム工学	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				計65の達成度
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		16	16	32	64				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		4	4	8	16				4単位の履修1, 2, 3, 4単位で、5, 6, 7, 8単位と見做す
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		4	4	8	16				
電子工学	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				環境システムと環境ネットワークの2単位で、(計)環境システムとす
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
電子工学	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		12	12	24	48				
環境工学概論	2		10	10	24	24	0		8	8	16	32				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2	4	8				
環境工学概論	1		5	5	12	12	0		2	2						

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の基本理念，教育目標から全てのカリキュラムを計画し，これがシラバスに明記され，学生に周知されている。とくに，創造性を育成する「ものづくり教育」については，社会の要請により，デザインマインドを持つ人材の育成を行っている。

(改善を要する点)

専攻科は，未だ設置以来数年（平成10年度設置）であるので，今後さらにカリキュラムの充実と教育改善に当たる必要がある。

(3) 基準5の自己評価の概要

全ての授業が本校の教育理念に沿って計画されている。また，学術の発展動向，社会の要請を考慮に入れ，カリキュラムの改訂にあたっている。これらは，シラバスや学生便覧で学生への周知を図っている。また，シラバスには本校の教育目標と各授業の係わり合いについて定量的に示している。

本校は「創造性豊かな人材の育成」を基本理念に掲げ，これらに関する授業を数多く行っている。たとえば，本科低学年の「ものづくり科学」では学生が自分で研究計画を行い，教員の指導によって遂行し，最後にプレゼンテーションを行うPBL授業によって，創造性を涵養する基礎教育を行っている。本科や専攻科の講義・実験・演習でも「ものづくり」を意識した様々な実験・演習を取り入れている。さらに本科4年・専攻科1年のインターンシップにより実務を通して創造性の高まる経験を積むように工夫されている。これらの集大成として，本科5年では卒業研究を行っている。

成績評価は公開されているシラバス等に沿って客観的に実施され，単位認定・卒業・修了判定が実施されている。卒業研究や特別研究でも，指導教員による積極的な指導・客観的な評価が行われている。

人間の素養の涵養は，昭和41年度から本校の教育方針に掲げたものであり，担任制度による平素の指導のほか，低学年における「特別活動」，正課外のクラブ活動，学寮における指導などで行っている。

専攻科課程においても，本校の基本理念，教育目標から授業構成を行っているため，自ずから本科準学士課程の教育との連携が図られたカリキュラムとなっている。また，インターンシップを行い，就労体験を経験させると共に，学習意欲の喚起を行っている。特別研究は産官学共同テーマなどをもとに，学生が自分で研究方法を考え，社会での発表など本校の教育理念を具現するものとなっている。

修了認定は，達成度評価方法により学生自身によるチェックや専攻科委員によるチェックを経て，最終的に教員会議にて修了認定が行われるので，適正なものとなっている。

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6 - 1 - : 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

< 準学士課程 >

（観点に係る状況）

教育上の目的を達成するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや卒業要件の変更等は（前出資料 4 - 2 - - 2）に示す教務委員会で審議され（資料 6 - 1 - - 1）、（資料 6 - 1 - - 2）に示す教員会議で報告されている（資料 6 - 1 - - 3）。進級については、学年毎に修得すべき単位数を修得できない場合等は、（前出資料 5 - 3 - - 1，別添「学生便覧」4 頁）、（前出資料 5 - 3 - - 2，別添「学生便覧」6 頁）及び（前出資料 5 - 3 - - 3，別添「学生便覧」100 頁）に示されるように原級留置（留年）となるが、教務に関する申し合せ事項（前出資料 5 - 3 - - 4）による進級認定会議（資料 6 - 1 - - 4）における審議の上仮進級が認められた場合は、（資料 6 - 1 - - 5）のように次年度以降の指導により合格とすることができ、卒業要件を満たしたことが卒業認定会議（資料 6 - 1 - - 6）において承認された場合のみ卒業が認められている。

（資料 6 - 1 - - 1）「学則（教育課程）の改正に関する教務委員会議事録（抜粋）」

議 事 録

会議の名称	教務委員会	平成 16 年度（第 7 回）
日 時	平成 16 年 10 月 13 日（水）	16 時 00 分～16 時 30 分
出席者	会議構成員 15 名（定員 15 名）	その他の職員 2 名 計 17 名
会 場	会議室	
議題等	1. 審議事項 (1) 学則の一部改正について 委員長から資料 NO.1 に基づき説明があり、審議の結果、電気工学科選択科目「通信情報工学Ⅱ」を「情報通信工学Ⅱ」に修正して承認された。また、平成 17 年度 1 年生に於いては、工学基礎コースが各学科との混合学級になるため、教科書、参考書、定期試験、シラバスを統一するよう委員長から依頼があった。	

（出典 教務委員会議事録）

(資料 6 - 1 - - 2) 「福井工業高等専門学校教員会議規程」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教員会議規程)	
○福井工業高等専門学校教員会議規程	
(昭和41年4月1日) (規程第8号)	
改正 昭和43年8月31日規程第3号 昭和49年4月11日規程第8号	昭和47年4月26日規程第2号 昭和55年3月24日規程第3号
<p>(設置)</p> <p>第1条 本校に教員会議を置く。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 教員会議は、校長の命を受けて次の事項を審議する。</p> <p>一 校長の諮問した事項</p> <p>二 学生の入学、卒業、修業その他学籍の異動に関する裁定</p> <p>三 請願書の制定及び改善</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 教員会議は、専任の教授、助教授、講師及び助手をもって組織する。</p> <p>1 教員会議の議長は、校長が任命する。</p> <p>2 議長の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、引き継ぎ2年を超えることはできない。</p> <p>3 校長は、教員会議に出席する。</p> <p>4 教員会議の議長は、教員会議に教員以外の者の出席をもとめてその意見をきくことができる。</p> <p>(議長の職務)</p> <p>第4条 教員会議の議長は、案件の受付・調整、会議の運営等にあたる。</p> <p>(会議)</p> <p>第5条 教員会議は、毎月1回定例日に開催する。ただし、議程の都合により定例の教員会議を開催しないことがある。必要があるときは、臨時に開催することができる。</p> <p>(庶務)</p> <p>第6条 本会議の庶務は、庶務課庶務係が処理する。</p>	
96	D (福井高等三) 九六

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教員会議規程)	
<p>この規程は、昭和41年4月1日から施行する。</p> <p>附 則 (昭和43年8月31日改正)</p> <p>この規程は、昭和43年8月31日から施行する。</p> <p>附 則 (昭和47年4月26日改正)</p> <p>この規程は、福井工業高等専門学校事務組織規程の一部を改正する規程 (昭和47年規程第1号) の施行の日 (昭和47年4月1日) から施行する。</p> <p>附 則 (昭和49年4月11日改正)</p> <p>この規程は、福井工業高等専門学校学則の一部を改正する規則 (昭和49年規則第2号) の施行の日 (昭和49年4月11日) から施行する。</p> <p>附 則 (昭和55年3月24日改正)</p> <p>この規程は、昭和55年4月1日から施行する。</p>	
97	D (福井高等三) 九七

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 96頁)

(資料 6 - 1 - - 3) 「学則(教育課程)の改正に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

11月定例教員会議議事要旨	
日 時	平成16年11月25日(木) 15時00分～16時10分
場 所	合併教室
出席者	校長、議長：森、副議長：原田、構成員67名(欠席10名) 計70名
列席者	事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、学生課専門員、庶務係長、教務係長、庶務主任
I 報告事項	
1. 校長報告	
1) JABEE実地審査結果について 校長から、JABEE実地審査(10月31日～11月2日)についての報告があり、教職員への謝辞があった。	
2) 平成17年度校務分掌について 校長から、資料1に基づき報告があった。	
3) 平成17年度非常勤講師の任用について 校長から、平成17年度非常勤講師任用の際には、「任用の説明責任が果たせること」、「任用時間数は本年度より平均10%下回ることに留意してほしい旨の依頼があった。また、非常勤職員の採用についても同様である旨の説明があった。	
4) 平成16年度秋季東海・北陸地区国立高等専門学校校長会議について 校長から、資料2に基づき報告があった。	
5) 「平成16年度教育環境要望調査アンケート」について 校長から、資料3に基づき報告があった。	
2. 教務主事報告	
1) 福井工業高等専門学校学則の一部を改正する規則(案)の制定について 教務主事から、資料4に基づき報告があった。	

(出典 教員会議議事要旨)

(資料 6 - 1 - - 4) 「進級認定に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

3月定例教員会議議事要旨											
日 時	平成17年3月23日(水) 13時30分～14時15分										
場 所	合併教室										
出席者	議長：下條，構成員66名(欠席11名)計69名										
列席者	庶務課長，学生課長，庶務係長，学生課専門員，庶務主任，教務係員										
議 事	I 審議事項										
	1. 平成16年度進級認定について										
	教務主事から、資料1(当日配布)に基づき、不合格基準及び進級認定基準について説明があり、審議の結果、原案が了承された。										
	なお、原級留置者数及び仮進級者数は次のとおりである。										
学科名	原級留置者数					仮進級者数					合計
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計	
機械工学科	0	1	1	4	6	1	6	3	2	12	18
電気工学科	0	0	1	1	2	3	3	3	4	13	15
電子情報工学科	0	0	1	0	1	4	8	8	9	29	30
物質工学科	0	0	2	1	3	2	2	3	3	10	12
環境都市工学科	0	0	1	3	4	4	1	1	1	7	11
合 計	0	1	6	9	16	14	20	18	19	71	87

(出典 教員会議議事要旨)

(資料 6 - 1 - - 5) 「仮進級及び進級認定に関する学則の運用基準(抜粋)」

第8 仮進級者の仮進級の解除及び進級認定に関する事項

- 1 教務に関する申合事項「第7 進級及び卒業に関する事項」第2項(1)ア(7)に定める仮進級については、次のとおり取扱うものとする。(平成8.9.19)
 - (1) 仮進級者の不合格科目は、適切な指導により1年未満で合格させることができる。(平成8.9.19)
 - (2) (1)において、学年末成績締切日までに合格とならなかった科目は、その年度の不都合科目の一つとして算入する。(平成8.9.19)
 - (3) 仮進級のまま年度途中で退学願を出した者は、前年度の学年を修了したものとみなすことができる。(平成8.9.19)
- 2 教務委員会で判定し、校長の決裁を経たものについては、その都度学科主任及び学級担任に通知する。(昭和55.4.17)
- 3 教官会議への報告は、卒業認定会議(教官会議)及び進級認定会議(教官会議)の資料をもって代える。(昭和55.4.17)

(出典 教務に関する申し合せ事項集 9頁)

(資料 6 - 1 - - 6) 「卒業認定に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

3月臨時教員会議議事要旨

日 時 平成17年3月10日(木) 15時00分～15時10分

場 所 合併教室

出席者 校長, 議長: 原田 構成員69名(欠席8名)計71名

列席者 事務部長, 庶務課長, 学生課長, 学生課専門員, 庶務係長, 教務係長, 庶務主任

議 事

1. 審議事項

1. 平成16年度卒業認定について

教務主事から、資料1(当日配布)に基づき、卒業認定条件等の説明があり、学科ごとに審議の結果、原案が了承された。

卒業者数は次のとおりである。

機 械 工 学 科	3 8 名
電 気 工 学 科	4 0 名
電 子 情 報 工 学 科	4 3 名
物 質 工 学 科	3 7 名
環 境 都 市 工 学 科	3 7 名
計	1 9 5 名

(出典 教員会議議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

各学科の目的に沿ったカリキュラムが編成され、進級・卒業に関し明確な基準が設けられており、適切な取り組みがなされている。

< 学士課程 >

(観点に係る状況)

各専攻の教育上の目的を達するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや修了要件の変更等は専攻科委員会（前出資料 4 - 2 - - 5）で審議され、準学士課程同様に教員会議で報告されている。修了要件を満たしたことが修了認定会議（資料 6 - 1 - - 7）において承認された場合にのみ修了が認められている。

(資料 6 - 1 - - 7) 「専攻科修了に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

3月臨時教員会議議事要旨

日 時 平成17年3月2日(水) 16時00分～16時15分
場 所 合併教室
出席者 校長、議長：森 構成員56名(欠席21名)計59名
列席者 事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、学生課専門員、庶務係長、庶務主任

議 事

1. 審議事項

1. 平成16年度修了認定について

専攻科長から、資料1(当日配布)に基づき、修了認定条件等および修了予定者についての説明があり、審議の結果、原案が了承された。

修了者数は次のとおりである。

生産システム工学専攻	19名
環境システム工学専攻	10名
合 計	19名

(出典 教員会議議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

各専攻の目的に沿ったカリキュラムが編成され、修了に関し明確な基準が設けられており、適切な取り組みがなされている。

観点 6 - 1 - : 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

< 準学士課程 >

（観点に係る状況）

（1）科目（単位）取得率

必修科目の不合格科目数及び取得率を（資料 6 - 1 - - 1）に示す。不合格科目数はほぼ第 3 学年でピークを示しているが、過去 5 年で比較すると減少傾向を示している。

（2）進級（卒業）率及び原級留置率

（資料 6 - 1 - - 2）に仮進級率，原級留置率，進級率を示す。（1）で述べたように，不合格科目の減少により，仮進級率，原級留置率共に減少傾向がみられる。

（3）退学率

進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項（前出資料 5 - 3 - - 4）による原級留置や，学生からの進路変更等の希望によって年度途中や，学年末に退学する学生が現れる。（資料 6 - 1 - - 3）に退学者数，退学率を示す。退学者は（1）で述べた不合格科目数の多い第 3 学年でピークを示しているが，ここ数年減少傾向がみられる。なお，退学者の修了学年の認定については，進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項（資料 6 - 1 - - 4）により行われている。

（4）欠課時数

学生 1 人当たり，1 単位当たりの必修科目の欠課時数を（資料 6 - 1 - - 5）に示す。欠課時数は学年進行と共に多くなっており，減少傾向はみられていない。

（資料 6 - 1 - - 1）「学年別の不合格必修科目数累計と必修科目取得率の経年変化」

学年別の不合格必修科目数累計と必修科目取得率の経年変化

年度	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年		第 5 学年		全学年	
	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率	不合格必修科目数累計	修得率
平成 12 (2000)	15	99.5%	42	98.7%	117	96.3%	94	97.2%	31	98.3%	299	98.0%
平成 13 (2001)	17	99.4%	37	98.9%	116	95.5%	90	97.3%	19	98.9%	279	98.0%
平成 14 (2002)	15	99.5%	31	99.1%	84	97.3%	53	98.3%	15	99.9%	198	98.8%
平成 15 (2003)	9	99.7%	18	99.5%	68	97.4%	57	98.4%	0	100.0%	152	99.0%
平成 16 (2004)	17	99.5%	31	99.1%	41	98.6%	60	98.2%	0	100.0%	149	99.1%
年平均	15	99.5%	32	99.1%	85	97.0%	71	97.9%	13	99.4%	215	98.6%

（出典 学生課）

(資料 6 - 1 - - 2) 「学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化」

学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化

年度	第1学年					第2学年					第3学年				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	11	5.3%	2	1.0%	99.0%	27	13.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.4%	20	9.4%	90.6%
平成13(2001)	15	7.5%	0	0.0%	100.0%	21	10.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.7%	22	10.5%	89.5%
平成14(2002)	11	5.5%	1	0.5%	99.5%	24	11.8%	2	1.0%	99.0%	26	12.3%	11	5.2%	94.8%
平成15(2003)	7	3.5%	1	0.5%	99.5%	8	4.0%	3	1.5%	98.5%	13	6.3%	12	5.9%	94.1%
平成16(2004)	14	7.0%	0	0.0%	100.0%	20	10.0%	3	1.5%	98.5%	18	9.0%	8	4.0%	96.0%
年平均	11.6	5.8%	0.8	0.4%	99.6%	20	9.8%	3.6	1.8%	98.2%	25.4	12.2%	14.6	7.0%	93.0%

年度	第4学年					第5学年					第1～4学年(合計・率は平均)				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	卒業率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	39	19.3%	15	7.4%	92.6%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	112	13.5%	42	5.2%	94.8%
平成13(2001)	31	15.4%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	102	12.5%	44	5.5%	94.5%
平成14(2002)	23	11.9%	8	4.1%	95.9%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	84	10.4%	22	2.8%	97.2%
平成15(2003)	14	6.8%	11	5.3%	94.7%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	42	5.2%	27	3.3%	96.7%
平成16(2004)	19	9.5%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	71	8.9%	28	3.5%	96.5%
年平均	25.2	12.6%	13.6	6.8%	93.2%	0	0%	0.6	0.3%	100%	82.2	10.1%	32.6	4.1%	95.9%

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 3) 「学年別の退学者数・退学率の経年変化」

学年別の退学者数・退学率の経年変化

年度	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		全学年	
	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率
平成12(2000)	1	0.5%	4	1.9%	14	6.3%	10	5.0%	1	0.5%	30	2.8%
平成13(2001)	1	0.5%	3	1.4%	20	9.5%	13	6.4%	1	0.5%	38	3.7%
平成14(2002)	1	0.5%	1	0.5%	15	7.0%	3	1.5%	3	1.6%	23	2.2%
平成15(2003)	1	1.0%	1	0.5%	11	5.2%	8	3.8%	1	0.5%	23	2.2%
平成16(2004)	0	0.0%	1	0.5%	9	4.5%	9	4.3%	0	0.0%	19	1.9%
年平均	0.8	0.5%	2.0	1.0%	13.8	6.5%	8.6	4.2%	1.2	0.6%	26.6	2.6%

退学者数=年度途中退学者数+学年末退学者数

退学率=(退学者数/学生数)×100

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 4) 「修了に関する規則(抜粋)」

- 3 原学年に留められた者の修了に関する運用について (昭和 55. 7. 17)
- (1) 原学年に留められることが決定した者が、その年度の 3 月 31 日までに退学を願ったときは、当該学年の修了を認めることがある。
- (2) (1)において、次の者は、当該学年の修了を認めない。
- ア 第 5 学年である者
- イ 学則別表第 1 及び別表第 2 及び取扱規則第 2 条に規定する必修科目及び選択必修科目並びに学年別修得単位数を満たすに必要な選択科目の学年成績のうち次の者 (平成 7. 3. 16)
- (ア) 不可の科目が 5 科目を超える者
- (イ) 欠課時数が年間授業総時数の 3 分の 1 を超える科目がある者
- ウ 特別活動の欠課時数が、年間総時数の 3 分の 1 を超える者
- (3) (2)のイの(イ)及びウに該当した者でも、やむを得ない事情がある場合は、(2)にかかわらず、教務委員会及び進級認定会議(教官会議)で審議し、当該学年の修了を認めることがある。

(出典 教務に関する申し合せ事項集 8 頁)

(資料 6 - 1 - - 5)

「学年別の必修科目の学生 1 人当たり・1 単位当たりの平均欠課時数の経年変化」

学年別の必修科目の学生1人当たり・1単位当たりの平均欠課時数の経年変化

年度	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年
平成14 (2002)	0.42	0.82	1.07	1.18	1.8	0.96
平成15 (2003)	0.55	0.75	1.25	1.21	1.89	1.03
平成16 (2004)	0.30	0.76	0.80	1.30	2.18	0.92

1単位=90分×15回の履修

90分×1回の講義を欠席=欠課時数として2

第5学年の卒業研究は除く

(出典 学生課)

(5) 資格試験取得状況

資格試験取得状況を(資料6-1-6)に示す。資格取得者数は年々増加している。平成15年度には、技術士補(技術士1次試験)に環境都市工学科5年生が水道部門、電気工学科3年生が最年少で電気・電子部門、平成16年度には環境都市工学科5年生が上下水道部門と建設部門に1名ずつ合格している。また、実用英検と工業英検は(前出資料5-1-8)に示すように、単位の修得認定や単位振り替えを行い、取得を奨励している。

(資料6-1-6) 「取得した資格と取得者数の変化」

各種資格取得者数

年度	資格名	取得者数
平成12 (2000)	機械設計技術者(3級)	6名
	火薬類取扱保安責任者	1名
	電気主任技術者(3種)	1名
	デジタル工事担当者(1種)	1名
	デジタル工事担当者(3種)	1名
	デジタル技術検定(制御)	2名
	情報処理技術者(1種)	2名
	情報処理技術者(2種)	4名
	情報処理技術者(初級システムアドミニストレータ)	1名
	危険物取扱者(乙種全類)	5名
	測量士補	5名
	実用英検(準2級)	18名
	実用英検(2級)	1名
	工業英検(3級)	15名
	計	63名
平成13 (2001)	機械設計技術者(3級)	7名
	電気主任技術者(3種)	3名
	X線作業主任者	7名
	アナログデジタル工事担当者(総合種)	1名
	電気工事士(2種)	1名
	デジタル技術検定(3級)	1名
	基本情報技術者	4名
	初級システムアドミニストレータ	5名
	情報処理活用能力検定(J検)	1名
	危険物取扱者(乙種全類)	8名
	測量士	1名
	測量士補	8名
	実用英検(準2級)	8名
	実用英検(2級)	2名
	実用英検(準1級)	1名
工業英検(3級)	21名	
計	79名	
平成14 (2002)	機械設計技術者(3級)	12名
	電気主任技術者(3種)	2名
	X線作業主任者	3名
	画像情報処理(2級)	1名
	画像情報処理(3級)	1名
	CG検定(2級)	1名
	CG検定(3級)	1名
	ソフトウェア開発技術者	1名
	カラーコーディネーター検定試験(3級)	1名
	初級システムアドミニストレータ	8名
	基本情報技術者	14名
	危険物取扱者(乙種全類)	9名
	測量士	1名
	測量士補	11名
	CAD利用技術者試験(2級)	15名
実用英検(準2級)	3名	
実用英検(1級)	1名	
工業英検(3級)	30名	
工業英検(2級)	1名	
計	116名	

年度	資格名	取得者数
平成15 (2003)	初級システムアドミニストレータ	8名
	機械設計技術者(3級)	19名
	電気主任技術者(3種)	2名
	X線作業主任者	2名
	基本情報技術者	8名
	第2種放射線取扱主任者	1名
	画像情報処理(3級)	3名
	CG検定(2級)	1名
	CG検定(3級)	2名
	電気工事士(2種)	2名
	歴史能力検定(3級)	1名
	工事担当デジタル(1種)	1名
	マルチメディア検定(2級)	1名
	デジタル技術検定(2級情報部門)	1名
	MIDI検定(3級)	2名
国内旅行業務取扱主任者	1名	
危険物取扱者(乙種全類)	9名	
CAD利用技術者試験(2級)	9名	
公害防止管理者(水質関係第一種)	1名	
技術士補(水道部門)	1名	
技術士補(電気・電子部門)	1名	
測量士補	4名	
実用英検(準2級)	16名	
実用英検(2級)	2名	
工業英検(3級)	36名	
計	134名	
平成16 (2004)	機械設計技術者(3級)	30名
	CAD利用技術者試験(2級)	52名
	CAD利用技術者試験(3級)	6名
	色彩コーディネータ(2級)	1名
	色彩コーディネータ(3級)	1名
	画像処理検定(2級)	1名
	画像処理検定(3級)	1名
	CG検定(2級)	3名
	第三種電気主任技術者	3名
	ソフトウェア開発技術者	2名
	基本情報技術者	7名
	初級システムアドミニストレータ	4名
	デジタル技術検定(2級情報部門)	11名
	デジタル技術検定(2級制御部門)	6名
	デジタル技術検定(3級)	20名
デジタル技術検定(4級)	2名	
危険物取扱者(乙種全類)	11名	
ビジネス検定(3級)	1名	
測量士	1名	
測量士補	10名	
技術士(1次)建設部門	1名	
技術士(1次)下水道部門	1名	
英語検定(準2級)	1名	
工業英検(3級)	1名	
第二種電気工事士	8名	
計	185名	

(出典 学生課)

(6) 各種競技大会等の受賞状況

(資料6-1-7)に高専体育大会, アイデア大会ロボットコンテスト, 学協会による優秀学生の表彰状況等を示す。最近5年間では, 高専体育大会においては, テニスや卓球の全国大会優勝, アイデア大会ロボットコンテストにおいては, 全国大会での特別賞受賞, また, 5年生の中から, 各学協会から毎年10名ほどの学生が本校の推薦により表彰されている。

(資料6-1-7) 「各種大会成績一覧(平成16年度)

各種大会等成績一覧(5/5)

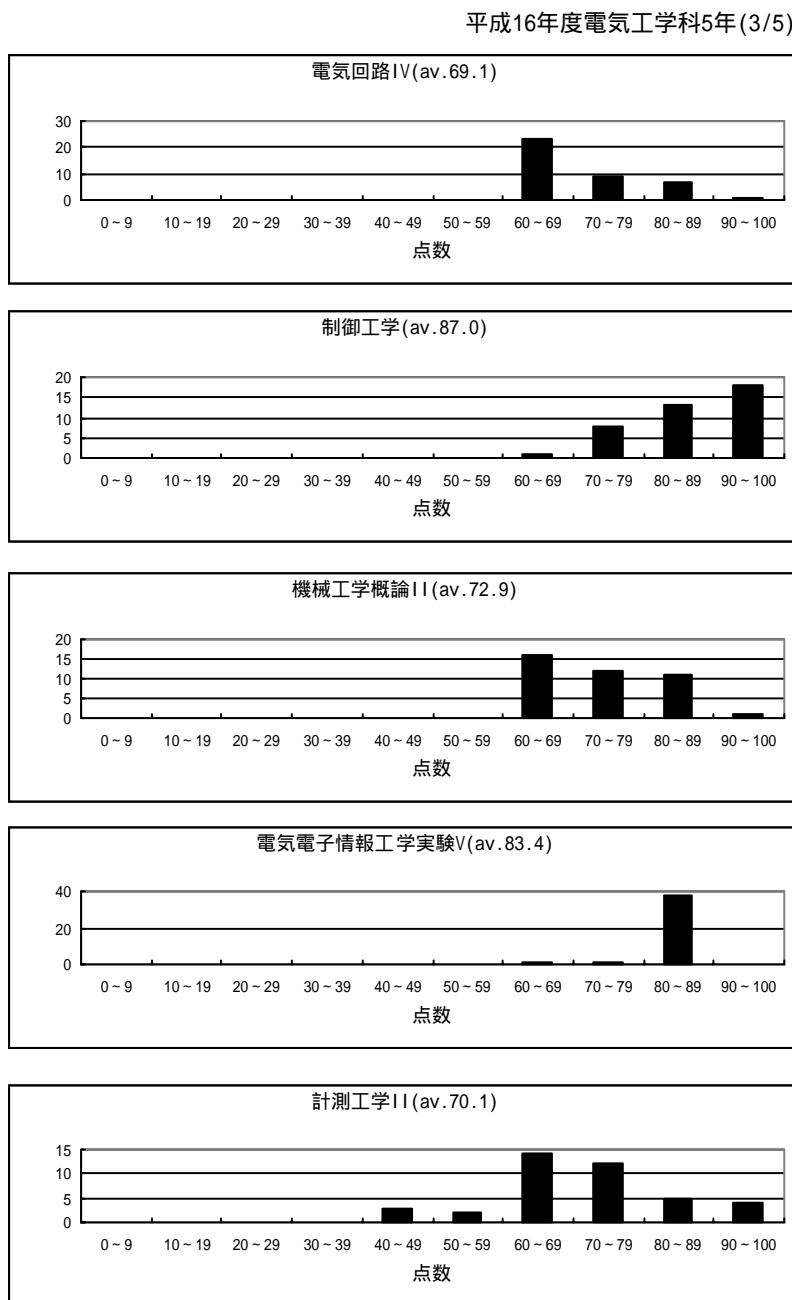
年度	大会名	成績
平成16 (2004)	福井県高等学校春季総合体育大会	柔道男子個人、81kg級5位、90kg級5位 柔道女子個人、63kg級3位
		水泳男子(50m自由型)5位、(100m自由型)3位、(400m自由型)6位、8位、(100m背泳ぎ)8位、(200m平泳ぎ)6位、(100mバタフライ)5位、(200m個人メドレー)4位、(400mフリーリレー)5位、(400mメドレーリレー)5位、(800mフリーリレー)4位
		水泳女子(400mフリーリレー)4位
	第39回北陸地区高等専門学校体育大会	女子バレーボール優勝、最優秀選手、優秀選手 卓球団体優勝、男子ダブルス3位
		水泳総合優勝、男子(50m自由型)優勝、3位、(100m自由型)優勝、2位、(200m自由型)優勝、(400m自由型)2位、(800m自由型)優勝、3位、(100m平泳ぎ)優勝、(200m平泳ぎ)優勝、2位、(100mバタフライ)3位、(100m背泳ぎ)優勝、2位、(200m個人メドレー)2位、(400mリレー)優勝、(400mメドレーリレー)優勝
		水泳女子(400mリレー)3位
		女子ソフトテニス団体優勝
		女子テニス団体優勝、シングルス優勝、2位、ダブルス優勝
		陸上総合4位、男子(1500m)3位、(5000m)3位、砲丸投3位
		男子バレーボール3位、優秀選手
		男子バスケットボール2位
		女子バスケットボール3位
		男子ソフトテニス団体3位
		男子テニス団体3位
		野球2位
		サッカー4位
		男子バトミントン団体4位
		女子バトミントン団体3位、シングルス3位、ダブルス2位
		男子剣道団体2位
		女子剣道団体2位、女子個人2位、3位
		柔道男子団体4位、個人60kg級3位、73kg級2位
		女子柔道団体2位、個人52kg超級2位
	ラグビー3位	
	ハンドボール3位	
	第39回全国高等専門学校体育大会	女子テニスシングルス優勝、ダブルス優勝 水泳男子(400mメドレーリレー)9位、(100m自由型)2位
	アイデア対決ロボットコンテスト2004	東海北陸地区大会準優勝、全国大会2回戦
	優秀学生賞	日本機械学会畠山賞 電気学会北陸支部優秀学生賞 電子情報通信学会北陸支部優秀学生賞(2名) 日本電気技術者協会北陸支部優良卒業生 情報処理学会北陸支部優秀学生賞 映像情報メディア学会北陸支部優秀学生賞 日本化学会北陸支部優秀学生将(2名) 全国高専土木工学会近藤賞 福井高専土木工学科環境都市工学科同窓会翔土会賞
OPEN-R TECHNO FORUM 2004 IN PJAPAN		エンターテイメント競技(2位)
第10回マグネットコンテスト		準アイデア賞(1名)、佳作(1名)、奨励賞(1名)、努力賞(1名)
第1回さばえめがねwakuコンテスト		奨励賞(5名)
ふくいソフトウェアコンペティション2004		福井県ソフトウェア奨励賞

(出典 学生課)

(7) 成績評価の分布

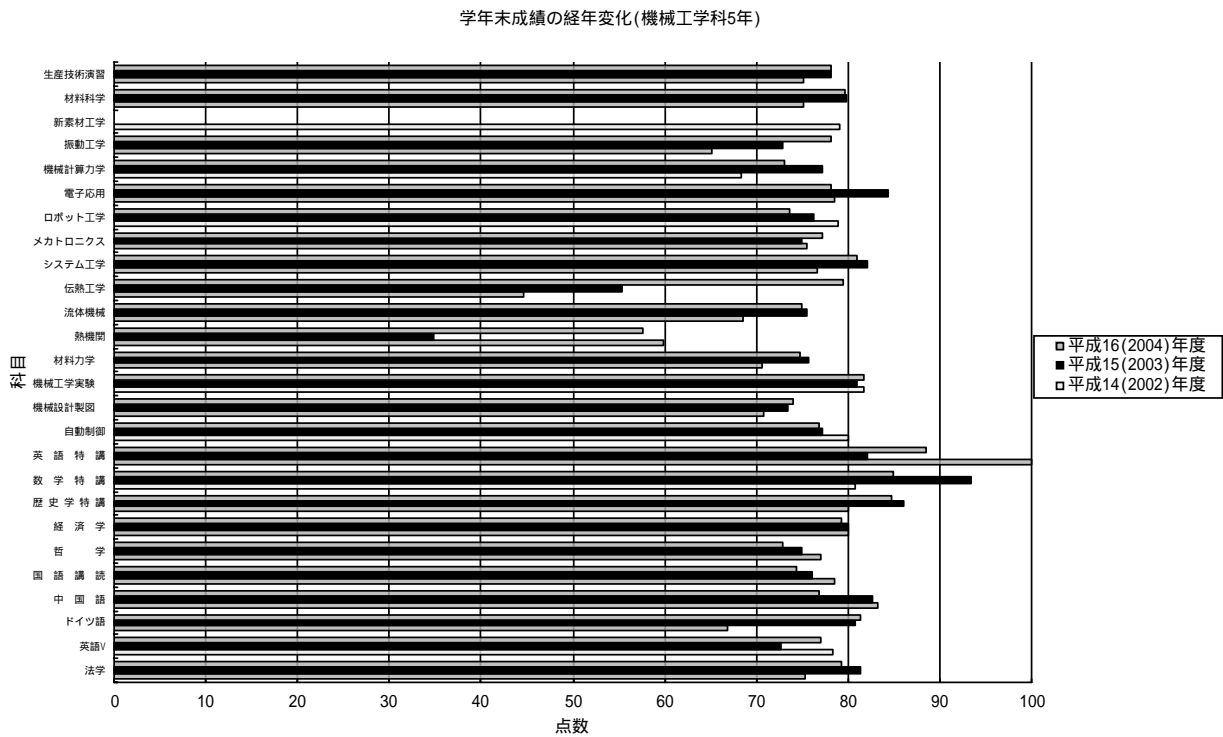
例として、平成16年度電気工学科5年生の、学年末成績の5科目の10点刻みの分布表(資料6-1--8)及び、機械工学科5年生の最近3年間の学年末成績の平均点(資料6-1--9)を示す。成績は絶対評価であるために、左右対象の分布はしていないが、平均点は一部の選択科目を除き、ほとんどの科目が70点~80点の間に保持されている。従って、全科目を平均した学科・学年ごとの学年末平均点も(資料6-1--10)のように約75~80点の間で保持されている。

(資料6-1--8) 「学年末成績の分布の例」



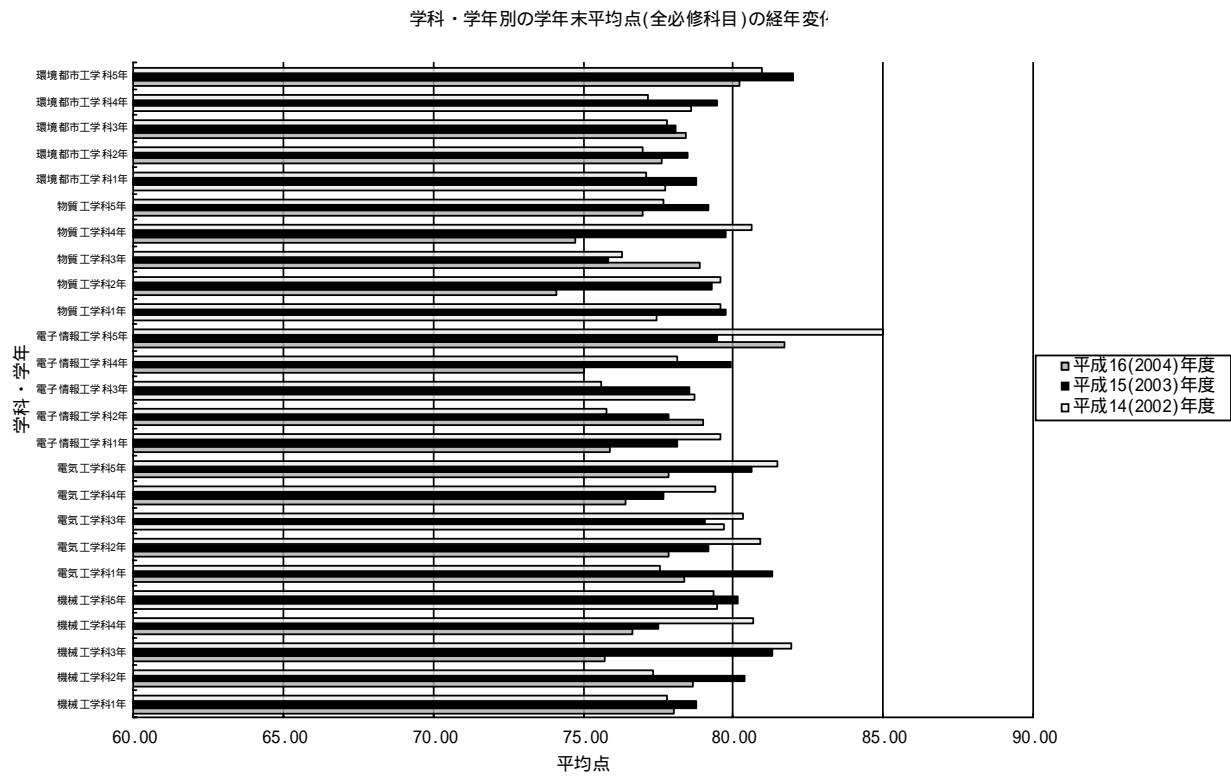
(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 9) 「機械工学科の科目ごとの学年末成績の経年変化」



(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 10) 「学科・学年ごとの学年末成績の経年変化」



(出典 学生課)

(8) 卒業研究

卒業研究の教員 1 名あたりの指導学生数は 2 ～ 6 名と少人数であり，5 学年の 4 月に研究室への配属が行われ，10 月頃の中間発表会や 2 月の卒業研究論文製作を経て，3 月の卒業研究発表会で総括している。卒業研究の口頭発表は（資料 6 - 1 - - 1 1）の評価シートにより厳正に行われている。卒業研究論文のテーマ一覧を（資料 6 - 1 - - 1 2）に示す。

(資料 6 - 1 - - 1 1) 「卒業研究発表会要旨集の表紙の例と評価シート」

平成 16 年度

物質工学科卒業研究報告会

主催 独立行政法人
国立 福井工業高等専門学校
物質工学科

日時：3月3日(月) 9:00～16:30
3月4日(火) 9:00～12:15

場所：大講義室

発表形式：口頭発表
発表時間：10分 討論 5分 (1人)
15分 5分 (2人)

平成 年 月 日

卒業研究発表会評価シート

テーマ名 _____ 学生氏名 _____

① 聴衆を意識しながら、口頭発表が論理的に展開されているかどうか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)発表タイトルと発表者が明確に示され、発表するのにおよむしい関係であるか
(2)聴衆の方向を向けて発表し、話している内容とスライドの内容が一致しているか
(3)スライド1枚1枚を丁寧に説明し、またスライドにある文句は復述しているか
(4)発表の最終部分で内容の要約を説明しており、その順序のとおりと発表されているか
(5)最初に結論（問題提起と解決策の要約）があり、その結論に到達するように発表されているか

② 研究目的に対する研究方法を計画するにあたり、適切な実験・解析方法が選択できているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)研究目的を理解しているか
(2)複数の実験・解析方法から選択しているか
(3)選択した実験・解析方法の長所を理解しているか
(4)選択した実験・解析方法の長所を理解しているか
(5)選択した実験・解析方法が適切であるか

③ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性、および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)求めることが出来た結果の評価を行っている口頭発表であるか
(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討している口頭発表であるか
(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及している口頭発表であるか
(4)求められたデータの詳細結果から、研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されている口頭発表であるか
(5)求められたデータの詳細結果から、研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されている口頭発表であるか

④ 聴衆の質疑に対して適切に回答出来ているか
(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)発表時間を遵守したか
(2)聴衆の意見に即って質疑応答したか
(3)質問を真摯に聞き、その内容を把握しに努めたか
(4)質問内容に応じた回答を行ったか
(5)回答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか

審査員署名 _____

(出典 物質工学科)

(資料 6 - 1 - - 1 2) 「卒業研究テーマ一覧(例)」

物質工学科(平成16年度本科卒業研究)

学生氏名	研究課題	指導教官
小阪 知柄	和紙褐色化に関する研究	上島 晃智
齊藤 杏奈	有機溶媒中での生化学変換	
橋詰久美子	害虫忌避コーティング剤の繊維への利用	
飛田 喬也	有用微生物群を用いた河川の浄化	
安達健太郎	トコロアオイ保存剤の有効な処理法の研究	小泉 貞之
大堂 充	トコロアオイに保存剤の劣化緩和、並びに有効な処理法の研究	
山崎 彰子	生態試料中の微量コバルトの簡易測定とその応用	
内山 優佳	位置特異的N-エチルプロトポリフィリンの多段階合成	松井修一
藤沢 潤一	キラルアミドのリチオ化を利用する光学活性な -メチレン- β -ブチロラクタン誘導体の合成	
渡辺 充	合成化学的手法を用いるヘム異常代謝反応経路の解明-アポミオグロビンの不正認識についての検討	
江端 博之	廃セルロース・スラッジを利用した浄化石の開発	吉村 忠與 志
坂下 裕一	生ゴミからの塩分抽出に関する研究	
坂下 佳隆	インターネットによるおい発信システムの構築	
真柄 順治	廃セルロースからのグルコースを経由したアルコールの生成	
馬田 理加	[Cr(L-leu)2(L- or D-met)]の合成と光学分割	吉村 芳武 片岡 裕一
八木 祐介		
酒井 邦晃	新規ウエットプロセスによる CoNiFe/p-Si(100)系軟磁性膜の開発	常光 幸美
堀江 寛紀		
中村明日香	ナノめっき炭素繊維強化アルミニウム複合材料の開発	杉森 大助
前田 望	新規キャパシタ用ナノめっき賦活炭素複合材料の開発	
井藤 有美	Pseudomonas s.p. KS3.2由来新規ポスポリパーゼCに関する研究	
坂口 徹	低温性油脂分解微生物の探索	杉森 大助
牧田 美佐	新規ポスポリパーゼA1の探索及び精製条件の検討	
田中 良典	Flebobacterium 由来有機リン加水分解酵素を細胞表面に発現した酵母の創製	高山 勝己
宮川 聖		
本田 康輔	各種バイオマス資源の有効利用に関する研究-セルロースの糖化とコネリ型菌による有機酸生成-	津田 良弘
田嶋 マキ	Tripyrrrene/a.c-Biladiene 経路を用いたND-アルキルメゾポリフィリンの多段階合成	
吉川 翔		
藤本 一念	シクロヘキセンの電解エポキシ化	加藤 敏 野村 栄市
神佐 澄人	アニオン・ノニオン混合界面活性剤における界面化学的性質	
高橋 加奈	無電解めっき法による傾斜機能希土系水素吸蔵合金の作成	
野村 浩平	乳化重合における軟水溶性モノマーの移動現象	
山室 幸司	半回分乳化重合法による高分子乳化剤の合成	松井 栄樹
久保 慎弥	メゾ位に硫黄原子を有するカリックスピロールの合成	
櫻田 康浩	安定なポリフィリノーゲンを經由するポリフィリンの合成	
西村 幸子	機能性フタロシアニン色素を用いる蛍光プローブの開発	松井 栄樹
山本志津子	ポリフィリン-フタロシアニン複合系色素の開発	

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

科目取得率の向上傾向, 原級留置率や退学率の低下傾向, 資格取得者の増加, 卒業研究の水準などから判断し, 教育の実績や効果が上がっていきといえる。

< 学士課程 >

(観点にかかるといえる状況)

(1) 専攻科修了要件

専攻科の修了要件は, (前出資料 5 - 8 - - 1, 別添「専攻科シラバス」03頁) に示されるように, 平成17年度修了生からは, 本校が定める「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件を満たすことが義務づけられており, この修了要件には学士(工学)の取得が義務づけられている。従って, (資料 6 - 1 - - 1 3) に示した専攻科修了生の学士号取得率は, 平成17年度修了生からは100%となる。

(資料 6 - 1 - - 1 3) 「専攻科修了生の学士号取得率」

専攻科修了生の学士号取得率

修了年度	専攻	系	修了生数	学士号取得者数	取得率
平成12 (2000)	生産システム 工学	機械系	6	6	100.0%
		電気系	3	3	100.0%
		電子情報系	1	1	100.0%
	環境システム 工学	物質系	6	6	100.0%
		環境系	9	9	100.0%
計			25	25	100.0%
平成13 (2001)	生産システム 工学	機械系	7	6	85.7% *1
		電気系	5	5	100.0%
		電子情報系	3	3	100.0%
	環境システム 工学	物質系	0	0	—
		環境系	7	4	57.1% *2
計			22	18	81.8%
平成14 (2002)	生産システム 工学	機械系	7	7	100.0%
		電気系	4	4	100.0%
		電子情報系	3	2	66.7% *2
	環境システム 工学	物質系	5	5	100.0%
		環境系	5	5	100.0%
計			24	23	95.8%
平成15 (2003)	生産システム 工学	機械系	4	4	100.0%
		電気系	7	6	85.7% *1
		電子情報系	8	8	100.0%
	環境システム 工学	物質系	4	4	100.0%
		環境系	9	9	100.0%
計			32	31	96.9%
平成16 (2004)	生産システム 工学	機械系	9	9	100.0%
		電気系	6	6	100.0%
		電子情報系	4	4	100.0%
	環境システム 工学	物質系	6	6	100.0%
		環境系	4	4	100.0%
計			29	29	100.0%
総計(平均)			132	126	95.5%

*1：計2名は修了後取得

*2：計4名は未取得で修了

(出典 学生課)

(2) 専攻科修了生が社会から要請される水準の考慮方法

(資料 6 - 1 - - 1 4) に示したような、平成15年度の技術士一次試験問題に対する専攻科修了時点での解答能力の調査がなされ、専攻科修了生は技術士一次試験をほぼクリアできると判断されている。さらに、技術者教育プログラムとしての認定(前出資料 5 - 8 - - 2, 別添「専攻科シラバス」16頁)は、デザイン能力, コミュニケーション能力もまた社会から要求されている水準以上であることを示している。

(資料 6 - 1 - - 1 4) 「専攻科修了生技術士レベルチェック」

本校専攻科修了生の技術士レベル調査報告書

H16.7.8

物質工学科 小泉貞之

平成 15 年度技術士一次試験をもとに本校の講義レベルと専攻科修了時における学生の実力調査を行った結果をまとめます。

技術士一次試験の問題は、「基礎科目」、「共通科目」、「適性科目」、「専門科目」に分かれています。本校の専攻科を修了しますと現時点でも「共通科目」は免除されます。また、「専門科目」について以前(平成 16 年 3 月)調査しましたところ、本科の 5 年生でも 7 割以上の得点が予想されました。この調査以前に技術士の一次試験を受験した学生に聞きますと、一次試験に対しては「基礎科目」と「適性科目」がキーポイントと教えてくれました。従って、本校教員の講義レベルと専攻科修了学生の実力レベルを調べるために、平成 15 年度技術士一次試験の「基礎科目」と「適性科目」を全教員に配布し、講義レベルと学生の実力レベルについて調査しました。

一次試験の合格基準は、「適性科目」は 15 問必須で 5 割以上、「基礎科目」と「専門科目」がそれぞれ最低 4 割以上、この 2 科目の平均 5 割以上となっています。すなわち、1 割は、「専門科目」で「基礎科目」をカバーできるということです。また、「基礎科目」は 30 問程度出題され、各群(設計計画・情報論理・解析・材料バイオ・技術関連の 5 群)から各 3 問選択(合計 15 問)となっています。従って、合格するには、「適性科目」が 8 問以上、「基礎科目」が 6 問以上(「専門科目」で残りをカバーすると考えて)ということになります。

各科のデータの求め方を説明します。

平成 15 年度技術士一次試験(「基礎科目」及び「適性科目」)の各問に対し、各教員が担当している講義(実験・演習を含む)において、専攻科修了時点で、学生の 8 割以上が正解を得ることができるものを A と記録していただきました。これを 2 ポイントとしました。5 割以上の正解を得ることができるものを B とし、これを 1 ポイントとしました。C については、0.3 ポイントとしました。

各問に対し、合計 4 ポイント以上あれば、実力レベル欄に◎と記載しました。すなわち、2 つの講義等で 8 割以上の解答が予測できると言うことは、正解が得られる可能性が 100% と考えたわけです。同様に 2 ポイント以上であれば、実力レベル欄に○と記載しました。1 ポイント以上を△で記載しました。1 ポイント以下は×としました。

全問対象の得点予想の欄は、◎は完全に解答でき、○は 50% 解答でき、△は 25% 解答できるものとして計算しました。各群 3 問選択した場合の得点予想の欄には、解答できる問題を選択したと仮定して計算しました。

講義レベルについても、同様に行いましたが、予想得点の項には考慮しませんでした。

上のデータをまとめた物が、技術士試験のレベルチェック一覧表です。

各科とも「適性科目」(50%以上であること)については、完全にクリアできると思います。「基礎科目」(40%以上であること。但し、専門科目との合計は 50%以上)については、該当科目に選択科目が含まれていることから、明確には断言できませんがほぼクリアできると考えられます。下の表は、各問題の数をまとめたものですが、同様のことが言えます。

技術士一次試験のレベルチェック一覧(平成 15 年度)

		M 科	E 科	E I 科	C b 科	C m 科	B 科
基礎科目	一群 設計計画	33%	42%	83%	33%	33%	100%
	二群 情報論理	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	三群 解析	75%	83%	83%	100%	100%	83%
	四群 材料バイオ	67%	83%	83%	100%	100%	67%
	五群 技術関連	50%	67%	67%	83%	83%	100%
	平均	73%	83%	83%	83%	83%	90%
適性科目		62%	63%	90%	63%	63%	92%

技術士一次試験の解答能力(平成 15 年度)

		M 科	E 科	E I 科	C b 科	C m 科	B 科
基礎科目	100% 解答できる問題数	6 問	9 問	10 問	11 問	11 問	12 問
	50% 解答できる問題数	7 問	4 問	5 問	3 問	3 問	3 問
	25% 解答できる問題数	1 問	1 問	0 問	0 問	0 問	0 問
適性科目	100% 解答できる問題数	4 問	5 問	12 問	4 問	4 問	11 問
	50% 解答できる問題数	10 問	8 問	3 問	10 問	10 問	3 問
	25% 解答できる問題数	1 問	2 問	0 問	1 問	1 問	1 問
	解答できない問題数	0 問	0 問	0 問	0 問	0 問	0 問

(出典 JABEE 自己点検報告書 資料編 3 - 2 - 12 頁)

(3) 専攻科の修了率と退学率

(資料6-1-15)に専攻科の修了率と退学率を示す。進路変更等により平均14%程度の学生が退学している。専攻科の修了要件に学士(工学)やTOEIC400点相当の取得が義務づけられたことから、平成17年度以降の修了生の退学率(未修了率)の増加がやや懸念される。

(資料6-1-15) 「専攻科生の修了率と退学率」

専攻科の各年度入学生の修了率と退学率

入学年度	専攻	系	入学者数	修了者数	退学者数	修了率	退学率
平成12 (2000)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	5	5		100.0%	0.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	2	0	2	0.0%	100.0%
		環境都市系	9	7	2	77.8%	22.2%
計			26	22	4	84.6%	15.4%
平成13 (2001)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	4	3	1	75.0%	25.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	5	5		100.0%	0.0%
		環境都市系	9	5	4	55.6%	44.4%
計			28	23	5	82.1%	17.9%
平成14 (2002)	生産システム工学	機械系	4	4		100.0%	0.0%
		電気系	8	7	1	87.5%	12.5%
		電子情報系	8	8		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	6	4	2	66.7%	33.3%
		環境都市系	10	9	1	90.0%	10.0%
計			36	32	4	88.9%	11.1%
平成15 (2003)	生産システム工学	機械系	9	9		100.0%	0.0%
		電気系	8	6	1	75.0%	12.5%
		電子情報系	6	4	2	66.7%	33.3%
	環境システム工学	物質系	7	6	1	85.7%	14.3%
		環境都市系	4	4		100.0%	0.0%
計			34	29	4	85.3%	11.8%
平成16 (2004)	生産システム工学	機械系	6			0.0%	0.0%
		電気系	4			0.0%	0.0%
		電子情報系	7		1	0.0%	14.3%
	環境システム工学	物質系	3			0.0%	0.0%
		環境都市系	9		1	0.0%	11.1%
計			29	0	2	0.0%	6.9%
平成12-15年度専攻科入学生累計(率は平均)			124	106	17	85.2%	14.0%

平成15年度入学生(生産システム工学専攻・電気系)が1名休学中のため入学者数と(修了者数+退学者数)は一致しない

修了率=(修了者数/入学者数)×100

退学率=(退学者数/入学者数)×100

(出典 学生課)

(4) 学外研究発表

本校の「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件には、特別研究による成果を外部へ発表することが義務付けられている。(資料6-1- -16)に外部発表一覧を示す。

(資料6-1- -16) 「専攻科修了生の学外研究発表」

平成16(2004)年度専攻科修了生の学外発表一覧

専攻	氏名	発表題目	発表機関	発表年月日	発表場所	左記以外の各学協会での学外発表件数
生産システム工学	天谷 徹	ステップモータ駆動システムの低振動を目的とした速度曲線の研究	福井高専 (技術シーズ発表会)	平成16年8月 25日-26日	鯖江ギャラ リー新	1
"	蟻塚 悠記	工業材料のe-learning教材の開発	"	"	"	
"	大村 規之	オーロラ発生時のCNAと電離層活動の関連性	"	"	"	
"	小笠原 貴行	Cu-Sn-黒鉛系複合焼結材料の材料特性に及ぼす黒鉛粒径の影響	"	"	"	1
"	兼田 知明	携帯電話を持って街に出かけよう! M-EVENT.NETのご紹介	"	"	"	1
"	金田 直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリッパ軸受の運動特性	"	"	"	1
"	黒木 修二	クライアント作成補助システムの開発 - RoboCupシミュレーションリーグ -	"	"	"	
"	桑原 真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	"	"	"	
"	清水 大輔	電源電圧波形が変圧器騒音に与える影響	"	"	"	2
"	高橋 恵一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間の潤滑解析	"	"	"	
"	出口 光晴	化学結合から見たランガサイト及び置換型化合物の圧電性能	"	"	"	1
"	苗田 祐一	自然対流の可視化とシミュレーション	"	"	"	
"	永田 章子	ビデオカメラを用いた3D動作計測システムの制作	"	"	"	
"	馬場 孝彰	凍結昇華法による高分子溶液の円管内流れの微視的構造	"	"	"	1
"	松村 浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザー加工に関する研究	"	"	"	
"	松本 茜	極細放電管の水銀輸送現象	"	"	"	
"	森 健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	"	"	"	1
"	山崎 裕也	三相巻鉄心型変圧器の交流磁気特性	"	"	"	2
"	吉岡 謙治	量子計算機シミュレータの開発 - グローバーのアルゴリズム -	"	"	"	1
環境システム工学	浅井 美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	"	"	"	1
"	笈田 智弘	生体試料中のクロムの簡易測定とその応用	"	"	"	2
"	淡海 陽子	(R)-2-フェニルプロピオン酸メチルに対して高い立体選択性を有する糸状菌由来エステル加水分解酵素の精製	"	"	"	1
"	大川 拓哉	生命回網と目標生態性の評価について	"	"	"	3
"	大嶋 利治	スチレンの乳化重合反応における連鎖移動剤の拡散挙動	"	"	"	1
"	葛葉 俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	"	"	"	
"	酒井 隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一提案 - 樹木根系の斜面安定性への影響 -	"	"	"	1
"	塚谷 智章	牡蠣殻を混入した酸性発土の支持力特性	"	"	"	1
"	中浦 真澄	繊維材料における微生物親和性の試験法の確立	"	"	"	1
"	中村 宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	"	"	"	3

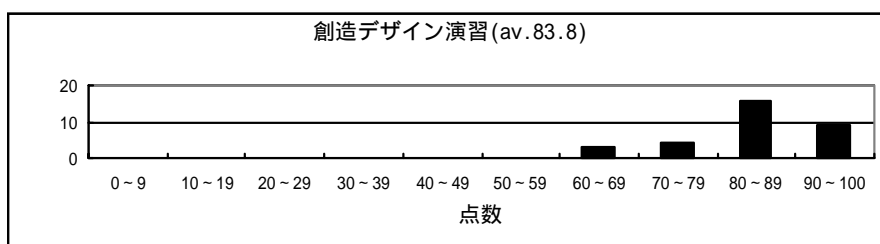
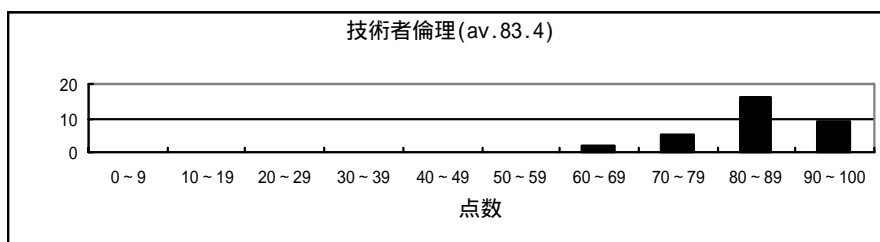
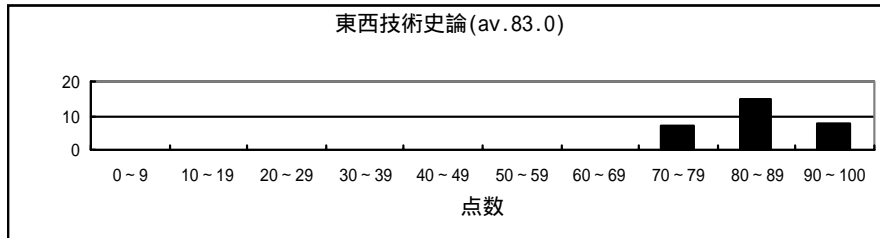
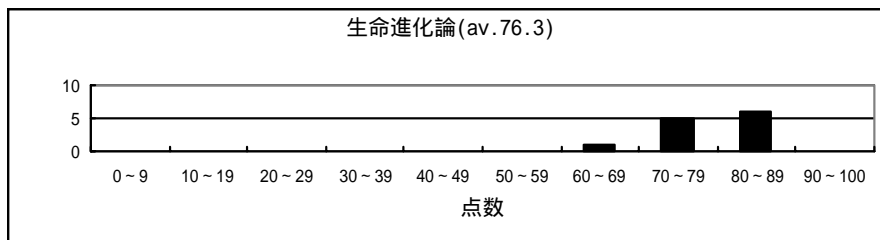
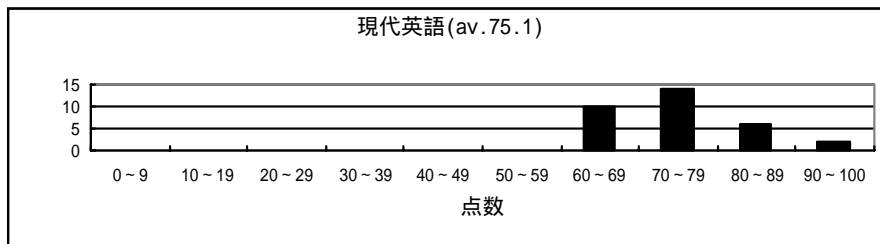
(出典 学生課)

(5) 成績評価の分布

例として、平成16年度専攻科1年生の学年末成績の5科目の10点刻みの分布表(資料6-1-17)及び、専攻科生産システム工学1年生の最近3年間の学年末成績の平均点(資料6-1-18)を示す。成績は絶対評価であるために、左右対象の分布はしていないが、ほとんどの科目が70点~90点の間に保持されている。

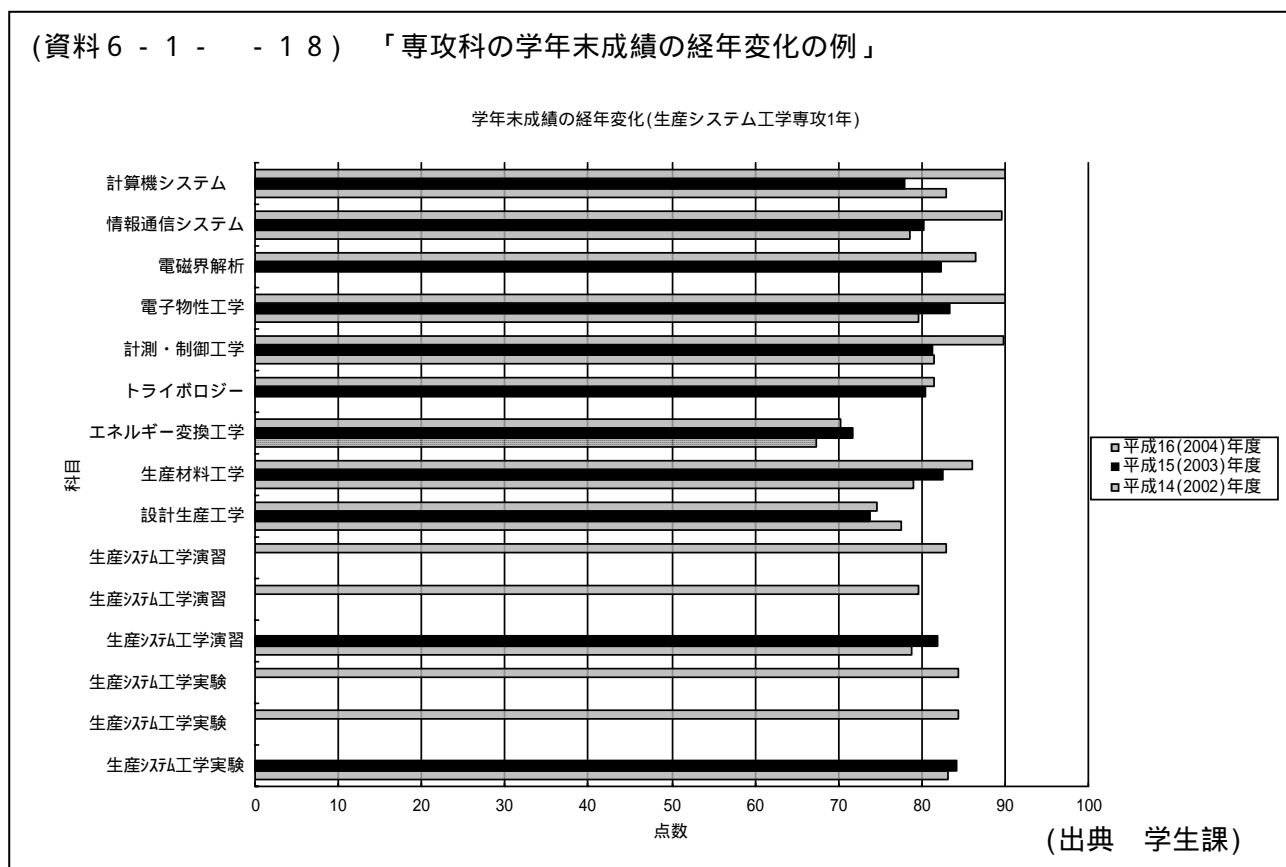
(資料6-1-17) 「専攻科成績評価の分布の例」

平成16年度専攻科共通1年(1/3)



(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 18) 「専攻科の学年末成績の経年変化の例」



(6) インターンシップ

平成17年度から専攻科の修了要件となったインターンシップは、報告会(前出資料5-5-3)での審査により合否判定されている。

(7) 特別研究

特別研究の教員1名あたりの指導学生数は1~3名と少人数である。専攻科2年次の4月に(資料6-1--19)及び(資料6-1--20)に示すような専攻科特別研究中間審査会が行われ、専攻科2年次の2月の研究発表会と(資料6-1--21)に示すような2月発行の論文集で特別研究を総括している。特別研究は現在(資料6-1--22,別添「専攻科シラバス」46頁)の評価シートによる厳正な評価が行われている。専攻科特別研究論文のテーマ一覧を(資料6-1--23)に示す。

(資料 6 - 1 - - 19) 「平成 16 年度専攻科特別研究中間発表会のチェックシート」

**平成 16 年度
度福井工業高等専門学校
専攻科(環境システム工学)
物質工学系 特別研究中間報告会**

プログラム
はじめに 専攻科長 吉村 忠与志

発表順

めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	浅井 美由紀
直溝中のクロムの簡易測定とその応用	坂田 豊弘
高立位選択的加水分解能を有する新規脂質分解酵素の探索	浅香 陽子
乳化重合における連鎖移動剤の物質移動現象	大嶋 利治
二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	尾藤 俊文
繊維材料における生物親和性の試験法の確立	中浦 真澄
総評	物質工学科主任 松井 修一

会場 専攻科棟 講義室 1(3F)
日時 平成 16 年 4 月 23 日 14:30~
発表時間 15 分
討論時間 5 分
(1 鈴発表終了 1 分前、2 鈴発表終了、3 鈴討論終了)
発表形態 パワーポイント (各自で準備すること)

審査項目
報告会における発表および質疑応答状況(口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか)について、次の各項目で評価する。評価は各項目とも 5段階で行なう。専攻科 1 年生に対しては、⑥の項目についてのみ評価を行なう。

- ① 予稿集(適切に書かれているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ② 発表の論理的展開(聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ③ 発表時間の適正(伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ④ 発表態度(堂々として相手を見つめようとしているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑤ 質疑応答 1(聴衆の質疑に対して適切に回答できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑥ 質疑応答 2(発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)

平成 16 年 4 月 23 日

福井工業高等専門学校 専攻科(環境システム工学)
物質工学系 特別研究中間報告会 審査評価シート (1/4)

学生氏名 []

報告会における発表および質疑応答状況(口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか)

- ① 予稿集(適切に書かれているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ② 発表の論理的展開(聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ③ 発表時間の適正(伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ④ 発表態度(堂々として相手を見つめようとしているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑤ 質疑応答 1(聴衆の質疑に対して適切に回答できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑥ 質疑応答 2(発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)

コメント

学生氏名 []

- ① 予稿集(適切に書かれているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ② 発表の論理的展開(聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ③ 発表時間の適正(伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ④ 発表態度(堂々として相手を見つめようとしているか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑤ 質疑応答 1(聴衆の質疑に対して適切に回答できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)
- ⑥ 質疑応答 2(発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか) (よい、ややよい、普通、ややわるい、わるい)

コメント

審査員署名 []

(出典 専攻科委員会)

(資料 6 - 1 - - 20) 「平成 17 年度専攻科特別研究中間発表会の案内」

平成 17 年度
専攻科特別研究中間発表会

平成 17 年 4 月 20 日 (木)

生産システム工学専攻
(機械系)

時間: 16:00~17:35
会場: 専攻科棟 3F 講義室 1

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	公共交通機関と乗り自転車との組み合わせによる移動システムの研究	松 勇純	井上 清一
(2)	分子動力学法による亀裂生成に関する微視的解析	小泉 賢剛	芳賀 正和
(3)	PIEを用いたライントラッキングロボットの制御	佐々木 遼	西崎 保夫
(4)	生体親和性材料アパタイトの作製と物性評価	中本 純平	北浦 守
(5)	閉管急縮小部を流る高分子溶液の流れ	藤田 裕介	藤田 克志
(6)	種質薄膜のフェムト秒レーザープロセッシング	山口 光弘	安丸 尚樹

(電気系)

時間: 15:45~16:45
会場: 専攻科棟 3F ザミ 3

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	SrAl ₂ O ₇ :Eu ²⁺ 蛍光体における光電流の感度依存性	上柳 健治	北浦 守
(2)	磁束線形が磁石の磁束及び磁質に与える影響	小池 啓利	新谷 邦弘
(3)	レーザー光を用いた遠隔放射による傾斜度検出	田中 正一	原田 望
(4)	多層カーボンナノチューブの電導特性	山本 真葉	川本 悠

(電子情報系)

時間: 15:40~
会場: 電子情報工学科棟 3F 講義室 503

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	ユース管理システムの導入と改善	東 裕貴	藤田 昇
(2)	非行者誘導装置のための汎用 GPS デバイスの開発	馬田 悠一	高橋 徹
(3)	中世陶磁器の Web データベースシステムの構築	西崎 裕貴	藤原 正敏
(4)	画像処理を用いた環境の状況システム	野見益夫	高橋 徹

(5)	ベンチのシミュレーションにおける調整	細井 眞文	下條 隆史
(6)	ORL を用いた産卵モデルのシミュレーション	吉田 勝徳	高久 有一

環境システム工学専攻
(物質系)

時間: 15:50~16:50
会場: 専攻科棟 3F 講義室 2

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	有機リン農薬を細胞膜上で分解・検知する新規バイオセンサーの開発	北口 哲也	高山 勝己
(2)	電気分解法と微生物分解法を用いた有色染料廃液の分解	高橋 尚也	高山 勝己
(3)	シクロヘキセンの電解不飽和化	理川 翼	鎌田 良弘

(環境都市系)

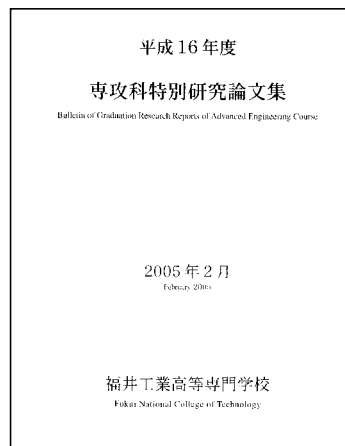
時間: 15:40~17:15
会場: 環境都市工学科棟 3F 演習室

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	地形測量システムによる三次元都市空間モデルの構築	岡高 裕樹	辻野 和彦
(2)	平成 16 年度福井県用災害の洪水解析について	岡田 和之	広部 英一
(3)	武生市におけるホテルの生息調査及びその評価	加藤 大介	島村 友司
(4)	直行矩形格子を用いた流体中を移動する物体の数値計算法	菊 雅志	田安 正茂
(5)	疎集力学への個別要素法の適用	高橋 圭太	阿部 孝弘
(6)	交差路の構築	西坂 友大	武井 幸久
(7)	城壁の劣化監視の可能性について	吉田 達哉	辻子 裕二

(出典 専攻科委員会)

(資料 6 - 1 - - 2 1)

「平成 1 6 年度専攻特別研究論文集の表紙」



(出典 平成 1 6 年度専攻特別研究論文集)

(資料 6 - 1 - - 2 3) 「専攻科特別研究のテーマ一覧(平成 1 6 年度)」

専攻科特別研究(平成16年度)
生産システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
天谷 徹	低振動化を目的としたステッピングモータの速度曲線の研究	吉崎 保夫
蟻塚 悠記	工業材料のe-learning機能付加デジタル図鑑の開発	安丸 尚樹
大村 規之	オーロラ発生時のCNAと電離層活動の関連性	前川 公男
小笠原貴行	Cu-Sn-黒鉛焼結材料の機械的性質と摩擦摩耗特性に及ぼす黒鉛サイズと添加量の影響	加藤 寛敬
兼田 知明	携帯電話を用いた社会学習支援のためのWebアプリケーションの構築	大久保 茂
金田 直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリッパ軸受の運動特性	田中嘉津彦
黒木 修二	RoboCupシミュレーションリーグにおけるクライアント作成補助システムの開発	青山 義弘
桑原 真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	青山 義弘
清水 大輔	電圧波形が変圧器鉄心の磁歪および騒音に与える影響	新谷 邦弘
出口 光晴	量子材料設計による材料の機能性の予見 - 化学結合から見たランゲイトと置換型化合物の圧電性能 -	北浦 守
高橋恵一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間摺動部の潤滑解析	田中嘉津彦
苗田 祐一	非圧縮性流体内に発生する自然対流の可視化と数値解析	芳賀 正和
永田 章子	デジタルビデオカメラを用いた3D動作計測システム	井上 清一
馬場 孝彰	凍結昇華法による円管内流れの高分子溶液の微視的構造のフラクタル解析	藤田 克志
松村 浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザープロセッシング	安丸 尚樹
松本 西	極細水銀放電管における水銀スペクトルの温度特性	井上 昭浩
森 健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	原田 望
山崎 裕也	三相巻鉄心変圧器における素材特性と磁気特性	新谷 邦弘
吉岡 謙治	量子計算機シミュレータの開発	下奈 雅史

環境システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
浅井美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	常光 幸美
笈田 智弘	黒鉛炉原子吸光法による人血清中の微量クロムの簡易的定量法の確立	小泉 貞之
淡海 陽子	2-フェニルプロピオン酸メテルに対して(R)-選択的加水分解能を有する新規エステラーゼの探索と精製	杉森 大助
大川 拓哉	目標生態性の設定と小動物を指標とする生態性評価の方法	武井 幸久
大嶋 利治	スチレンの乳化重合に及ぼす連鎖移動剤の溶解度の影響	加藤 敏
葛葉 俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	吉村忠與志
塚谷 智章	粉碎した牡蠣殻と安定剤とを混合した酸性土の支持力特性	山田 幹雄
酒井 隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一考察 - 樹木根系の斜面安定性への影響 -	辻子 祐二
中浦 真澄	繊維材料における生物親和性の試験法の確立	吉村忠與志
中村 宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	吉田 雅穂

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

平成 1 6 年度修了生の中で、「環境生産システム工学」教育プログラムを修了した専攻科修了生は J A B E E による技術者教育プログラム修了生として認定されている。また、学外研究発表、学士号取得率、特別研究の水準から判断して、教育の実績や効果が上がっているといえる。

(資料 6 - 1 - - 2) 「本科卒業生の進路の内訳」

平成12(2000)年度 本科卒業生の進路

(人)

進路	就職	進学	その他	計
学科	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	21 (57%)	15 (40%)	1 (3%)	37 (100%)
電気工学科	21 (50%)	18 (43%)	3 (7%)	42 (100%)
電子情報工学科	27 (61%)	13 (30%)	4 (9%)	44 (100%)
物質工学科	14 (42%)	18 (55%)	1 (3%)	33 (100%)
環境都市工学科	24 (60%)	13 (33%)	3 (7%)	40 (100%)
計：()内は割合	107 (55%)	77 (39%)	12 (6%)	196 (100%)

平成13(2001)年度 本科卒業生の進路

(人)

進路	就職	進学	その他	計
学科	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	22 (61%)	14 (39%)	0 (0%)	36 (100%)
電気工学科	23 (56%)	16 (39%)	2 (5%)	41 (100%)
電子情報工学科	16 (46%)	15 (43%)	4 (11%)	35 (100%)
物質工学科	15 (45%)	17 (52%)	1 (3%)	33 (100%)
環境都市工学科	21 (50%)	17 (41%)	4 (9%)	42 (100%)
計：()内は割合	98 (55%)	79 (42%)	11 (6%)	187 (100%)

平成14(2002)年度 本科卒業生の進路

(人)

進路	就職	進学	その他	計
学科	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	16 (44%)	18 (50%)	2 (6%)	36 (100%)
電気工学科	14 (42%)	17 (52%)	2 (6%)	33 (100%)
電子情報工学科	13 (38%)	19 (56%)	2 (6%)	34 (100%)
物質工学科	17 (44%)	20 (51%)	2 (5%)	39 (100%)
環境都市工学科	20 (51%)	13 (33%)	6 (16%)	39 (100%)
計：()内は割合	80 (44%)	87 (48%)	14 (8%)	181 (100%)

平成15(2003)年度 本科卒業生の進路

(人)

進路	就職	進学	その他	計
学科	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	19 (50%)	19 (50%)	0 (0%)	38 (100%)
電気工学科	27 (69%)	12 (31%)	0 (0%)	39 (100%)
電子情報工学科	18 (51%)	15 (43%)	2 (6%)	35 (100%)
物質工学科	15 (48%)	16 (52%)	0 (0%)	31 (100%)
環境都市工学科	20 (47%)	15 (36%)	7 (17%)	42 (100%)
計：()内は割合	99 (53%)	77 (42%)	9 (5%)	185 (100%)

平成16(2004)年度 本科卒業生の進路

(人)

進路	就職	進学	その他	計
学科	()内は割合	()内は割合	()内は割合	()内は割合
機械工学科	18 (47%)	20 (53%)	0 (0%)	38 (100%)
電気工学科	20 (50%)	17 (43%)	3 (7%)	40 (100%)
電子情報工学科	24 (56%)	16 (37%)	3 (7%)	43 (100%)
物質工学科	13 (35%)	21 (57%)	3 (8%)	37 (100%)
環境都市工学科	23 (62%)	11 (30%)	3 (8%)	37 (100%)
計：()内は割合	98 (50%)	85 (44%)	12 (6%)	195 (100%)

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 3) 「本科卒業生の就職先の産業別内訳」

就職先(本科)の産業別内訳

機械工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	19	20	12	19	15	85
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	1	4		3	9
公務員	1					1
自営業						0
計	21	22	16	19	18	96

物質工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業		1				1
製造業	13	14	15	14	12	68
電気・ガス・水道			1			1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他			1		1	2
公務員	1			1		2
自営業						0
計	14	15	17	15	13	74

電気工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業	1					1
製造業	12	15	7	15	14	63
電気・ガス・水道	4	6	1	3	2	16
運輸・通信・報道	2		2	5		9
卸売・小売業						0
不動産業				1		1
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	1	4	3	4	13
公務員		1	1			2
自営業		1				1
計	20	24	15	27	20	106

環境都市工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業	1					1
建設業	8	6	4	7	10	35
製造業	3	2				5
電気・ガス・水道						0
運輸・通信・報道	2	1	4	1		8
卸売・小売業						0
金融・保険業				1		1
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	5	6	7	5	7	30
公務員	5	4	7	4	6	26
自営業		2		2		4
計	24	21	22	20	23	110

電子情報工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	11	7	3	9	13	43
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道	3	1		1		5
情報通信業				5	6	11
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	12	7	10	2	5	36
公務員	1					1
自営業						0
計	27	16	13	17	24	97

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 4) 「本科卒業生の進学先の内訳」

進学先(本科)の内訳

年度	学科	進学者総数	進学先			
			大学3年編入		高専専攻科	
			人数	率	人数	率
平成12 (2000)	機械工学科	15	9	60%	6	40%
	電気工学科	18	14	78%	4	22%
	電子情報工学科	13	11	85%	2	15%
	物質工学科	18	13	72%	5	28%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成13 (2001)	機械工学科	14	10	71%	4	29%
	電気工学科	16	9	56%	7	44%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	17	11	65%	6	35%
	環境都市工学科	17	7	41%	10	59%
平成14 (2002)	機械工学科	18	9	50%	9	50%
	電気工学科	17	9	53%	8	47%
	電子情報工学科	19	12	63%	7	37%
	物質工学科	20	13	65%	7	35%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成15 (2003)	機械工学科	19	13	68%	6	32%
	電気工学科	12	8	67%	4	33%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	15	12	80%	3	20%
	環境都市工学科	15	5	33%	10	67%
平成16 (2004)	機械工学科	20	14	70%	6	30%
	電気工学科	17	13	76%	4	24%
	電子情報工学科	16	11	69%	5	31%
	物質工学科	21	15	71%	6	29%
	環境都市工学科	11	4	36%	7	64%
計(率は平均)		404	250	61%	154	39%

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生の進路の割合は、就職が平均 51%、大学3年編入学や高専専攻科への進学が平均 43%、その他(専門学校や短期大学を含め)が平均 6%である。その他の進路の中には進路未定者が年に数名含まれるが、就職・進学・その他(進路未定者を除く)の総計では 98%であり、進路の決定率は高い。就職先の産業別の内訳は、機械工学科・電気工学科・物質工学科では製造業が、電子情報工学科では製造業とサービス業が、環境都市工学科では建設業、サービス業、公務員が多く、学科の特徴を表しており、教育の効果や成果が上がっているといえる。進学先の内訳は、大学3年次編入学が約 60%、高専専攻科(3名を除いて本校専攻科)が約 40%であり、進学先としては本校の専攻科が一番多く、本科と専攻科の連携が図られていることを示している。

< 学士課程 >

(観点に係る状況)

専攻科修了時の就職、進学状況を(資料 6 - 1 - - 5)から(資料 6 - 1 - - 7)に示す。

(資料 6 - 1 - - 5) 「専攻科修了生の進路」

進路一覧(専攻科)			専攻科			
年度	専攻科	専攻科	専攻科	専攻科		
平成12 (2000)	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
		㈱東芝プロセスソフトウェア	ニチレキ㈱		(株)ジークス	酒井化学工業(株)
		㈱鐘淵化学工業㈱	㈱ニコー光学		(株)アートテクノロジー	自営
		㈱メイテック	ミユヤ㈱		サンテクノ(株)	(株)銭高組
		ソニー幸田㈱	福井県庁		(株)山岸	(株)ベンチャービジネス研究所
		㈱福井村田製作所	(社)近畿建設協会		シミズ工業(株)	フシオーネ・テクノ・ソリューションズ(株)
			㈱福井村田製作所		(株)高木製作所	北陸エースコン工業(株)
			グリーン産業㈱		テクナードラボ(株)	(株)帝国コンサルタント
			㈱クオードコーポレーション		(株)ハタシ	(株)キミコン
			日本ユニカー㈱		アスタ(株)	ナチュラルコンサルタント(株)
		福井山田化学工業㈱	(株)カスマ	瓦勝		
		グリーンシェルター㈱	江守商事(株)			
		(株)ネオテクノ				
		(株)フォース				
進学	福井大学大学院	金沢大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	奈良先端科学技術大学院大学		
	京都工芸繊維大学大学院	金沢大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	福井大学 大学院		
	豊橋技術科学大学大学院	福井大学大学院	大阪大学 大学院	富山県立大学 大学院		
	北陸先端科学技術大学院大学		福井大学 大学院			
長岡技術科学大学大学院						
平成13 (2001)	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
		㈱友友研㈱	㈱高野組		(株)テクニカフクイ	株式会社ダイエイ
光精工㈱		自営	(株)大一商会		株式会社帝国コンサルタント	
オンザエッチ		中部興行㈱	(株)フォース		塩野フィネス(株)福井事業所	
植エンジニアリング			(株)ソディックプラスチック		フクビ化学工業株式会社	
J A 越前たけふ			(株)フォース		田中建設株式会社	
馬津メクテム㈱			浜本テクニカル(株)		株式会社道端組	
倉茂電工㈱		労働基準監督官	酒井化学工業株式会社			
ヤマハオートセンター		(株)サーフボード	株式会社ホリカワ			
自営		(株)日産ディーゼル技術研究所	株式会社創造科学研究所			
		日新電機(株)				
進学	奈良先端科学技術大学院大学	横浜国立大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	福井大学大学院		
	富山県立大学大学院		北陸先端科学技術大学院大学			
	福井大学大学院		北陸先端科学技術大学院大学			
その他	福井工業高等専門学校研究生	福井工業高等専門学校研究生	金沢大学大学院			
	デジタルハリウッド(専門学校)	福井工業高等専門学校研究生	大阪外語専門学校			
平成14 (2002)	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	就職	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
		ミツヤ(株)	自営		(株)テクノカフクイ	株式会社ダイエイ
		オリオン電気(株)	(株)辻広組		(株)大一商会	株式会社帝国コンサルタント
		MDS(自営)	(株)ゲイト		(株)フォース	塩野フィネス(株)福井事業所
		(株)エイチアンドエフ	(株)プラス設計開発		(株)ソディックプラスチック	フクビ化学工業株式会社
		福井めがね(株)	エス・イ・コンサル(株)		(株)フォース	田中建設株式会社
		任天堂(株)			浜本テクニカル(株)	株式会社道端組
		福井県警(警察官)			労働基準監督官	酒井化学工業株式会社
		東シヤッター(株)			(株)サーフボード	株式会社ホリカワ
		(株)江守商事			(株)日産ディーゼル技術研究所	株式会社創造科学研究所
			日新電機(株)			
	進学	福井大学大学院工学研究科	福井大学大学院工学研究科	北陸先端科学技術大学院大学	福井大学大学院	
北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科		福井大学大学院工学研究科	北陸先端科学技術大学院大学			
金沢大学大学院自然科学研究科		福井大学大学院工学研究科	金沢大学大学院			
その他	山脇美術専門学校	東京アカデミー札幌校	京都工芸繊維大学大学院			
	福井工業高等専門学校研究生	福井工業高等専門学校研究生	福井大学大学院			

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 6) 「専攻科修了生の就職先の産業別内訳」

専攻科	修了年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業	5	1	1	2	3	12
製造業	9	4	8	5	10	36
電気・ガス・水道						0
情報通信業				4		4
運輸業				2		2
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	5	4	8	5	23
公務員	2		1			4
自営業		2				2
計	17	12	14	21	19	83

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - - 7) 「専攻科修了生の進路の内訳」

平成12(2000)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻	進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学		5 (50%)	5 (50%)	0 (0%)	10 (100%)
環境システム工学		12 (80%)	3 (20%)	0 (0%)	15 (100%)
計	()内は割合	17 (68%)	8 (32%)	0 (0%)	25 (100%)

平成13(2001)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻	進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学		9 (60%)	4 (27%)	2 (13%)	15 (100%)
環境システム工学		3 (43%)	1 (14%)	3 (43%)	7 (100%)
計	()内は割合	12 (54%)	5 (23%)	5 (23%)	22 (100%)

平成14(2002)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻	進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学		9 (64%)	3 (22%)	2 (14%)	14 (100%)
環境システム工学		5 (50%)	3 (30%)	2 (20%)	10 (100%)
計	()内は割合	14 (58%)	6 (25%)	4 (17%)	24 (100%)

平成15(2003)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻	進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学		13 (68%)	4 (21%)	2 (11%)	19 (100%)
環境システム工学		10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	13 (100%)
計	()内は割合	23 (72%)	7 (22%)	2 (6%)	32 (100%)

平成16(2004)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻	進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学		10 (53%)	9 (47%)	0 (0%)	19 (100%)
環境システム工学		9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	10 (100%)
計	()内は割合	19 (66%)	10 (34%)	0 (0%)	29 (100%)

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

修了生の進路の割合は、就職が平均64%、大学院への進学が平均27%、その他が平均9%である。その他の進路の中には進路未定者はおらず、進路決定率は100%である。就職先を産業別で見ると、製造業が多く、次いで、サービス業、建設業であり、各専攻の特徴を示しており、教育の効果や成果が上がっているといえる。

観点 6 - 1 - : 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価を初めて全校挙げて実施したのは平成13年2月であり、その後も継続的に行われており、授業アンケートに対する担当教員のコメントを載せ平成14年度分と平成15年度前期分(前出資料5-2-13)~(前出資料5-2-17)については冊子としてまとめられ、この冊子を学生は各教室や図書館で閲覧することができる。

(分析結果とその根拠理由)

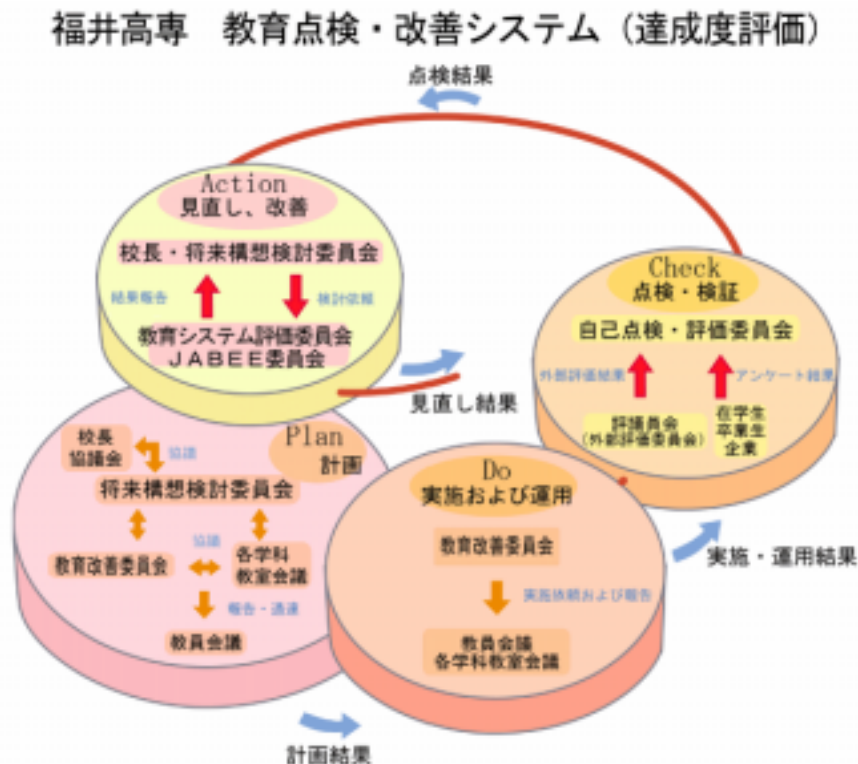
授業アンケートが継続的に行われており、そのなかに科目の目標に対する学生からの達成度評価項目がある。教員は達成度を年々向上させる改善をおこなっているが、向上しているかどうかの学校全体での評価は現在行われていない。このようなことから、教育の効果が上がっているかについては、授業アンケートからの結果からは判断できていない。

観点 6 - 1 - : 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校の教育の達成度評価に関する教育点検・改善システムは(資料 6 - 1 - - 1) ~ (資料 6 - 1 - - 7) 及び(前出資料 6 - 1 - - 2) に示すような構成となっている。卒業（修了）生対象のアンケートが平成 15 年 7 月及び平成 16 年 9 月に実施されている。また、(資料 6 - 1 - - 8) ~ (資料 6 - 1 - - 10) のように、平成 17 年 5 ~ 6 月に平成 14 年度及び 15 年度卒業（修了）生（約 400 名に関し、約 200 の企業・大学に対して）に対する教育達成度アンケートが実施された。

(資料 6 - 1 - - 1) 「教育点検・改善システム(達成度評価)」



(出典 ウェブページ「JABEE への取組」)

(資料 6 - 1 - - 2) 「福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則)

○福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則

(平成元年1月19日)
規 程 第 1 号

改正 平成 3年 2月21日 規程第 1号 平成 3年10月17日 規則第 6号
平成10年 2月17日 規則第 4号 平成14年10月24日 規則第 1号
平成16年 4月 8日 規則第14号

〔設置〕

第 1 条 本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則(昭和54年規則第 2号)第 2 条の 2 に基づき、将来構想検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

〔目的〕

第 2 条 委員会は、本校の将来を展望した方及びそれに即した施設設備の整備 について調査審議する。

〔組織〕

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 主事
- (3) 専攻科長
- (4) 学科(教室)主任
- (5) 図書館長
- (6) 総合情報処理センター長
- (7) 先進技術教育研究センター長
- (8) 教育研究支援センター長
- (9) 事務部長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

〔専門部会〕

第 5 条 第 2 条の審議事項に関する専門的な事項を調査審議するため、委員会に専 門部会を置くことができる。

- 2 専門部会は、その任務が終了したときに解散するものとする。

D
福井高等専門学校
101(100)

100

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則)

〔既設の各委員会への諮問〕

第 6 条 委員会は、必要に応じ、本校既設の各委員会に諮問することができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、庶務課が処理する。

附 則

この規程は、平成元年1月19日から施行する。

附 則(平成3年2月21日改正)

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成3年10月17日改正)

- 1 この規則は、平成3年10月17日から施行し、平成3年7月25日から適用する。
- 2 この規則施行の際、現に設置されている小委員会は、この規則により設置された専門委員会とみなす。

附 則(平成10年2月17日改正)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成14年10月24日改正)

この規則は、平成14年10月24日から施行する。

附 則(平成16年4月8日改正)

この規則は、平成16年4月8日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

D
福井高等専門学校
101(102)

101(102)

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 100頁)

(資料 6 - 1 - - 3) 「福井工業高等専門学校教育改善委員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育改善委員会規則)

○福井工業高等専門学校教育改善委員会規則

(平成15年5月22日)
規 程 第 5 号

〔設置〕

第 1 条 本校に、本校の学習・教育目標を達成するために必要な教育方法及び教育 技術の改善・向上を推進するため福井工業高等専門学校教育改善委員会(以下 「委員会」という。)を置く。

〔委員会の組織〕

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 校長が指名した教官 各学科(教室)1名
- (3) その他校長が特に必要と認めた者

(委員長)

第 3 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

〔委員以外の者の出席〕

第 4 条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を 聴くことができる。

〔委員会の任務〕

第 5 条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 学習・教育目標に基づく教育の実施に関すること。
- (2) 教育効果の現状分析に関すること。
- (3) 教育方法の改善及び教育技術の向上に関すること。
- (4) 教員の業績評価に関すること。
- (5) その他教育改善の推進に関すること。

(庶務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年5月22日から施行する。

D
福井高等専門学校
113

113

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 113頁)

(資料 6 - 1 - - 4) 「福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則)

○福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

(平成11年7月15日)
規則第11号
改正 平成16年4月8日規則第15号

(設置)

第1条 本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則(昭和54年規則第2号)第2条の2に基づき、自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 委員会は、高等専門学校設置基準(昭和36年文部省令第23号)第3条に規定する自己点検・評価を実施する際の必要な事項について審議するものとする。

(委員会の組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 主事
- (3) 専攻科長
- (4) 学科(教室)主任
- (5) 図書館長
- (6) 総合情報処理センター長
- (7) 先進技術教育研究センター長
- (8) 教育研究支援センター長
- (9) 事務部長

(委員長)

第4条 委員に委員長を置き、校長をもって充てる。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長は、必要に応じて委員に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

105

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則)

(委員会の任務)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる事項について企画、検討及び実施する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- (2) 自己点検・評価の項目に関すること。
- (3) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (4) 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (5) その他自己点検・評価に関すること。

(専門部会)

第8条 委員会の所掌事項を専門的に調査検討するため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会に關し必要な事項は、委員会が別に定める。

(自己点検・評価の結果の対応)

第9条 校長は、委員会が実施した自己点検・評価の結果に基づき、必要に応じて第三者の評価を受け、改善が必要と認められるものについては、関係部署に対して、その改善を指示するものとする。

(事務)

第10条 委員会の庶務は、庶務課が処理する。

附 則

この規則は、平成11年7月15日から施行する。

附 則 (平成16年4月8日改正)

この規則は、平成16年4月8日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

106

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 105頁)

(資料 6 - 1 - - 5) 「福井工業高等専門学校評議員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校評議員会規則)

○福井工業高等専門学校評議員会規則

(平成16年5月13日)
規則第21号
改正 平成16年6月3日規則第23号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 評議員会は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 評議員会は、10人以内の評議員で組織する。

- 2 評議員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に關し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。
- 3 評議員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。

(評議員会の開催)

第5条 評議員会は、校長が招集する。

- 2 評議員会は、年1回以上開催するものとする。
- 3 評議員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守衛義務)

第6条 評議員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

98

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校評議員会規則)

第7条 評議員会の庶務は、庶務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則 (平成16年6月3日改正)

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

99

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 98頁)

(資料 6 - 1 - - 6) 「福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則)

○福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則

(平成16年4月8日)
[規則 第18号]

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の学習・教育目標を達成するために必要な教育内容、教育手段及び教育環境等の点検・評価に基づく改善を推進するため福井工業高等専門学校教育システム評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 委員会は、教育システムに関する次の事項を審議する。

- ① 自己点検・評価に基づく改善の指針に関すること。
- ② 外部評価並びに第三者評価に基づく改善の指針に関すること。
- ③ その他教育システムの改善に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

① 教務委員会委員のうちから選出された者	1名	D 福井工業高等専門学校 規則集 111-2
② 指導委員会委員のうちから選出された者	1名	
③ 学務運営委員会委員のうちから選出された者	1名	
④ 専攻科委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑤ JABEE委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑥ 教育改善委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑦ 進路指導委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑧ 図書館運営委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑨ 総合情報処理センター運営委員会委員のうちから選出された者	1名	
⑩ 施設整備部会委員のうちから選出された者	1名	

2 前項に定める委員のほか、校長が特に必要と認めたる者を加えることができる。
(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長が任命する。

111-2

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則)

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。
(庶務)

第6条 委員会の庶務は、庶務課が処理する。
附 則
この規則は、平成16年4月8日から施行する。

111-3

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 111.2頁)

(資料 6 - 1 - - 7) 「福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則)

○福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則

(平成15年5月22日)
[規則 第4号]

(設置)

第1条 本校に、日本技術者教育認定機構(以下「JABEE」という。)における技術者教育プログラムの認定審査に対応するため、福井工業高等専門学校 JABEE 委員会(以下「委員会」という。)を置く。
(委員会の組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 1 教務主任
- 2 専攻科長
- 3 教務委員会委員 若干名
- 4 専攻科委員会委員 若干名
- 5 その他校長が特に必要と認めたる者

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
(委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。
(委員会の任務)

第5条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- ① JABEE の認定審査及び関連する事項の調査に関すること。
- ② その他 JABEE に関すること。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。
附 則
この規則は、平成15年5月22日から施行する。

109

D
福井工業高等専門学校
規則集
111-9

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 109頁)

(資料 6 - 1 - - 8) 「達成度評価アンケートに関する議事録」

議 事 録

会議の名称	教育改善委員会	平成 17 年度 (第 1 回)
日 時	平成 17 年 4 月 12 日 (火) 16 時 30 分～17 時 00 分	
出席者	会議構成員 6 名 [太田、藤田、山本、野村、津田、辻野、小林] その他の職員 2 名 [教務係長、教務係員]	
会 場	主事室	

審議事項等

1. 本科卒業生・専攻科修了生の教育達成度に関するアンケート調査について
卒業生・修了生の教育達成度について進学先及び就職先の各担当宛に調査依頼することとした。
アンケート内容については各学科の当委員が中心となり別紙資料を参考に作成することとした。
アンケートの発送は 4 月下旬から 5 月初旬に行うこととした。
2. 平成 17 年度の役割分担について
別紙案のとおり分担することとした。

(出典 平成 17 年度(第 1 回) 教育改善委員会 議事録)

(資料 6 - 1 - - 9) 「達成度評価アンケートの依頼状とアンケートの例」

平成 17 年 5 月 9 日

企業・大学・専攻科 各担当者各位

福井工業高等専門学校
教育改善委員会

本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度に関するアンケート調査についてお願い

拝啓 新緑の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。
本校における教育・研究につきましては、平素より多大なる御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
本校は、5 年一貫の科学技術教育により、創造力と実践力を持つ技術者を育成することを目的として昭和 40 年(1965 年)に設置された国立高等専門学校です。また、平成 10 年(1998 年)には、さらにこのような本科 5 年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成する目的で 2 年間の課程である専攻科を設置しました。
本校の教育方針は、

1. 技術者として必要かつ十分な基礎的学力と専門技術を修得させる。
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を促す。
4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強い耐久力を育成する。
5. 規律のある日常生活に徹し、明瞭、かつ速な資性の開発を図る。

であり、このような方針のもとに、知育・徳育・体育のバランスの取れた全人教育を目指した以下のような 5 つの教育目標を定めています。

- (1) たくましい人間の育成
- (2) 創造性豊かな人間の育成
- (3) 誠実な人間の育成

さらに、新しい時代の技術者として備えなければならない能力の育成を目標として以下の 5 つの教育目標を掲げました。

- (A) 地球的观点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- (B) 幅広い工学的教養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- (C) 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- (D) 高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- (E) 依頼に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

そこで、このような教育目標を本校の教育に御協力いただいている方々による本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度調査から見直し、さらに社会の要請に応じた人材の育成を目指したいと存じております。御多忙中恐縮ですが、別紙の本科卒業生及び専攻科修了生(学生名及び入社・入学年度はアンケートの項目 4 に記載)に対する教育達成度アンケートにご記入のうえ、同封の返信用封筒により 7 月 1 日(金)までご返送くださるようお願い申し上げます。
アンケートは本校の教育目標の見直し以外の目的には使用することはありませんので、趣意を御理解のうえ、御協力をお願い申し上げます。

敬具

企業等アンケート(機械工学科卒業用)

人物担当者 様

1. 企業名 _____
2. 業種 _____
3. 人事担当者御名 _____
4. 若くは入社した福井高専機械工学科卒業生(若くは入社直前)の学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)
5. 福井高専機械工学科卒業生の教育達成度についてお聞きします。「内からひとつを選んでご記入ください」

- A. 技術者倫理が「満足」(はる満足・やや不足・不足)
- B. 基礎学力が「満足」(はる満足・やや不足・不足)
不足またはやや不足と回答された方はお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
数学・物理・生物・英語・国語・人文社会系科目・その他 () 月
- C. 専門基礎学力が「満足」(はる満足・やや不足・不足)
不足またはやや不足と回答された方はお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
材料学・機械工学・工業力学・材料工学・設計工学・熱工学・系統工学・機械設計・自動制御・その他 () 月
- D. 実践的応用能力が「満足」(はる満足・やや不足・不足)
不足またはやや不足と回答された方はお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
工作科・創造工学演習・機械設計演習・機械工学実験・電気工学実験・その他 () 月
- E. 専門応用能力が「満足」(はる満足・やや不足・不足)
不足またはやや不足と回答された方はお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
計測工学・熱工学・電気工学・制御工学・電子工学・ロボティクス・システム工学・メカトロニクス・卒業研究・その他 () 月
- F. その他、不足している能力 ()

6. 貴社が求める目標達成度についてお聞きします。「内からひとつを選んでご記入ください」
新緑のころの時点で、貴社が求める人材に必要とする能力は?
 - A. 技術者倫理 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - B. 基礎学力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - C. 専門基礎学力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - D. 実践的応用能力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - E. 専門応用能力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない

7. 福井高専機械工学科卒業生(若くは入社直前)の学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)

- A. 福井高専機械工学科卒業生(若くは入社直前)の学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)

- B. 専門応用の卒業生と比べて相対評価として「優秀・やや優秀・やや劣る・劣る」専門応用の卒業生は以下の 4 つの学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)

- C. 他分野の卒業生と比べて相対評価として「優秀・やや優秀・やや劣る・劣る」他分野の卒業生は以下の 4 つの学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)

- D. 大学の学部卒業生と比べて相対評価として「優秀・やや優秀・やや劣る・劣る」大学の学部卒業生は以下の 4 つの学号(以下学号)です。達成度は入社した学生の平均値で、また別紙の 5 つの達成目標について達成割合のある項目は割合で御回答ください。
(達成割合は 0.00(0%)から 1.00(100%)まで)

8. 貴社が求める目標達成度についてお聞きします。「内からひとつを選んでご記入ください」
新緑のころの時点で、貴社が求める人材に必要とする能力は?
 - A. 技術者倫理 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - B. 基礎学力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - C. 専門基礎学力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - D. 実践的応用能力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない
 - E. 専門応用能力 必要・出来れば必要・あまり必要でない・必要でない

9. 最後に、福井高専機械工学科の御多忙中誠にありがとうございます。お返事お待ちしております。以下に記して下さい。

ご返事ありがとうございます。
アンケートに関するお問い合わせ先
〒 919-8507
福井高専機械工学科卒業生 福井高専教育委員会
機械工学科 若くは入社直前
TEL: 0776-82-2028
FAX: 0776-82-2096
E-mail: katumasa@fshinet.ac.jp

(出典 教育改善委員会)

(資料 6 - 1 - - 10) 「アンケート送付先-機械工学科卒業生用」

2002(2003(平15)4月入社、入学)、2003(2004(平16)4月入社、入学)

No.	卒業年度	氏名	就職・進学先	住所
1	2002, M卒		リコーテクノシステムズ(株)中部支社	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦町1-3-7 S K名古屋ビル3階
2	2002, M卒		(株)ミツヤ	〒910-0108 福井市山室町69-1
3	2002, M卒		(株)アイ・エイチ・アイエアロスペースエンジニアリング	〒370-2308 群馬県富岡市藤木900番地
4	2002, M卒		大同工業(株)	〒922-8686 石川県加賀市熊坂町イ197番地
5	2003, M卒		大同工業(株)	〒922-8686 石川県加賀市熊坂町イ197番地
6	2002, M卒		小野谷機工(株)	〒915-0801 武生市家久町63-1
7	2002, M卒		高嶋技研(株)	〒919-0742 坂井郡あわら市瓜生29-2
8	2002, M卒		岩崎工業(株)	〒919-0614 福井県あわら市伊井60-24-1
9	2002, M卒		日本ガイシ(株)	〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56
10	2002, M卒		日本特殊機器(株)	〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-2
11	2002, M卒		(株)カワムラサイクル	〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地3丁目9-1
12	2002, M卒		(株)ダスキン福井	〒918-8026 福井市洲3-315
13	2002, M卒		小島プレス工業(株)	〒471-8588 愛知県豊田市下市場町3-30
14	2003, M卒		小島プレス工業(株)	〒471-8588 愛知県豊田市下市場町3-30
15	2002, M卒		(株)吉野工業所滋賀工場	〒521-1334 滋賀県蒲生郡安土町西老蘇310
16	2002, M卒		(株)アタゴ	〒918-8588 福井市みのり4丁目13-1
17	2003, M卒		大阪シーリング印刷(株)	〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町1-25
18	2003, M卒		盟友技研(株)	〒910-8026 福井県福井市洲3-401
19	2003, M卒		日本車輛製造(株)	〒456-8691 名古屋市熱田区三本松町1-1
20	2003, M卒		高木製作所(株)	〒460-0024 名古屋市中区正木3-6-6
21	2003, M卒		ソニーイーエムシーエス(株)	〒491-0192 愛知県一宮市大字高田字池尻6
22	2003, M卒		花王(株)和歌山工場	〒640-8580 和歌山市湊1334
23	2003, M卒		竹内光学工業(株)	〒916-0005 鯖江市杉本町35-110
24	2003, M卒		日清紡績(株)名古屋工場	〒457-8505 名古屋市南区豊田5-14-25
25	2003, M卒		(株)フクタカ	〒911-0815 勝山市下高島11-1-2
26	2003, M卒		ソディックプラスチック(株)	〒922-0595 石川県加賀市宮町力1-1
27	2003, M卒		三菱重工(株)横浜製作所	〒231-8715 神奈川県横浜市中区錦町1-2
28	2003, M卒		ニチコン大野(株)	〒912-0095 福井県大野市下丁1-11-2
29	2003, M卒		(株)リコー 福井事業所	〒919-0547 坂井郡坂井町大味64-1
30	2003, M卒		パスカル(株)	〒664-8502 兵庫県伊丹市鴻池街道下10
31	2003, M卒		富士電機システムズ(株)	〒102-0075 東京都千代田区三番町6-17
32	2003, M卒		田中製作所(株)	〒916-0041 鯖江市東鯖江4-4-15
33	2003, M卒		日立建機(株)関西支社	〒618-8511 京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字岸畑2-2
34	2002, M卒		岐阜大学工学部機械システム工学科	〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1岐阜大学工学部
35	2002, M卒		山梨大学工学部機械システム工学科	〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11山梨大学工学部
36	2002, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
37	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
38	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
39	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
40	2002, M卒		福井大学工学部機械工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
41	2003, M卒		福井大学工学部機械工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
42	2002, M卒		金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
43	2003, M卒		金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
44	2002, M卒		金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
45	2003, M卒		金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
46	2003, M卒		三重大学工学部機械工学科	〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
47	2003, M卒		三重大学工学部機械工学科	〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
48	2003, M卒		群馬大学工学部機械システム工学科	〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1群馬大学工学部
49	2003, M卒		和歌山大学システム工学部光メカトロニクス学科	〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930番地和歌山大学システム工学部
50	2003, M卒		九州工業大学情報工学部機械システム工学科	〒820-8502 福岡県飯塚市大字川津680-4九州工業大学情報工学部
51	2002, M卒		豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
52	2003, M卒		豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
53	2002, M卒		長岡技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
54	2003, M卒		長岡技術科学大学機械創造工学課程	〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
55	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
56	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
57	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
58	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
59	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
60	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
61	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
62	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
63	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
64	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
65	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
66	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
67	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
68	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
69	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	

(出典 教育改善委員会)

(分析結果とその根拠理由)

(資料6-1-1)に示す卒業(修了)生アンケートにおいて、卒業(修了)生の回答したほとんど(約90%)が本校を卒業(修了)したことに満足しており、満足度は高く、教育の成果は上がっているといえる。さらに、(資料6-1-2)に示すような就職・進学先からのアンケートにおいて、本人の絶対評価や他高専卒業生との比較を行った結果では評価は高く、卒業(修了)生)が在学中に身につけた学力や能力は本校の目的に沿ったものであり、教育の成果や効果が上がっていることを示していた。

(資料6-1-1)「平成15,16年度卒業生アンケート(抜粋)」

第1回卒業生対象アンケート調査結果
平成15年7月
教育改善委員会

社会人として活躍中の卒業生に対して、高専(専攻科)在学中の授業などに対するアンケート調査を行った。第1回ということもあり、平成14年度卒業生の中から50名を任意に選び平成15年7月から8月にかけて調査を行った。旧保護者宅への郵送による調査だったこともあり、回収率は34%と低かった。結果が寄せられたうち、2人が大学在学中、1人が官公庁勤務、1人が専門学校在学中、残り13名は企業勤務であった。

1 アンケート調査票
アンケート調査票は次のようである。
卒業年 平成 年 月 日
卒業学科 工学科(専攻)

1 現在の所属
(1) 企業 (2) 大学 (3) 官公庁 (4) 専門学校
(5) その他 ()

2 現在、在籍している、企業・大学などで、高専(専攻科)で学んだことで役立っている科目(実験・実習を含む)を二つあげてください。
(1) (2) ()
(3)あまり役立っていない。 (4) その他 ()

3 あなたは福井高専(専攻科)を卒業して良かったと思いますか。
(1) 良かった (できたらその理由を書いてください) ()
(2) 高校へ行けば良かった(できたらその理由を書いてください) ()
(3) 特に考えていない ()
(4) その他 ()

4. 福井高専では、現在5つの学科がありますが、これを統合し、一つの大学科とし、3年次に機械系、電気系、化学系、環境系などのコースに分かれる案を議論しています。意見がお有りでしたら書いてください(特に社会人としての視点で書いてください)。
(1) 大いに議論すべき(意見がありましたら書いてください)
(2) あまり意味がなさそうだ。

5-22-(3)

平成16年10月21日
平成16年度卒業生アンケート結果
教育改善委員会

平成16年度卒業生を対象に、高専の授業、制度などに対する意識調査を平成16年9月から10月にかけて行った。本科は各学科の卒業生20名、専攻科は全員の卒業生にアンケート依頼を行った。回収数は下記の表のようであった。

学科(専攻)	アンケート回収数
機械工学科	9
電気工学科	5
電子情報工学科	4
物質工学科	3
環境都市工学科	4
生産工学システム専攻	3
環境工学システム専攻	1
総計	29

1. アンケート文
調査に用いたアンケート文は次のようである。

第2回卒業生対象アンケート調査

卒業年 平成16年 月 日
卒業学科 工学科 (システム専攻)

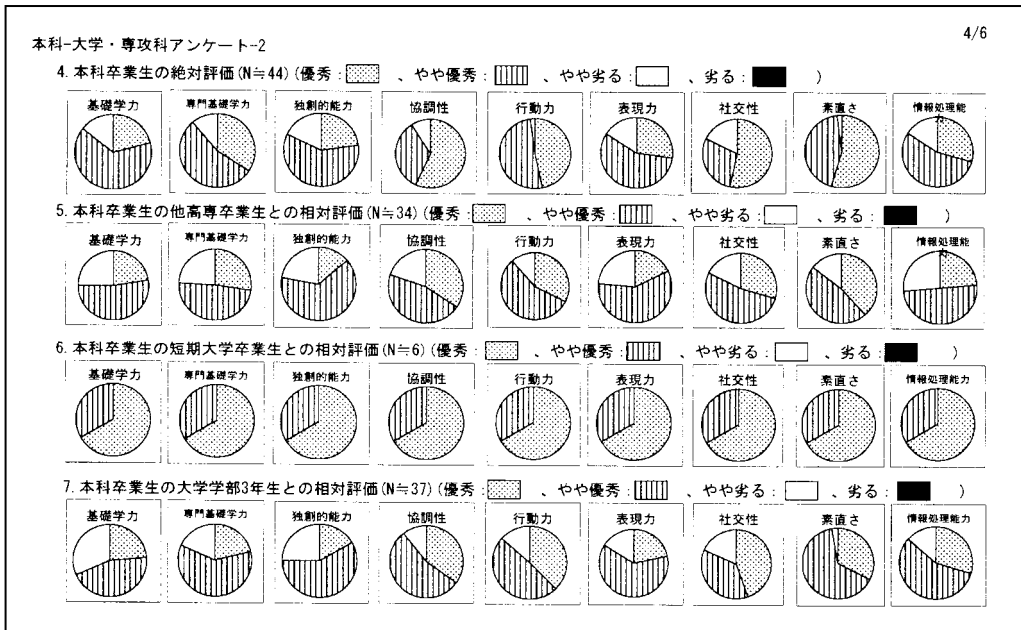
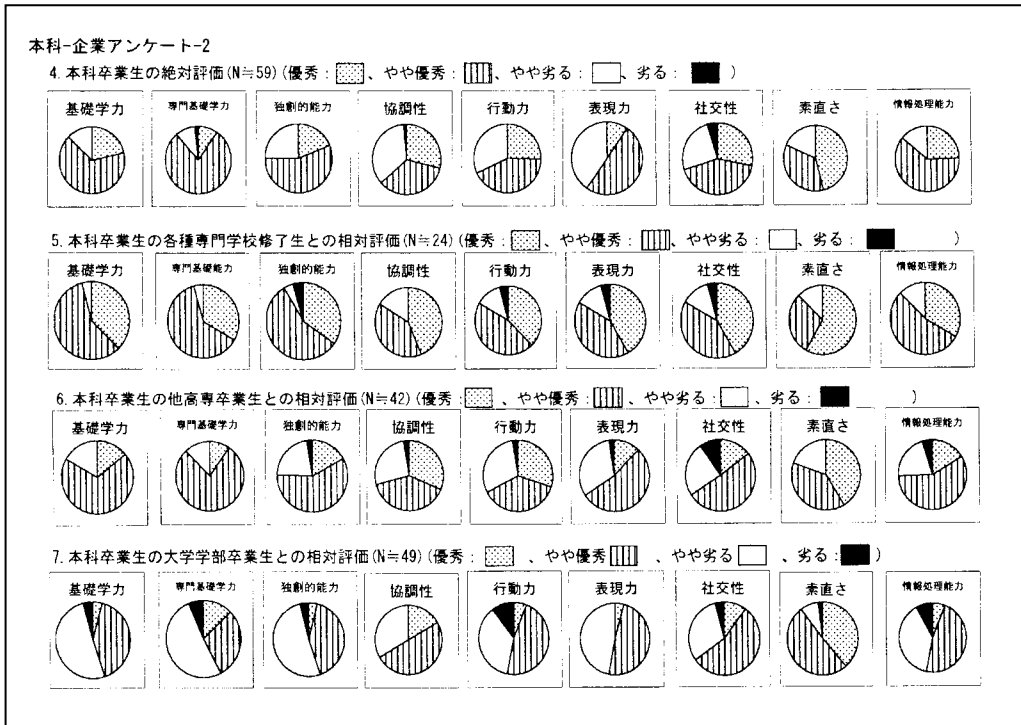
1 現在の所属
(1) 企業 (2) 専攻科 (3) 大学 (4) 官公庁 (5) 専門学校
(6) その他 ()

2 現在、在籍している、企業・大学などで、高専(専攻科)で学んだことで役立っている科目(実験・実習を含む)を二つあげてください。

1

(出典 教育改善委員会)

(資料 6 - 1 - - 1 2) 「本科卒業生の達成度評価アンケート結果」の例



(出典 教育改善委員会)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

就職や進学を希望している学生の進路決定率は非常に高い。また、年々科目の取得率は向上し、原級留置率や退学者数は減少している。平成17年5月に本校の「環境生産システム工学」教育プログラムがJABEEによる技術者教育プログラムとして認定されたことから、平成17年度の専攻科修了生は全員JABEE認定教育プログラム修了生となる。

(改善を要する点)

授業アンケートの中の学生による達成度評価により、学生がどの程度科目の目標を達成しているは年ごとに担当教員は把握できているが、それが年々向上しているかどうかの評価が学校全体ではなされていない。就職・進学先アンケートは今回が初めてであり、今後も継続する必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するために、準学士・学士課程共に各学科・専攻の教育目標が明確に定められ、その教育目標を達成するための系統的なカリキュラムが編成されている。カリキュラム中の各科目はその科目を担当できる能力があると認められた教員が授業を行い、さらに各科目のシラバスには成績評価基準が明記されており、教員はそれに従って成績評価を行っている。また、準学士課程においては、明確な進級基準、準学士・学士課程共に明確な卒業・修了基準が定められ、その基準に沿って各種委員会の活動が厳格になされている。

学生が身に付ける学力や資質・能力については、準学士課程においては、単位取得率の向上、仮進級率、原級留置率及び退学率の減少、資格試験取得者の増加、学協会による表彰、卒業研究の水準等により、学士課程においては学外研究発表、学士号取得の状況、特別研究の水準等から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。また、平成16年度に「環境生産システム工学」教育プログラムがJABEEの技術者教育プログラムとして認定されたことから、平成16年度は教育プログラムを全て満たした専攻科修了生が、平成17年度は、専攻科修了生全員がJABEE認定の教育プログラム修了生となる。

卒業(修了)後の進路決定率はほぼ100%を達成しており、また就職先を産業別で分類すると、各学科・専攻の特徴が現れており、各学科・専攻の意図している教育の成果が上がっているといえる。

平成13年度から学生による科目の達成度評価項目を含んだ授業評価アンケートがなされている。しかし、年々この達成度が向上しているかどうかを学科ごとに集計する等の取り組みは現在まで行われていないために、教員の自主的な改善のためだけのアンケートになっておりシステムとしての改善を要する。

在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するための卒業生や就職・進学先へのアンケートを実施しており、その結果から教育の成果や効果が上がっているといえる。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1- : 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

入学生に対して、1泊2日の「新入生オリエンテーション」を開催し、本校のすべてのガイダンスを行うとともに、学生相互・教職員と学生の親睦を図っている。この中で、本校各学科の紹介と、授業内容の紹介を行っている。3年生までの低学年では毎週「特別活動」1単位があり、そこでも、担任による、その都度の学習に対するアドバイスが行われている。

また、新しい新学期のすべての授業の最初の授業において、その科目のガイダンスを実施している。これにより、学生はその科目の学習目的と学習方法、スケジュールが理解できるようになっている。これらはシラバスに明記されている(資料7-1--1, 別添「シラバス」M-35頁)。

また、各教員のオフィスアワーが各学科・教室のホームページ及び掲示板に掲載されており、それを学生が見ることにより、教員の研究室を訪ね、質問を行っている(資料7-1--2)。

(資料7-1--2)

「各教員のオフィスアワーの例」

2005年度 前期 福井高専 機械工学科 オフィスアワー					
スタッフ	場所	曜日	時間帯	担当科目(前期)	
雨口 健一	機械工学科棟 2階	金	12:10-13:00	3M0 材料力学I 3M0 機械設計製図I 4M0 材料力学II 5M0 機械工学実験II (1PS) 生産システム工学実験	
井上 清一	専攻科棟 2階	月	16:15-17:15	5M0 自動制御 (専1) 創造デザイン演習 2PS) 人間・機械システム (専2) ものづくり情報工学	
安丸 尚樹	機械工学科棟 2階	火	16:15-17:15	2M0 機械製図II 3M0 材料科学II 5M0 機械工学実験II (1PS) 生産材料工学 (1PS) 生産システム工学実験I (専2) 先端材料工学	
吉崎 保夫	機械工学科棟 2階	水	16:10-17:15	3M0 創造工学演習 4M0 機械設計法 4M0 機構学 5M0 電子応用	
田中 嘉津彦	機械工学科棟 3階	火	16:15-17:15	4M0 センサ工学 4EED 機械工学概論 5M0 振動工学 5M0 機械工学実験III (1PS) トライボロジー	

(出典 ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

学習ガイダンスは各授業の最初の授業で懇切丁寧に行っていることにより、学生は各授業の目的、学習法を十分理解するガイダンスが行われていると思われる。また、学生の自主的学習に対応して、オフィスアワーを設定し、多くの学生が教員に相談に訪れている。これらの成果により、最近、5カ年の進学者は約5割を維持し、次第に増加している。就職の求人倍率も好調である。

観点7-1- : 自主的学習環境(例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。)及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生の自主的学習環境としては、「総合情報処理センター」、「ものづくりアトリエ」、「図書館」等があげられる。

総合情報処理センターには演習室が4室あり、そのうちの3室に1クラスの学生数を超える台数のパソコンが設置されている。パソコンはすべてネットワークに接続されており、教員が教材を一斉に配布でき、学生の達成状況も把握できる学習支援システムが利用できる(資料7-1--1)。

(資料7-1--1)

「総合情報処理センターを用いた授業」

演習室の授業利用と一般使用時間

平成17年度前期授業利用状況と一般使用

曜日	時間	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室	
月	1	3E1 電子回路I	使用可能	4E1 電子情報工学実験I	4B 計測解析	
	2	1F2 エレクトロニクス入門		使用可能	4E1 電子情報工学実験I	使用可能
	3	1F1 エレクトロニクス入門		使用可能	使用可能	4B 環境都市工学実験実習I
	4	使用可能		使用可能	4B 環境都市工学実験実習I	
火	1	1F4 エレクトロニクス入門	4M 知能機械演習	4E1 情報処理論	使用可能	
	2	1F3 エレクトロニクス入門	使用可能	4E1 電子回路II		
	3	使用可能	使用可能	3E1 電子情報工学実験II	2B エレクトロニクスI	
	4	使用可能	使用可能	3E1 電子情報工学実験II	5B 空間情報工学	
水	1	2M C言語基礎	2E1 電子情報工学実験II	2E1 電子情報工学実験II	3B 環境都市工学実験実習II	
	2	4M 機械計算力学	使用可能	3E 情報処理I	5B 環境都市工学設計実習II	
	3	3C 情報処理演習				使用可能
	4	使用可能	使用可能	使用可能	4D 総合学習	
木	1	1F5 エレクトロニクス入門	5M 機械工学実験I	2C ITソフトウェア基礎	5B 環境都市工学設計実習II	
	2	4C 情報化学	1ALL ものづくり	使用可能	4B 環境都市工学設計実習I	
	3	3M 国語		1ALL ものづくり	1ALL ものづくり	
	4	(会議)	(会議)	(会議)	(会議)	
金	1	1ALL ものづくり	2M 機械工作実習I	1ALL ものづくり	1ALL ものづくり	
	2	2E 情報処理I	4E1 システム設計	3B コンピュータ回線	3B コンピュータ回線	

(出典 ウェブページ)

図書館は、学習に必要な専門書をはじめ、一般教養図書及び新聞・雑誌を多数備えている。平日は20時まで、土曜日は16時30分まで開館している。その現状は、図書館のホームページにおいて開示されている。

(資料7-1--2)は、平成17年6月に全学生を対象に調べた、放課後の自主学習スペースである。これによれば、教室が自主学習の場所として最も多く用いられている。本校は校舎の改修が

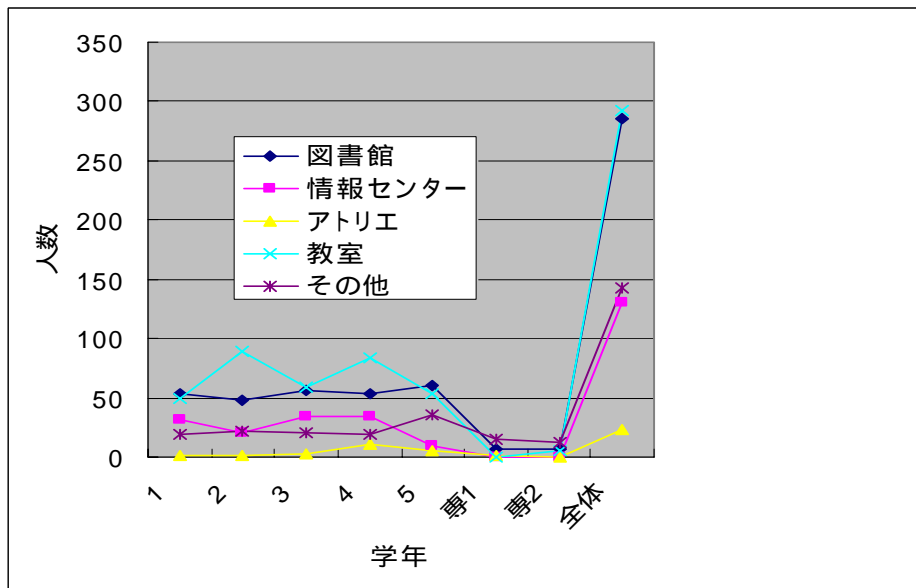
未だ成されていないが、改修後、教室の冷房設備が完備されれば、もっと多くの学生が自習に教室を用いるとの学生の意見もあった。

また、本校では、学生の学習・生活を支援する本校の施設に対する学生の満足度も定期的にアンケートによって把握し、施設整備委員会、図書委員会などの関係委員会で審議し、対策を講じている。

平成17年6月に実施した、学生支援アンケートを(資料7-1--3)に示す。これによれば、低学年では、食堂・売店の充実を願う学生が多く、高学年では駐車場、卒業研究スペースの充実を望んでいる。さらに、改修により、教室の冷房設備をつけて欲しいとの希望が圧倒的に多い。

(資料7-1--2)

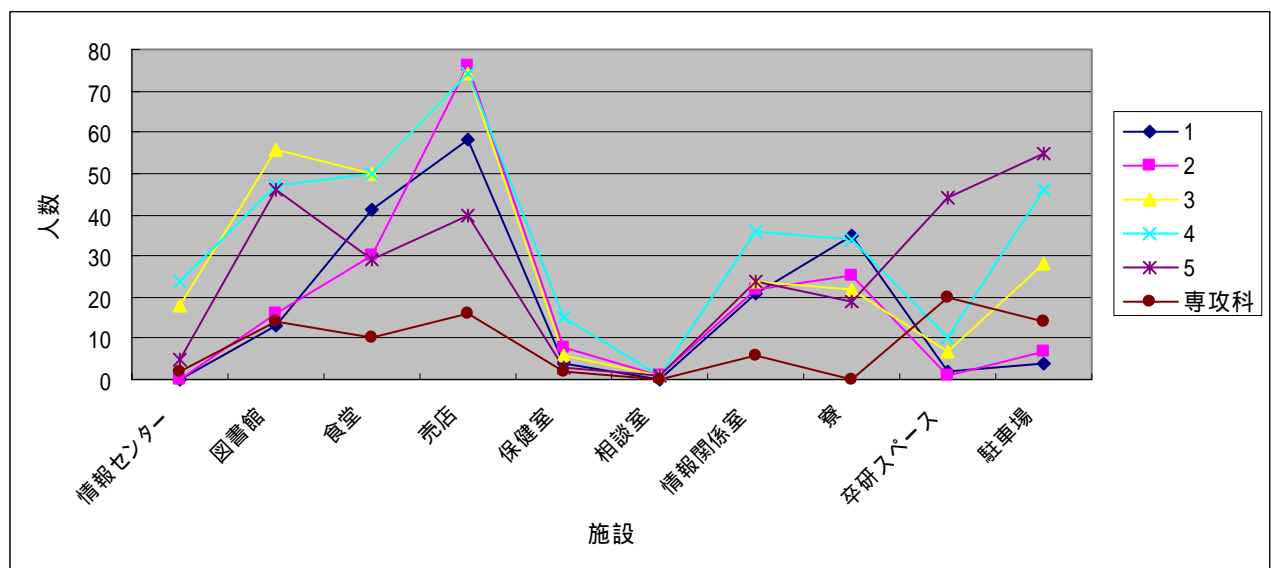
「学生の放課後の自主学習スペース」



(出典 教員会議資料)

(資料7-1--3)

「学生支援アンケート結果、今後充実して欲しい施設」



(出典 教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

情報処理施設，図書館は毎日，多くの授業に使用されている。また，放課後の自主学習にも毎日多くの多くの学生が利用している。

学生の生活を支援する学寮，食堂，売店なども設置されている。学生の生活支援調査も毎年行っており，教室の冷房設備，食堂・売店などの充実を望む学生も多い。

観点 7 - 1 - : 学習支援に関する学生のニーズ(例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。)が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

近年，いわゆる資格社会となり，学生は将来の進路を考え様々な資格の取得を考えている。そこで，本校は全学生の資格取得の希望状況をアンケート調査によりその把握に努めている。(資料 7 - 1 - 1) は平成 17 年 6 月に実施した，学生が現在取得している資格と今後取りたい資格の一覧である。本校では学生が取得を希望する資格取得についてできるだけの支援を行っている。

(資料 7 - 1 - 1)

「本校学生が現在所取得している資格と今後取得を希望する資格」

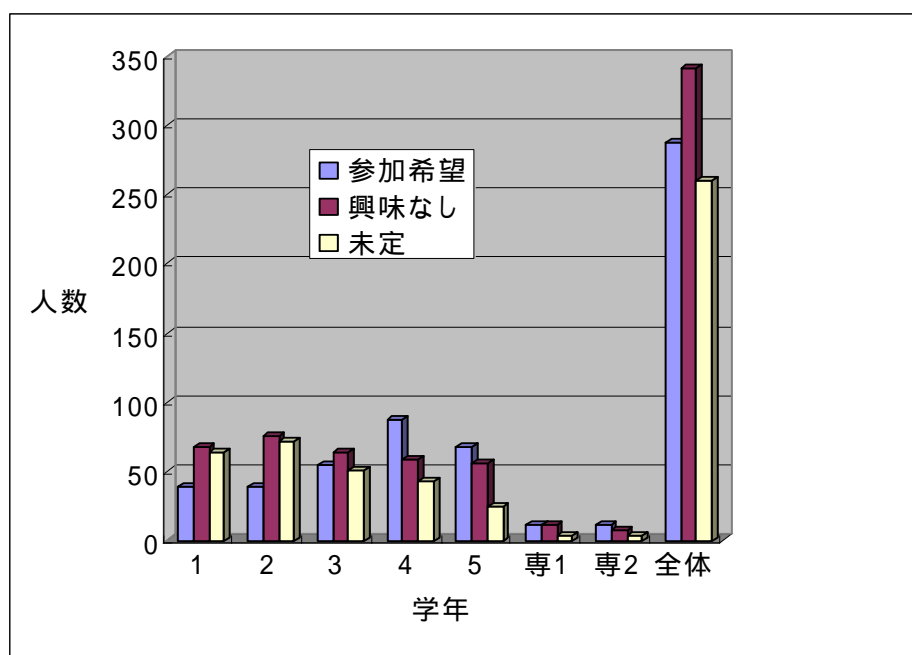
学年	現在持っている資格	今後取りたい資格
1 年生	英検 3 級 5 人 英検 4 級 3 人 漢字検定準 2 級 3 人 歴史検定 4 級 5 人 数学検定 4 級 4 人	測量士補 3 人 CAD2 級 5 人 電気工事士 X 線主任技術者 パソコン検定 初級シスアド(システムアドミニストレーター) 2 人 TOEIC, 危険物 2 種 4 級 2 人 土木施工技術者 ワープロ検定
2 年生	危険物乙 4 種 アマチュア無線技師 英検準 2 級 ピアノ検定, 書道 3 段 英検 3 級	インテリアコーディネーターボイラー資格 3 人 公害 防止毒物劇物 英検 3 級 漢検工業英検 デジタル 検定電気工事士 電験 3 種 実用英検 情報処理技術 者 シスアド CG 検定 測量士補
3 年生	英検 3 級 珠算 2 級 デジタル検定 4 級 漢検 3 級, 珠算 2 段 工業英検 3 級 測量士補	情報処理技術者試験 シスアド 5 人 CG 検定 4 人 電 気工事士 2 人 TOEIC 画像処理検定 3 人 電験 3 種 技術士 1 次 初級シスアド
4 年生	英検準 2 級 3 人 第 2 種電気工事士 3 人 工業英検 3 級 2 人 危険物乙 4 級 CAD2 級 2 人 危険物丙種 2 人 3 人 ビジネ ス能力検定 3 級 シスアド	電気工事士 電験 工業英検 第 3 種電気主任技術者 TOEIC 自動車免許 CAD2 級 建築士 3 人 技術士 ピオトープ計画管理士 2 級 カラーコーディネーター 気象予報士 機械設計技術者 3 級 小型船舶操縦 2 級 放射線取り扱い 基本情報技術者 ソフトウェア開発
5 年生	CAD2 級 5 人 3 級 4 人 英検 3 級 2 人 危険物乙 4 種 3 人 機械設計技術者試験 3 級 工業英検 2 級, 3 級, 4 級 情報処理二種 基本情報技術者 2 人 デジタル検定 2 級	色彩 技術士 CAD 弁理士 シスアド 3 人 ボイラ ー危険物取扱乙全種 機械設計技術者試験 パソコン 検定 1 級 整備士 測量士 土木施工管理士 建築士 第 1 種電気工事士 工業英検 CAD 利用技術検定 教員免許 TOEIC400 点以上 3 人 500 点以上 2 人 公務員試験 公害防止管理者 医療事務 ソフトウエ ア開発 アプリケーションエンジニア テクニカルエ ンジンニアネットワーク 画像処理検定
専攻科 1 年	TOEIC300-350 4 人 350-450 8 人 500 以上 1 人 危険物全種 2 級ボイラー CAD2 級 2 人 英検準 2 級	家電エンジニア 独語検定 毒物劇物取り扱い検定 CAD 利用設計技術者 電気工事士 国家公務員 火薬取り扱い
専攻科 2 年	TOEIC300-350 6 人 350-450 13 人 450 以上 3 人 500 以上 1 人 シスアド 2 人 X 線作業主任者 基本情報技術者試験 2 人	TOEIC400 以上 5 名 技術士

(出典 教員会議資料)

また、本校の留学制度として、現在、海外学生派遣制度があるが、今年度より、本校はオーストラリアのBallarat大学との間で相互学生交換留学制度の締結を準備中である。この制度を用いて留学を希望の有無についてアンケート調査を行った結果が（資料7-1--2）である。今後、この学生の希望に応えて行きたい。

（資料7-1--2）

「留学を希望する学生数」



（出典 教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生が現在取得している資格と、今後取得したい資格の希望をアンケート調査によりその的確な把握に努めている。

観点7-1- : 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

英語検定関係については、実用英検と工業英検の説明を行い、希望学生の把握及びガイダンスを行い、取得の支援にあたっている（資料7-1--1、別添「シラバス」G-07頁）。また、専攻科ではTOEIC 400点以上取得を修了要件としているので、専攻科委員が常に専攻科在校生のTOEIC点数の取得状況を把握している。

さらに、資格を取得した学生については、本校内規である「教務に関する申し合わせ事項」第24（資料7-1--2）のように、単位認定が明記され、正規の単位への振替え制度が出来ている。

(資料 7 - 1 - - 2)

「技能審査の合格による単位の修得に関する事項」

第24 技能審査の合格による単位の修得認定に関する事項

(平成6年12月15日制定)

1 技能審査の定義

「技能審査」とは、福井工業高等専門学校学則（昭和40年規則第1号）第15条の3第1項に定める学修に基づくもので、文部省告示第85号（平成3年6月28日）第4項に規定する学修のうち、本校において次のものをいう。

ア 実用英語技能検定（以下「実用英検」という。）

イ 工業英語能力検定（以下「工業英検」という。）

2 技能審査の合格による認定単位数

(1) 技能審査に係る次の審査基準（級）に合格した者には、単位の修得を認定し、修得を認定する単位（以下「修得認定単位」という。）は、審査基準（級）に対応するそれぞれの単位数とする。

ア 実用英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	準2級	2級	準1級	1級
単位数	1	2	4	6

イ 工業英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	4級	3級	2級	1級
単位数	1	2	4	6

(2) (1)において、実用英検にあつては審査基準（級）の準2級、工業英検にあつては審査基準（級）の4級については、第1学年から第3学年までに合格した者に限るものとする。

(3) 技能審査に合格し、単位の修得を認定されている者が当該技能審査に係る上位の審査基準（級）に合格した場合は、当該審査基準（級）に対応する単位数と既に認定されている修得単位数との差を修得単位数として認定する。

(4) 修得認定単位は、技能審査に合格した日に在籍する学年の修得単位とする。

(5) 修得認定単位は、卒業要件の修得単位数に含めないものとする。

3 修得認定単位に係る科目名

修得認定単位に係る科目名は、実用英検にあつては一般科目の「実用英語技能検定〇級」と、工業英検にあつては専門科目の「工業英語能力検定〇級」とする。ただし、両科目とも選択科目とする。

(出典 教務に関する申し合わせ事項)

(資料7 - 1 - - 4)

「学生海外派遣制度による最近の実施例」

年度	学科・学年	氏名	引率教員	派遣期間	派遣機関(国名)
8	環境都市工学科3年	田中宏弥	一般科目 助教授 小寺光雄	9.3.25 ~9.4.3	オックスフォード大学 ほか (連合王国)
	環境都市工学科3年	山下理恵			
9	電気工学科3年	松浦 徹	電気工学科 教授 松田政信	9.7.22 ~9.7.31	スタンフォード大学 ほか (米 国)
	電気工学科3年	山内智教			
	電気工学科3年	吉村雄大			
10	電気工学科3年	勝木浩司	電気工学科 助教授 大久保 茂	10.7.18 ~10.7.27	ロンドン大学 ほか (連合王国)
	電気工学科3年	前田一平			
11	機械工学科3年	林 巧	一般科目 教授 朝倉相一	11.9.30 ~11.10.9	カリフォルニア大学 ほか (米 国)
	機械工学科3年	高橋里枝			
	電気工学科3年	伊藤貢一			
12	物質工学科5年	後藤亮平	一般科目 助教授 山本裕之	12.8.19 ~12.8.29	ガラパゴス諸島 (エクアドル)
13	電気工学科4年	武内良峰	一般科目 助教授 戸島貴代志	13.8.19 ~13.8.28	風の学校 ほか (デンマーク, ドイツ)
	電気工学科4年	城野啓太			
16	環境システム工学 専攻5年	吉田達哉	環境都市工学科 助教授 辻子裕二	16.4.29 ~16.5.9	中国科学院 ほか (中 国)

(出典 庶務課)

(資料7 - 1 - - 5)

「交換留学生制度の準備資料」

From: "Margaret Zeegers" <m.zeegers@ballarat.edu.au>
 Date: 2005.5.21 11:53:03 Japan
 To: <tubokawa@fukui-nct.ac.jp>
 Subject: Re: Exchange student program between Ballarat Univ. and Fukui NCT

I cannot tell you how pleased I am to have this contact with you, at last. We have both been very fortunate in our mutual friend, in Max. One of our sessional lecturers has almost finalised the program and costings, so we should be able to get something definite together very soon. He is suggesting April of 2006 as a most suitable time, with end-on tours in other parts of Australia as part of the itinerary. Does that sound all right to you?

Cheers
mz

Dr Margaret Zeegers
Lecturer
School of Education
University of Ballarat
University Drive
Mt Helen
Victoria
Australia, 3363

Ph: + 61 3 5327 9327
 Fax: + 61 3 5327 9717
 email: m.zeegers@ballarat.edu.au

(出典 交換留学準備委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格取得者に対する支援は一般科目教室，各専門学科で実施しており，入学者募集の際も，本校の魅力の一つとして紹介している。今後，海外学生交換留学制度を充実させ，多くの留学を希望する学生の期待に応えたい。

観点 7 - 1 - : 特別な学習支援が必要な者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には，学習支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度の在籍留学生を（資料 7 - 1 - - 1）に示す。これら，海外からの留学生に対し，留学生委員会を設置し，一人一人の留学生に対し指導教員およびチューターを配属してきめ細かい対応を行っている。特にチューターは，成績優秀な寮生から留学生と同じクラスの学生選ばれ，留学生が 5 年次に進級するまで日夜，学習および生活支援を行っている。その配置状況は（資料 7 - 1 - - 2）のようである。

また，留学生は 3 学年に入学するため，3 学年から 5 学年に「外国人留学生特設科目」として，日本語と，数学，物理，各学科専門科目の基礎を開設している。これらのシラバスの例を（資料 7 - 1 - - 3，別添「シラバス」F-01～F08 頁）に示す。

編入生に対しては，8 月の合格発表後，本校の学習，生活に関する資料を送付，10 月に行われる学園祭である「高専祭」に参加を呼びかけている。さらに，3 月と 4 月に学習，生活に関するオリエンテーリングを実施している。その後も数学などを中心に担当教員から必要に応じて個別指導を行っている。

(資料 7 - 1 - - 1)

「平成 17 年度在籍留学生」

受入年度	学科・学年	氏名	国籍
15	環境都市工学科 5 年	ダン ザン ホン DANG GIANG HOANG	ベトナム
	環境都市工学科 5 年	モハド シャイリル ビン アブドゥル マレク MOHD SYAIRIR BIN ABD.MALEK	マレーシア
16	電子情報工学科 4 年	オマリ ミラ アヤコ OMARI MILLA AYAKO	ケニア
17	電子情報工学科 3 年	エルデネビルグ ムンクハト ERDENE BILEG MUNKHBAT	モンゴル
	物質工学科 3 年	マセド ペドロ イヴォ ラゲ デ MACEDO PEDRO IVO LAGE DE	ブラジル
	物質工学科 3 年	モハド アリフ ビン モハド ノル MOHD ARIF BIN MOHD NOR	マレーシア
	機械工学科 3 年	モハド ズルカナインサム ビン ハッサン MOHD ZULKARNAINSAM BIN HASSAN	マレーシア
18	電子情報工学科 3 年	アマルサナ ダヴァスレン AMARSANAA DAVAASUREN	モンゴル

(出典 学生課)

(資料7-1- - 2)

「チューターの配置」

学年	留 学 生	チューター
4年	オマリ	山崎 友貴
3年	ズル	大田 尊也
	ムンクバト	刀上 光
	ペドロ	北野 直紀
	アリフ	葛葉 光洋

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対して、チューター制や、留学生特設科目により、学習支援体制が十分とられている。また、編入学生に対しても入学前の各学科の指導やオリエンテーションが十分取られている。また、入学後も担任を中心に学習に対する支援を十分行っていると言える。

観点 7 - 1 - : 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校学生準則第 6 章学生会(資料 7 - 1 - - 1, 別添「学生便覧」105 頁)の第 23 条によれば、学生会は学生全員で構成し、第 28 条によれば、校長への届出により、クラブ活動を行うこととなっている。学校としては学生主事を中心にサポートし、すべてのクラブ活動に指導教員を 1 名以上配置している。

現在クラブ活動を行っている、部・同好会を(資料 7 - 1 - - 2, 別添「学校要覧」41 頁)に示す。また、これらのクラブ活動の指導教員一覧を(前出資料 5 - 4 - - 6, 別添「学生便覧」53 頁)に示す。

このようなクラブ活動の運営金は学生会活動として行われる。平成 16 年度決算書を(資料 7 - 1 - - 4)に示す。

(資料 7 - 1 - - 4)

「平成 16 年度 部活動決算」

クラブ名	決算額 (円)	その他
硬式テニス	408,849	
サッカー	220,550	
ソフトテニス	81,880	
空手	360,000	
ブラスバンド	209,000	
バドミントン	340,000	
水泳	78,470	
卓球	317,210	
ハンドボール	67,600	
ソフトボール	71,055	
男子バスケットボール	379,500	
男子バレー	199,520	
エレクトロメーカーキング	63,505	
女子バスケット	126,600	
陸上	183,890	
野球	468,800	
写真	9,556	
柔道	125,000	
ラグビー	265,965	
女子バレー	36,000	
剣道	138,500	
モダンミュージック	124,950	
少林寺拳法	65,000	
合計	4,341,400	

(出典 学生会)

また、これらの部活動補助の学生会活動全体における状況を（資料 7 - 1 - - 5）に示す。

（資料 7 - 1 - - 5）

「平成 16 年度学生会決算」

収入の部	学生会費（998 人）	6,986,000 円
	教育後援会費	1,000,000 円
	前年度繰越金	1,249,618 円
	計	9,235,618 円
支出の部	高専祭補助	2,000,000 円
	部活動補助	4,458,120 円
	体育委員会費	650,000 円
	文化委員会費	50,000 円
	青塔作成費	400,000 円
	厚生委員会活動費	10,000 円
	広報活動費	10,000 円
	学生会活動費	250,000 円
	繰越金	1,407,498 円
	計	9,235,618 円

（出典 学生会）

これらの各クラブの活動の実績として、体育系として、サッカー部また、文化系として英語部の最近 10 年の活動の記録を（資料 7 - 1 - - 6）に示す。

(資料 7 - 1 - - 6)

「クラブ活動実績例」

1. サッカー部

この 10 年間の主なできごとは以下の通りである。

平成 8 年 第 1 回学生リーグ 3 勝 1 敗で福井工大，福井大学と勝ち点で並ぶが得失点差で 3 位

平成 9 年 全国大会主管全国 1 回戦：福井高専 0 - 1 八戸高専 DF 秦庸一郎が優秀選手に選ばれる

平成 10 年 北陸地区高専大会優勝

平成 13 年 北信越大会 2 位で全国大会出場 全国 1 回戦：福井高専 2 - 3 徳山高専

平成 14 年 北陸地区高専大会優勝 北信越大会 2 位で全国大会出場 全国 1 回戦：福井高専 3 - 2 鶴岡高専 全国 2 回戦：福井高専 1 - 4 鹿児島高専 FW 横江川恵太が優秀選手に選ばれる

この 10 年間で特筆すべきは，平成 8 年度から福井工業大学，福井大学，福井医科大学（現，福井大学医学部），福井県立大学と福井高専の 5 校による福井県学生サッカーリーグが始まったことと，平成 9 年度の全国大会を本校が主管したことであろう。福井県学生サッカーリーグについては，第 1 回大会で，第 1 節の福井工大には大敗を喫したが，その後 3 つの大学チームを連破し 3 勝 1 敗の成績で 3 位となった。この大会は現在も続いているが，本校サッカー部の強化のみならず，福井県の学生サッカーのレベルアップに大きく寄与するものである。

また，平成 9 年度の全国大会を主管するに当たっては，同年 5 月に奈良高専への遠征を初めて行い，全国大会への強化を行った。全国大会では 1 回戦で惜しくも敗れたが，運営とともに，決勝戦まで観戦できたことは，部員にとって貴重な体験であったと思う。このときの 1 年生が，平成 13 年には 5 年生として北信越大会で 2 位となり全国大会に出場している。続く平成 14 年には，北陸地区高専大会優勝と 2 年連続の全国大会出場を果たし，念願の全国大会初勝利を挙げている。

この間，舞鶴高専をはじめ，奈良高専，岐阜高専，豊田高専との交歓試合（遠征）を行ってきた。このような他高専との交流，県内大学との試合，また各種大会の運営などを通して，サッカーのレベルが向上するとともに，部員一人ひとりが目標を持ち，クラブ活動に取り組めるようになってきている。

2. 英語部

英語部は本校創設以来続いている部である。ここ十年間の主な活動としては，放課後に LL（語学演習室）で集って英会話練習を行ったり，洋画の視聴や英語の歌を聴いてリスニング練習を行っている。また，広く英語圏に関する本を読んで異文化理解に関する一般的な知識を広めている。オーストラリアへ留学した部員が留学の経験談をしたこともある。学生中心の活動ではあるが，外国人教師（が顧問のときには，学生と一緒に会話練習を行うこともあった。校外活動としては，富山商船高等専門学校が主催する北陸地区の英語弁論大会に参加し，平成 10 年度と 15 年度の大会で入賞した。

富山商船高等専門学校英語スピーチコンテスト受賞者

第 4 回（平成 10 年 11 月 14 日（土）実施） 一般部門第 1 位 三原有真（4C 当時）

第 9 回（平成 15 年 11 月 1 日（土）実施） 審査員特別賞 平泉直美（5B 当時）

（出典 福井工業高等専門学校 40 年記念誌）

また、本校では、NHKアイデア対決ロボットコンテストに参加希望する学生に対して、学校全体が支援している。これまで15年間に最高賞である、ロボコン大賞を2度受賞し全国でも屈指の強豪校となっている。これまでの戦績を(資料7-1-7)に示す。

(資料7-1-7)

「最近15年間のアイデア対決ロボットコンテストの結果」

年度	テーマ	マシン名	地区大会成績	全国大会成績
1988	乾電池カー・スピードレース	-	-	-
1989	オクトパス・フットボール	-	-	-
1990	ニュートロン・スター	こがね虫君 アクセクテラー号	-	ベスト8
1991	ホットタワー	-	1回戦敗退	-
1992	ミステリーサークル	実多2 九龍電	2回戦敗退	-
1993	ステップダンス	ルーキーデルタ ちかっぺ福井	ベスト4、優秀賞	ロボコン大賞
1994	スペースフライヤー	またまたちかっぺ福井号 ツイン-0	アイデア賞 ベスト8	アイデア別賞
1995	ドリームタワー	ひってやべって福井号 W-S-M	優秀賞 1回戦敗退	1回戦敗退
1996	テクノカウボーイ	ドラゴンフライ ヘイ!カウボーイ	アイデア賞 2回戦敗退	2回戦敗退
1997	花間探査	G.G.ウォーカー 花コプター	優勝 技術賞	ロボコン大賞
1998	生命上陸	シーカイト 念ずれば花間K2号	アイデア賞 2回戦敗退	-
1999	JUMP TO THE FUTURE	フリームジャンプ 越前インパルス	省エネルギーセンター賞 2回戦敗退	-
2000	エレニアム・ソサエティ	ディノ・クワイマー SPACE-LAB	パフォーマンス賞 2回戦敗退	特別賞
2001	HAPPY BIRTHDAY 39	タワーフォーエ くろばこ2001	優勝 1回戦敗退	ベスト4
2002	プロジェクトBOX	バランスボックス oltii	1回戦敗退 3回戦敗退	HONDA賞
2003	轟(KANAE)	テトラ・スゴビー ラティスアーム	優勝 準優勝	ベスト8
2004	メーズラッシュ	キャリアバー 10 seconds	準優勝 2回戦敗退	3回戦敗退

(出典 ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

学生のクラブ活動や学生会の課外活動に対する支援は整備され、機能していると言える。その根拠理由としては、学生の課外活動に学校全体として取り組み、全教員のほとんどが何らかの形で学生の課外活動を支援している。

観点7-2- : 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

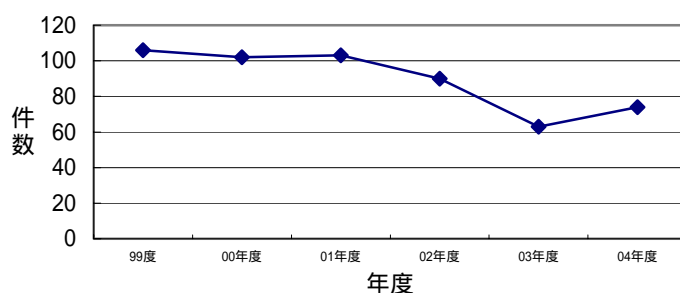
(観点到に係る状況)

学生の生活、経済面での指導・相談・助言は直接には各担任が担当し、問題が生じた場合は学生主事を中心に補導委員全体で支援を行う体制が出来ている。専攻科では、各専攻の2名の専攻科主任が学生の指導や助言にあっている。また、近年、悩みを持つ学生が増加しているが、昭和55年度に学生相談が開始され、昭和56年から現在の学生相談室が開設された。相談室の組織としては、相談

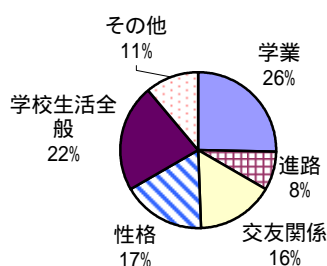
員 4 名と 1 名の非常勤カウンセラーとなっている。相談員は昼食時間と放課後相談室に待機し相談に応じている。また、専門カウンセラーが月 2 回～ 3 回来校し、学生の悩みの相談に当たっている。保健室には専任の看護師を常駐し、日常の病気、怪我などの治療にあたっているが、相談室以外にも保健室でメンタルヘルスケアを求める学生も多い。(資料 7 - 2 - - 1) は、最近の相談室相談件数と相談内容を示している。

(資料 7 - 2 - - 1)

「学生相談室利用学生数と相談内容」



学生相談室利用者



相談内容 (平成 16 年度)

(出典 学生課)

さらに、毎年、厚生補導関係教職員を中心にほぼ全員の教員が参加して、学生の悩みに関する F D を開催し、その報告書を刊行している。

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活に関する指導・助言は本校が最も重点を置いているところであり、体制を作り、十分機能している。根拠と理由は前記のように担任制度があり、きめ細かい指導を行っている。休み時間、放課後にはほとんどの担任が担当のクラスへ出かけ、学生とコンタクトをとり、情報収集を行うとともに問題があれば、担当主事に連絡を行い、処理を行っている。

観点7-2- : 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

現在、身体に障害を持つ学生は在籍しないが、施設整備委員会において、校内のバリアフリー化を常に検討している。

留学生については、留学生委員会を設置して、留学生の学習生活・日常生活の支援に当たっている。また、上記のようにチューター制を取り、各留学生と同じクラス寮生の学生がチューターとなり、各留学生の学習・生活両面の相談にあたっている。（資料7-2- -1）は、留学生全員参加のツアー及び部活動の様子である。

（資料7-2- -1）

「留学生支援」



留学生ツアー（そば道場での体験）



合気道練習のケニアからの留学生

（出典 学生課）

（分析結果とその根拠理由）

身体に障害を持つ学生は現在、在籍しないが、留学生については、学習・生活面について手厚い支援を行っている。最近の留学生はほとんどが本校卒業後、大学に進学している。

観点7-2- : 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

自宅が遠方で通学が困難な学生のために、学生寮を設置している。入寮学生数の最近の推移と寮棟の一つを(資料7-2--1)に示す。

(資料7-2--1)

「寮生数の推移」

年度	男子		女子		専攻科		合計	充足率
	定員	人数	定員	人数	男子	女子		
平成7	194	186	46	31			217	90.4
8	194	188	46	36			224	93.3
9	194	190	46	39			229	95.4
10	194	187	46	34	4		225	93.7
11	194	187	46	34	4	1	226	94.1
12	194	188	46	37	4		229	95.4
13	194	190	46	42	2		234	97.5
14	194	189	46	44	1		234	97.5
15	194	193	46	42			235	97.9
16	194	193	46	43			236	98.3



留学生も入寮する「南寮」

(出典 学生課)

学寮については、寮務主事が中心となり、学寮運営委員会、寮務主事団、学生課寮務係がその運営にあっている。学寮は学校敷地内にあることから、学習、部活動に便利がよく、入寮希望者が多い。学寮運営委員会では、引き続き、居住環境の整備と学生寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

根拠として、次のことがあげられる。(1) 居住環境の整備として、寮内施設の点検と整備をおこなっている。(2) 学生寮運営に対して寮生・教職員の協力体制が充実している。(3) 寮生による、寮生会を組織し、寮務担当教職員と協力体制をとって、寮生活の充実化を検討している。

観点 7 - 2 - : 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。
 (観点に係る状況)

専攻科設置以来、専攻科と本科の4年生で実施している、校外研修と専攻科インターンシップなどの情報を調整するためと、さらに学生の就職・進学を支援するため、進路指導委員会を設置している。進路指導委員会は委員長、副委員長(2名)、教務主事、学生主事、専攻科長、学科・教室主任(7名)、本科3学年~5学年担任(15名)、専攻科委員(7名)、学生課長の計36名から構成され、その主たる行動目標は、学生の進路に関する教員相互の情報、意見交換を密にして実効ある進路指導を展開することにある。全体会議、幹事会、指導方針検討会、などで、方針を決め、実際に学生と接する各担任との連絡も密にしている。この運営組織を(資料7-2--1)に示す。また、進路指導室に担当職員2名を配置し、進路指導委員会とともに学生の進路指導を支援している。

最近の就職・進学状況を(資料7-2--2)に示す。進路指導委員会によって、低学年からの進路指導を行うようになり、高学年に対しても担任を通して支援を行っている。

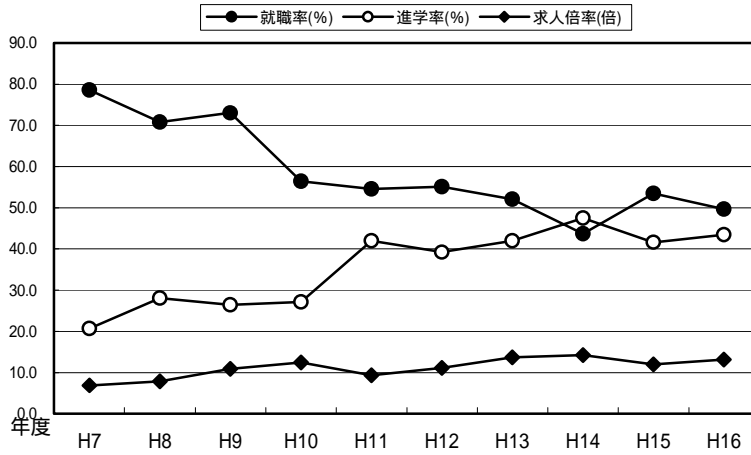
(資料7-2--1)
 「進路指導委員会運営組織と担当業務」



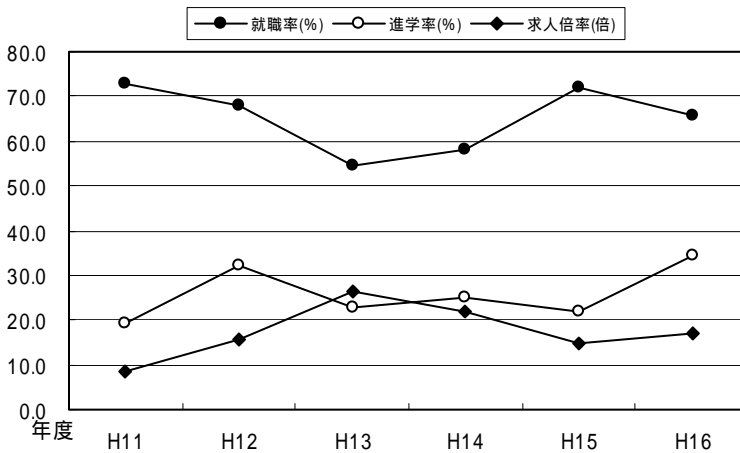
(出典 学生課)

(資料 7 - 2 - - 2)

「最近 6 年間の本科・専攻科の就職・進学状況」



最近 6 年間の本科の就職・進学状況



最近 6 年間の専攻科の就職・進学状況

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

学生の進路全体に対して進路指導委員会が中心になって指導にあたっている。就職・進学だけでなく、進路指導委員会では校外実習・インターンシップも学校としての窓口となっており、学外者にとっても求人業務がやりやすい環境となっている。また、最近、進学する学生が増えているが、進学する学生にも進路指導室を通じて進学情報を伝えている。これらのことより、学生の進路指導が一元化され、組織で指導を行っていると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の学習活動，生活に対する支援は優れていると言える。また，留学生に対する支援も充実している。

(改善を要する点)

校舎の改修が遅れており，学生支援アンケートでも多くの学生が夏季のクラスの高温・高湿の環境の改善を望んでいる。現在の施設の使用管理状況の施設マネジメントを行い，これら必要な施設改修を要求中である。

(3) 基準7の自己評価の概要

学生に対する学習のガイダンスは最初の授業，あるいはそれ以降に的確に行っている。また，自主学習スペースとして，図書館，総合情報処理センターを完備しているが，学生は教室でクラスメイトと語りながらの自主学習を好んでいるようである。

近年，資格取得を多くの学生が望んでいる。英語，電気，土木，情報関係などの資格試験受験に対する支援を行っている。また，そのニーズの把握に努めている。

学生の施設に対する要望調査も行っており，現在の学生の要望は教室の冷房設備の充実と学生駐車場の整備である。これらについては，自助努力と今後の改修で改善されることが考えられる。

また，留学と資格取得を望む学生が増加しているため，現在の制度の他に，交換留学制度を準備中である。資格取得を望む学生に対しては，さらに，資格取得のための支援を行う。特別な支援を必要とする学生に対しては，留学生委員会などを設置して支援にあたっているが，今後とも努力して行きたい。

学生のクラブ活動，課外活動は支援体制が充実している。学生寮が設置され，学校全体で運営にあっている。また，学生の卒業後の進路に対する支援としては，進路指導委員会を設置して一元化して指導にあっている。

これらにより，学生が学習しやすい環境と制度を作りたい。また，留学生，編入学生などに対しては特別な学習支援を引き続き行いたい。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの自己評価

観点 8 - 1 - : 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等）が整備され，有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

本校の施設概要は，資料 8 - 1 - - 1 ~ 資料 8 - 1 - - 4 に示すように高等専門学校設置基準において必須とする校地・校舎や施設・設備について整備・管理されている。なお，施設・設備の整備計画等については，平成 12 年度に作成された「教育環境改善計画」及び「施設長期計画書」（資料 8 - 1 - - 5）に基づいて継続的に整備されている。

本校では，大規模教室として大講義室，視聴覚ホール，合併教室があり，複数クラス同時講義や各種講演会に対応できるスクリーンが設置され空調設備も整っている。語学演習室（LL 教室）は，低学年から高学年までの英語コミュニケーションの講義に利用されている。専攻科棟の講義室は，エアコン，スクリーン，プロジェクターを備えており，プレゼンテーションを課した講義を行うことにも適している。

本科学生実験及び専攻科工学実験を行うための施設は十分であり，機械実習工場は機械工学科における工作実習に主として使用されているが，教員の研究はもちろんのこと，本科卒業研究，専攻科特別研究などにも応えている。また，地域連携テクノセンターには，超高分解能電子顕微鏡システム，電解放射型走査電子顕微鏡システム等の大型機器が導入されており，卒業研究，特別研究において，教員の指導の基で学生が利用している。なお，平成 16・17 年度には，地域企業との共同研究・技術相談を積極的に実施し，産官学連携事業を展開し地域貢献を果たす目的でセンター内に伝統産業支援室及び地場産業支援室を設置している。

情報関連施設としては，総合情報処理センターにおいて 1 クラス（40 名）分以上の台数のパソコンを設置した演習室が 2 部屋あり，スクリーン及びプロジェクターが常設され小規模の発表会にも対応可能となっている。

また，コンピュータ支援システムによって学生の自学自習を効率よく進めるために「情報リテラシー室」と「ものづくりアトリエ」が設置され e-learning 支援システムを使った学習環境や従来から手作業で進められてきた製図を学生が CAD システムを使ってできるようにソフトウェアも含めて整備されている。

図書館には，学習に必要な専門図書をはじめ，一般教養図書，新聞，雑誌を多数備えており学生の様々な学習内容や教養・趣味の情報収集に十分対応できるよう配慮がなされている。また，技術士資格取得や技術者倫理のコーナーを設けて学生の啓蒙を図っている。更に，映画や音楽に興味のある学生のために CD，LD，DVD などを利用できるオーディオルームが設けられている。

なお，施設の利用状況や安全性など，全ての施設・設備について施設整備部会において「施設点検評価基準」（資料 8 - 1 - - 6）を策定し，この基準に基づき施設の無駄を省き効率的に有効活用を図る目的で既存施設の点検調査（建物見直し管理表）（資料 8 - 1 - - 7）を実施している。

(資料 8 - 1 - - 2)

「施設実態調査(棟別概要)」

棟別概要												作成年度	学校番号	学 校 名	四 位 番 号	所在地	
国立学校施設実態調査(様式6)												平11	6584	福井工業高等専門学校	001	鯖江市下町町	
(棟番号)	棟名	棟数	延べ面積	構造	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途
(01)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
(001)	管理棟	1	224.4		高専管理棟												
(002)	本館	1	304.7		工業高等学校 高専管理棟 高専図書室 高専演習室												
(003)	物質工学科	1	271.3		工業高等学校 高専管理棟												

(出典 施設係)

(資料 8 - 1 - - 3)

「工具器具備品数及び金額一覧」

所属学科別工具器具備品数及び金額一覧

(10万円以上)

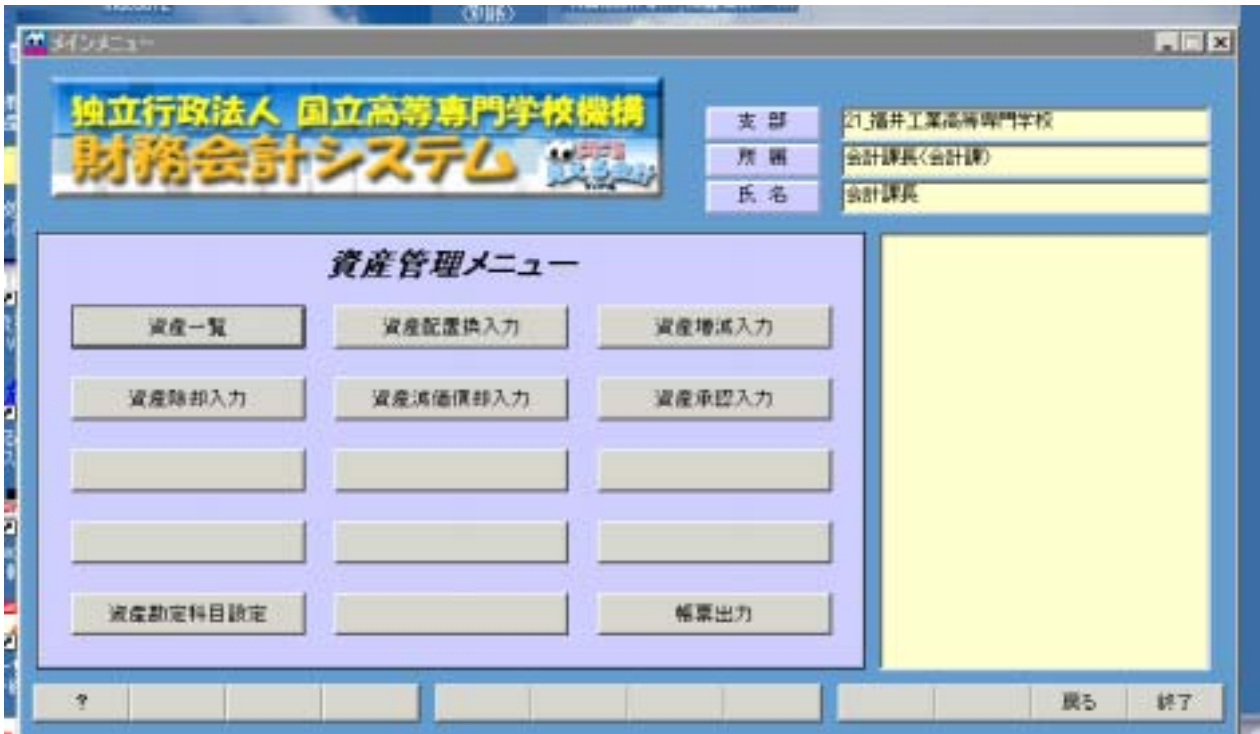
所 属 学 科	工具器具備品数	金 額 (千 円)	備 考
一 般 科 目	90	20,531	
機 械 工 学 科	87	36,075	
電 気 電 子 工 学 科	33	10,827	
電 子 情 報 工 学 科	59	14,392	
物 質 工 学 科	112	29,978	
環 境 都 市 工 学 科	62	16,188	
専 攻 科	26	5,462	
総合情報処理センター	57	15,761	
地域連携テクノセンター	24	26,616	
合 計	550	175,830	

※ 所属別工具器具備品については、財務会計システム(資産管理メニュー)による。

(出典 財務会計システム)

(資料 8 - 1 - - 4)

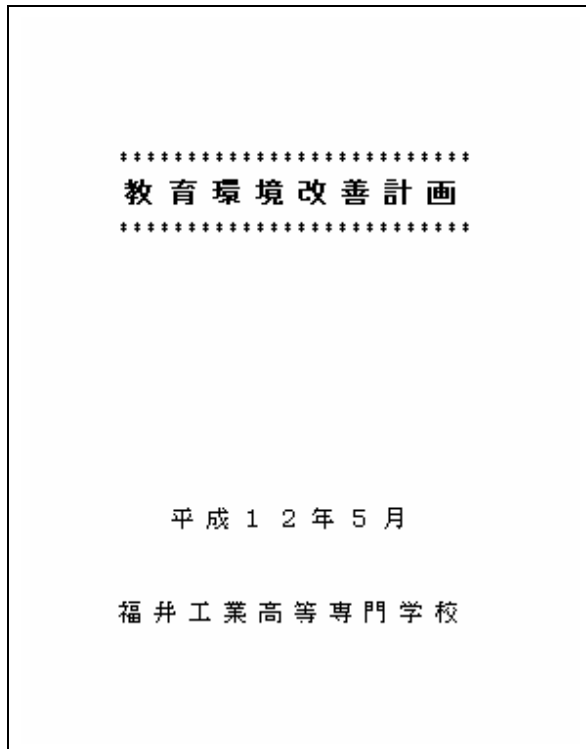
「財務会計システム」



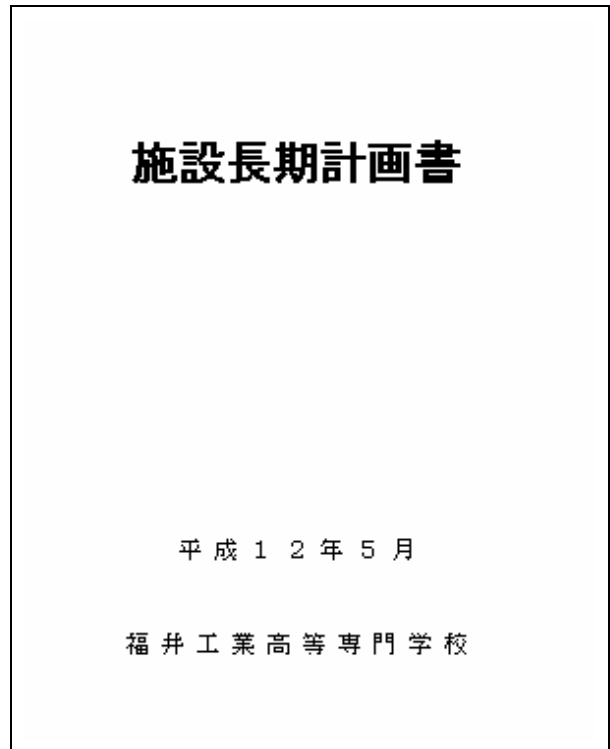
(出典 財務会計システム)

(資料 8 - 1 - - 5)

「教育環境改善計画」



「施設長期計画書」



(出典 施設整備部会資料)

(資料 8 - 1 - - 6)

「施設点検評価基準」

平成13年 5月14日
施設整備部会決定

福井工業高等専門学校施設整備部会

施設点検評価基準

平成13年 5月

福井工業高等専門学校

(出典 平成13年5月14日施設整備部会資料)

(資料 8 - 1 - - 7)

「建物見直し管理表」

建物見直し管理表

標名棟

建造年月日

構造・面積

築地日

平成14年4月28日

*料種 A: かなり悪悪 B: 中々悪悪 C: 普通 D: 稍改善あり E: 利用していない

校舎番号	棟名	面積(m ²)	築地日	構造	使用人数	使用状況	主要部材の劣化・損傷・修繕状況	料種	改善等
1	1 管理棟	115	その他	高等管理棟	B	A	無		
2	1 2 管理棟	110	その他	高等管理棟					
3	1 3 管理棟	9	その他	高等管理棟					
4	1 4 管理棟	144	その他	高等管理棟	B	A	無		
5	2 3 管理棟	52	その他	高等管理棟	C	A	無		
6	2 8 管理棟	52	その他	高等管理棟	B	C	無		
7	2 7 管理棟	9	その他	高等管理棟	B	C	無		
8	2 8 管理棟	52	その他	高等管理棟	C	A	無		
9	2 9 管理棟	98	その他	高等管理棟	C	C	無		
10	2 10 管理棟	29	その他	高等管理棟	C	C	有		
11	2 11 管理棟	29	その他	高等管理棟	C	A	無		
12	2 12 管理棟	59	その他	高等管理棟					
13	3 13 本館	84	鉄骨	高等管理棟	B	D	有	保存する部材が補えられなくなっている	B
14	1 14 本館	84	鉄骨	工業高等技術	A	A	無	基準面積より80㎡も狭く、かなり悪用である	A 改善
15	1 15 本館	80	鉄骨	工業高等技術	A	A	無	基準面積より81㎡も狭く、かなり悪用である	A 改善
16	1 16 本館	10	鉄骨	工業高等技術	C	E	有		
17	1 17 本館	15	鉄骨	工業高等技術	C	E	無		
18	1 18 本館	5	その他	工業高等技術					
19	1 19 本館	28	その他	工業高等技術					
20	1 20 本館	103	鉄骨、鉄筋、木造	工業高等技術	B	A	無	梁断面と梁断面との間隔が狭く、梁が加しにくい	B
21	1 21 本館	20	鉄骨、鉄筋、木造	工業高等技術	C	A	無		
22	1 22 本館	31	鉄骨、鉄筋、木造	工業高等技術	C	A	無		
23	1 23 本館	233	その他	工業高等技術					
24	1 24 本館	24	その他	高等管理棟					
25	1 25 本館	8	鉄骨	高等管理棟	C	E	無		
26	1 26 本館	52	その他	高等管理棟	B	A	無	情報公開等が追加し、狭くなって来た	B
27	1 27 本館	19	鉄骨	高等管理棟	C	E	有		
28	1 28 本館	12	その他	工業高等技術					
29	1 29 本館	22	その他	工業高等技術					
30	1 30 本館	44	その他	工業高等技術					
31	1 31 本館	111	その他	高等管理棟	C	A	無		
32	1 32 本館	37	その他	高等管理棟	C	A	無		
33	1 33 本館	18	その他	高等管理棟	C	A	無		
34	1 34 本館	3	その他	高等管理棟	C	A	無		
35	2 35 本館	84	鉄骨	工業高等技術	A	A	無	基準面積より80㎡も狭く、かなり悪用である	A 改善
36	2 36 本館	80	鉄骨	工業高等技術	A	A	無	基準面積より81㎡も狭く、かなり悪用である	A 改善
37	2 37 本館	28	その他	工業高等技術					
38	2 38 本館	7	その他	工業高等技術					
39	2 39 本館	5	その他	工業高等技術					
40	2 40 本館	36	鉄筋	工業高等技術	B	A	無	梁断面と梁断面との間隔が狭く、梁が加しにくい	B
41	2 41 本館	31	鉄筋	工業高等技術	C	A	無		
42	2 42 本館	25	鉄筋	工業高等技術	C	A	無		
43	2 43 本館	8	鉄筋、鉄筋、木造	工業高等技術	C	A	無		
44	2 44 本館	237	その他	工業高等技術					
45	2 45 本館	30	その他	高等管理棟	C	A	有		
46	2 46 本館	30	印刷	高等管理棟	C	A	無		
47	2 47 本館	19	その他	高等管理棟	C	E	無		

(出典 施設係)

(資料 8 - 1 - - 8)

「平成 1 7 年度施設整備概算要求説明資料」

平成 1 7 年度 施設 整備
概 算 要 求 説 明 資 料



(出典 施設整備部会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の施設・設備については、資料 8 - 1 - - 1 ・資料 8 - 1 - - 2 及び資料 8 - 1 - - 3 に示すとおり高等専門学校設置基準において校地・校舎・運動場等の施設及び教育用器具・計測機器等の設備が全て整備されている。また、平成 1 4 年度には、自己点検・評価報告書によって施設の現状と問題点が分析されていることから、殆どの施設・設備は有効に活用されている。

観点 8 - 1 - : 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

本校のキャンパス情報ネットワーク (FINESS) として，校内 LAN を構築 (資料 8 - 1 - - 1) し，すべての教室がインターネットに繋がる環境となっている。また，基幹であるギガビットスイッチから各学科棟スイッチまでは二重化した光ケーブルが敷設され，基幹を 1 Gbps × 2 の 2 Gbps，支線を 1 0 0 Mbps に高速化されている。

学外ネットワークに関しては，インターネット (SINET) への対外接続を果たし，校内ネットワーク網の整備とともに順次，高速化を進め 6 Mbps に増強され安定的な外部接続を確保するために以下のような形態の回線接続を行っている。

SINET 接続先ノードを福井大学として，回線速度は 1 0 Mbps (イーサネット) に高速化，増強している。

同時に，SINET の負荷分散及び SINET 障害時のバックアップ (非常回線) を目的にマルチホーム (1 0 Mbps，イーサネット) 化が実現されている。

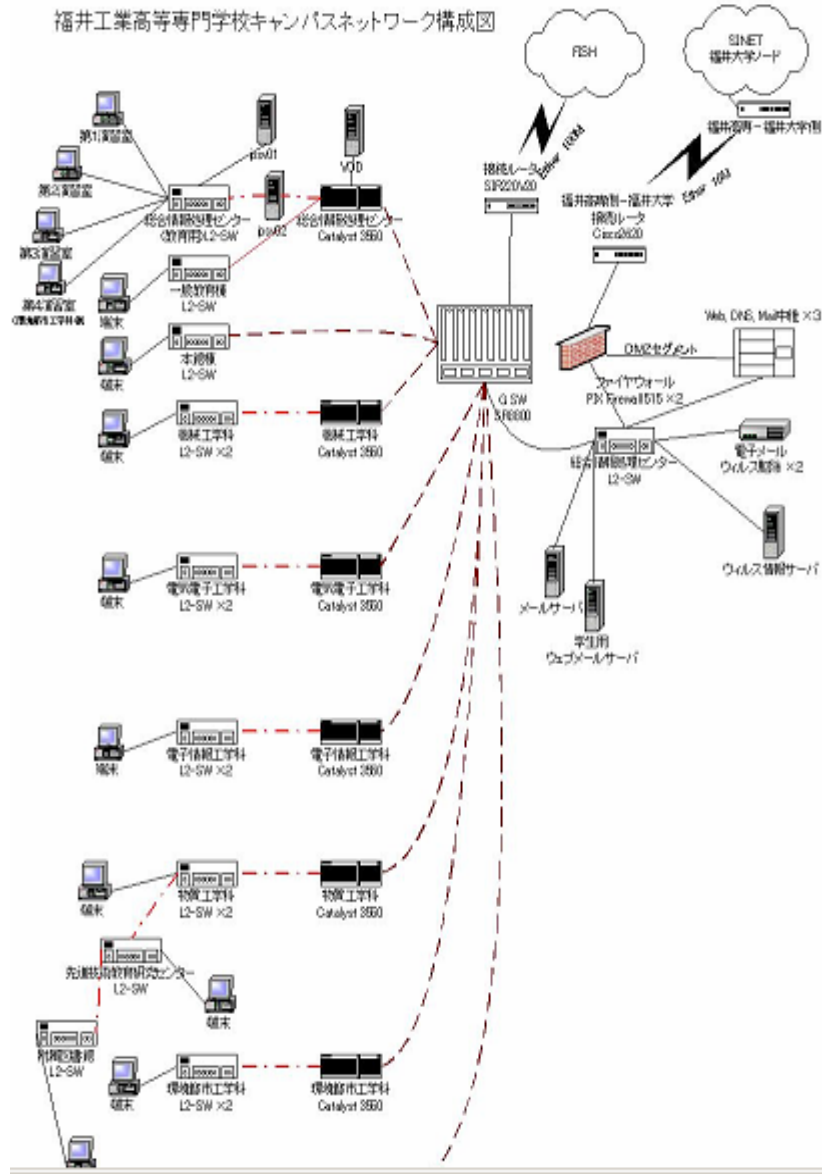
福井大学等の県内教育機関との遠隔授業等の活用を目指すため，福井情報スーパーハイウェイ (FISH) に加入し，100Mbps で接続している。

よって，総合情報処理センターでは，資料 8 - 1 - - 3，資料 8 - 1 - - 4，及び資料 8 - 1 - - 5 の管理体制の基に情報処理教育の初歩から高度な専門教育まで幅広い IT (情報技術) 教育の中心を担っており，本センターの教育用電子計算機システム構成 (資料 8 - 1 - - 2) は，サーバ室に 2 台のサーバ機を配置し，クライアントパソコンとして，第 1 演習室に 4 6 台，第 2 演習室に 7 台，第 3 演習室に 5 0 台及び第 4 演習室 (環境都市工学科 3 階ものづくりアトリエ) に 4 6 台の WindowsXP マシンを用意して，資料 8 - 1 - - 6 で示すとおり 4 クラスが同時に利用可能となっている。また，ネットワーク利用心得 (資料 8 - 1 - - 5) でモラルとマナー教育を重視し情報活用における倫理観の育成を実践している。

情報セキュリティに関しては，資料 8 - 1 - - 7 に基づき校内ネットワークのセキュリティ確保のために情報セキュリティシステムが導入されており，ファイアウォールの強化と二重化による信頼性の向上，学内向けサーバの負荷分散システムの構築を行っている。また，コンピュータウィルス対策として，安全な電子メールの送受信を行なうために電子メールウィルス除去サーバが設置されている。端末におけるウィルス対策ソフトとして，校内に設置されたウィルス情報サーバから最新パターンファイルが自動更新されることにより，効果的なウィルス駆除ができるなど，全校的なウィルス対策が施されている。

(資料 8 - 1 - - 1)

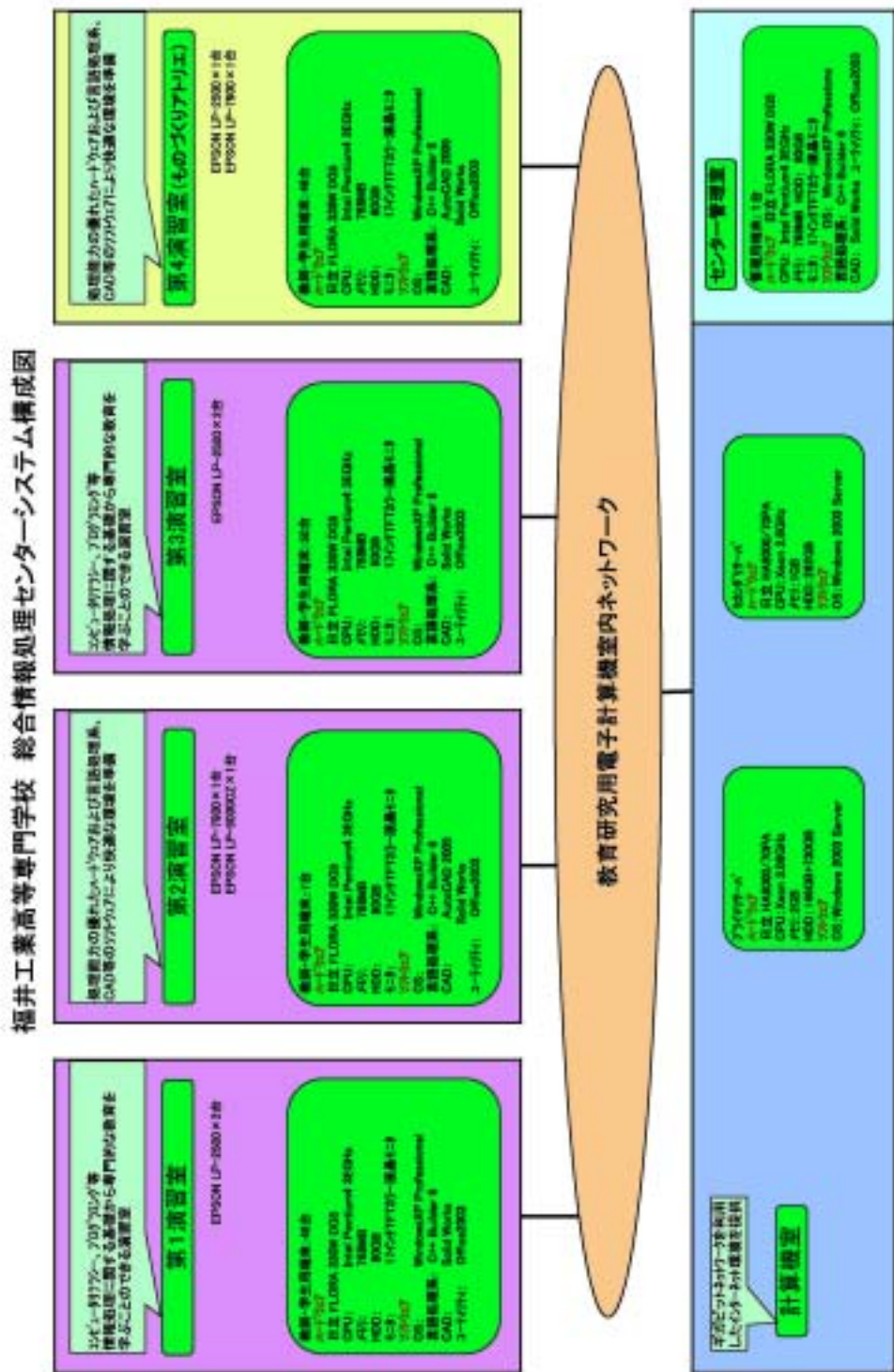
「ネットワーク構成図」



(出典 総合情報処理センター)

(資料 8 - 1 - - 2)

「情報処理センターシステム構成図」

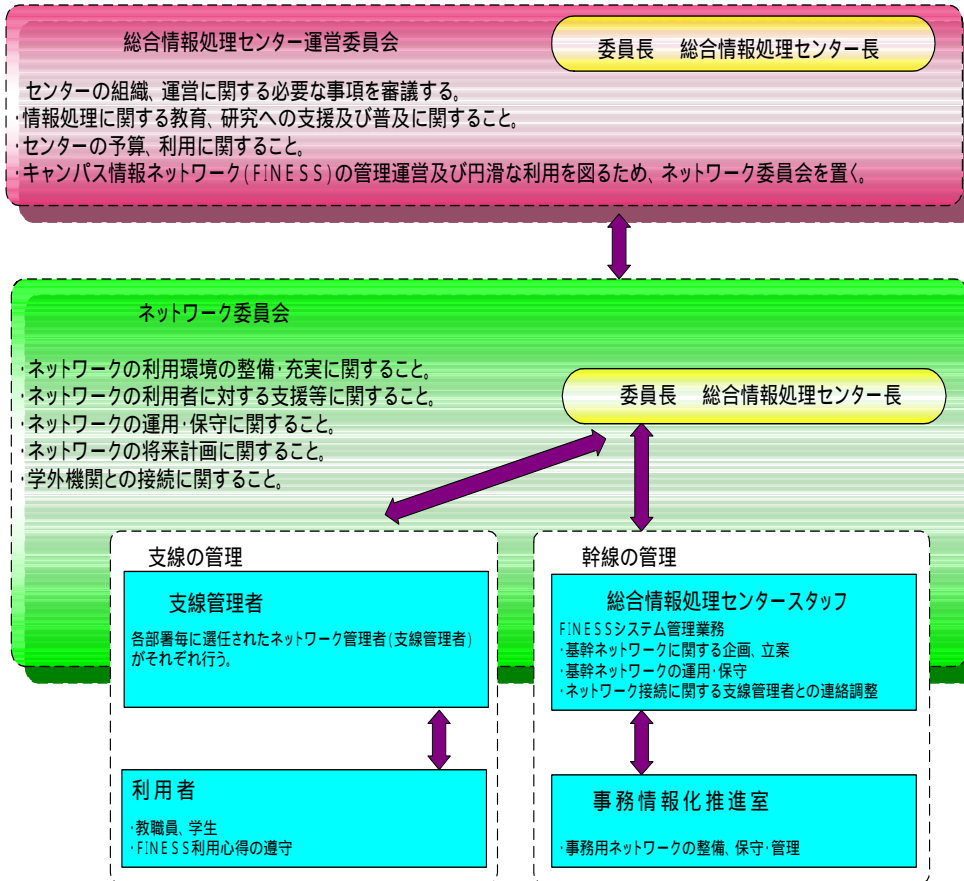


(出典 総合情報処理センターHP)

(資料 8 - 1 - - 3)

「キャンパス情報ネットワーク管理体制」

キャンパス情報ネットワーク管理体制



(出典 総合情報処理センター)

(資料 8 - 1 - - 4)

「ネットワーク管理業務」

FINESSシステム管理業務

FINESSシステム管理者の業務内容を下記のように具体的に定め、その役割の重要性、責任の重さ及び業務の多様性について利用者等の理解を得ることにより、システムの円滑な運用を図る。

記

1.

1. 新規ユーザの登録及びユーザの異動に伴うユーザ情報の更新・削除を行う。
2. 障害等に備えるため、各情報の重要性に応じ、定期的なバックアップを実施する。
3. システムがダウンした時は、速やかに復旧作業に当たる。
4. クラッシュなどシステムダウンの際、システムをリブートする。
5. ユーザの質問に適切に回答する。
6. システム利用者への教育を行う。そのための教材を作成する。
7. システムのセキュリティに注意を払い、継承された有害なセキュリティホールを

(出典 総合情報処理センター)

(資料 8 - 1 - - 5)

「ネットワーク利用心得」

FINESS利用心得

FINESSは本校に設置される各種のコンピュータが相互に通信を行うために敷設された学内共同利用のためのデータ通信路である。

FINESSの利用者等は、利用に際し、下記の事項に留意のうえ利用しなければならない。

なお、利用者等が必要な届出を怠ったとき又は禁止されている行為を行ったときはFINESSの利用を停止又は制限し、又はその行為が学則や社会規範にも反するようなものである場合は、別途、学校による処罰が課せられるほか、告訴される場合もある。

記

【届け出事項】

1. FINESSへの接続にあたっては、別に定める様式に基づき支線管理者に届け出るとともに、IPアドレス及びホスト名を当該ホストに設定すること。
2. IPアドレス及びホスト名を変更しようとする場合には、速やかに支線管理者に届け出ること。ただし、ホストに別名を付けることは差し支えない。
3. FINESSに学科内ネットワークを接続する場合又はネットワークを変更する場合は、支線管理者及びセンターと十分打ち合わせた後に、接続に使用する機器等を決定し、ネットワーク接続(又は変更)依頼書をセンター長に提出すること。
4. 通信路のケーブル等に損傷を与えるようなことが生じた場合は、速やかに支線管理

(出典 総合情報処理センター)

資料 8 - 1 - - 6)

「演習室の授業利用と一般使用時間」

演習室の授業利用と一般使用時間

平成17年度前期授業利用状況と一般使用

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3B 電子回路Ⅰ	使用可能	4B 電子情報工学実験Ⅳ	4B 数値解析
	2	1F2 コンピュータ科学入門			使用可能
	3	1F1 コンピュータ科学入門		使用可能	4B 環境都市工学実験実習Ⅳ
	4	使用可能			
火	1	1F4 コンピュータ科学入門	4M 知能機械演習	4B 情報構造論	使用可能
	2	1F3 コンピュータ科学入門		4B 電子回路Ⅱ	
	3	使用可能	使用可能	3B 電子情報工学実験Ⅲ	2B コンピュータプログラミング
	4				5B 空間情報工学
水	1	2M C言語基礎	2B 電子情報工学実験Ⅱ	2B 電子情報工学実験Ⅱ	3B 環境都市工学実験実習Ⅲ
	2	4M 機械計算力学			
	3	3C 情報処理演習	使用可能	3E 情報処理Ⅱ	5B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	4	使用可能			使用可能
曜	時	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
日	限				
	1	1F5 コンピュータ科学入門	5M 機械工学実験Ⅱ	2C プログラミング基礎	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ

(出典 総合情報処理センターHP)

(資料 8 - 1 - - 7)

「情報セキュリティマニュアル」



(出典 総合情報処理センター)

(分析結果とその根拠理由)

本校の十分なセキュリティ管理の下、インターネット及び電子メール等の利用を含め、学生のネットワーク利用環境が整備されている。特に、総合情報処理センター演習室端末を平成17年度から50台増強して150台に整備するなど、学生へのIT教育支援、インターネットを利用した教育・学習環境の充実を図っている。更に、演習室端末には、有害なサイトを排除できるコンテンツフィルタを導入し教育的な配慮を行っている。電子メールに関しては、すべての本科学生及び専攻科学生にメールアカウントを交付し、利便性の高いウェブメールで運用している。このことから、クラス担任からの諸連絡が電子メールでも受信可能となっている。現状では、これらが有効活用されており、学生のニーズを十分に満たしている。

今後、校内ネットワークの老朽化による障害が予想されるため、基幹サーバ及び基幹ネットワークの更新が必要不可欠なことや外部接続の更なる高速化、増強化の実現に向けて整備していく必要がある。

観点8-2- : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点にかかるとの状況)

本校の図書館では、閲覧室に約70,000冊の図書(内洋書8,000冊)、8,000冊の文庫・新書本と1,500種の雑誌(内洋雑誌300種)など学科の種類、教員数及び学生数に応じた図書、学術雑誌など教育研究上必要な資料(資料8-2--1,資料8-2--2)として利用しやすく系統的に配架し、高等専門学校設置基準に基づく整備がなされている。また、図書館平面図(資料8-2--3)に示すとおり、学生及び教員のニーズに対応した教科書コーナー・洋書コーナーのほか、ものづくり教育やJABEE関連資料も独立コーナーとして整備し、有効に活用されている。

閲覧室には、各種情報検索及びインターネットが利用できるパソコンを14台設置し、図書館ホームページ(資料8-2--5)からScienceDirect・ACS等の電子ジャーナルやJDream・MathSciNet・KANON等のデータベースも自由に利用できるように整備している。また、視聴覚資料の利用としてAV機器を6台設置し、有効活用を図っている。平成16年4月からは情報検索システム(OPAC)(資料8-2--6)を公開し、インターネットによる学外からの資料の検索も可能にしている。

図書管理用統計(資料8-2--4)に示すとおり、図書館利用促進の観点から図書館の開館時間を月曜日から金曜日までは午後8時までとし土曜日は午後4時30分まで利用可能にして学生、教職員の教育・研究活動の利便を図っている。また、電動式集密書架の設置により図書収容能力冊数が70,000冊から120,000冊への増加となり利用者の便が図られている。

図書館システムに関しては、蔵書検索システムが稼動しており図書館総合情報管理システム情報館5.0(プレインテック社)が導入され、図書の貸出・返却、図書館資料の発注・受入、蔵書点検、文献複写の依頼等を行い、インターネットによる蔵書検索も可能となっている。また、図書館退館管理システムを導入しており、所属不明図書対策に効果を上げている。

各種ハンドブック及び美術関係図書等を更新するとともに閲覧室に開架書架(3,300冊分)を増設し、新規購入図書はカバーをつけてシート表装する等して分別配架し、一層の活用を図っている。

(資料 8 - 2 - - 1)

「図書館の蔵書数」

蔵書冊数 (平成17年3月31日現在)				
	図書(冊)	教育後援会図書(冊) (図書・新書本)	雑誌(種類)	視聴覚資料(点)
和漢書	68,958	8,113	1,464	2,011
洋書	8,435	158	316	3,193
合計	77,393	8,271	1,780	5,204

(出典 図書係)

(資料 8 - 2 - - 2)

「受入図書数内訳及び蔵書構成」

図書館運営委員会資料

平成16年度受入図書数内訳及び蔵書構成

受入図書数内訳

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	32	18	24	35	235	174	7	195	26	65	811
洋書	1	0	0	0	12	1	0	1	0	0	15
合計	33	18	24	35	247	175	7	196	26	65	826

蔵書構成(平成16年度まで)

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	6,623	2,725	4,902	5,105	15,111	17,547	763	2,957	3,534	9,691	68,958
洋書	460	347	190	235	3,727	1,493	3	48	1,028	893	8,435
合計	7,083	3,072	5,092	5,340	18,838	19,040	772	3,005	4,562	10,584	77,393
比率(%)	9.2	4.0	6.6	6.9	24.3	24.6	1.0	3.9	5.9	13.7	100.0

蔵書合計

85,662

(出典 図書館運営委員会資料)

(資料 8 - 2 - - 4)

「図書館利用統計」

平成 1 6 年度月別利用統計

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数 / 日	貸出冊数 / 日	貸出者数 / 日
4	23	5,290	725	431	230.0	31.5	18.7
5	23	5,725	683	348	248.9	29.7	15.1
6	26	6,728	699	344	258.8	26.9	13.2
7	15	3,424	502	247	228.3	33.5	16.5
8	22	1,906	199	98	86.6	9.0	4.5
9	24	6,762	491	249	281.8	20.5	10.4
10	21	5,975	534	306	284.5	25.4	14.6
11	23	7,239	685	386	314.7	29.8	16.8
12	21	4,997	432	243	238.0	20.6	11.6
1	20	4,899	555	296	245.0	27.8	14.8
2	23	6,688	711	377	290.8	30.9	16.4
3	23	4,380	245	126	190.4	10.7	5.5
計	264	64,013	6,461	3,451	242.5	24.5	13.1

開館時間延長分（上記の数の内数）

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数 / 日	貸出冊数 / 日	貸出者数 / 日
4	19	887	142	73	46.7	7.5	3.8
5	23	1,158	209	104	50.3	9.1	4.5
6	25	1,334	127	68	53.4	5.1	2.7
7	15	547	66	32	36.5	4.4	2.1
8							
9	23	1,253	82	43	54.5	3.6	1.9
10	21	1,206	153	83	57.4	7.3	4.0
11	23	1,489	179	100	64.7	7.8	4.3
12	16	996	86	49	62.3	5.4	3.1
1	17	1,065	113	62	62.6	6.6	3.6
2	22	1,383	80	44	62.9	3.6	2.0
3	10	521	32	18	52.1	3.2	1.8
計	214	11,839	1,269	676	55.3	5.9	3.2

(出典 図書館運営委員会資料)

(資料 8 - 2 - - 5)

「図書館ホームページ」



(出典 図書館HP)

(資料 8 - 2 - - 6)

「情報検索システム (OPAC)」


福井工業高等専門学校 図書館



[新着図書](#)



[キーワードで探す](#)



[条件項目で探す](#)



[図書館からのお知らせ](#)



[図書館カレンダー](#)



[借方について](#)

Internet Explorer4.0 以上 または Netscape Navigator4.04 以上のブラウザでご覧いただけます。

(出典 図書館)

(分析結果とその根拠理由)

図書館閲覧室には約 100,000 点の資料を分別・配架し、利用者の便を図っている。図書館資料に貼付したバーコードにより、図書の貸出・返却・予約、館内利用のみ許可している視聴覚資料の閲覧・返却を迅速に処理でき、利用状況も瞬時に把握できている。また、新着資料案内・貸出資料の延滞者への督促や利用状況等の統計処理等も遅滞なく実施されている。

図書館HPには、OPAC、ScienceDirect・ACS等の電子ジャーナル、JDream・MathSciNet・KANON等の情報サービスが掲載されており図書館利用者の学習・教育研究に大いに役立っている。また、教員研究室の端末から資料の発注・文献複写の依頼ができ、教員はKANON (ScienceDirectにリンクしてある)を利用することで、即座に文献が入手できるシステムとなっている。また、退館システムの導入により、所在不明図書が激減している。

今後、卒業研究やものづくり教育等で図書館を利用したグループ学習のための独立した学習室が必要である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の施設・設備は、「教育環境改善計画」及び「施設長期計画書」に基づいて継続的に整備されている。また、自己点検・評価報告書による施設の現状と問題点が分析されていることから、殆どの施設・設備は有効に活用されている。

情報ネットワークに関しても十分なセキュリティ管理の下、インターネット及び電子メール等の利用を含め、学生のネットワーク利用環境が整備されている。

図書館についても学科の種類、教員数及び学生数に応じた図書、学術雑誌など教育研究上必要な資料として利用しやすく系統的に配架し整備がされている。また、学生のニーズに対応した各種コーナーも設置され有効に活用されている。

(改善を要する点)

本校の校舎については、自己点検・評価報告書にもあるように老朽化が進んでおり教育環境改善の観点から早急な改修の必要性に迫られている。

情報ネットワークについては、ネットワークの老朽化による障害が予想されるため、基幹サーバ及び基幹ネットワークの更新が必要不可欠なことや外部接続の更なる高速化、増強化の実現に向けて整備していく必要がある。

図書館では、卒業研究やものづくり教育等で図書館を利用したグループ学習のための独立した学習室の設置が必要である。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の目的や教育課程に対応した校地・校舎・教室・図書館棟・情報処理センター・体育館・運動場等の施設が整備されているほか、教育用の機械器具・計測機器等の設備も適切に整備され、それぞれ有効に活用されている。また、学内の情報ネットワークについては、校内 LAN の高速化、学外接続の高速化を最大限に図って来ているほか、情報セキュリティの面からもウイルスに対処する仕組みを整備するなど教育や学生のニーズを満たすものとして適切に整備され、有効に活用されている。

図書館については、学生及び教員のニーズに応じて系統的に収集された図書、学術雑誌、視聴覚資料等の教育研究上必要な資料が充実した状態で整備されている。また、書架の配置や検索用のパソコン等の設備、並びに土・日曜日や夜間に開館するなど利便性が十分に考慮されており、学生からも有効に活用されている。

以上のとおり、施設・設備が整備され、有効に活用されているほか、情報ネットワークも十分なセキュリティ管理下で適切に整備され図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料も整備されている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9 - 1 - : 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

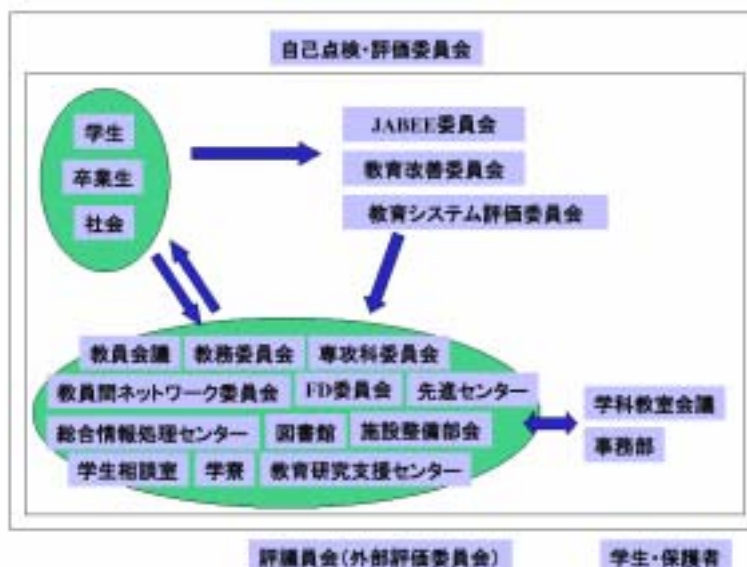
(観点に係る状況)

本校には教育を点検・評価する「教育点検システム」(資料 9 - 1 - - 1)が存在する。自己点検・評価委員会(前出資料 6 - 1 - - 4)は教育点検システム全体を俯瞰的に評価し、本校全体を評議員会(前出資料 6 - 1 - - 5)が評価する。各委員会でも内部的に点検を行っているほか、教育改善委員会(前出資料 6 - 1 - - 3)等からも点検される仕組みとなっている。

(資料 9 - 1 - - 1)

「福井工業高等専門学校教育点検システム構成図」

福井高専教育点検システム



(出典 ウェブページ)

平成 14 年に自己点検・評価報告書「21 世紀に輝く福井工業高等専門学校の教育と研究」(資料 9 - 1 - - 2)を取りまとめた。これを受け、平成 16 年に教育システム評価委員会(前出資料 6 - 1 - - 6)が発足した。同年には日本技術者教育認定機構(JABEE)へ「環境生産システム工学自己点検書」(資料 9 - 1 - - 3)を提出した。その指摘事項は関連する委員会等にフィードバックされ、同年 12 月に改善報告書(資料 9 - 1 - - 4)を提出、平成 17 年 5 月に認定を受けた。平成 17 年度には最新の自己点検・評価報告書を発行する予定である(資料 9 - 1 - - 5)。

(資料9 - 1 - - 2)

「自己点検・評価報告書(平成14年)」



(出典 21世紀に輝く福井工業高等専門学校の教育と研究)

(資料9 - 1 - - 3)

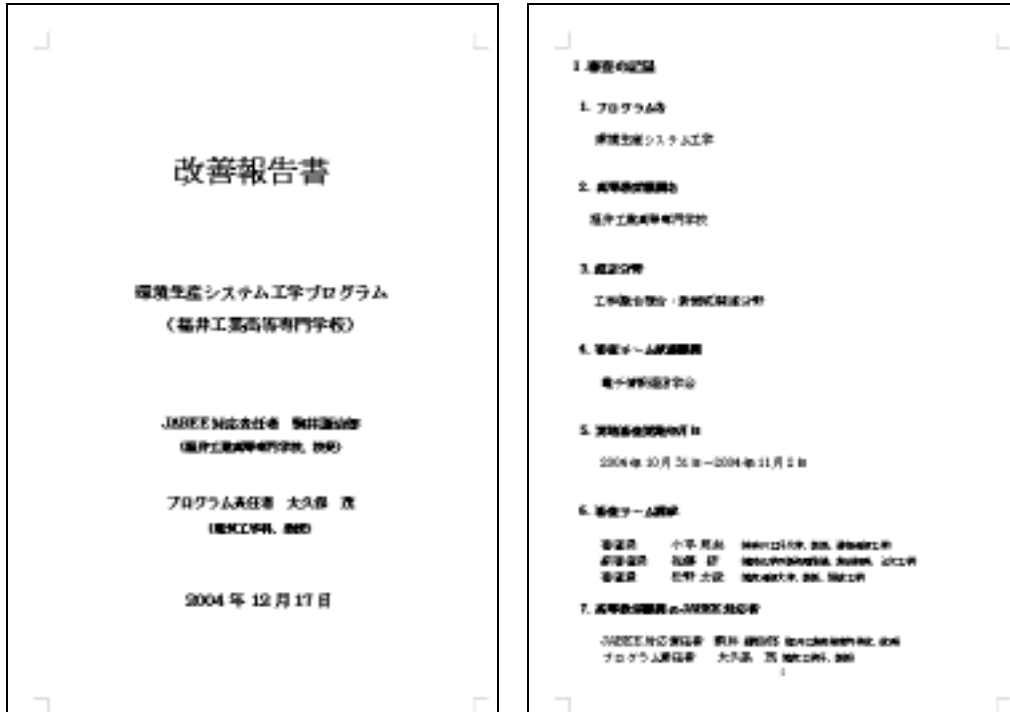
「自己点検書(平成16年)」



(出典 環境生産システム工学プログラム自己点検書)

(資料 9 - 1 - - 4)

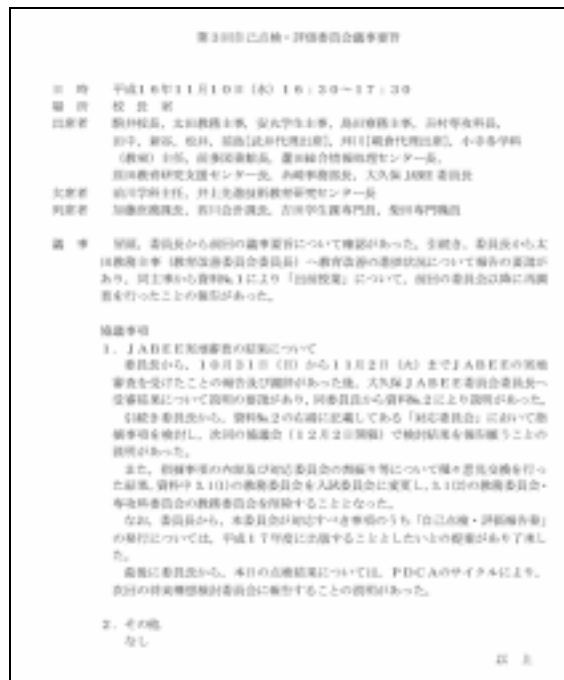
「改善報告書(平成16年)」



(出典 環境生産システム工学プログラム改善報告書)

(資料 9 - 1 - - 5)

「次期自己点検・評価報告書の出版に関する記載」



(出典 平成16年度第3回自己点検・評価委員会議事要旨)

以上の教育点検システムで求められる教育活動実態は、シラバス（資料 9 - 1 - - 6，別添「本科シラバス」例えば B - 2 7 頁）や教員総覧（前出資料 3 - 1 - - 1）等においてまとめられ、開示されている。この他、教育活動評価（前出資料 3 - 2 - - 5），研究活動評価（資料 9 - 1 - - 7），教員の教育業績等評価（校長表彰）（資料 9 - 1 - - 8）において教員個々の業績を把握している。

（資料 9 - 1 - - 7）

「教員の研究活動評価シート」

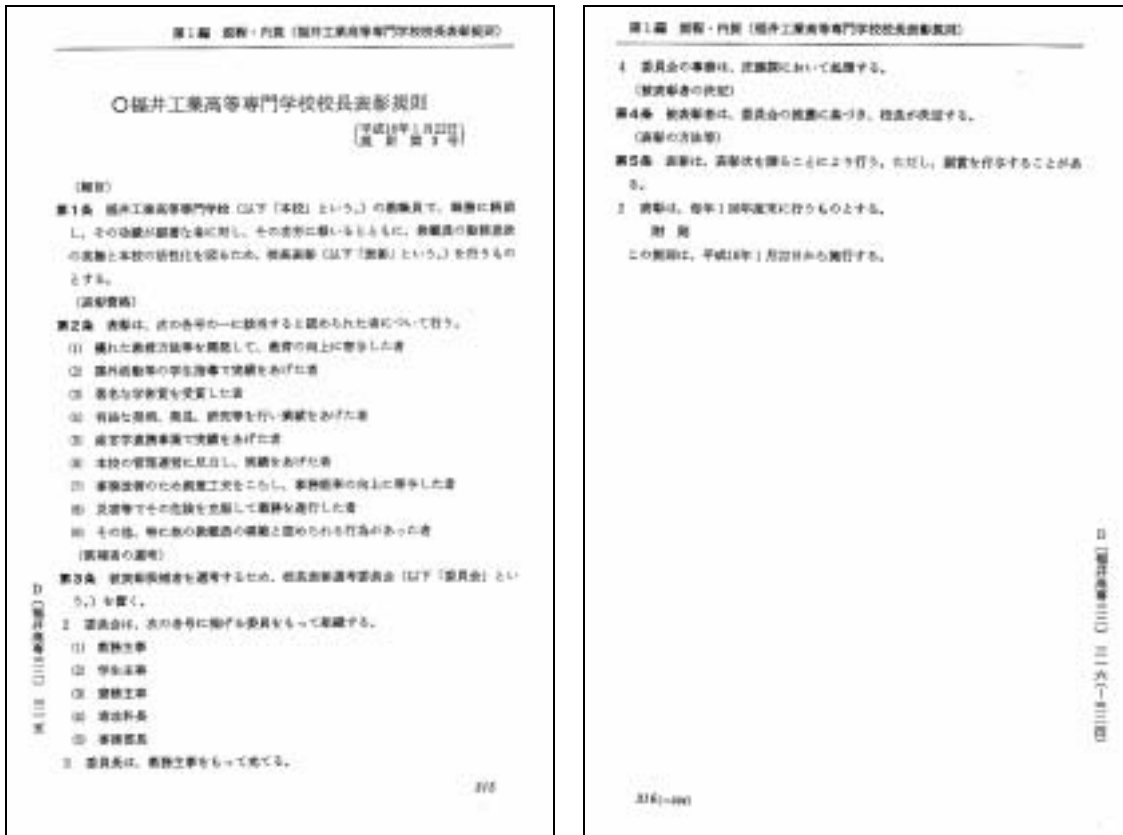
教員の研究活動評価シート（I）

評価分野	評価項目の内容				評点
	題目	発表者	掲載誌	巻 頁（発表年）	
A 研究成果の 発表 8.4.2 1点	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				A合計
	8				0
B 研究活動 (途中経過) 2点	発表には至っていないがあと少して成果が期待できるものについて進捗状況を説明してください				評点

（出典 研究改善委員会資料）

(資料9 - 1 - - 8)

「福井工業高等専門学校校長表彰規則」



(出典 規則集 315頁)

特に、授業に関する活動実態は、半期毎に実施される授業アンケート (前出資料 3 - 2 - - 4) や公開授業 (資料 9 - 1 - - 9) で収集されると共に、成績評価資料 (資料 9 - 1 - - 10) として保管され、必要に応じ教員が相互に確認できる体制となっている。

(資料9 - 1 - - 9)

「平成16年度公開授業(抜粋)」

実施教員 前川 公男
 授業科目 電子回路
 実施日 平成16年10月6日 1限目 4Ei
 関連教員1 野村 保之
 科内教員1 井上 昭浩
 他学科教員1 吉崎 保夫 荒川 正和
 改善委員 野村 保之
 懇談会日 平成16年10月7日
 懇談会場所 電子情報工学科図書会議室(15:15~16:15)

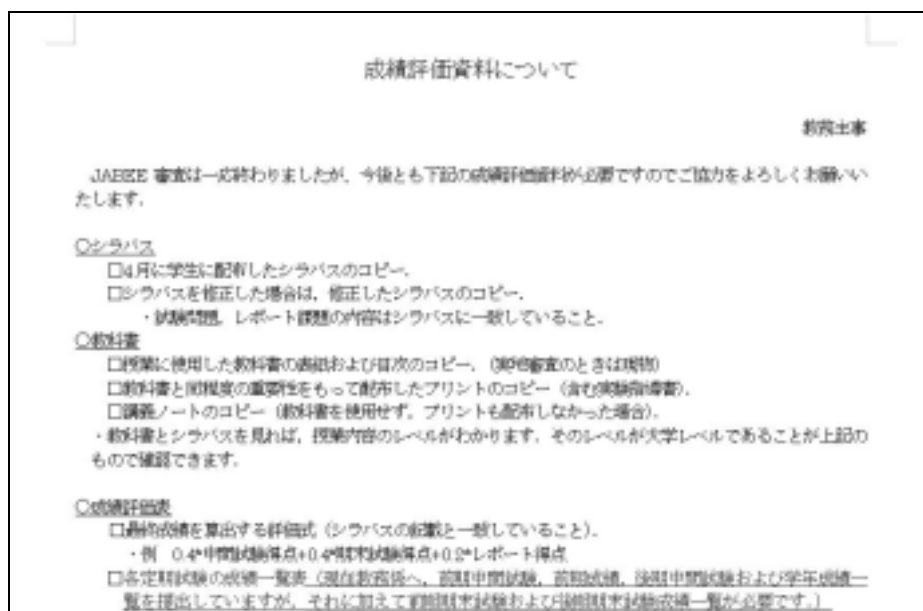
実施教員 井上 清一
 授業科目 自動制御
 実施日 平成16年10月6日 3限目 5M
 関連教員1 佐藤 匡
 科内教員1 吉崎 保夫
 他学科教員1 青山 義弘 井之上 和代
 改善委員 芳賀 正和
 懇談会日 平成16年10月6日
 懇談会場所 専攻科棟ゼミ室1(16:30~17:15)

(後略)

(出典 学生課)

(資料9 - 1 - - 10)

「成績評価資料」



(出典 学生課)

また、教育活動に関する資料のデータベース化を図るために、認証評価委員会の中にデータベースWG(資料9 - 1 - - 11)が設けられ、資料の電子化が進められている。

(資料 9 - 1 - - 11)

「認証評価委員会の構成」

第2回認証評価委員会議事要旨

日 時	平成16年12月9日(木) 14:00~14:40
場 所	小会議室
出席者	太田委員長、蘆田、上島、西川、芳賀、野村、津田、小林、壬生の各委員
欠 席 者	加藤、長谷川、荒川、辻子、高久、斉藤の各委員
列席者	柴田専門職員
議 事	<p>1. 委員の交替について</p> <p>委員長から、大久保委員より辞退の申し入れがあったため了承し、新たに荒川助教と壬生助教に依頼したことの報告があった。</p> <p>2. 機関別認証評価について</p> <p>委員長から、「機関別認証評価実施希望年度等調べ」については前回審議願ったところであるが、校長へ報告した結果、「17年度に受審希望」「18年度はJABEE再受審により困難」と機構本部へ回答したことの報告があり、17年度受審に向けて、今後は2つのワーキンググループを設けて作業に取りかかりたいとの提案があり次のとおり割り振りを行った。</p> <p>【自己評価WG】太田(チーフ)、上島、加藤、西川、長谷川、芳賀、荒川、野村、津田、辻子、小林、壬生、斉藤</p> <p>【データベースWG】太田、蘆田(チーフ)、上島、高久、斉藤</p> <p>なお、委員長から、庶務課・会計課・学生課においては、実務者(係長等)をワーキンググループへ出して欲しいとの要請があった。</p>

(出典 平成16年度認証評価委員会第2回議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

教育を点検・評価できる「教育点検システム」が整備されており、このシステムに従って教育活動の実態を示すデータや資料が適切に蓄積され、適切に評価が行われている。評価方法は自己評価、相互評価、学生からの評価、外部評価と多様であり、結果が的確にフィードバックされている。その成果として数報の自己点検書を提出・開示しており、今後も継続的な自己点検の実施が定まっている。

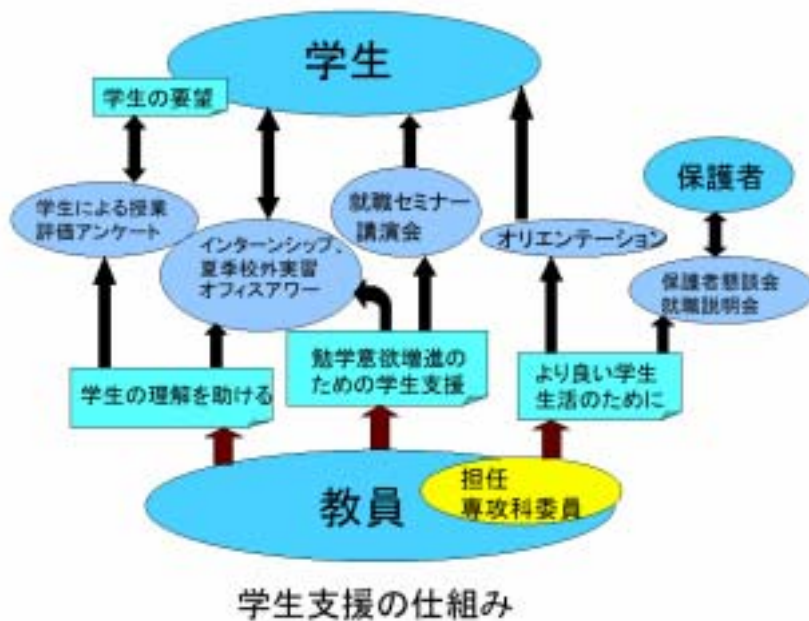
観点 9 - 1 - : 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では「学生支援体制」（資料 9 - 1 - - 1）が定められ、ウェブページで開示されている。

（資料 9 - 1 - - 1）

「学生支援体制」



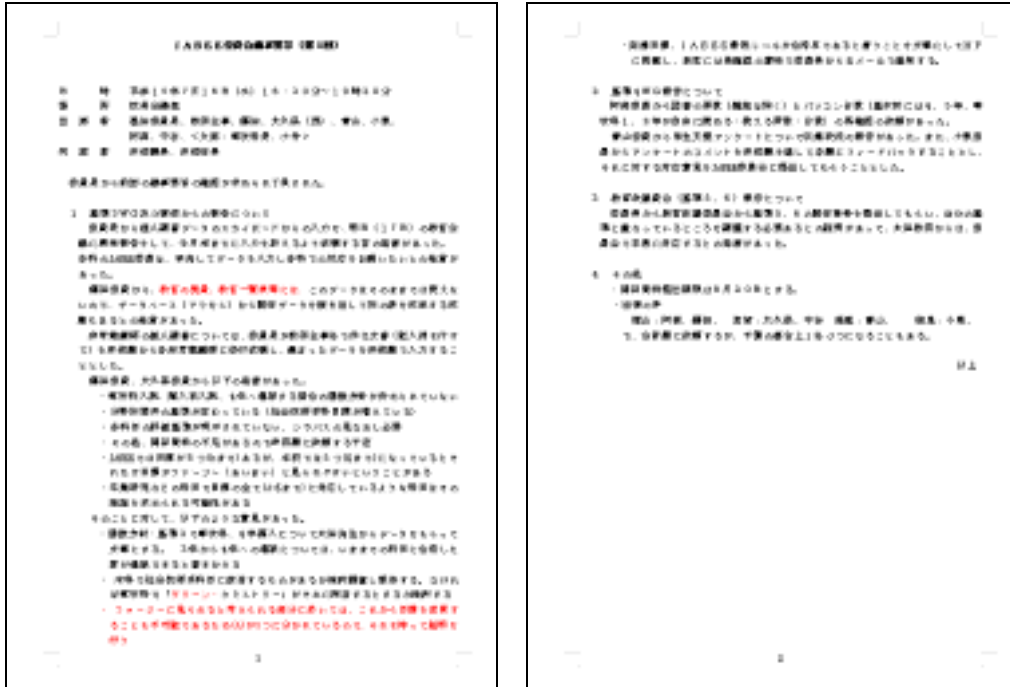
（出典 ウェブページ）

授業アンケートは、準学士課程、専攻科課程共にこれまで5回実施されている。平成16年度以降、前期最終週（第15週）ならびに後期最終週（第30週）の授業時間中に授業アンケートを実施できるよう年間計画が定められ、シラバス（資料 9 - 1 - - 2、別添「本科シラバス」例えば B - 3 5 頁）にも明記されている。科目担当者は、授業アンケート結果に基づき、結果の分析や改善課題等を記入し提出している。これをまとめた報告書は図書館等において開示されている。

学生生活や教育環境への要望の集約のために、平成15年度および平成17年度に学生支援アンケート（資料 9 - 1 - - 3）を実施している。学生支援アンケートの集計結果（資料 9 - 1 - - 4）は関係部署にフィードバックされ、回答書が作成されている。図書館（資料 9 - 1 - - 5）、総合情報処理センター、学寮各施設において回答書が掲示されている。これらの対応については、自己点検書（資料 9 - 1 - - 6）に明記されている。

(資料9 - 1 - - 3)

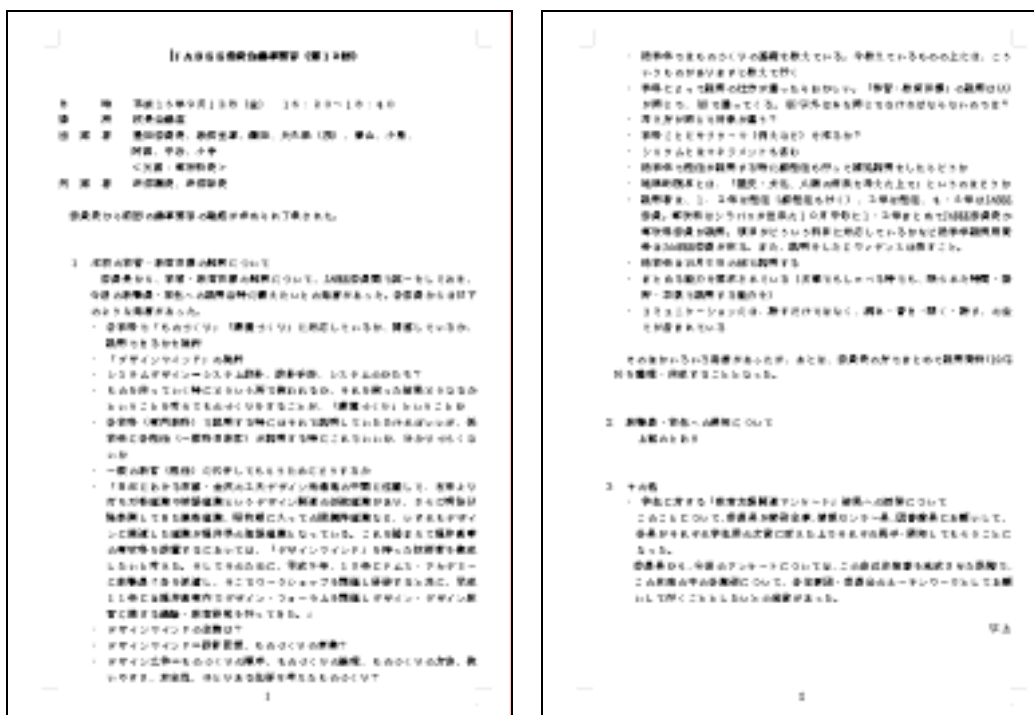
「学生支援アンケートの実施状況に関する記載」



(出典 平成15年度第5回JABEE委員会議事要旨)

(資料9 - 1 - - 4)

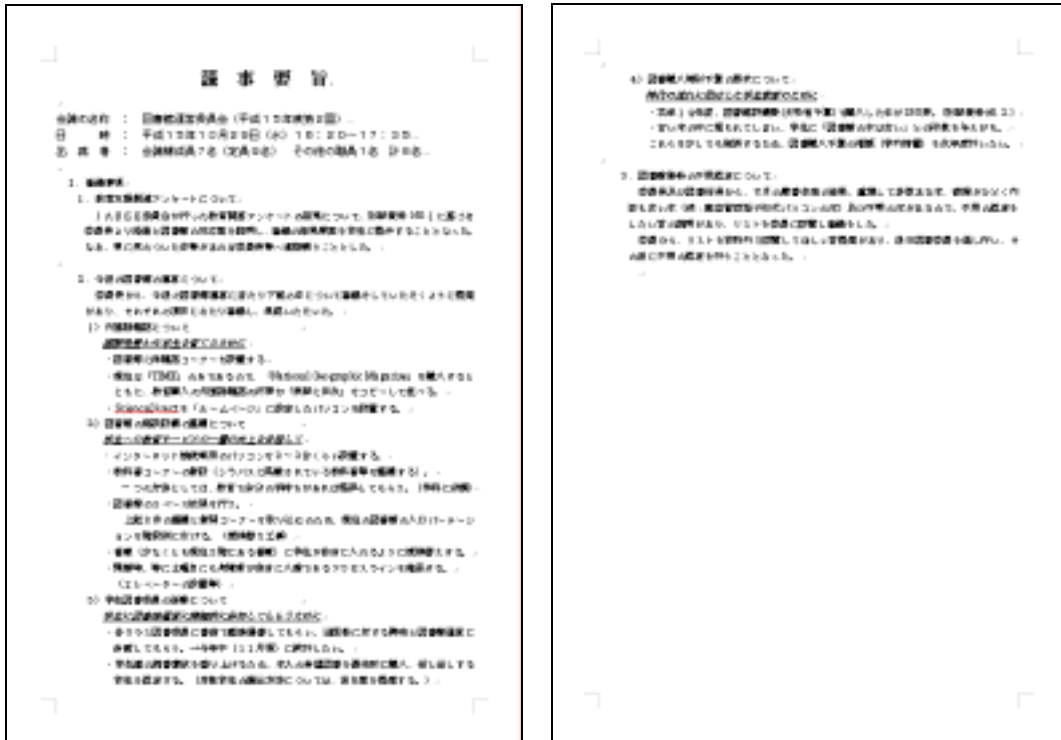
「学生支援アンケート結果のフィードバックに関する記載」



(出典 平成15年度第12回JABEE委員会議事要旨)

(資料9 - 1 - - 5)

「学生の要望に対する回答書(図書館)」



(出典 平成15年度第2回図書館運営委員会議事要旨)

(資料9 - 1 - - 6)

「学生支援に関する自己点検書での記載」

うえ決定した。また、「環境生産システム工学」教育プログラムの代表的な授業科目について各学科で検討することとした[19]。JABEE 受審に対応するため、15年度の開講科目について、英語科目の充実および新規開講科目として技術者倫理を2年次に開講することについて審議のうえ決定した[22]。さらに、平成16年度の教育課程改訂について、専攻科委員会でも審議のうえ決定した[23]。JABEE への対応のため、平成15年度専攻科シラバスの加筆・変更についても専攻科委員会で議論され、新たにシラバスを作成し、学生に再配布することを決定した。またカリキュラムに関しても、試行開講科目として、製造デザイン(演習)、ものづくり情報工学、先端材料工学を開講することについて議論がなされた[24]。

2) 学生支援の改善

現在本校では、教育改善の一環として、教育改善委員会が主となり、学生の授業アンケートを実施している。昨年度末に全学生を対象とした授業アンケートを実施した。このアンケート結果に対して、各担当教員が執筆した分析結果および今後の課題を付けて学生・教員授業達成度調査報告書としてまとめ、全教員およびクラスに配布した[25]。これにより、過去の授業の問題点が明らかになり、新年度における授業の取り組みを改善することができる。また、学生からの評価も報告書の結果に基づいて行われるため、前年度に比べ改善がなされていなければ評価が下がることとなる。

3) 公開授業による授業改善

授業の改善および授業に関する教員のPDの一環として、平成16年9月から公開授業を行う予定である。前・後期、各学科・教室より1名(半学期合計7名)の教員が公開授業を行う。授業参加者は、関連科目教員1名、学科内教員1名、他学科教員2名、教育改善委員1名、学外者で構成する。授業終了後懇談会を開き、教員本人がレポートを作成し、教育改善委員会に提出する[26][27]。今後3・4年間で全教員が公開授業を行うことになる。

(出典 環境生産システム工学自己点検書79頁)

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケート，学生支援アンケート，公開授業が行なわれており，学生の要望に対する回答が開示されている。特に授業アンケート結果は，教員による分析・課題等を加筆した上で報告書として開示されている。

観点 9 - 1 - : 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

平成 15 年度、卒業生（修了生）に対してアンケート（資料 9 - 1 - - 1）を実施し、学校に対する意見を収集している。平成 16 年よりインターンシップ実施時に、訪問先の企業等全てに対し「企業からみた学習・教育目標への要望および福井高专卒業生に求める能力・資質の把握」に関するアンケートを実施している。これらの結果（資料 9 - 1 - - 2）は教員会議で報告され、自己点検書（資料 9 - 1 - - 3）に明記されている。

（資料 9 - 1 - - 1）

「卒業生からの意見聴取」

第 1 回卒業生対象アンケート調査結果
平成 15 年 7 月
教育改善委員会

社団法人として活動中の卒業生に対して、高等（専攻科）在学中の授業などに対するアンケート調査を行った。第 1 回ということもあり、平成 14 年度卒業生の中から 80 名を任意に選び平成 15 年 7 月から 8 月にかけて調査を行った。回答者等への配慮による調査だったこともあり、回答率は 34% と低かった。結果が寄せられたうち、2 人が大学在学中、1 人が専門学校在学中、残り 13 名は企業勤務であった。

1 アンケート調査票
アンケート調査票は次のようである。

卒業生 平成 卒業生

卒業生 平成 卒業生

1 現在の所属
(1) 企業 (2) 大学 (3) 官公庁 (4) 専門学校
(5) その他

2 現在、在籍している、企業・大学などで、高等（専攻科）で学んだことで成立している科目（実験・実習を含む）を二つあげてください。
(1) (2)

3 あなたは福井高专（専攻科）を卒業して良かったと思っていますか。
(1) 良かった（できたらその理由を書いてください）
(2) 良かった（できたらその理由を書いてください）
(3) 特に考えていない
(4) その他

4 福井高专では、現在 5 つの学科がありますが、これを総合し、一つの大学科とし、2 年次に機械系、電気系、化学系、情報系などのコースに分かれる案を議論していますが、意見がございましたら書いてください。[特に社団法人としての視点で書いてください]。
(1) 大いに賛成すべき（意見がありましたら書いてください）
(2) あまり意味がなさそうです。

(3) その他

1 平成 15 年度より本校は独立法人となりましたが、知っていませんでしたか。
(1) 知っていた (2) 知らなかった (3) その他

2 アンケート結果
(1) 習得内容の有効性
高等（専攻科）在学中に学習したことが、卒業後、役立っているかどうかを聞いた結果が図 1 である。これによればほとんどの卒業生が役立っていると答えている。

図 1 習得内容の有効性

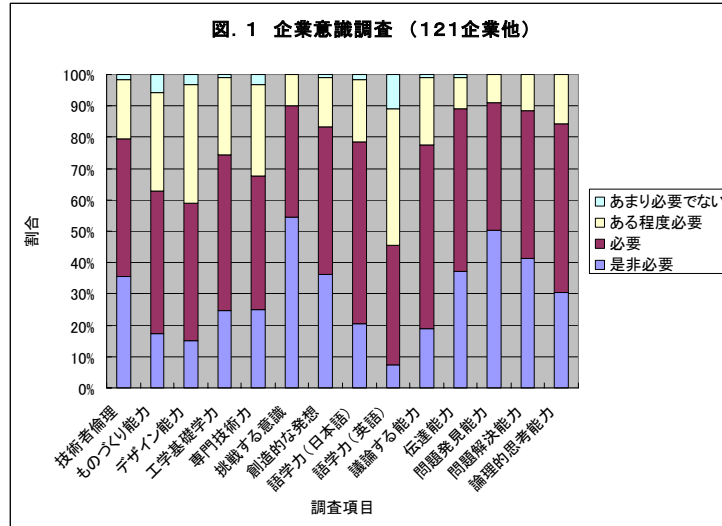
高等（専攻科）で学んだことで役立っているとの回答の科目は次のようである。

専門科目全般（製造部等→企業）
英語→アクリート（環境部等→企業）
英語（電気→企業）
材料研究（機械→生産システム、生産システム→官公庁 電気→企業）
機械工学実験（機械→生産システム、生産システム→専門学校）
設計製図（機械→企業）
工場実習（機械→企業）
交流回路論（電気→企業）
電線図（電気→企業）
本科の実験・実習（情報部等→環境システム）
専門オペレ（機械部等→環境システム）
応用数学（電子情報→大学）
線形代数（電子情報→大学）
未だわからない（電気系名、電子情報 1 名）

（出典 教育改善委員会資料）

(資料 9 - 1 - - 2)

「企業からみた学習・教育目標への要望および福井高専卒業生に求める能力・資質の把握」



(出典 教員会議資料)

(資料 9 - 1 - - 3)

「学外関係者からの意見聴取の実施状況に関する自己点検書での記載」

(1) 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在

本校では、社会・学生からの要望を取り入れるために、各種アンケート調査を行い、点検・改善に生かしている。教育改善委員会により卒業生を対象とした学習・教育目標の達

成度アンケート調査が実施され、社会人となった卒業生の声を聴き上げている[1]。卒業生へのアンケートは同窓会とも連携を図って、教育改善委員会が中心となって行われることになった[2]。就職先企業を含む置単校外実習先企業およびインターンシップ先企業を対象として、「企業からみた学習・教育目標への要望および福井高専卒業生に求める能力・資質の把握」に関するアンケート調査を本年度より実施した[2]。このように、教育プログラムに対する社会からの要望を反映させる仕組みは整っている。さらに、学生を対象として、現行の教育プログラム・教育システムに対する授業評価アンケートが、教育改善委員会によりこれまでに1回実施され(平成14・15年)、教育効果の評価の一環となっている[3]・[4]。また、学生生活に関係する「学生支援アンケート」も平成15年度から実施されており、平成16年度からは学生生活課が中心となってアンケートを実施する予定である[2]。以上のように、学生の要望を教育改善に反映するシステムは整備されている。

(出典 環境生産システム工学自己点検書74頁)

(分析結果とその根拠理由)

学外関係者からの意見聴取については不定期ではあるが実施され、開示されている。今後も継続的にアンケートを実施することが予定されている。

観点 9 - 1 - : 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校には「教育点検・改善システム」（前出資料 3 - 2 - - 2）が存在する。各委員会が、Plan（計画） Do（実施および運用） Check（点検・検証） Action（見直し、改善）という 4 段階の役割を果たしている。各段階に議論の中心をなす委員会（Plan に関しては協議会および将来構想検討委員会、同様に Do は教員会議、Check は自己点検・評価委員会（内部評価）および評議員会（外部評価）、Action は教育システム評価委員会および将来構想検討委員会）があり、そこでの議論に則して他の委員会が各段階を実行する仕組みとなっている。

近年、学習・教育目標 3 5 項目の設定、工学基礎コースの新設ならびに混合学級の導入（前出資料 4 - 3 - - 2）、県内大学との単位互換制度（資料 9 - 1 - - 1）の導入、海外の大学との交換留学制度の検討（前出資料 7 - 1 - - 5）、公開授業の制度化（資料 9 - 1 - - 2）等継続的な改善を行っている。平成 1 7 年度には基本理念（前出資料 1 - 1 - - 6、別添「学校要覧」冒頭）に基づき近隣市町村との地域連携協定を締結（資料 9 - 1 - - 3）し、積極的な地域貢献を行っている。

（資料 9 - 1 - - 1）

「県内大学との単位互換制度（抜粋）」

議事に先立ち、委員長から前回の議事要旨（案）について確認がもとめられ了承された。

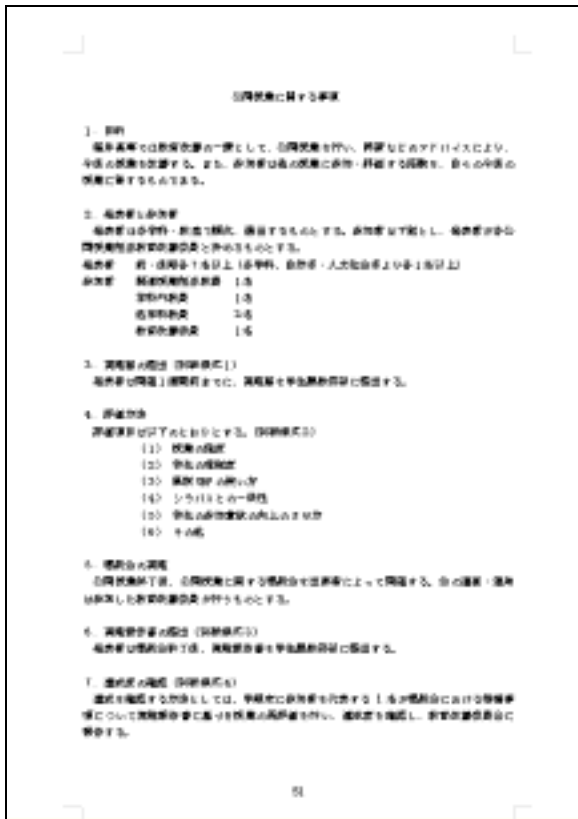
議 題

1. 平成 1 6 年度専攻科入学者選抜（学力選抜「後期」）合格者の判定について
委員長から、資料№ 1 に基づき説明があり審議の結果、生産システム工学専攻の専攻序列 1 番～3 番まで、環境システム工学専攻の専攻序列 1 番～3 番までの計 6 名を合格とし、教官会議に諮ることになった。
2. 学則の改定について
委員長から、12 月 12 日に開催された福井県内大学間単位互換実施連絡協議会において横ね高専の参加の了承を得ているが、正式には来年 1 月 7 日頃に連絡がある旨の報告があった。続いて、学生課長から、参加に伴う学則の一部改正等について資料№ 2 に基づき説明があり、「学則の一部改正」及び「福井工業高等専門学校特別聴講派遣学生及び特別聴講学生」について原案通り了承された。
なお、1 月の協議会に諮問し、教官会議は、追認してももらうことになった。
3. 平成 1 6 年度前期福井県内大学及び短期大学並びに高等専門学校単位互換制度による福井工業高等専門学校特別聴講学生募集要項及び特別聴講派遣学生募集案内について
学生課長から、資料№ 3 に基づき説明があり、原案通り了承された。また、専攻科 1 年生に対し単位互換制度の説明会を 1 月 27 日 16 時 30 分から講義室で開催することとし、他大学等の開講科目について内単位にするか外単位にするかを説明会までに調査することになった。
4. 単位互換制度実施に伴う遠隔授業の整備について
委員長から、資料№ 4 に基づき説明があり、予算要求し整備することが了承された。なお、整備された場合当初のネットワーク設定については総合情報センターで行うが、その後の管理は担当者が行うとの説明があった。
5. 特別研究論文集要旨の英文化について
委員長から、資料№ 5 に基づき説明があり、要旨を英文化にすることについて各学科で周知するよう依頼があった。

（出典 平成 1 6 年度第 1 5 回専攻科委員会議事録）

(資料9 - 1 - - 2)

「公開授業に関する規則」



(出典 教務に関する申合事項集 5 1 頁)

(資料9 - 1 - - 3)

「近隣市町村との地域連携協定(抜粋)」

8. その他

- 「学生発！ふくいビジネスプランコンテスト」の共催について……追加資料
委員長から、資料により「学生発！ふくいビジネスプランコンテスト」の共催依頼があったことの報告があり、使用名義を「福井工業高等専門学校」として共催することを了承した。
- 「学市(町)連携協定」について
委員長から、地域連携の強化と教育研究の発展を図るために、武生市・鯖江市・今立町と「学市(町)連携協定」を締結する予定であることの報告があった。
- 「2005年機械工業見本市ゴールデンフェア」について
委員長から、ゴールデンフェアが4月23日(土)から25日(月)まで福井県産業会館で開催され、本校からはロボコン関係で1ブース出展すること及びセンター長と柴田が当日会場で対応することの報告があった。

(出典 平成17年度第1回地域連携テクノセンター運営委員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるシステムが整備されている。既に、教育課程等の改善が進んでおり、公開授業による授業改善も積極的に、かつ適切に実施されている。

観点 9 - 1 - : 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

公開授業に関する申し合わせ事項(前出資料 9 - 1 - - 2)に従い、公開授業後に参加教員によって懇談会が開催された上で個々の指摘事項をフィードバックし、報告書を提出する仕組みとなっている。また、指摘事項については参加教員の再度の公開授業への参加により改善状況を確認することが義務付けられている。したがって、授業アンケートによる学生の意見収集・フィードバック アンケート集計結果の個人分析・開示 公開授業による個人分析の確認ならびに相互評価・フィードバック・報告書の提出 再度の公開授業による指摘事項の改善確認、というプロセスで改善成果を学校として確認できる体制となっている。

科目間の連携に関しては、教員間ネットワーク会議(資料 9 - 1 - - 1)において関連教員の参加のもと、その具体的改善策について議論されている。

(資料 9 - 1 - - 1)

「科目間の連携」

議 事 録

会議の名称	教員間ネットワーク委員会 平成17年度(第1回)
日 時	平成17年6月21日(火) 16:30~17:30
出席者	教員間ネットワーク委員: 太田教務主事、藤田、野村、津田、小林 その他参加者: 山本裕(化学科主任)、岡本(物理科主任) 森貞(英語科主任代理) 宮田(数学科主任) 坪川(一般科目(自然)主任)、小寺(一般科目(人文)主任)

議題

「工学基礎コースを中心とした1年生対象の特別講義」について

資料に基づき委員長より特別講義の概要について以下のとおり説明があった。

- ・ 1回60分で年間約20回の特別講義とし、平成17年度は後期のみ約10回。
- ・ 英語・数学を実施する科目の中心とする。
- ・ 常勤職員のほか、必要に応じて非常勤教員を登用する。

この説明に基づき、実施について委員及び担当教員の意見が交わされた。

教科担当の発言

- ・ 半期で10回程度の実施で基礎力の充実に図れるのか?
- ・ 英語・数学とも授業が1コマ多く、上級生よりも基礎力充実に図られている。
- ・ 対象学生がどういう意識を持っているのか、まず考える必要がある。
- ・ F5ではすでに数学の補習を行っている。英語も増えることに負担を感じないか?
- ・ F5ばかりを重視するのは、推薦入学者をないがしろにする可能性がある。
- ・ 有能な非常勤講師を確保するのは難しい。
- ・ 文章読解力は重要だと考えるが、国語は対象にはならないのか?

(出典 平成17年度第1回教員間ネットワーク会議議事録)

この他、平成16年度に実施した「FDに関するアンケート」結果においては、教授方法に関するFDの希望（資料9-1-2）が出されている。これを踏まえ、FD委員会において平成17年度のFD計画が検討されている（資料9-1-3）。

（資料9-1-2）

「FDに関するアンケート結果（抜粋）」

【6】 今後、希望するファカルティ・ディベロップメント（FD）

6-1

名 称：個々の授業におけるプレゼンテーション技術

開催時期：-

内 容：日時、立ち位置、声の大きさ、遠さやトーンなどから始めて、5分を授業としてどのように進めるか。各教員が自分の授業における教授方法を紹介する。公開授業の空形（実際には授業はしない、あるいは教員に授業）、他教員および講師に批評を受ける。講師はプレゼンテーションに関する専門家とする（教育の専門家ではないだろうが）。-

6-2

名 称：面接指導担当者養成講座

開催時期：10月後半

内 容：学生が就職活動する場合、セミナーに参加した場合でも人事担当者が直接対応されており、すでに面接が始まっている。また、エントリーシートを各時点で動線などを本校の事前面接を通して、学生の意識を外部から評価してやる必要がある。企業経験教員などが各学科で対応しているようであるが、実際に人事担当者に対してノウハウを教員自身が身につけ、学生指導に活かすことができるようにする。-

6-3

名 称：学生指導担当職員研修会

開催時期：夏休み

内 容：学生指導に関して学外の専門家による講演または実習-

6-4

名 称：授業方法について

開催時期：春休み期間

内 容：教育学位で教授方法について学んでいない専門教員に対して、基礎的な教授方法をレクチャーする。レベルに合わせて程度を上げてほしいかと思う。あるいは、授業評価の高かった先生に模範演技を披露していただく。-

（出典 平成16年度FD活動資料集）

（資料9-1-3）

「FD計画の改善」

委員長より、資料NO.2に基づき、平成16年度FD活動においては、本校のFD活動がSD活動と混在しているという説明があり、これに基づきFD活動についての定義の確認を行った。

審議の結果、FD活動とは、教員の教育の質の向上にあるものとし、SD活動とは別のものであるということ承認された。

委員長より、平成17年度FD活動計画を作成にあたり、資料NO.1に基づき、アンケートの結果を反映させたFD活動を計画する旨の説明があり、資料NO.1の【6】今後、希望するファカルティ・ディベロップメントにある事項について具体的に検討を行った。審議の結果、6-13、6-15、6-21、6-23、6-25を中心と考え、公開授業の拡充及び教授方法についての全教員対象とした講演会等の実施が必要であるという意見が固まり、平成16年度公開授業を実施した教員等による報告会等の実施・計画を教育改善委員会に依頼するということ承認された。

なお、審議のうえで、実験室としてテーマを設定して外部講師に講演を依頼するのはどうかという意見や、担当する教員の負担が大きいなどの問題があったが、後日、資料集等を作成するにあたり、著作権等の問題から、外部講師の作成した資料を使用するのは難しいという意見があり、今後のFD活動においては、年次計画等の作成を行い、段階的に教員の質向上を図るということもあわせて承認され、平成17年度のFD活動については、全教員の教育の質向上に結びつく活動を目標とすることとなった。

また、授業アンケートの結果がよいものが「よい授業」とは単純に考えるべきではなく、全教員の間での共通理解も必要であるという意見もあった。

（出典 平成17年度第1回FD委員会議事要旨）

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員は、授業アンケート、公開授業等の評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図り、学校として確認できる仕組みとなっている。

観点 9 - 1 - : 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

本校では卒業研究発表会や特別研究発表会の他、共同研究発表会(資料 9 - 1 - - 1)や学協会等(前出資料 6 - 1 - - 16)での発表等、学生が直接先進技術に触れる機会を奨励している。

(資料 9 - 1 - - 1)

「共同研究発表会(平成 15 年度)」

VOL. 35 No. 3

○学生によるブックハンティングの実施
 本年度初めの試みとして、学生によるブックハンティングを実施した。これは、図書館の運営に学生に少しでも参加してもらおうと10月の図書館運営委員会に諮り、企画実施したものです。1回目は11月19日(水)放課後、3年生図書委員が市内の書店で教養書を主として、2回目は12月11日(木)放課後、4年生図書委員が福井市内の書店に赴き専門書を主として1～1時間半くらいかけて選書した。教養書は、比較的スムーズに選書できたようだが、専門書は、なかなか選まないようであった。学生の反応はなかなか良好で、次年度以降も形態の見直し・購入冊数の拡大等を考慮し実施していく予定。

○第13回共同研究発表会・第14回交流会・第9回マグネットコンテスト表彰式を開催
 本校の先進技術教育研究センターは、12月5日に「第13回共同研究発表会・第14回交流会、第9回マグネットコンテスト表彰式」を開催した。
 共同研究発表会は、産官学連携の更なる促進を期して毎年開催しているもので、本年は学内外から100余名が参加、「粉末炭結を利用した材料・トライボロジー技術」等5件の研究発表が行われ、参加者は熱心に耳を傾けるとともに、その後の交流会では情報交換や技術交流等を活発に行った。
 また、交流会の開催に先立ち、「第9回マグネットコンテスト」入賞者の表彰式を執り行った。同コンテストは信越化学工業(株)武生工場の協力を得て、「ものづくり教育」の一環として本センターが積極的に取り組んでいるもので、今回は、福内外の小学校から




(出典 校報 35 巻 3 号 17 頁)

教育目標(前出資料 1 - 1 - - 2, 別添「学校要覧」冒頭)に基づき、平成 16 年度からは専攻科生による「研究シーズ発表会」(資料 9 - 1 - - 2)を地元の商工会議所と共同で開催し、ポスター発表を通してコミュニケーション能力の育成を図っている。校内の研究紀要においては学生が共著者となっている論文も多く、教育方法等の研究発表(資料 9 - 1 - - 3)も積極的に実施されている。

また、基本理念(前出資料 1 - 1 - - 2, 別添「学校要覧」冒頭)に基づき、地元鯖江市、武生市ならびに福井市の商工会議所との交流・懇談の場が設けられており、研究のシーズの提供と社会からのニーズの集約を行い学生研究テーマの設定等にも役立てている。近隣市町に対しては、地域連携協定を締結し、共同研究や専攻科生のインターンシップ等の協働体制を整えている。

(資料 9 - 1 - - 2)

「専攻科生による技術シーズ発表会」



(出典 校報 36 巻 2 号 24 頁)

(資料 9 - 1 - - 3)

「過去 3 年分の校内研究紀要，高専教育，工学教育における報告件数」

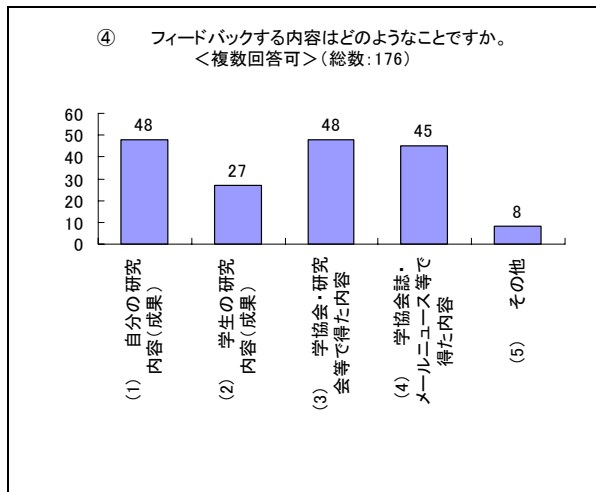
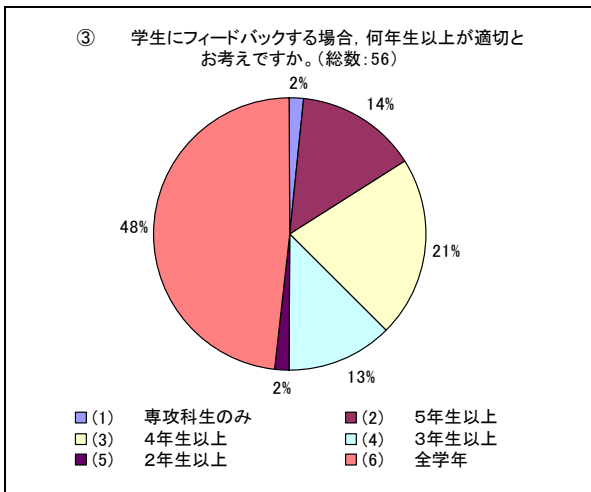
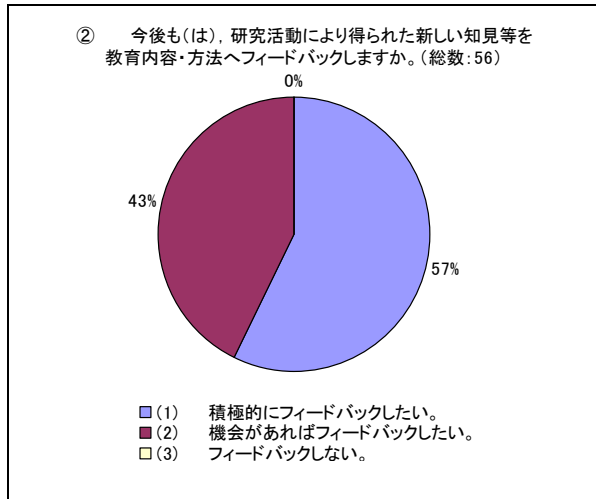
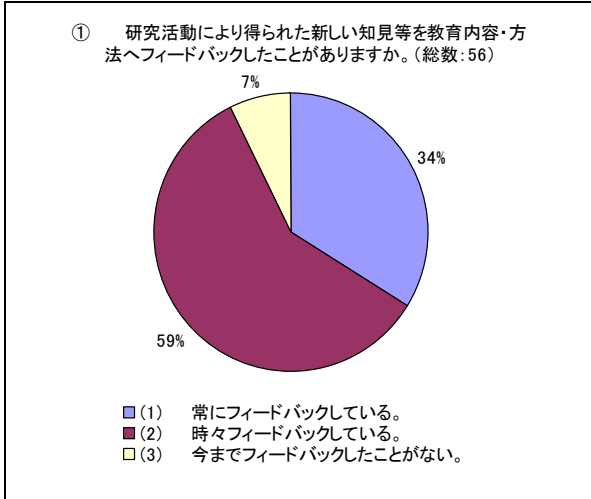
	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
研究紀要 (内学生共著)	17 件 (6 件)	21 件 (6 件)	12 件 (6 件)
高専教育	5 件	1 件	3 件
工学教育	2 件	1 件	0 件

(出典 福井工業高等専門学校研究紀要，高専教育，工学教育)

平成 17 年 1 月には、研究活動の教育へのフィードバックに関するアンケートが実施されている。アンケートで得られたフィードバック内容(資料 9 - 1 - - 4)や事例(資料 9 - 1 - - 5)は教育改善委員会によってまとめられている。

(資料 9 - 1 - - 4)

「教育の質の向上及び改善に関するアンケート結果」



(出典 平成 16 年度 F D 活動資料集)

(資料 9 - 1 - - 5)

「研究成果の教育へのフィードバック事例(抜粋)」

2-3

平成 18 年新潟県中越地震に関し土木学会第一次調査団の団員として現地調査した結果を、専攻科環境システム工学専攻 1 年「ライフライン地震工学」の第 3 週に報告した。これに伴い、平成 18 年度のシラバスを変更した。

2-4

(社)日本材料学会・地盤改良部門委員会で開催された新材料・新技術などを専攻科 1 学年「環境材料学」および環境都市工学科 5 学年「圏域計画システム」の講義で時宜を得て紹介している。なお、「圏域計画システム」は 17 年度以降「舗装工学」に改称され、適年科目となる。このため、シラバスの記載内容を全面的に見直した。

2-5

特別研究テーマの内容を担当学生と共に国際会議(IGARSS)で発表した。この成果は、「空間情報工学(本科 5 年)」ならびに「防災システム工学(専攻科 2 年)」にフィードバックした。これに伴い、平成 17 年度のシラバスの中にもその内容を加えた。

2-6

海岸環境工学の講義の中で、新聞記事にあった排他的経済水域の話題を取り上げた。排他的経済水域の問題は、経済に与える影響も大きく、海岸工学の技術の必要性を認識する上で適切な話題である。海岸工学を学ぶ動機付けとして、今後も授業の中でこのような話題を取り上げてゆく予定である。

2-6

日本都市計画学会(04)で発表した「身体論：有身体一人間一環境」としての環境都市の考え方を、環境都市工学科 5 年「地域都市計画」の第 7 週と 13 週に活かした。同じく専攻科、環境システム工学専攻 1 年「都市システム工学」の第 3 週以降にも、大きく取り入れた。だが、5 年生ではシラバスを変更するほどのことでもないため、シラバスは変えていない。一方、専攻科 1 年に関しては、シラバスに、その概念を新たに取り入れた。

(出典 平成 16 年度 F D 活動資料集)

(分析結果とその根拠理由)

学生の積極的な研究活動への参加による研究の活性化が図られている。研究テーマの設定に関しては地域連携協定のもと、地元産業界との交流の場が適切に設けられている。教育方法等に関する研究も実施されている。学協会等で得られた知見等は多くの教員が学生にフィードバックしている。

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

校外外におけるファカルティ・ディベロップメント(以下、FD)を実施するFD委員(資料 9 - 2 - - 1)はFD活動を一覧として整理(前出資料 5 - 4 - - 12)し、開示している。

(資料 9 - 2 - - 1)

「FD委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校FD委員会規則)

○福井工業高等専門学校FD委員会規則

(平成18年4月8日
規 則 第 19 号)

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、教員の教育に関する資質と教授能力の向上を図るため、福井工業高等専門学校FD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) JABEE委員会委員長
- (2) 主事
- (3) 専攻科長
- (4) 教育改善委員会委員
- (5) 事務部長

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、JABEE委員会委員長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(任務)

第5条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) FDに関する企画立案
- (2) FDに関する情報収集
- (3) FDに関して収集した情報の教員等への提供
- (4) FDに関する講演会及び研修会等の企画・実施
- (5) その他FDに関すること

(世務)

114

D (福井高専三) 一四

(出典 規則集 114頁)

厚生補導担当職員研究会や共同研究発表会・交流会、JOINTフォーラム等は毎年実施されており、特に共同研究発表会（資料9-2-2）は平成16年度で14回（交流会は15回）を数える。また、地元の企業との連携強化を目的として、武生商工会議所については平成4年度から、鯖江商工会議所については平成6年度から交流会が開催されている。これらのFDは内容に応じて学生にも周知され参加が促されている。

（資料9-2-2）

「第14回共同研究発表会プログラム（平成16年度）」

福井工業高等専門学校	
「第14回共同研究発表会・第15回交流会」	
（第10回マグネットコンテスト表彰式）	
日 時	平成16年12月9日（木）15時より
会 場	福井商工会議所 福井市西本町2-4-1 TEL 0776-36-8111
主 催	福井工業高等専門学校 先進技術教育研究センター
共 催	（財）福井県産業文化センター、福井県商工会議所連合会
後 援	福井県商工会
< プ ロ グ ラ ム >	
【共同研究発表会】	（15:00～17:00） 会議室A・B（2階）
1. 開会挨拶	福井工業高等専門学校長 柳 耕 樹 氏
2. 共同研究成果発表（15:30～16:40）	※本邦は英語で発表します
◎「比較高度先端産品の製造と製造高度との共同研究」	（15:30～15:50）
上島周智（福井県立物産工学部）、◎大宮 亮、宇津藤太郎（物産工学部）	
◎「携帯電話を用いた社会学習システムの開発」	（15:50～16:10）
大久保夜（福井県立物産工学部）、◎藤田知明（物産工学部）、	
田中一雄（富山県社会工芸フェリス）	
< 交 流 会 >	
◎「カーボンナノチューブの合成とポリマー重合技術に関する共同研究」	（16:10～16:30）
川本 隆（福井県立物産工学部）、◎山本英泰（物産工学部）、	
村上浩樹（国産シンコー株式会社）	
◎「オーロラ光照射の電離層加熱とMUFの測定」	（16:30～16:40）
新川公典（福井県立電子情報工学部）、◎大村清志（専攻員）	

（出典 第14回共同研究発表会・第15回交流会プログラム）

この他、文部科学省在外研究員や内地研究員、国際研究集会派遣研究員も積極的に派遣している。豊橋技術科学大学及び長岡技術科学大学との間では交流人事の実績がある。

以上の有益なFDの成果の記録は、FD活動資料集（資料9-2-3）としてまとめられ、開示されている。

(資料 9 - 2 - - 3)

「平成 16 年度 F D 活動資料集の目次」

目 次

はじめに	1
平成 16 年度 FD 活動計画一覧表	
・全教職員または広範囲の教職員を対象とするもの	2
・一部の教職員を対象とするもの	4
JABEE 自己点検書説明会	
・説明会資料	6
・福井高専「環境生産システム工学」教育プログラム	17
公開授業に関する資料	
・公開授業に関する事項	19
・公開授業一覧表	24
・公開授業実施報告書	27
教育の質の向上及び改善に関するアンケート	
・アンケート(様式)	36
・アンケート集計結果	39

(出典 平成 16 年度 F D 活動資料集)

(分析結果とその根拠理由)

校内外において F D の機会が数多く設けられている。これら F D は教職員(内容に応じて学生に対しても)に開示され、効果的に実施されている。F D の内容は教育場面で必要な事項について幅広く用意されている。各 F D への参加率も高く、教職員全体の F D に対する意識の高さが表れている。永年に渡って継続的に実施されている F D も多く、F D 委員会発足とともに F D に関する記録(資料集)が残されている。

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

F Dの教育への効果に関するアンケートが平成 1 7 年 1 月に実施され、その集計結果が整理・開示されている(資料 9 - 2 - - 1)。この中では、具体的な改善内容についても整理されている(資料 9 - 2 - - 2)。

(資料 9 - 2 - - 1)

「平成 1 6 年度 F D アンケート結果」

FD が教育の質の向上及び改善に役に立ちましたか？(該当する箇所を○)				
FD 名称(開催日)	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	合計
非常勤講師の先生方との懇談会(4月13日)	10	11	1	22
学生指導担当職員研修会(I)(7月22日)	4	30	1	35
学生指導担当職員研修会(II)(7月28日)	5	29	0	34
「技術士制度について」の講演会(6月24日)	12	32	1	45
JABEE自己点検書説明会(10月21日)	12	40	1	53
JABEE特別講演会(10月5日)	11	42	1	54
職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止に関する講演会(12月9日)	9	22	1	32
労働安全衛生に関する講演会(11月18日)	18	27	1	46
校長裁量経費にかかる報告会(前年度分)(9月16日)	15	27	0	42
教員の授業達成度評価(10月、3月)	20	31	0	51
公開授業	4	27	0	31
JOINT FORUM(6月11日)	13	13	1	27
第 14 回福井高専共同研究発表会(12月3日)	8	13	0	21
科学研究費補助金制度説明会(10月8日)	16	15	3	34
特許講習会(9月30日)	6	21	2	29
北信越工学教育協会第3回FD講演会	4	1	0	5
日本設計工学会 北陸支部講演会(平成17年6月26日)	0	1	0	1
福井県 IT フォーラム(2004.10/14,15)	0	1	0	1
全国高専プログラミングコンテスト(2004.10/9,10)	0	1	0	1
日数教 年会	0	1	0	1
T3Japan 年会	0	1	0	1
北陸地区 T3	0	1	0	1
北四	0	1	0	1
グラフ電卓研究会	0	2	0	2
SPP	0	1	0	1

表中の数値はアンケート回答者の総計であり、実際の参加者数とは異なります。

(出典 平成 1 6 年度 F D 活動資料集)

(資料 9 - 2 - - 2)

「FDが教育の質の向上及び改善に結びついた例」

5 - 1

名 称：公開授業
開催日：平成 16 年 10 月 26 日
内 容：4 B コンクリート構造学 にて実施。話し方についての指摘が自分では気がついていないことだったので、これ以降注意している。このように、他教員にみてもらい評価を受けることは、自分の気がついていないことを発見していただくよい機会であるので、これからも実施したい。

5 - 2

名 称：「技術士制度について」の講演会（6月24日）
開催日：平成 16 年 6 月 24 日
内 容：技術士第一次試験に関して、県内の技術士会会員の方にその概要を伺った。J A B E E による技術士第一次試験免除も重要であるが、二次試験に向けてやはり、第一次試験を受けることの重要性を感じた。その結果、本年度、当研究室の笹島君が建設部門で、担当科目である上下水道部門（環境衛生工学）で藤田君が合格を果たした。いずれも、専攻科へ進学し、福井高専における研究活動に反映していく予定である。また、後輩への指導も検討中である。

5 - 3

名 称：校長裁量経費にかかる報告会（前年度分）
開催日：平成 16 年 9 月 16 日
内 容：実験実習におけるアイデアを考えるきっかけとなった。

5 - 4

名 称：「技術士制度について」
開催日：平成 16 年 6 月 24 日
内 容：技術に求められる継続教育の責務について、これを年間 50 CPD とする内容を学生に伝えることで学生の学習意欲の向上を促すきっかけとなった。

(出典 平成 16 年度 F D 活動資料集)

公開授業については、参加した教員からの指摘事項の改善を確認することが規則で定められている。また、基本理念（前出資料 1 - 2 - - 6，別添「学校要覧」冒頭）に基づき、地元産業界との交流会が積極的に実施されており、卒業研究や特別研究成果が外部発表に結び付いている。

(分析結果とその根拠理由)

FDが教育の質の向上及び授業の改善に結びついているかのアンケートが実施されている。また、具体的な改善事例についても整理されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育評価に関する取り組みは、教育点検・改善システムとして機能しており、自己点検結果が適切に開示されている。また、今後も継続的に自己点検・評価報告書を作成することが決まっている。

(改善を要する点)

点検システムならびに改善システムが現状のかたちで整備されてから時間が経っており、システムの持続的や健全性について完全に検証されているわけではない。今後、これらのシステムに従った実績を蓄積の上、点検・評価を継続していくことが望まれる。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

教育を点検・評価できるシステムが整備されており、このシステムに従って教育活動の実態を示すデータや資料が適切に蓄積され、適切に評価が行われている。評価方法は自己評価、相互評価、学生からの評価、外部評価と多様であり、結果が的確にフィードバックされている。その成果として数報の自己点検書を提出・開示しており、今後も継続的な自己点検の実施が定まっている。

授業アンケート、学生支援アンケート、公開授業が行なわれており、学生の要望に対する回答が開示されている。特に授業アンケート結果は、教員による分析・課題等を加筆した上で報告書として開示されている。

学外関係者からの意見聴取については不定期ではあるが実施され、開示されている。今後も継続的にアンケートを実施することが予定されている。

評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるシステムが整備されている。既に、教育課程等の改善が進んでおり、公開授業による授業改善も積極的に、かつ適切に実施されている。

個々の教員は、授業アンケート、公開授業等の評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図り、学校として確認できる仕組みとなっている。

学生の積極的な研究活動への参加による研究の活性化が図られている。研究テーマの設定に関しては地域連携協定のもと、地元産業界との交流の場が適切に設けられている。教育方法等に関する研究も実施されている。学協会等で得られた知見等は多くの教員が学生にフィードバックしている。

校内外においてファカルティ・ディベロップメント(FD)の機会が数多く設けられている。これらFDは教職員に(内容に応じて学生に対しても)開示され、効果的に実施されている。FDの内容は教育場面で必要な事項について幅広く用意されている。各FDへの参加率も高く、教職員全体のFDに対する意識の高さが表れている。永年に渡って継続的に実施されているFDも多く、FD委員会発足とともにFDに関する記録(資料集)が残されている。

FDが教育の質の向上及び授業の改善に結びついているかのアンケートが実施されている。また、具体的な改善事例についても整理されている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの自己評価

観点10-1- : 学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の資産については、文部科学省から出資された土地及び建物・立木竹、工作物の資産を有しており、教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するため高等専門学校設置基準に基づいた必要な資産を有している。平成17年4月末現在におけるその資産現在額は、資料10-1- -1のとおりである。

また、債務については、資料10-1- -2及び資料10-1- -3が示すように運営費交付金等の範囲内で健全に運営している。

(資料10-1- -1)

「資産現在額一覧表」

固定資産

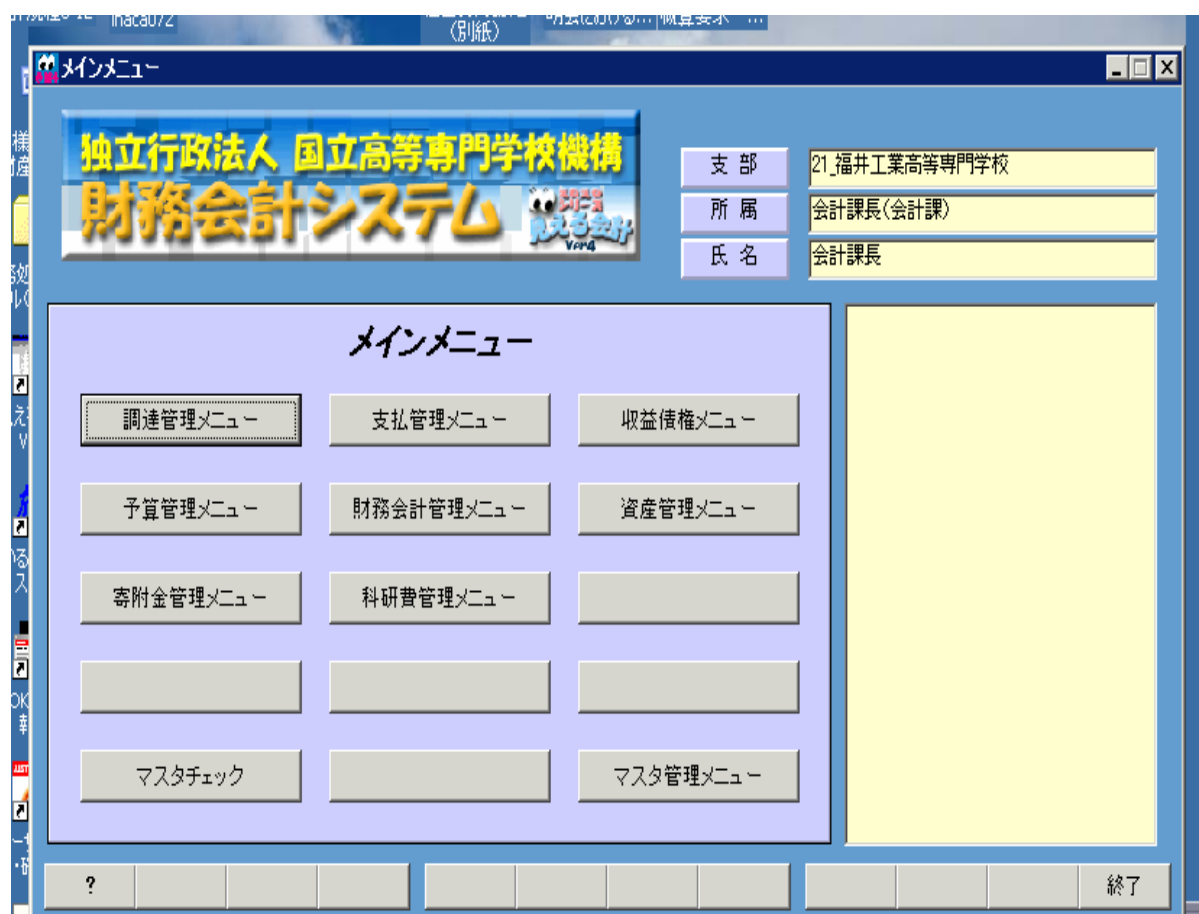
(単位:円)

	種 類		数 量	単 位	金 額
有形固定資産	土地		101,564	m ²	2,244,900,000
	建物	建面積	15,934	m ²	1,907,607,964
		延べ面積	32,764		
	構築物		1	式	132,645,492
	工具器具備品		1	式	95,274,661
	車両運搬具		1	式	3,139,150
	計				4,383,567,267
無形固定資産	電話加入権		1	式	308,000
合 計					4,383,875,267

(出典 財務会計システム)

(資料10-1-4)

「財務会計システム」



(出典 財務会計システム)

(分析結果とその根拠理由)

平成16年度に独立行政法人へ移行するにあたり、国から現物出資を受けた国有財産について、本校が管理する資産（国有財産：土地，建物，工作物，立木竹）の時価評価を行い独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第34号第31条の3において「固定資産は、その増減及び異動を帳簿によって物件別に管理するものとする。」ことから財務会計システム（資料10-1-4）の資産管理メニューによる固定資産データ一覧で管理し、財務会計管理メニューでは、損益計算書，キャッシュフロー精算書，決算精算表により財政状態及び運営状況を明らかにしていることから健全な運営および十分な財政基盤を有している。

観点10 - 1 - : 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

高専機構から予算配分される運営費交付金(資料10 - 1 - - 1)および授業料等収入等(資料10 - 1 - - 2)を教育活動等の基本的財源とし、これらに加え奨学寄附金、共同研究・受託研究、科学研究費補助金(資料10 - 1 - - 3)などの外部資金獲得により経常的収入が継続的に確保されている。

(資料10 - 1 - - 1)

「国立学校特別会計・運営費交付金関係」

予算・決算額(年度別)

(単位:千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
国立学校	1,542,243	1,776,824	1,659,949	1,435,264	
運営費交付金等					1,397,330

(出典 学校要覧)

* 運営費交付金は、自己収入を含む。

(資料10 - 1 - - 2)

「授業料・入学料・検定料収入額(年度別)」

授業料・入学料・検定料収入額(年度別)

(単位:円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
授業料	211,790,900	215,676,500	230,738,700	192,175,400
入学料及び検定料	26,784,400	28,256,700	25,929,300	25,804,200
講習料	369,600	420,100	321,700	78,800

(出典 歳入決算書)

(資料10-1-3)

「外部資金関係」

奨学寄附金・受入額(年度別)

(単位:件,千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
受入件数	36	30	28	23	27
金額	12,243	14,919	15,868	12,456	13,906

共同研究・受託研究受入額(年度別)

(単位:件,千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
共同受入件数	8	7	5	10	18
金額	5,920	4,950	5,100	5,250	9,607
受託受入件数	6	2	4	3	3
金額	9,352	1,150	2,284	2,294	2,770

科学研究費補助金受入額(年度別)

(単位:件,千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
申請件数	49	46	47	46	72
採択件数	14	10	14	12	17
交付金額	28,430	15,200	18,920	21,400	49,990

(出典 学校要覧)

(分析結果とその根拠理由)

運営費交付金等の基本的財源は勿論のこと、高専機構等の各種競争的資金及び外部資金獲得にも積極的に取り組み、安定した教育研究活動等が展開できるような体制を整備している。特に、平成16年度科学研究費補助金の獲得においては、全国高専の1位を占めるなど外部資金獲得に校長のリーダーシップのもと全校あげて取り組んでいる。

また、平成17年度からは毎年度運営費交付金(特定の人件費を除く。)が前年度の1%(効率化係数)削減となり、業務の効率化、経費の節減・節約に努めるとともに今後さらなる収入の確保が必要となる。

観点10-2- : 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として予算配分計画を策定し、協議会において審議を行い、予算配分(資料10-2-1)として教育研究及び管理運営に必要な経費を配分している。その審議内容、決定事項については、随時、教員会議、事務連絡会議を通じ、周知をしているとともに、財務に関しては、収支予算決算額を学校要覧に掲載し貸借対照表及び損益計算書をグループウェア(スカイボード)に掲載して関係者に明示している。

なお、予算配分に当たっては、「法人化後の本校の運営指針」(資料10-2-2)に則り配分している。

(資料10-2-1)
「平成16年度予算配分書」

1671
協議会資料No.1

平成16年度
予 算 配 分 書

福井工業高等専門学校

(出典 平成16年7月1日協議会議資料 1)

(資料10-2-2)
「法人化後の本校の運営指針について」

H15.12.24
教官会議資料No.5

平成15年12月24日

法人化後の本校の運営指針について(敬啟)

校長

1. 法人化後の自己収入確保について

- ・科学研究費、競争資金、共同研究、委託研究に対してオーバーヘッドを負荷する。
- ・オーバーヘッドの額は、獲得金額の10%とし、全額校長裁量経費に組み入れる。ただし、間接経費が付随する研究費については、間接経費をオーバーヘッドとし、別途オーバーヘッドを課さない。また、共同研究、委託研究については、これを奨励するためオーバーヘッド徴収後、別途奨励金を考慮する。

理由：法人化後の運営費交付金額に対応するため。

2. 予算配分について

- ・教育研究基礎校費(教官費)は、教員一人当たり標準単価(平成15年度の1/2 42,500円、平成15年度は85,000円)に次の増減を乗じた額を、教員役員数に応じ各学科(教室)に配分する。

	専門科目	一般科目			備考
		物理・化学・応用・情報処理	数学・保健・応用	国語・倫社・歴史・英語・語学	
教授、助教授、講師	8.16	8.16	6.24	2.4	
助手	3.40	3.40	-	-	

添額は全額校長裁量経費とし、前年度の教育・研究の実績を勘案して、各教員に配分する。実績は、前年度の科学研究費申請の有無、科学研究費獲得状況、競争型付金獲得状況、その他の外郭資金獲得状況、教育実績（国立高専教員顕彰受賞者、授業評価高得点獲得教員、TOEIC目標達成時の英語担当教員、体育大会優勝時の顧問、ロボコン・プロコン成績達成時の指導教員、出前講師等）、研究実績、校務への貢献度（分担状況、クラブ顧問、会議出席率）等を考慮する。

（出典 平成15年12月24日教員会議資料 5）

（分析結果とその根拠理由）

財務に係る計画等については、本校の目的を達成するため独立行政法人国立高等専門学校機構が掲げている中期目標、中期計画を踏まえて策定している。

なお、本校の予算配分書（資料10-2-1）については、法人化後の本校の運営指針（資料10-2-2）を基に協議会において審議され教員会議等を通して教職員に示され、その具体的施策についても協議会及び教員会議で周知を図り実施されている。

観点10-2-1： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点にかかる状況）

予算は、学内事業内容及び規模を表すものであることから、事業内容及び規模を的確に表現できる予算科目とした。また、決算は、高専機構会計基準に基づく財務諸表により公表されることから損益計算書科目に準拠した予算科目を設定した。特定の事業を実施する経費については予算科目を設定し、他の経費と混同して使用しても差し支えない経費については積算事項とした。但し、予算配分書（資料10-2-1）の予算配分方針にあるように予算の執行に当たっては、説明責任の観点から適正な執行となるように協議会及び教員会議等で周知徹底している。

なお、支出については、機構本部が一括管理している財務会計システム（資料10-1-4）において毎月締め作業を行い管理しているので過大な支出超過にはなっていない。

（分析結果とその根拠理由）

資料10-1-3で示すように収支決算については、財務会計システムで一元管理されており毎月締め作業を行い確認しているため過大な支出超過になっていない。

観点10-2- : 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点にかかる状況）

教育研究活動に対する予算配分については、予算配分書の予算配分方針に基づき、管理運営費（人件費、管理運営費）、学科（教室）等教育研究経費（教育研究に必要な経費、学生支援に必要な経費）、施設等維持管理経費に区分して事務・事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっている。また、教育研究活動の活性化を図るため、競争的資金（校長裁量経費）をプロジェクト計画経費、実験・実習用等設備経費として教育研究経費の10%を確保し各学科、教員等からの申請により校長によるヒヤリングを実施し重点配分している。（校長裁量経費の採択及び配分状況（資料10-2- -1））

（資料10-2- -1）

「校長裁量経費の採択及び配分状況一覧」

校長裁量経費の採択及び配分状況		平成16年度			(単位:円)	
種 別	予 算 額	申請	申 請 金 額	採 択	採 択 金 額	
プロジェクト計画経費	15,100,000	10	18,716,000	5	3,900,000	
実験・実習用等設備経費		15	21,712,000	12	11,200,000	
合 計	15,100,000	25	40,428,000	17	15,100,000	

（出典 協議会資料）

（分析結果とその根拠理由）

学内の予算配分では、事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっており、教育研究活動の活性化を図るため競争的環境を創出し、その質の向上と充実した教育環境の整備を行い、競争的資金の確保により、適切な資源の重点配分がなされている。

なお、平成16年度からは、自己収入金及び高専機構からの運営費交付金とで賄うこととなり、更に、17年度からは特定の人件費を除き毎年1%の効率化係数による削減となり更なる合理化、効率化を図るため本校においては、法人化後の本校の運営指針（資料10-2- -2）のとおり中期計画の具体化、外部資金に対するオーバーヘッド、教育評価に基づく配分等により業務の効率化、経費の節減・節約に努めている。

観点10-3- : 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点にかかる状況）

本校の財務諸表等については、資料10-3- -1に示すとおり独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第43条、第44条及び独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則17条、18条、19条、20条において財務会計システムにより決算書類（資料10-1- -2、資料10-1- -3）を作成し、理事長に提出することとなっている。なお、本校の財務諸表等については、グループウェア（スカイボード）に掲載し関係者に明示している。

(資料10 - 3 - - 1)

「関連法令等」

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

(月次決算)

第43条 出納命令役は、毎月末日において総勘定元帳を締め切り、月次の財政状況を明らかにするため、合計残高試算表を作成し、翌月15日までに理事長に提出しなければならない。

(年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則

(月次決算)

第17条 出納命令役は、会計規則第43条の規定による合計残高試算表を提出する場合は、予算執行状況集計表を添付しなければならない。

2 出納命令役は、月次決算にあたり、次の各号の事項を実行しなければならない。

- 一 預金残高、借入金残高について、通帳等の残高と預金出納帳等の残高との照合を行う。
- 二 固定資産について、資産管理システムと財務会計システムのデータの照合を行い、取得、売却、廃棄及び異動等の処理が適切になされていることの検証を行う。
- 三 運営費交付債務及び授業料債務については、収益化の基準により処理を行う。
- 四 債権・債務及び仮勘定の内容について検証を行う。

(年度末決算)

第18条 出納命令役は、毎事業年度末における資産、負債及び資本並びに収益及び費用について、次の各号に掲げるところにより年度末決算を行わなければならない。

- 一 預金残高及び借入金残高について、金融機関等から残高証明書を取り寄せ、残高を確かめ、預金出納帳等と照合する。差異があるときは、銀行等勘定調整表を作成し、必要に応じて修正する。
- 二 棚卸資産について、実地にその在高を検証する。
- 三 償却を要すべき固定資産については、定額法を採用するものとし、毎事業年度において減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)別表を考慮のうえ減価償却を行うものとする。
- 四 経過勘定項目について、必要に応じた計算を行い、振替伝票により決裁を受けるものとする。
- 五 運営費交付金債務及び授業料債務については、収益化の基準により処理を行う。
- 六 その他決算整理に関する修正処理について、振替伝票により決裁を受けるものとする。

(様式等)

第19条 会計規則第44条第3項に規定する書類(第六号による附属明細書を除く)は、次の各号に掲げるとおりとする。なお、その様式については、電子媒体によるものを含み、別に定めるものとする。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書

2 会計規則第44条第2項第六号による附属明細書は、それぞれ担当する会計機関で作成する。

(財務諸表及び決算報告書)

第20条 機構本部の出納命令役は、年度末決算の結果を取りまとめ、財務諸表及び決算報告書を作成し、会計規則第44条に規定する年度末決算に必要な決算書類を作成し、翌事業年度5月末日までに理事長に提出しなければならない。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則)

(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人国立高等専門学校機構による財務会計システムについては、本支店会計処理機能により支店である高専各校の合計残高試算表データを取り込み、機構本部において本支店合算の損益計算書及び貸借対照表を作成し文部科学省へ提出することとなっている。なお、財務諸表については、機構本部において独立行政法人通則法第38条により当該事業年度終了後三ヶ月以内に主務大臣に提出し、承認を受けた後、官報に公示し、書面を備え置き、また、ウェブサイトへ掲載する予定である。

観点10-3- : 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点にかかるとの状況)

本校の会計監査等については、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条の規定に基づき資料10-3- - 1に示すとおり本校における内部監査要項に従い会計経理についてその事態を把握し、これが常に適正かつ効率的に執行されるよう指導、監督することになっている。

(資料10-3- - 1)

「会計内部監査結果報告書」

会計内部監査結果報告書(定時)		
平成17年3月31日		
監査員 四川 岩雄 印		
監査補助員 塚崎 勇夫 印		
監査実施年月日	平成17年3月29日 ~ 平成17年3月31日	
報 告		
監査事項及び監査実施細目	報告事項	
	適 否	記 事
用度採所等		
・共通事項	適	
・契約に関する事項	適	
施設採所等		
・共通事項	適	

(出典 会計内部監査結果報告書より)

(分析結果とその根拠理由)

会計内部監査結果報告書で示すように本校の内部監査要項に基づき会計処理に熟知した事務職員により適正な監査を受けている。なお、平成17年1月には、機構本部による監事監査および内部監査が実施され平成16年11月には東海北陸地区の国立高専相互会計監査も行われた。

以上のことから、十分に監査が行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の学習・教育目標を達成するための財源確保並びに予算の重点的配分など、適正かつ効率的な予算の執行に対する努力が行われている。

(改善を要する点)

今後、運営費交付金の減額及び中期計画における効率化に対応するためにも外部資金による自己収入確保が重要になってくる。よって、科学研究費補助金の採択率を上げるための取組みあるいは奨学寄付金、受託研究、共同研究などの各種財団等の教育・研究助成等の申請など一層推進する必要がある。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校における教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために、必要な校地・校舎・設備等の資産を有するとともに、授業料・入学検定料・入学料等の諸収入の状況や国立高等専門学校機構運営費からの学校運営に必要な基本的財源は勿論のこと、外部資金獲得（奨学寄付金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金）にも積極的に取り組み、安定した教育研究活動等が展開できるように体制を整備している。

財務に関する項目を含めた中期計画が運営委員会で決定され、その内容がウェブサイト等で関係者に明示されている。また、予算配分に関しては、限られた予算を効果的に配分するため、校長のリーダーシップの基で教育研究経費の10%を確保し競争的資金「校長裁量経費」として各学科、教員等からの申請により重点配分している。そのことにより教育研究活動の活性化とその環境の整備を図る他、競争的資金による研究に伴った共同研究への発展が見込まれるなど、地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

なお、法人化後、監査法人等における監査機関において順次監査が実施され適正な財務会計処理が行われている。

以上のことから本校の財政基盤の安定が図られ、収支に関する計画等の策定・履行も十分に なされており、更に財務関係の監査等が適切に実施されている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1- : 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

学校教育法第70条の7により校長及び教授等の役割が明記されており、校長が最終意思決定をするため、本校では校長のリーダーシップのもとに、副校長(3主事及び専攻科長)を配置し次のとおり業務を割り振り、校長を補佐している。

- ・教務主事は教育計画の立案、その他教務に関する事項について
- ・学生主事は学生の厚生補導に関する事項について(寮務主事の所掌を除く)
- ・寮務主事は学寮における学生の厚生補導に関する事項について
- ・専攻科長は専攻科の運営に関する事項について

副校長等の配置及び業務内容については「福井工業高等専門学校学則」(資料11-1-1)及び「福井工業高等専門学校内部組織規則」(資料11-1-2)に定められている。

(資料11-1-1)

「福井工業高等専門学校学則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校学則)

第1章 学 則

○福井工業高等専門学校学則

(昭和40年4月1日
規 則 第1号)

改正 昭和41年4月1日規則第1号	昭和43年4月1日規則第1号
昭和43年8月20日規則第4号	昭和44年4月1日規則第7号
昭和44年12月24日規則第12号	昭和45年4月1日規則第1号
昭和45年2月15日規則第1号	昭和47年4月1日規則第4号
昭和48年4月1日規則第2号	昭和48年4月12日規則第5号
昭和48年4月1日規則第1号	昭和48年4月11日規則第3号
昭和50年11月26日規則第2号	昭和51年9月24日規則第2号
昭和52年3月30日規則第2号	昭和52年11月10日規則第4号
昭和53年3月25日規則第1号	昭和54年2月21日規則第1号
昭和54年8月27日規則第3号	昭和55年3月5日規則第1号
昭和55年10月9日規則第3号	昭和55年6月10日規則第2号
昭和57年3月20日規則第1号	昭和57年12月1日規則第2号
昭和58年11月15日規則第1号	昭和58年11月22日規則第1号
昭和61年7月17日規則第1号	昭和62年1月22日規則第1号
昭和62年2月6日規則第2号	昭和63年4月1日規則第4号
平成元年3月3日規則第1号	平成元年9月27日規則第4号
平成2年3月28日規則第1号	平成3年3月21日規則第1号
平成4年3月19日規則第1号	平成5年3月31日規則第1号
平成6年2月17日規則第1号	平成7年3月30日規則第1号
平成8年3月21日規則第1号	平成8年2月20日規則第1号
平成9年9月18日規則第2号	平成9年12月18日規則第3号
平成10年3月19日規則第1号	平成11年2月18日規則第1号
平成11年10月21日規則第2号	平成11年12月18日規則第3号
平成12年12月21日規則第1号	平成13年3月9日規則第1号
平成13年5月17日規則第2号	平成13年9月20日規則第3号
平成13年12月20日規則第4号	平成13年12月20日規則第5号
平成14年9月19日規則第1号	平成14年12月19日規則第2号
平成15年9月18日規則第1号	平成15年11月27日規則第2号
平成16年1月8日規則第1号	平成16年3月8日規則第2号

- 第1章 本校の目的
- 第1条 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 第2章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業開始の時刻
- 第2条 修業年限は、5年とする。
- 第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第4条 学年を分けて、次の2学期とする。
- 前期 4月1日から9月30日まで
- 後期 10月1日から翌年3月31日まで

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料11-1-2)

「福井工業高等専門学校内部組織規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校内部組織規則)

第2章 組織・運営

○福井工業高等専門学校内部組織規則

(昭和54年3月24日
規則第2号)

改正	昭和53年4月1日規則第5号	平成元年6月1日規則第3号
	平成3年3月21日規則第3号	平成3年10月17日規則第5号
	平成5年3月21日規則第4号	平成7年3月30日規則第2号
	平成10年1月22日規則第3号	平成11年2月19日規則第1号
	平成15年4月3日規則第13号	

第1章 総則

(題目)

第1条 この規則は、国立学校設置法施行規則第37条及び学則第11条に基づき、福井工業高等専門学校の内部組織(事務部組織を除く。)を定めるものとする。

第2章 会議

(協議会)

第2条 校長の諮問に応じ、管理運営の重要事項について審議するため、本校に協議会を置く。

2 協議会は、次の職にあるものをもって組織する。

- ① 校長
- ② 主事
- ③ 専攻科長
- ④ 学科(教室)主任
- ⑤ 図書館長
- ⑥ 総合情報処理センター長
- ⑦ 先進技術教育研究センター長
- ⑧ 教育研究支援センター長
- ⑨ 事務部長
- ⑩ その他校長が特に必要と認めた者

3 校長は、協議会を招集してその議長となる。

4 協議会の庶務は、庶務課が処理する。

(特別委員会)

D (資料) 11-1-2

87

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

また、校長の命により設置された各種委員会では定められた審議事項等を検討し、その結果を本校の最高議決権を有する協議会(構成員:校長,各主事,専攻科長,各学科(教室)主任,図書館長,各センター長,事務部長,その他校長が必要と認めた者)やそのもとに置かれている将来構想検討委員会,自己点検・評価委員会,施設整備委員会に諮り、審議を経て実行に移している。

具体的には「観点3-2-の観点に係る状況」のとおり、PDCAサイクル(前出資料2-2-1,別添「学校要覧」29頁)により実行している。例えば、技術者教育プログラムの認定を得るため、校長の命によりJABEE対策委員会を発足(「協議会議事要旨」(資料11-1-3),「JABEE対策委員会議事要旨」(資料11-1-4))させ、受審のための予備準備を行い、次に具体的な対応をするために対策委員会をJABEE委員会(「協議会議事要旨」(資料11-1-5),「JABEE委員会規則」(資料11-1-6),「JABEE委員会議事要旨」(資料11-1-7))に発展させ、資料の収集や会議を重ねるとともに主な事項を協議会に報告(「協議会議事要旨」(資料11-1-8))しJABEE受審に向けて準備した。その結果、平成17年5月にJABEE技術者認定プログラムに認定されたが、事項によっては再考しなければならいため、JABEE委員会で現在も検討している。

(資料11-1-3)

「協議会議事要旨」

平成13年11月定例協議会議事要旨

日時 平成13年11月6日(火)16:30~17:30
 場所 校長室
 出席者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、
 仲西、北、澤井、松井、廣部、前田、朝倉各学科(教室)主任、
 総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、事務部長
 列席者 庶務課長、会計課長、庶務係長

審議事項

- 1 福井工業高等専門学校教員選考規則(案)について
 校長から、前回の協議会で提案した「教員選考規則の骨子(案)」について、各学科(教室)会議での議論を受けて修正した「教員選考規則(案)」を審議したい旨の説明があった。続いて事務部長から、修正箇所の説明があり、また各学科(教室)主任からは、各学科(教室)会議での議論内容について報告があった。
 審議の結果、専攻科の部分を取り除いた選考規則(案)を来週中に委員の方に提案し、その後の協議会で審議することになった。

報告事項

- 1 校長報告
 平成14年度校務分掌について
 校長から、寮務主事を島田茂教授にお願いしている旨報告があり、他の校務分掌については、各学科(教室)で計画を進めるよう依頼があった。
 平成13年度秋季東海・北陸地区国立高等専門学校長会議について
 校長から報告があった。
 JABEEの対応について
 校長から、JABEE対策委員会の委員長に機械工学科安丸教授にお願いした旨報告があり、安丸教授から今後の活動について説明があった。

(出典 庶務課)

(資料11-1-4)

「JABEE対策委員会議事要旨」

JABEE対策委員会引継ぎに関する打合せ会議事要旨

日時 平成15年5月15日(木)15:00~15:55
 場所 会議室(15名出席)
 出席者 教務主事、教務委員会委員(大久保、野村、豊田)、
 専攻科委員会委員(藤田、小泉、壬生)、
 JABEE対策委員会委員(安丸、大久保、青山、豊田、阿部、戸島)
 列席者 学生課長、専門員、教務係長、庶務係長

議題

- 1 「JABEE委員会」と「教育改善委員会」について
 教務主事から以下の説明があった。
 この2つの委員会規則については、5月1日の協議会で審議了承され、5月22日に開催される教官会議で決定されることになっている。
 ・JABEE委員会の委員は、
 1. 教務主事
 2. 専攻科長
 3. 教務委員会委員
 4. 専攻科委員会委員
 5. その他校長が特に必要と認めた者
 となっていて、5.については、特にJABEEに大切な学科の先生を、JABEE委員長が校長にお願いをして指名してもらうことになっている。これら全てを22日に規則が出来次第、校長が任命することになっている。さらに、委員長はこの委員の中から校長が指名することになっている。また、JABEE委員会の業務は、「JABEEに関すること」を行うということである。

(出典 スカイボード)

(資料11-1-5)

「協議会議事要旨」

平成15年5月定例協議会議事要旨

日 時 平成15年5月1日(木) 15:00~16:25
 場 所 校 長 室
 出 席 者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、
 廣重、朝倉、阪口、新谷、井上(昭)、松井(修)、前島各学科(教室)主任、
 総合情報処理センター長、(井上(昭)先進技術教育研究センター長)
 列 席 者 庶務課長、会計課長、学生課長、学生課専門員、庶務係長

校長から前回の議事要旨の確認が求められ了承された。

審議事項

- 1 福井工業高等専門学校JABEE委員会規則(案)及び福井工業高等専門学校教育改善委員会規則(案)の制定について

教務主事から、JABEE対応の学内体制についてこれまでの検討状況説明があり、3月に示していた案が、今回の2委員会規則(案)になった経緯・趣旨説明があった。続いて、庶務課長から2委員会規則(案)について説明があった。種々意見交換の後、原案どおり了承された。

(出典 スカイボード)

(資料11-1-6)

「福井工業高等専門学校JABEE委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校JABEE委員) (案規則)

福井工業高等専門学校JABEE委員会規則

(平成15年5月22日) (規則第4号)

(設置)

第1条 本校に、日本技術者教育認定機構(以下「JABEE」という。)における技術者教育プログラムの認定審査に対応するため、福井工業高等専門学校JABEE委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 専攻科長
- (3) 教務委員会委員 若干名
- (4) 専攻科委員会委員 若干名
- (5) その他校長が特に必要と認めたる

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(委員会の任務)

第5条 委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) JABEEの認定審査及び関連する事項の調査に関すること。
- (2) その他JABEEに関すること。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年5月22日から施行する。

D 福井高専三二一九

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料11-1-7)

「JABEE委員会議事要旨」

JABEE委員会議事要旨(第1回)

日 時 平成15年5月29日(木)17:45~18時15分
 場 所 校長会議室
 出 席 者 校長、教務主事、専攻科長、藤田、大久保(茂)、青山、小泉、
 豊田、阿部、中谷
 列 席 者 事務部長、庶務課長

まず校長から、今後の高専を取り巻く状況について説明があり、そういう中でのJABEE対応について説明があった。

- 1 本校の平成16年度受審について
 校長から法人化後の本校の評価等を考えると、JABEEを受審してそれに合格していることが必要であると説明があり、平成16年度にJABEEを受審する旨の方針が示された。

(出典 スカイボード)

(資料11-1-8)

「協議会議事要旨」

平成15年11月定例協議会議事要旨

日 時 平成15年11月6日(木)15:00~16:20
 場 所 校長会議室
 出 席 者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、
 阪口、新谷、井上(昭)、松井(修)、前島各学科(教室)主任、
 総合情報処理センター長、豊田JABEE委員長
 代理出席者 小寺、坪川(武)
 欠 席 者 廣重主任、朝倉主任
 列 席 者 会計課長、学生課長、専門員、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われた。

審議事項

- 1 福井工業高等専門学校学則の一部改正(案)について
 教務主事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。
- 2 福井工業高等専門学校研究紀要規則の一部改正(案)について
 庶務係長から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

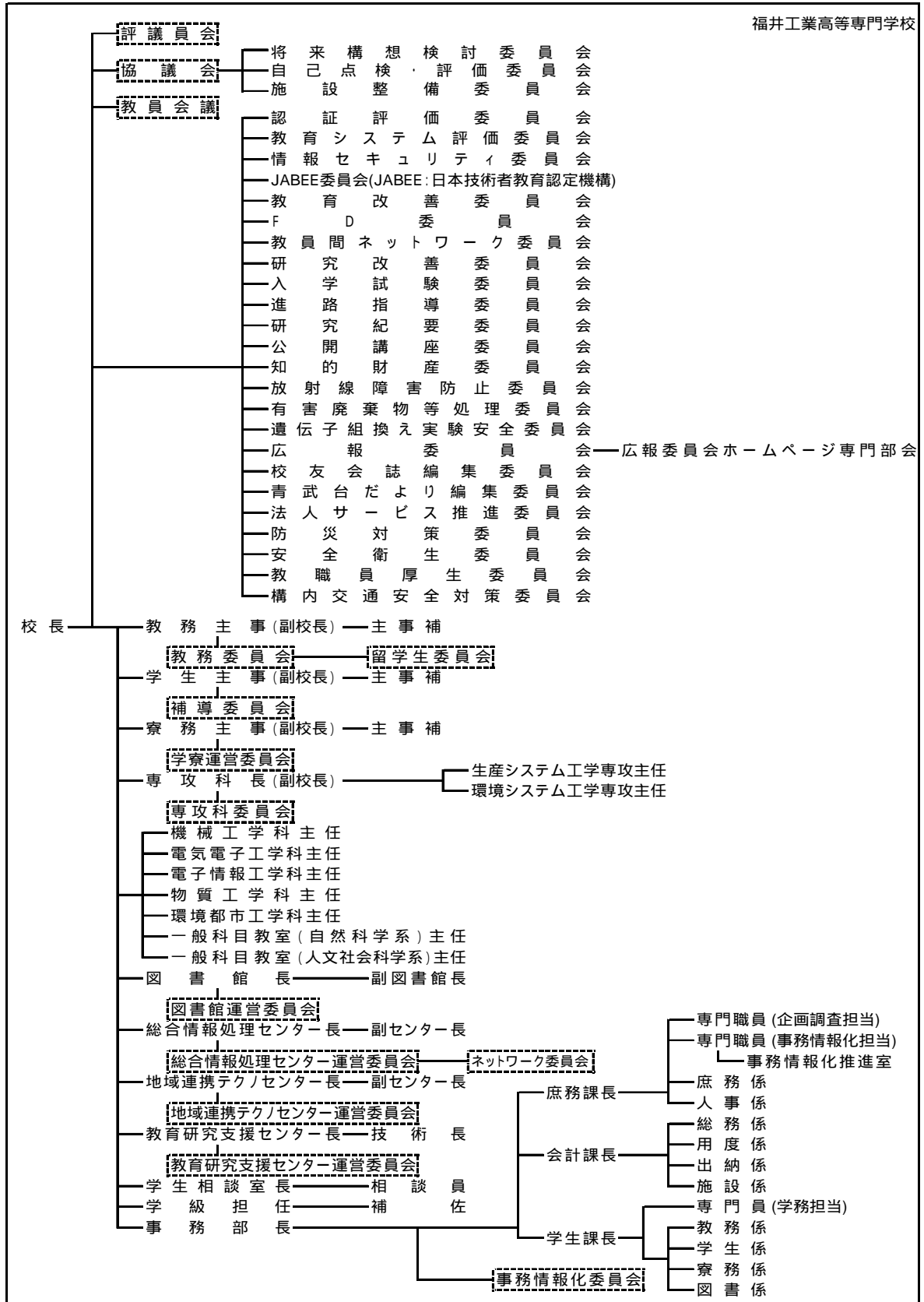
報告事項

- 1 校長報告
 平成15年度国立高等専門学校協会校長懇談会について
 校長から資料に基づき報告があった。教職員一人一人が確実にその内容を把握することが法人化に対応することになり、校長から特に以下のことが強調された。
 3つの評価を受ける
 ・高専機構が独立行政法人評価委員会国立高等専門学校部会(文部科学省)の評価を受ける<間接評価>
 ・本校が大学評価・学位授与機構の評価を受ける<直接評価>
 ・本校が高専機構の評価を受ける<直接評価>
 個性的中期計画の策定と達成状況による実績
 各学校の中期計画に盛り込まれていた事項の例
 数値化できる高専評価項目
 平成15年度東海・北陸地区国立高等専門学校長会議について
 校長から報告があった。
 JABEE委員会委員の増員について
 校長から報告があった。

(出典 スカイボード)

(資料11-1-1)

「運営組織図」



(出典 学校要覧)

(資料11-1-2)

「福井工業高等専門学校規則集抜粋」

「規則及び各種委員会の目的等」

福井工業高等専門学校

規則(委員会等)	構成メンバー	目的又は主な職務内容
福井工業高等専門学校学則	校長, 教授, 助教授, 講師, 助手, 事務職員, 技術職員	教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授し, 職業に必要な能力を育成することを目的とする。
内部組織規則	校長, 主事, 専攻科長, 学科(教室)主任, 図書館長, 総合情報処理センター長, 地域連携テクノセンター長, 教育研究支援センター長, 事務部長, その他校長が特に必要と認められた者	国立学校設置法施行規則第37条及び学則第11条に基づき内部組織(事務部組織を除く)
(協議会)		管理運営の重要事項について審議(定期的に毎月1回及び必要に応じ臨時に開催)
事務組織規則	事務部長, 課長, 専門員, 専門職員, 係長, 係員	国立学校設置法施行規則第36条及び学則第10条に基づく事務部組織
教員会議	専任の教授, 助教授, 講師, 助手	校長の諮問した事項, 学生の入学・卒業・懲戒等に関する判定, 諸規定の制定・改廃の審議
評議員会	本校教職員以外の有識者10名以内	教育研究目標・計画, 自己評価, その他本校の運営に関する重要事項の審議及び評価
将来構想検討委員会	校長, 主事, 専攻科長, 地域連携テクノセンター長, 事務部長, その他校長が特に必要と認められた者	将来を展望した在り方について調査審議
自己点検・評価委員会	校長, 主事, 専攻科長, 学科(教室)主任, 図書館長, 総合情報処理センター長, 地域連携テクノセンター, 教育研究支援センター, 事務部長	高等専門学校学設置基準第3条に規定する自己点検・評価を実施する際の必要な事項について審議
施設整備委員会	教務主事, 学科主任が推薦する者各学科1名, 教室主任が推薦する者各学科1名	施設及び設備の有効活用に関すること, 施設・設備及び環境整備の点検・評価に関すること, 点検・評価等調査結果による使用面積の再配分にかんすること, その他施設設備に関する専門的事項
認証評価委員会	教務主事, 総合情報処理センター長, 総合情報処理センター運営委員若干名, 庶務課長, 会計課長, 学生課長, その他校長が特に必要と認められた者	機関別認証評価及び関連する事項の調査, その他機関別認証評価に関すること
教育システム評価委員会	主要10委員会の構成員各1名, その他教員1名	自己点検・評価に基づく改善の指針, 外部評価並びに第三者評価に基づく改善の指針, その他教育システムの改善に関する審議
情報セキュリティ委員会	校長, 教務主事, 学生主事, 専攻科長, 学科(教室)主任, 教育研究支援センター長, 総合情報処理センター長, 事務部長	情報セキュリティポリシーの策定及び改訂, 情報セキュリティポリシーの遵守の励行及び違反に対する措置, 情報セキュリティに関する啓発及び教育, その他情報セキュリティに関する重要事項の審議
JABEE委員会	教務主事, 専攻科長, 教その他員14名	JABEEの認定審査及び関連する事項の調査
教育改善委員会	教務主事, 各学科(教室)から教員1名, その他校長が特に必要と認められた者	学習・教育目標に基づく教育の実施, 教育効果の現状分析, 教育方法の改善及び教育技術の向上, 教員の業績評価, その他教育改善の推進に関すること
FD委員会	JABEE委員長, 主事, 専攻科長, 教育改善委員6名, その他教員1名, 事務部長	FDに関する企画立案・情報収集, FDに関して収集した情報の教員等への提供, FDに関する講演会及び研修会等の企画・実施, その他FDに関すること
教員間ネットワーク委員会	教務主事, 各学科(教室)から教員1名, その他校長が特に必要と認められた者	専門科目と一般科目の連携を図ること, 各専門基礎科目の連携を図ること, 同系科目間の連携を図ること, 非常勤講師との連携を図ること, その他教員間ネットワークに関すること
研究改善委員会	教務主事, 各学科1名, 一般科目教室1名, その他校長が特に必要と認められた者	研究環境の改善, 教員の研究業績評価, その他研究の推進に関すること
入学試験委員会	教務主事, 教務主事補, 学科(教室)主任, 事務部長	学生募集, 入学者選抜の実施, 入学者選抜の合格候補者の選考に関する事項の審議
進路指導委員会	教務主事, 学生主事, 専攻科長, 学科(教室)主任, 専攻科委員, 3・4・5年学級担任, 学生課長	学生の進学, 学生の就職, その他校長が特に諮問した事項について審議
研究紀要委員会	各学科及び各教室より教員1名	研究紀要の発行計画, 論文の募集及び審査, 研究紀要の編集, 研究紀要の配布先, その他研究紀要の編集及び発行に関する事項の審議
公開講座委員会	教務主事, 学科(教室)主任, 庶務課長	公開講座に実施に関する企画立案及び連絡調整
知的財産委員会	地域テクノセンター長, 教育研究支援センター長, 専攻科から推薦された教員1名, 各学科(教室)から推薦された教員1名, 庶務課長, 会計課長	教職員等の職務発明等に係る発明の特許性及び市場性の評価並びに帰属の予備審査, 知的財産の権利化, 知的財産の活用に関する審議
放射線障害防止委員会	教務主事, 放射線取扱主任者, 放射線発生装置を使用している教員から校長が任命する4名, 庶務課長, 会計課長, その他校長が特に必要と認められた者	放射線障害に対する対策及び処置, 放射線施設及び装置の新設・拡充並びに改廃等, 放射線障害予防に必要な校内規則等の制定及び改廃, その他放射線障害防止に関し必要な事項の審議
有害廃棄物等処理委員会	産業廃棄物管理責任者, 各学科教員1名, 教室(自然科学系)教員1名, 技術職員1名, 会計課長, その他校長が特に必要と認められた者	有害廃棄物等の処理方法, 処理施設の整備, 環境汚染の防止, 規則等の制定及び改廃, その他有害廃棄物等に関する必要な事項に関する審議
遺伝子組換え実験安全委員会	安全主任者, 実験責任者若干名, 実験に関係しない教員若干名, 地域連携テクノセンター長, 教育研究支援センター長, 庶務課長, その他校長が必要と認める者若干名	実験に関する校内規則等の制定及び改廃, 実験計画と法及び省令並びに校内規則等に対する適合性, 実験に係る教育訓練及び健康管理, 事故発生の際の必要な処置及び改善, その他実験の安全確保に関し必要な事項の処理に関する審議
広報委員会	主事, 図書館長, 総合情報処理センター長, 地域連携テクノセンター長, 課長, その他校長が特に必要と認められた者	広報活動の基本方針及びその他必要と認められる事項を審議する
広報委員会ホームページ専門部	総合情報処理センター長, 同センター員, 図書館長, 課長, 広報委員会委員長が指名する者若干名	ホームページの運営方法及び維持管理, ホームページの企画及び拡充, その他ホームページに関する事項の審議とその業務
校友会誌編集委員会	学生主事, 図書館長, 各学科教員1名, 各教室教員1名	学生, 職員及び卒業生の意見等を発表し, 校友相互の理解と向上を図ることを目的とした校友会誌の編集方針, 名称, 発行計画, 配布先, その他校友会誌の編集・発行等に関する事項の審議

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料11-1-2)

「福井工業高等専門学校規則集抜粋」

青武台だより編集委員会	学生主事, 学生主事補1名, 各学科教員1名, 教室教員1名, 学生課長	学生の学校生活, 学校行事等厚生補導に関する広報誌(青武台だより)の編集方針, 掲載記事, 発行計画, その他青武台だよりの編集・発行等に関するこの審議
法人サービス推進委員会	主事, 図書館長, 事務部長, 課長	窓口サービス業務, 施設の公共利用サービス, 国民と接触する公務サービスについて審議
防災対策委員会	防災管理者(事務部長), 主事, 専攻科長, 学科(教室)主任, 課長	防災計画, 災害予防, 災害応急対策, 災害復旧・復興, その他防災に関することについて審議
安全衛生委員会	教務主事, 衛生管理者, 安全管理者, 産業医, 衛生に関する経験者1名, 安全に関する経験者2名	教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策, 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策, 労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るものに関する審議
教職員厚生委員会	校長が任命する教員6名, 校長が任命する事務・技術職員5名	職員厚生事業の企画・運営, その他職員厚生事業に関することを審議
構内交通安全対策委員会	主事, 各学科(教室)教員6名, 事務部長	構内の交通規制, 駐車場, その他構内の交通安全に関することを審議
教務委員会	教務主事, 教務主事補, 学科(教室)主任, 学生課長	教育課程及び授業時間割の編成等授業実施, 特別活動・学校行事等, 退学・休学・進級及び卒業の認定等, その他教務に関する重要事項の審議
留学生委員会	教務主事, 学生主事補, 寮務主事, 留学生主任, 留学生指導教官4名, 学生課専門員	留学生の教育課程編成その他留学生に関し必要な事項を審議
補導委員会	学生主事, 学生主事補, 寮務主事, 学級担任, 学生課長	学生の保健管理, 福利厚生, 規律及び風紀, 育英奨学, 学生会, その他学生の補導に関する重要な事項の審議
学寮運営委員会	寮務主事, 学生主事, 各学科・各教室から教員1名, 学生課長	学生の入寮及び退寮, 寮生の指導, 学寮の施設・設備の管理, 寮生の保健衛生・福利厚生, その他学寮の運営上重要な事項の審議
専攻科委員会	専攻科長, 専攻主任, 学科(教室)教員5名, 学生課長	専攻科にの入学選抜等, 教育課程の編成及び教育計画の立案, 学生の進学及び就職, 学生の厚生補導, その他専攻科の運営に関すること
図書館運営委員会	図書館長, 副図書館長, 各学科及び各教室の教員1名, 事務部長, 学生課長	図書館の運営, 図書を選定, その他図書館に関する重要な事項の審議
総合情報処理センター運営委員	総合情報処理センター長, 副センター長, 教務主事, 図書館長, 各学科(副センター長所属の学科を除く)及び各教室の教員1名, 事務部長, その他校長が特に必要と認めた者	情報処理に関する教育・研究への支援及び普及, マルチメディアを利用した情報教育, センターの予算, センターの利用, その他センターの管理運営に関する事項の審議
ネットワーク委員会	総合情報処理センター長, 副センター長, 教務主事, 図書館長, 庶務課長, ネットワーク支線管理者, 総合情報処理センター員	ネットワークの利用環境の整備・充実, 利用者に対する技術的支援及び知識の普及, 運用・保守, 将来計画, 本校と学外機関との接続に関する事項の審議
地域連携テクノセンター運営委員	地域連携テクノセンター長, 副センター長, 各学科及び各教室の教員1名, その他校長が必要と認めた者	センターの業務計画, 予算, その他センターに関する重要事項の審議
教育研究支援センター運営委員	教育研究支援センター長, 各学科及び各教室の教員1名, 総合情報処理センター長, 地域連携テクノセンター長, 技術長, 技術班長	教育研究支援センターの運営に関する基本方針, 業務, 技術職員の配置計画, 学科・教室等との連絡調整, その他センターの運営に関し必要な事項の審議
事務情報化委員会	事務部長, 課長, 事務情報化推進室長(専門職員事務情報化担当), その他事務部長が特に必要と認めた者	事務情報化推進の基本方針の決定, 実施計画の策定, 研修会の企画及び実施, その他事務情報化の推進に関する事項の審議

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料11-1-3)

「校務分掌表」

平成17年度 校務分掌表

校長の校務分掌(協議会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、情報センター委員会)

Main table with columns for various administrative roles (e.g., 学級担任, 事務部長, 庶務部長) and rows for staff members. Includes a note '()内は補, 補佐又は副' and a '(補)' column.

(出典 庶務課)

本校では協議会で管理運営（重要事項）について審議し、その結果を各々担当する委員会（将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、情報セキュリティ委員会等）に割り当て、各委員会において検討し、担当の部署で計画・実施している。また、各委員会には事務部の代表として事務部長又は当該担当課長が委員として出席し、委員会の決定事項を末端までリアルタイムに周知している。さらに、事務部長及び各課長で構成する「部課長会」を月に2回開催し、各課の懸案事項等について協議を行い、共通認識の下に業務にあたっている。また、その内容について、事務連絡会議（「事務連絡会議事次第」（資料11-1-4））で報告することにより、事務職員及び技術職員の担当者に直接周知する体制を整えている。

一方、平成16年度には技術職員の効率のよい業務体制を構築するとともに、教育研究の支援強化を図るため、各学科等に所属していた技術職員を集中化し、教育研究支援センターを設置した。（「教育研究支援センター規則」（資料11-1-5））

（資料11-1-4）

「事務連絡会議事次第」

5 月 事 務 連 絡 会 議 事 次 第

日 時 平成17年5月25日（水）15:00～

場 所 管理棟2F会議室

報告・連絡事項

1 各課・各係報告

(1) 庶務課関係

- ア 本校の技術者教育プログラムの認定について【庶務係長説明】
- イ 法人文書ファイル管理簿の更新作業について【庶務係長説明】
- ウ 平成17年度構内環境美化実施計画について【庶務係長説明】（資料1）
- エ 地域連携協定の締結について【柴田専門職員説明】（資料2）
- オ その他
 - ・科学研究費補助金の採択順位（高専間第1位、高等教育機関間297位）

(2) 教育研究支援センター関係

- ア その他

(3) 会計課関係

- ア 平成17年度防災訓練(10/6)について【総務係長説明】
- イ その他

(4) 学生課関係

- ア その他
 - ・中学校訪問（滋賀県内6/21-7/5 6回）
 - ・専攻科入試（6/5 推薦選抜試験 6/8 合格判定会議 6/10 合格発表）
 - ・5 / 2 8 舞鶴高専との交歓試合
 - ・5 / 3 1 ロボコン校内審査
 - ・5 / 2 5 ブックハンティング

2 その他

（出典 スカイボード）

(資料11-1-5)

「教育研究支援センター規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則)

○福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則

(平成16年3月8日
規則第10号)

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に福井工業高等専門学校教育研究支援センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、本校において教育研究支援に携わる技術職員(以下「技術職員」という。)の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援のための基本計画の策定
- (2) 教育研究に対する技術支援
- (3) 技術職員の研修、技術発表会・講演会の企画及び実施
- (4) 教育研究関連機器の保守・管理・操作
- (5) 技術の継承及び保存
- (6) 技術資料の作成、保管及び提供
- (7) 所掌業務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (8) その他本校における教育研究支援業務に関すること。

(技術班)

第4条 センターに第一技術班、第二技術班及び第三技術班を置く。

2 第一技術班は、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 第3条に規定する業務のうちものづくり分野に関すること。
- (2) 第一技術班の運営に関すること。

3 第二技術班は、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 第3条に規定する業務のうち制御・情報分野に関すること。

894

D 福井高専三〇 八九四

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

また、協議会等の議事要旨を学内LANによるグループウェアで全教職員が閲覧できることにより職員の一人ひとりが学校の現状を把握することができる。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を達成するために、各種委員会で審議・協議し、協議会の決定事項については教職員が連携協力して速やかに業務を遂行しており、効果的な活動を果たしている。

観点11 - 1 - : 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校の管理運営に関する諸規程については、「福井工業高等専門学校学則」,「福井工業高等専門学校内部組織規則」,「福井工業高等専門学校事務組織規則」等のほか各種委員会規則等も校務分掌表(資料11-1-2)のとおり整備されており,十分にその役割を果たしている。

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する諸規程の整備については,従前から行っており適切に運営されている。今後は各種委員会の統廃合を行うなど,効率的な体制づくりを検討することとしている。

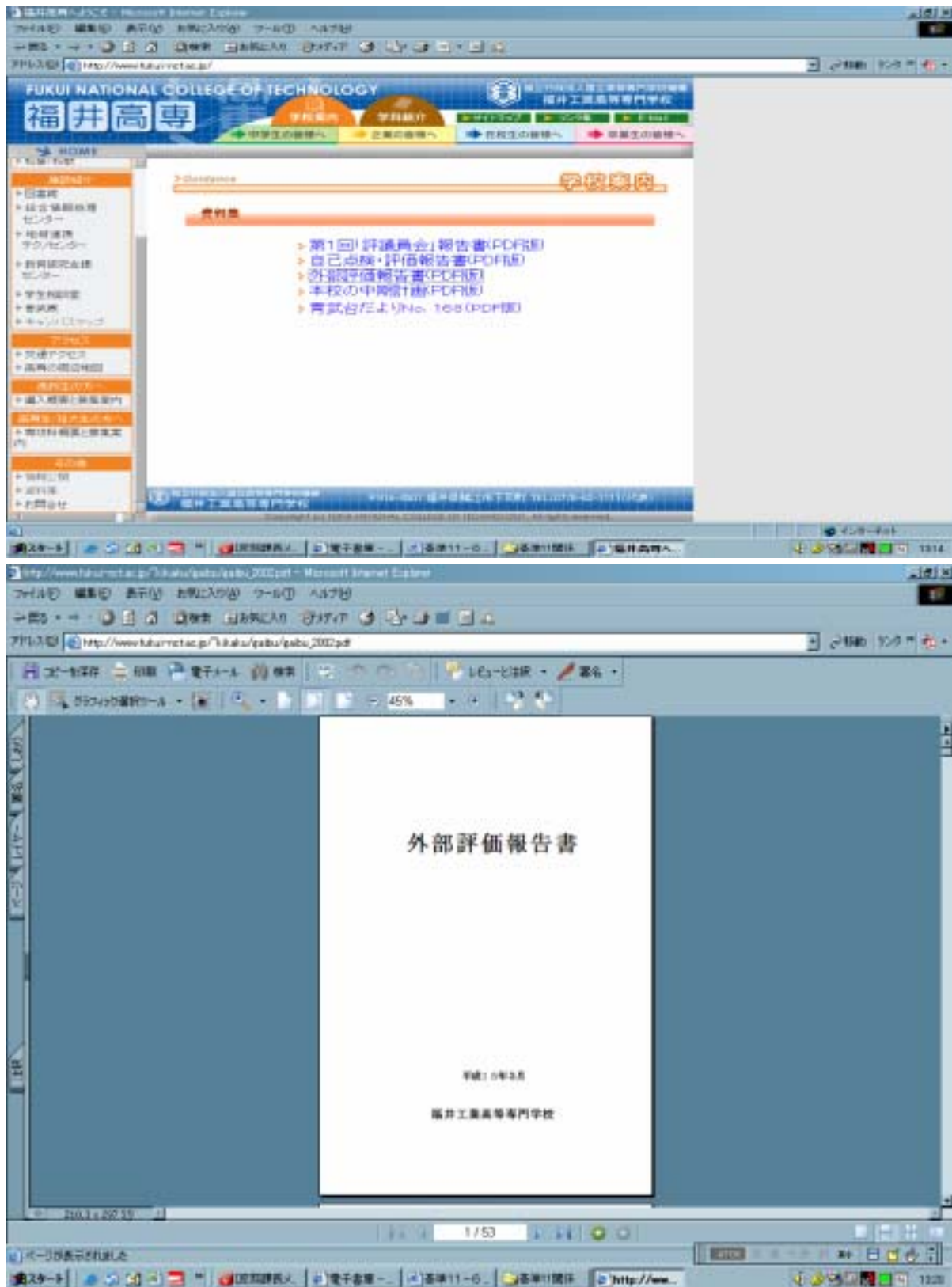
観点11 - 2 - : 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

平成14年12月に福井工業高等専門学校外部評価実施要項を制定し,平成15年2月に外部評価を実施した。その評価結果を「外部評価報告書」(資料11-2-1)に取り纏め,関係機関へ配付するとともにホームページに掲載した。また,平成16年5月にはこの要項を福井工業高等専門学校評議員会規則(資料11-2-2)に改め,高等教育機関の教員,本校の所在する地域の教育関係者,地方自治体等研究機関の研究者,産業界の有識者,報道機関の有識者で構成される評議員会を年に1回以上開催し,教育目標・計画,自己評価,中期計画(資料11-2-3),その他本校の運営に関する重要事項について審議・評価を受けている。その結果を第1回「評議員会」報告書(資料11-2-4)に取り纏め関係者(「第1回「評議員会」報告書の作成について」(資料11-2-5))に配付及びホームページ(「第1回「評議員会」報告書」(資料11-2-6))に掲載するとともに,管理運営のうえで重要な意見については協議会において検討し,その結果,改善等を要する事項については担当する委員会等に要請している。次に,委員会等は要請により改善等を実施し,その結果を協議会に報告している。また,改善内容等については次回開催の評議員会で報告することにより,外部有識者の意見を反映している。

(資料11-2-1)

「外部評価報告書」



(出典 福井工業高等専門学校ホームページ)

(資料11-2-2)

「福井工業高等専門学校評議員会規則」

第1編 表紙・内表 (福井工業高等専門学校評議員会規則)

○福井工業高等専門学校評議員会規則

(平成16年5月13日)

(規則第21号)

第五 平成17年 04 月 05 日 第 23 号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

(任務)

第2条 評議員会は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して勧告又は報告を行う。

(組織)

第3条 評議員会は、10人以下の評議員で組織する。
 2 評議員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が選定する。
 3 評議員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の後任期間とする。

(選任)

第4条 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。

(評議員会の開催)

第5条 評議員会は、校長が招集する。
 2 評議員会は、年1回以上開催するものとする。
 3 評議員会は、必要に応じて出席者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 評議員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく開示してはならない。

(附則)

98

福井工業高等専門学校規則集

(出典 福井工業高等専門学校規則集)

(資料11-2-3)

「中期計画」

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画に対する本校の中期計画

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画	本校の中期計画
<p>(序文) 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第30条の規定により、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)が中期目標を達成するための中期計画(以下「中期計画」という。)を次のとおり定める。</p> <p>(基本方針) 国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出しており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために卒業生の4割近くが進学している。 さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。 このように国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めていかなければならない。また、産業界の変化等を踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者の育成という視点に立って、国立高等専門学校における教育の内容も不断に見直す必要がある。 こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする。</p> <p>業務運営の効率化に関する目標を達するために取るべき措置</p>	<p>(序文) 21世紀を迎え、すべての分野でグローバル化が進展している。また、社会構造の変革を伴って長く経済の調整期が続いており、社会・産業界では新産業の創出及び高付加価値型企業への転換が迫られている。このため、教育界にはグローバルな視野と高度な情報技術に優れた倫理性を持った創造的、開発型の技術者の育成が求められている。 本校では創設の理念の一つである「ものづくり教育」と実践教育によって、社会が求める人材を育成するため、次の教育理念を掲げる。</p> <p><教育理念> ・創造性豊かな人材の育成を目指す人間教育 ・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育 ・高度に情報化した国際社会に対応する教育 ・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育 <養成すべき人材像> ・地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。 <国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標> ・地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成 ・幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力及び応用能力の育成 ・豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成 ・高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成 ・体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力及び論理的思考能力の総合的な育成 ・地域社会に根ざした教育研究の推進とその成果を広く社会に還元する体制の整備</p> <p>こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、国立高等専門学校機構の中期目標を達成するため、福井工業高等専門学校の中期計画を以下のとおりとする。</p> <p>業務運営の効率化に関する目標を達するために取るべき措置</p>

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画に対する本校の中期計画)

(資料11-2-4)

「評議員会報告書」

第1回「評議員会」報告書

平成16年12月

福井工業高等専門学校

まえがき

平成16年4月をもって従来の国立高等専門学校は「独立行政法人国立高等専門学校機構」となり、本校も創立39年目をもち新しく生まれ変わった。国立高等教育機関には、国民の税金で運営されている以上、各機関の運営状況を外部に公開し、その内容を国民に積極的に説明する責任（Accountability）が科せられている。本校も法人化を機に、上記高専機構から提示された中期計画を基に、福井高専独自の中期計画を定め、その計画達成に鋭意努力しているところである。大学・高専に対する評価システムについては、教学と経営の両面から「大学評価・学位授与機構」による認証評価と日本技術者教育認定機構（JABEE）による評価があり、高専も自己点検・自己評価を行うとともに、第三者評価も義務として受けることとなった。

本校では、平成14年12月に自己点検・自己評価書「21世紀に輝く福井工業高等専門学校の教育と研究」を公表し、引き続き、平成15年2月4日に外部の産学官の有識者により、福井高専第1回外部評価委員会（委員長は児嶋眞平福井大学長）を開催した。席上では法人化後の高専の在り方についての確かかつ厳しいコメントを頂いたが、その内容は同年3月に外部評価報告書として公表した。

上述の本校の中期計画の中では、学外有識者により構成される評議員会を設置し、教育及び研究に関する外部評価を受けるとともに、学校運営に関する意見を聴取すると謳っており、その趣旨に添って平成16年9月7日に第1回評議員会を開催した。本校では「福井高専教育点検・改善システム」として、学習・教育目標、教育方法、教育環境、学習保証時間、教育達成度について、計画（Plan）、実施・運用（Do）、点検・検証（Check）、見直し・改善（Action）のいわゆるPDCAサイクルを常時稼働させており、評議員会はこの中で点検・検証の重要な機能を果たすものである。

第1回評議員会では、本校の概要説明を校長及び4名の副校長が行った後、平成15年開催の第1回外部評価委員会での指摘事項の教育・研究改善事項の説明、本校の中期計画・JABEEの説明に続いて、教育・研究環境の視察をお願いした後、討論、提言、講評を頂いた。席上では熱心な討論を賜るとともに、それぞれの立場から本校教員の目には写らない種々の事柄について、耳の痛いご指摘や励ましのお言葉を頂戴した。本校では、これらの評議員各位からのご意見を生かして、法人化の目標とされる福井高専の個性化、活性化及び高度化を図り、世の中で必要とされる福井高専を目指してより一層の努力を積み重ねる覚悟である。忌憚のない、貴重なご意見を賜った評議員各位に深甚の謝意を表したい。

平成16年12月

福井工業高等専門学校

校長 駒井謙治郎

(出典：第1回「評議員会」報告書)

(資料11-2-5)

「第1回「評議員会」報告書の作成について」

第1回「評議員会」報告書の作成について

1. 印刷内容 A4版縦 一部カラー印刷 54頁
 (本文50頁,まえがき・目次等 4頁 *裏白を含む)
2. 発行予定 平成17年1月21日(金)
3. 印刷部数 350部 (内訳は下記のとおり)

【配布内訳】

機 関 等 名	配布部数
国立高等専門学校機構本部	3
文部科学省(専門教育課, 学術機関課)	2
国立高専(54校)	54
公立高専(札幌市立, 都立, 都立航空, 大阪府立, 神戸市立)	5
私立高専(育英, 金沢, 近畿大)	3
技術科学大学(長岡, 豊橋)	2
福井大学	1
福井県立大学	1
福井工業大学	1
仁愛大学	1
仁愛女子短期大学	1
国立若狭湾少年自然の家	1
県内高等学校(31校)	31
教育委員会(県, 7市)	8
市役所(武生, 鯖江)	2
福井高専教育研究振興会(23企業等)	23
福井県(文書学事課, 産業労働部)	2
福井県産業支援センター	1
福井商工会議所	1
本校名誉教授(32名)	32
学 外 計	175
校長, 事務部長, 各課長(3), 各係等(13), 技術班(3)	21
教員	81
図書館	20
評議員	7
予備	46
学 内 計	175
合 計	350

(出典 庶務課)

(資料11-2- - 6)

「第1回「評議員会」報告書」



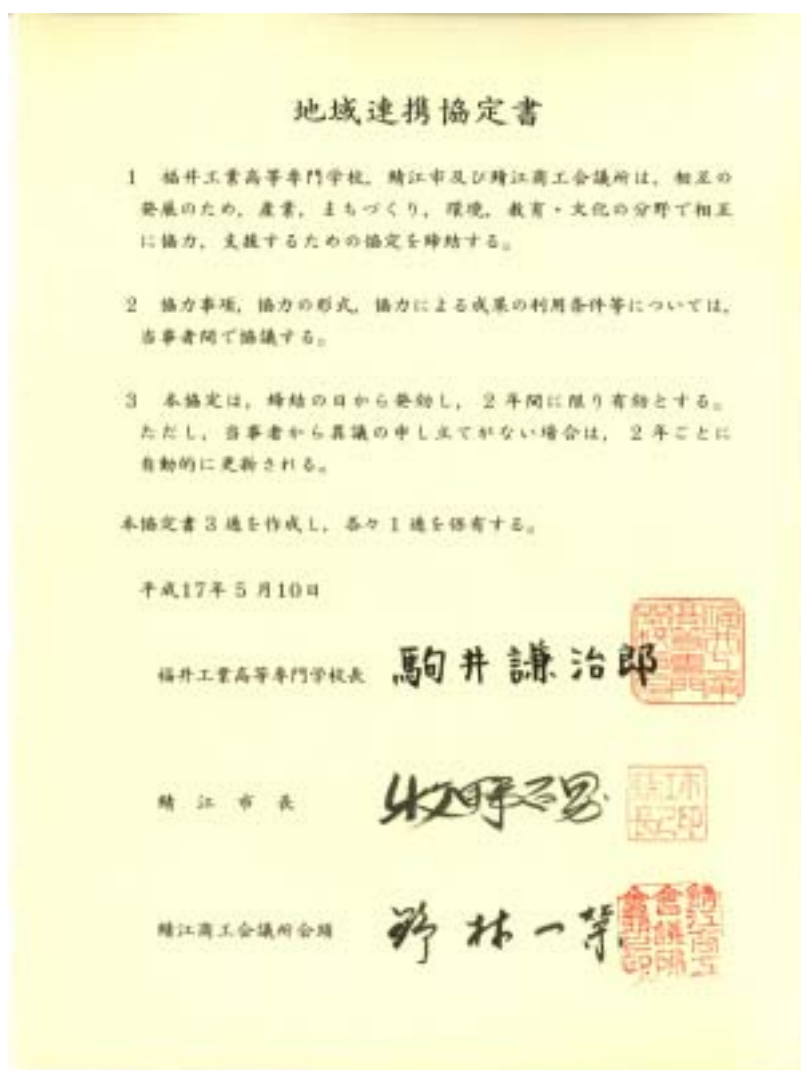
(出典 福井工業高等専門学校ホームページ)

平成16年9月に実施した評議員会報告書(資料11-2- - 5)の一つの事例として、伝統産業の支援については積極的に取り組んでおり評価するが、地場産業においても支援を期待する旨の要望があり、昨年度設置した伝統産業支援室につづいて今年度は地場産業支援室を設置するとともに、平成17年5月には地元の市町及び商工会議所等との三者による地域連携協定(資料11-2- - 7)を結び地元の産業界及び行政機関との関係をより親密にした。

また、人口の半分を占める女性にもものづくりの楽しさや技術の必要性を持たせることも重要なことと思われるため、女子学生を受け入れる努力を要請する旨の依頼があり将来検討委員会等で検討した。

(資料11-2-7)

「地域連携協定書」



(出典：庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

評議員会を開催し、産官学の各界から広く要望等を求め、提言事項については、協議会、その他関係する各委員会等で実現に向け改善策等を検討するなど、外部の意見は反映されている。

観点11-3- : 自己点検・評価(や第三者評価)が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価(「自己点検・評価委員会規則」(前出資料6-1--4)、「自己点検・評価報告書」(前出資料9-1--2))、評議員会(資料11-2--2)、JABEEの受審(資料11-1--4)、学生へのアンケート調査(「平成16年度教育環境要望調査アンケート」(資料11-3--1))及び企業へのアンケート調査(「資料11-2--6」)「第1回「評議員会」報告書」の44頁に掲載)を行い、教育・研究、組織・運営、施設・設備について偏りのない公平な判断をするとともに、その評価結果を報告書に取り纏めるとともにホームページで公表

している。また、学生へのアンケート調査結果による改善策等の学生への周知は学級担任が行うとともに、寮関係は寮の掲示板，図書館関係は図書館入り口の掲示板で表示した。

(資料 1 1 - 3 - - 1)

「平成 1 6 年度教育環境要望調査アンケート」

平成 1 6 年度教育環境要望調査アンケート 結果分析

< 本科 : 1 ~ 5 年 >

1. 施設

講義室に対して不満と回答した学生が 64% と極めて高い結果となった。不満理由として大半が空調の未整備を挙げた。7 月にアンケート調査を実施したこと、県立高校では既に空調整備が成されているところもあることも要因として考えられる。その他の施設に関しては、約 2 割が不満と回答し、施設利用の利便性について不満をもつ者が多かった。

2. 福利厚生施設

食堂、売店のサービスに対して不満と回答した学生が約 15% であり、改善を求める意見も寄せられた。その他の福利厚生施設に関しては、不満と回答した学生は 1 割程度以下であり、概ね不満が少ないという結果が得られた。

3. その他施設

約 6 割の学生が学生駐車場に対して不満と回答した。その要望意見としては、舗装あるいは整地、駐車スペース間隔の拡張などであった。これに対しては、駐車許可証発行時などにおいて十分な説明の必要があるであろう。学寮に対して不満と回答した寮生が約 4 割にのぼり、その不満理由として空調の未整備、隣室の騒音、部屋面積などが挙げられた。その他、駐輪場、校内環境・美化に対する不満が 2 割程度であり、今後校内環境整備の必要も考慮する必要があると思われる。

< 専攻科 : 1 ~ 2 年 >

1. 施設

主として専攻科棟 (エアコン完備) にて講義を受けるため、講義室に対する不満は少ない。情報処理センターおよび図書館に対する不満が約 2 ~ 3 割と若干不満と感じている学生数が多いといえる。情報処理センターへの要望では、コンピュータなどのハード環境に対する不満とインターネット利用に制限がある不満が挙げられた。図書館に対する要望としては、専門書、文献の充実を求める意見が寄せられた。

2. 福利厚生施設

売店に対する不満が 2 割弱と若干の不満がみられた。売店で専門書を販売してほしいという要望が寄せられた。その他に関しては、概ね満足率が高いと考えられる。

3. その他施設

約 7 割の学生が学生駐車場に対して不満と回答した。その要望意見としては、舗装あるいは整地、駐車区画を示すラインの明確化などであった。これに対しては、駐車許可証発行時などにおいて十分な説明の必要があるであろう。その他、駐輪場、校内環境・美化に対する不満が約 2 ~ 3 割であり、今後校内環境整備の必要も考慮する必要があると思われる。

* 専攻科学生の要望には、図書館の専門書、文献の不足、コンピュータ、インターネット環境および利用の充実など勉学意欲を示す意見が多く見られたのが特徴的であった。

(出典 庶務課)

(資料 1 1 - 3 - - 1)

「平成 1 6 年度教育環境要望調査アンケート」

平成 16 年度教育環境要望調査アンケート 要望意見 (施設別)

は、特に要望が多かったもの

は、要望が多かったもの

施設

教室および校内建物・施設が汚い、暑い、狭い、古い

クーラーが欲しい

毛虫をなんとかして欲しい (特にプールなどの野外施設、教室付近)

黒板が古い、汚い

教室の風通しが悪い

パソコン、インターネット環境が古い、処理速度が遅い

図書館の本、専門書、文献が少ない・古い

情報処理センターの利用時間が短い

Web閲覧ができる環境が欲しい

施設利用時間が短い

屋外施設を利用しやすくしてほしい (部員以外利用しにくい)、利用方法がわからない

第二体育館の暗幕がとれるので直してほしい

プールが汚い・古い

福利厚生施設、利用環境

食堂、売店が狭く混雑する

売店で専門書を販売してほしい

保健室に先生が不在なことが多い。特に、部活動時。

保健室のベッド数が少ない

その他施設

駐輪場が狭い

学生駐車を舗装してほしい、でこぼこを直してほしい、駐車区画がわかりにくい

休息場所 (日陰、ベンチ) がほしい

水たまりを直してほしい

心和館内が汚い

寮

寮にクーラーがなく、勉強に集中できない、寝不足気味

狭い

汚い

隣室の騒音

(出典 庶務課)

(資料11-3-1)

「平成16年度教育環境要望調査アンケート」

平成16年度教育環境要望調査アンケート 要望意見(学年別)

は、特に要望が多かったもの

は、要望が多かったもの

1年

クーラーが欲しい、暑すぎる

毛虫をなんとかして欲しい(特にプールなどの野外施設、教室付近)

パソコンが古い

図書館の本が少ない・古い

Web閲覧ができる環境が欲しい

寮にクーラーがなく、寝不足気味

駐輪場の段差が高い

保健室に先生が不在なことが多い。特に、部活動時。

プールが汚い・古い

2年

クーラーが欲しい、暑くて勉強に集中できない

虫が多い

売店が狭い

駐輪場が狭い

教室が狭い

黒板が古い、汚い

保健室に先生がいない

パソコンが古い

Web閲覧ができる環境が欲しい

プールが汚い・古い

寮が暑くて勉強に集中できない

寮が狭い、汚い、隣室の騒音

3年

教室および校内建物・施設が汚い、暑い、狭い、古い

クーラーが欲しい

図書館の蔵書が少ない

パソコンが古い、処理速度が遅い

情報処理センターの利用時間が短い

休息場所(日陰、ベンチ)がほしい

食堂、売店が狭い

水たまりを直してほしい

駐輪場が狭い

(出典 庶務課)

本校では、国立高等専門学校機構が作成した中期計画を基に本校独自の中期計画を設定するにあたり、将来構想検討委員会にて中期計画の案を作成し、その案を評議員会において各委員の意見等を聴取及び審議したうえで本校の中期計画とした。

また、専攻科の教育プログラムが社会で必要とする多様な能力を持つ技術者の育成教育として構築されているか外部有識者の評価を得るため、平成16年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、平成17年5月にJABEE技術者プログラムとして認定（資料11-3-2）された（認定プログラム名：環境生産システム工学，認定分野：工学（融合複合・新領域）関連分野）。

この中期計画（資料11-3-3）及びJABEE技術者プログラムの認定（資料11-3-4）についてはホームページで公表している。

この他、教職員の勤務意欲と本校の活性化を図るため「福井工業高等専門学校校長表彰規則」（前出資料9-1-8）を平成16年1月に制定し、選考委員会の評価のもとに、毎年年度末に数名の表彰を行い、スカイボード（「校報 Vol.37 No.1」（資料11-3-5））で公表している。

（資料11-3-2）

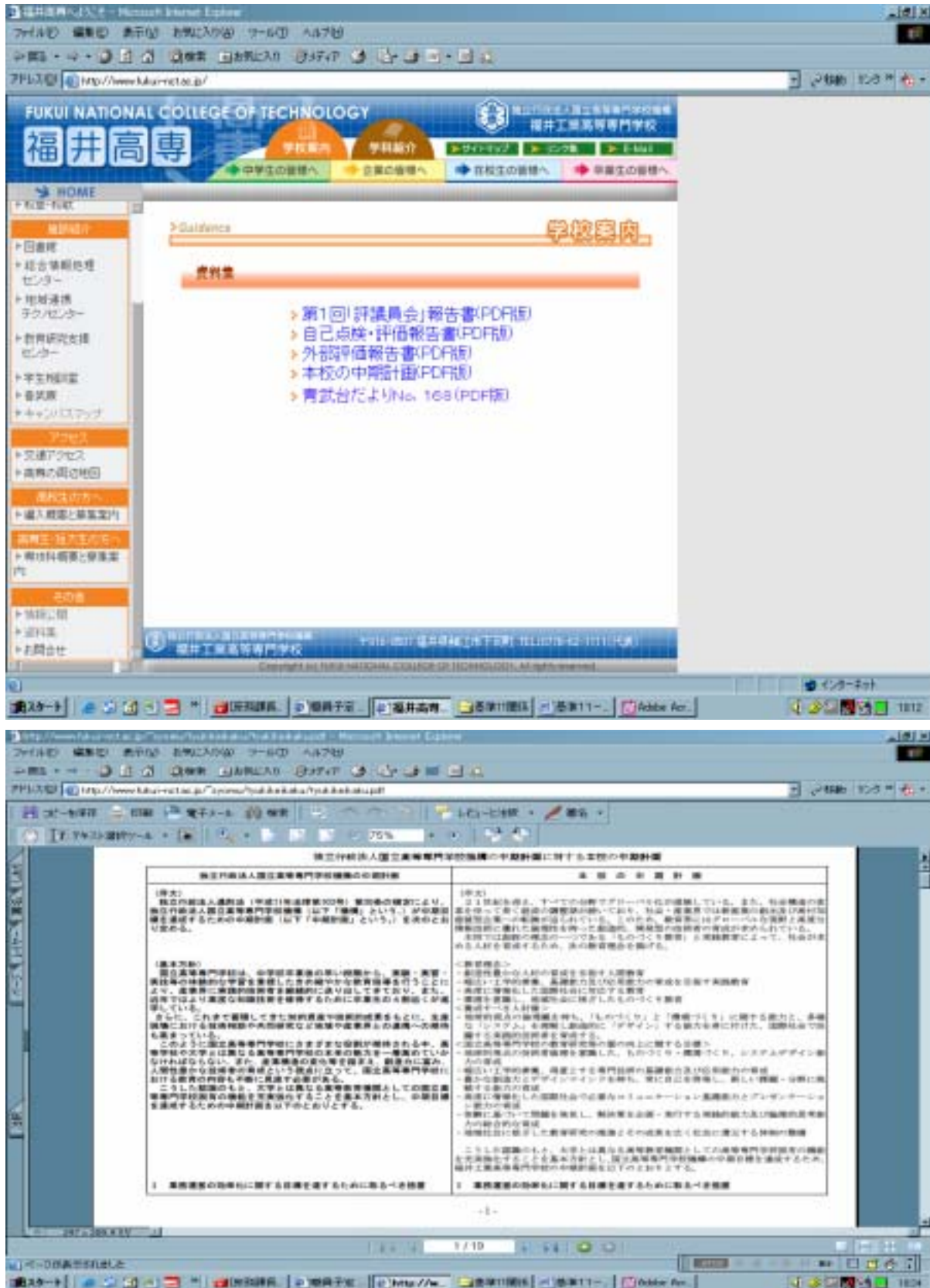
「JABEE認定証」



（出典：庶務課）

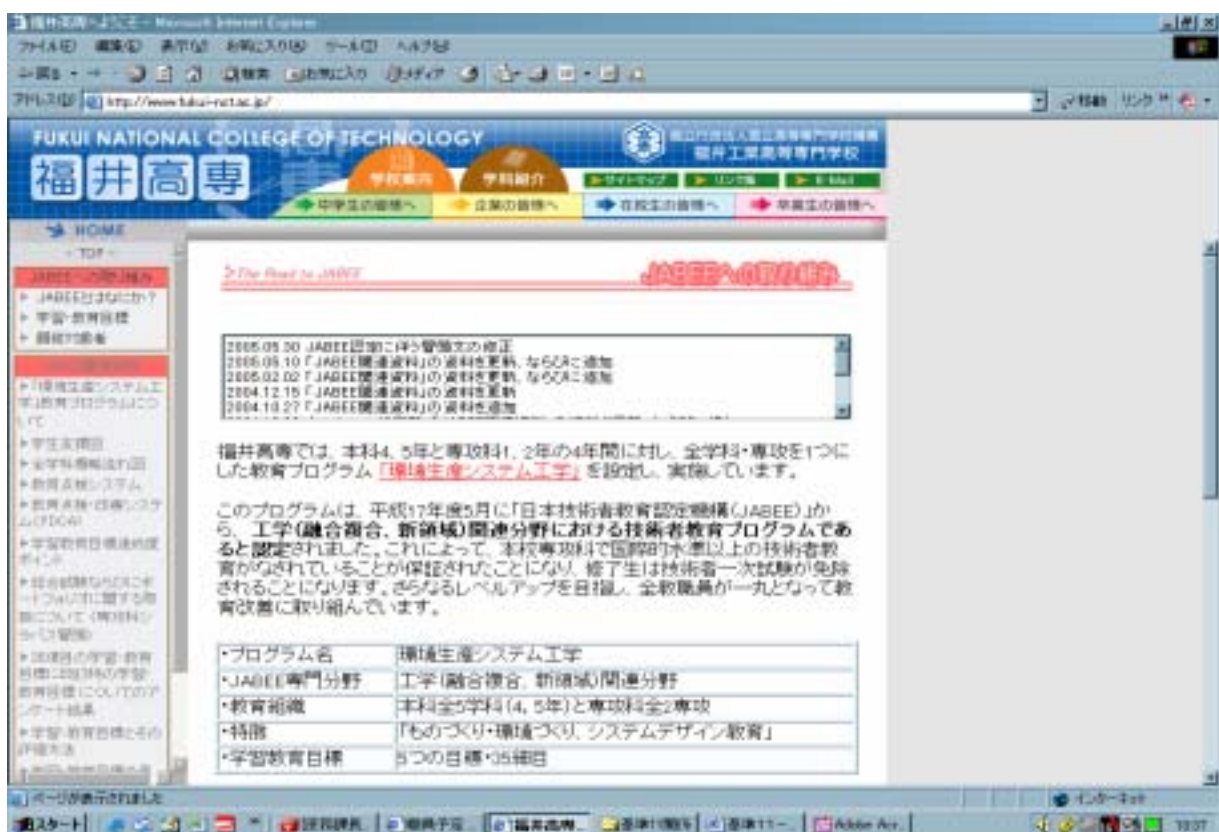
(資料11-3-3)

「本校の中期計画」



出典 福井工業高等専門学校ホームページ

(資料11-3-4)
「JABEE技術者プログラムの認定」



出典 福井工業高等専門学校ホームページ

(資料11-3- -5)

「校報 Vol.37 No.1」



出典 スカイボード

(分析結果とその根拠理由)

自己点検・評価や外部評価を実施し、その結果を報告書及びホームページ等で公表している。

観点11-3- : 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価、評議員会、JABEEの受審、学生へのアンケート調査及び企業へのアンケート調査の評価結果を協議会等で審議のうえ、それぞれ担当する委員会にて具体的な方策を検討し改善している。

例えば、自己点検・評価委員会では補導委員会が行った学生アンケート(資料11-3- -3)の結果を受け、各委員の関係する委員会で「改善策」(資料11-3- -1)を講じるとともに実施し、その改善状況を「将来構想検討委員会」(資料11-3- -2)に報告している。また、評議員会の意見等(資料11-2- -4)についても「校長メモ」(資料11-3- -3)により「協議会議事要旨」(資料11-3- -4)や「将来構想検討委員会議事要旨」(資料11-3- -5)のように各担当委員等に問題を提起し、「将来構想検討委員会議事要旨」(資料11-3- -6)のとおり取り組んでいる。

(資料 1 1 - 3 - - 1)

「改善策」

平成 1 6 年度教育環境調査アンケート 要望意見 (施設別)

は特に要望が多かったもの は要望が多かったもの ・は要望があったもの
施設

教室および校内建物・施設が汚い、暑い、狭い、古い

平成 1 7 年度施設整備概算要求で校舎全面改修を要求

現有教室を 1 . 5 倍に広げる。

各学科で現有使用の実験室、製図室、コンピュータ室の共用化を図る。

クーラーが欲しい

校舎全面改修時に教室及び実験室等にクーラーを設置する。

毛虫を何とかして欲しい (特にプールなどの野外施設、教室付近)

定期的 (年 2 回) に駆除しているが、要望があれば会計課に連絡願います。

黒板が古い、汚い

校舎全面改修時に教室等に設置している黒板については更新される。

教室の風通しが悪い

校舎全面改修時にロッカー等を含めた教室の教育環境を整備する。

パソコン、インターネット環境が古い、処理速度が遅い

平成 1 6 年度契約「教育用電子計算機システム」更新に伴い、サーバは 2 台となり、

PC は 1 5 0 台が導入される。

またメールサーバー (教職員・学生用) も更新予定である。

図書館の本, 専門書, 文献が少ない・古い

毎年、予算の範囲内で各学科及び各クラスから推薦のあった専門書等を購入している。なお、今年度は校長裁量経費の配分により例年より多く購入予定である。また、新書はブックカバーをつけ目に付きやすくした。

情報処理センターの利用時間が短い

基本的には午前 8 時 3 0 分から午後 5 時 1 5 分であるが「総合情報処理センター時間外利用許可願」を提出すれば午後 1 0 時まで利用可能である。利用時間帯等についてはセンター内と本校のホームページ及び当初の授業開始時に案内している。

(平成 1 6 年 4 月～9 月の時間外利用件数 9 2 件)

Web 閲覧ができる環境が欲しい

現在は図書館のパソコン 2 台が閲覧できるが平成 1 6 年度契約「教育用電子計算機システム」更新に伴い総合情報処理センターに 1 0 4 台、ものづくりアトリエに 4 6 台のパソコンが納入され平成 1 7 年 4 月より全て閲覧が可能になる。

施設利用時間が短い

課外活動で時間外に体育施設等を使用する場合は「課外活動届」を 7 日前までに提出し、許可を受ければ午後 1 0 時まで利用できる。利用時間帯等については再度学生に周知する。

屋外施設を利用しやすくしてほしい (部員以外利用しにくい), 利用方法が分からない

「施設使用願い」を学生課に提出し、クラブ代表者の了解を得て利用することができる。ただし、課外活動が優先されるので時間帯、曜日等の制限がある。

- ・第二体育館の暗幕がとれているので直して欲しい

暗幕業者に依頼済

- ・プールが汚い、古い

営繕工事要求として機構本部に要求する。

福利厚生施設, 利用環境

食堂, 売店が狭く混雑する

本年 4 月から食堂業者が代わり、サービス、メニューなどが向上したことから、学生の利用者が増大したこともあって、お昼時間の一時に混雑するようになった。食堂を今すぐに拡張することはできないので、空いている場所にテーブル (4 台) と椅子 (2 4 脚) を平成 1 6 年 1 0 月に設置し、混雑の解消を図った。

(出典 庶務課)

(資料 1 1 - 3 - - 1)

「改善策」

売店で専門書を販売してほしい

専門書は販売数も少なく、また、現在の売店経営形態及びスペースでは書籍を並べることは難しい。但し、売店に備え付けの書籍注文書に必要事項を記入のうえ店員に渡せば専門書等の書籍購入は可能である。(10/20売店責任者に確認)

- ・保健室に先生が不在なことが多い。特に部活動時
非常勤の看護師が午前9時45分～午後4時30分まで勤務している。部活動時についての学生の世話は顧問の先生にお願いしたい。また、勤務時間外に怪我等した場合は「事件・事故発生の緊急連絡網」により対応していただきたい。
- ・保健室のベッドが少ない
現在ベッドは3台有り、体調不良を訴えてくる学生の症状により、ベッドで休養を取らせている。しかし、保健室のスペースも小さくベッドをこれ以上増やすことは難しい状況なので、比較的軽い症状の学生にはソファや診察台等で対応したい。また、現在も行っているが、症状が回復しない学生には、早め早めに医療機関にかかり、帰宅するよう指導している。

その他施設

駐輪場が狭い

駐輪場の収容台数は、校舎西側駐輪場約260台、電情棟南側駐輪場約220台の計480台である。現在学生が乗ってきている自転車台数は、約280台、160台で合計すると収容台数を下回っていることから、現状の乱雑な自転車の置き方の指導と、指定駐輪場への駐輪を徹底すれば混雑は解消可能である。

寮の駐輪場については、南寮に増設した。

学生駐車場を舗装してほしい、でこぼこを直してほしい、駐車区画がわかりにくい

駐車場は、武生市・鯖江市の共有地を教育後援会が借り受けしており、所用の整備をしているが、舗装については工事費が高額でありまた、返還するときには現状復帰の条件が課せられていることもあり、舗装をしていない。でこぼこの補修及び駐車区画については、経費の面もあるので、業者に見積もらせた後、できるものから実施したい。(教育後援会が実施する)

休息場所(日陰、ベンチ)がほしい

校内には高木も多く休息場所も少なくないと考えている。

ベンチは校内の数カ所に設置しており、冬期の除雪作業を考慮すれば現状で対応したい。

- ・水たまりを直して欲しい
整備する。
- ・心和館内が汚い
心和館を利用したものが、退去時に必ず清掃等をするようになっていく。今後はより入念な清掃をするよう指導する。

寮

寮にクーラーがなく、勉強に集中できない、寝不足気味

今のところ、予算上、各居室にはクーラーは設置できません。クーラーは、図書室に設置されており、通常は午後11時まで利用可能ですが試験期間中は午前1時まで延長できます。

- ・狭い
学寮各居室の平均面積は10.5㎡ですが、周辺の賃貸アパートも(玄関、便所、浴室、キッチン等の面積を除くと)約11㎡で、学寮居室が格段に狭いとも言えない。
- ・汚い
清掃状況の問題であるとすれば、週2日の当番制では不十分であるということになる。寮生会役員と一度検討してみる。施設面での問題であれば、東、北寮は平成5・6年に改修が終わり南寮は平成8年に新築している。また東寮の居室の壁紙の剥がれも平成15年に張り替えを行い整備済みである。
- ・隣室の騒音
隣室の寮生相互のマナーの問題であると思うが、解決しづらいようであれば、区長が寮務主事団に申し出てほしい。

(出典 庶務課)

(資料11-3-2)

「将来構想検討委員会」

第7回将来構想検討委員会議事要旨

日 時 平成16年11月11日(木) 17:00～18:00
 場 所 校長会議室
 出席者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、
 田中、新谷、前川、松井(修)、小寺、各学科(教室)主任、
 図書館長、総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、
 教育研究支援センター長、
 代理出席者 朝倉(坪川代理)、武井(前島代理)
 列席者 会計課長、学生課長、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われ了承された。

議 題

- 1 第1回福井工業高等専門学校評議員会(校長メモ)を受けての検討事項について
 - (1) 先進技術教育研究センター中期計画に関する見直しについて
 センター長から、以下のとおり報告があった。
 - ・相談窓口の明示、技術相談無料の明確化
 - ・運営委員会でのバックアップ体制・協力体制を確立し、受入れ教員の連携と負担軽減を検討
 - (2) 女子学生対策について
 - 1) 女子学生を意識した教育方針について(物質工学科)
 松井委員から、すでに多くの女子学生を受け入れている物質工学科としては、女子学生の増加策ではなく、女子学生の入口・出口を考えた教育について報告があった。
 - 2) 女子学生志願者増に関する方策(電気工学科)
 新谷委員から、女子学生を意識した進路・資格取得の情報提供などの報告があった
 - 3) 女子中学生の機械工学科への志望者増加策について(機械工学科)
 田中委員から、機械工学科在学女子学生からの聞き取り調査に基づく意見からの今後の対応について報告があった。
- 2 「平成16年度教育環境要望調査アンケート」検討結果について
 校長から、第2回自己点検・評価委員会(10/28開催)での報告を受けて、各部署から検討結果について報告願いたい旨発言があった。
 教務主事：施設整備部会でのWGでの検討結果について報告があった。
 学生主事：資料に基づき報告があった。
 寮務主事：資料に基づき報告があった。

(出典 スカイボード)

(資料11-3-3)

「校長メモ」

第1回福井工業高等専門学校評議員会(校長メモ)

日時:平成16年9月7日〔火〕 10時 15時15分

外部評価委員会委員

児嶋眞平(福井大学長),小島 陽(長岡技術科学大学長),茨田隆信(鯖江市中学校校長会会長),中野孝太郎(福井県産業支援センター常務理事),野村一栄(鯖江商工会議所会頭),本島正勝(信越化学工業(株)磁性材料研究所長),橋詰武宏((株)福井新聞社役員待遇論説委員長)

本校

校長,教務主事,学生主事,寮務主事,専攻科長,各学科(教室)主任,図書館長,各センター長,事務部長,各課長,JABEE委員長 以上 合計28名

講評概要

児嶋委員長総評

- ・ 工学基礎コース設置を意欲的取り組みとして評価する。今後発展することを期待する。
- ・ 寮生対応,担任制,学年主任制等,学生にきめの細かい配慮をしている。
- ・ 専攻科と本科の連携に不安がある。大学3年への編入学の増加する状況下で専攻科入学生を如何に確保するのか。また,専攻科修了生の大学院への進学を奨励するのか,就職を前提とするのか等,専攻科をどのように今後運営しようとしているのか。(将来構想検討委員,専攻科委員会)
- ・ 研究面では共同研究が急増し充実しているが,教育との兼ね合い,研究時間の都合を考慮のこと。
- ・ 研究費は科研費実績を評価する。運営交付金減に備えること。
- ・ 教育環境が劣化している。整備に努めること。(施設整備部会)
- ・ 産学連携を手広くやるのは期待倒れの恐れあり。意欲的に取り組んでおり成果ありと認める。

小島委員

- ・ 連携大学院を推進されたい。(専攻科委員会)

茨田委員

- ・ 広報活動が弱いので,活発化し小中学校との繋がりを強化されたい。高校は積極的である。小中学校への宣伝活動を積極的に,また,教員研修や出前授業を考えて欲しい。(広報委員会)

中野委員

- ・ 研究活動の裏付け,産官学連携について,もっと具体的に中期計画に記載されたい。(中期計画手直し)

野村委員

- ・ 丹南地域の伝統産業は和紙以外に,漆器や打ち刃物があることを忘れないこと。的を絞って産官学連携を推進されたい。(先進技術教育研究センター運営委員会)

本島委員

- ・ 英語力の強化を期待する。(一般科目教室主任)

橋詰委員

- ・ 小学生をターゲットにした物づくり,理科,科学技術への関心強化に努める(広報委員会)。
- ・ 国際化対応を。留学制度や海外とのネットワーク開拓に努めること。(教務委員会)
- ・ 人口の半分を占める女子学生に手に技術を持たせるニーズがある。之に応えること。(各学科主任)

(出典 庶務課)

(資料11-3-4)

「協議会議事要旨」

平成16年9月定例協議会議事要旨

日 時 平成16年9月9日(木) 15:35～16:00
 場 所 校長会議室
 出席者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、事務部長、
 田中、前川、松井(修)、前島、小寺、坪川(武)各学科(教室)主任、
 総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、大久保(茂)JAB
 EE委員長
 代理出席者 小泉専攻科環境システム工学専攻主任
 欠席者 専攻科長、新谷主任、図書館長、教育研究支援センター長
 列席者 庶務課長、会計課長、学生課長、庶務係長

校長から前回の議事要旨(8月臨時協議会、第2回福井豪雨支援室会議)の確認が行われ
 了承された。

審議事項

1 学則の一部改正について

小泉専攻主任から教育課程の改訂に至る経緯について、また学生課長から学則
 新旧対照表に基づきそれぞれ説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

報告事項

1 校長報告

(1) 平成16年度第1回福井工業高等専門学校評議員会について

去る9月7日に本校で開催された評議員会について、校長から報告があった。

2 先進技術教育研究センター長所管事項報告

(1) 第2回全国高専テクノフォーラムについて

センター長から報告があった。併せて、9月30日に大講義室で「特許講習会」
 を開催する旨案内があった。

(2) 第12回高度技術者研修について

センター長から今月28～29日に実施する旨案内があった。

(3) 武生商工会議所ならびに会員企業と福井工業高等専門学校との交流会の開催 について

センター長から明日(10日)に開催する旨案内があった。

(出典 スカイボード)

(資料11-3-5)

「将来構想検討委員会議事要旨」

第5回将来構想検討委員会議事要旨

日 時	平成16年9月9日(木) 16:00～16:25
場 所	校長会議室
出 席 者	校長、教務主事、学生主事、寮務主事、事務部長、 田中、前川、松井(修)、前島、小寺、坪川(武)各学科(教室)主任、 総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、大久保(茂)JAB EE委員長
代理出席者	小泉専攻科環境システム工学専攻主任
欠 席 者	専攻科長、新谷主任、図書館長、教育研究支援センター長
列 席 者	庶務課長、会計課長、学生課長、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われ了承された。

議 題

1 評議員会を踏まえての本校中期計画について

庶務課長から、評議員会での審議を受けて中期計画の修正箇所について説明があった。校長から、今回の修正で本校の中期計画(最終版)が完成したので、今後この計画に沿ってそれぞれの部署で対応願いたい旨発言があった。

2 今後の高等専門学校の整備の在り方に関する調査研究について

機構本部から依頼のあった調査研究の本校としての回答(9月15日締め切り)について、教務主事から説明があった。校長から、学校基本調査の高等専門学校入学状況資料に基づき説明があった。校長から、この説明内容で機構本部に回答するとの発言があり、委員には今後この内容を中期計画と共に各部署の将来構想に活かすよう依頼があった。

次回は、評議員会での校長メモで依頼をしている事項について、各部署のできるどころから報告願いたい旨依頼があった。

(出典 スカイボード)

(資料11-3-6)

「将来構想検討委員会議事要旨」

第8回将来構想検討委員会議事要旨

日 時	平成16年12月2日(木) 15:30～17:30 (16:30～16:50 永年勤続者表彰式のため中断)
場 所	校長会議室
出 席 者	校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、 田中、新谷、前川、松井(修)、坪川、小寺、各学科(教室)主任、 図書館長、総合情報処理センター長、先進技術教育研究センター長、 教育研究支援センター長
代理出席者	武井(前島代理)
特別出席者	JABEE委員長
列 席 者	会計課長、学生課長、庶務係長

議事に先立ち、校長から前回の議事要旨の確認が行われ了承された。

議 題

- 1 第1回福井工業高等専門学校評議員会(校長メモ)を受けての検討事項について
 - (1) 女子学生対策について
 - 1) 環境都市工学科を志望する女子中学生への対応(環境都市工学科)
武井教授から、中学校と女子中学生への綿密な情報提供(進路情報も含む)を行うことを中心に報告があった。
 - 2) 女子志願者増加による入試倍率向上の方策について(電子情報工学科)
前川委員から、女子志願者増の方策について報告があった
 - (2) 英語力強化策について
小寺委員から、英単語・熟語一斉テストや、習熟度別講座の実施などについて報告があった。

(出典 スカイボード)

このシステムについては「観点9-1- の観点に係る状況」に記載のとおり、PDCAにより実行している。

(分析結果とその根拠理由)

改善を必要とする評価結果については、事項ごとに担当する委員会等へ提起し、具体的な改善方策等の検討からその実施と協議会への報告まで一貫したシステムが構築され、有効に運用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・校長のリーダーシップのもとに、副校長、各種委員会の管理運営体制及び事務組織が整備され、その役割も果たされており、また、外部有識者の意見が反映するシステムも構築されている。
- ・多様な評価を実施し、その評価結果は学校全体の教育システムの改善に反映されている。
- ・委員会等の議事要旨を学内LANによるグループウェアに掲載することにより全教職員へ滞りなく周知している。

(改善を要する点)

各種委員会の数が40を超えており、教職員が複数の委員会の委員となっているため、会議に要する時間が多くなっている。このため、今後は内容を精査し委員会を統廃合する必要がある。

(3) 基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するため、校長が最終責任者として意思決定を行うための補佐体制として、教育計画、学生の厚生補導、学寮の厚生補導及び専攻科の運営について4人の副校長を置いている。このほかにも校長のリーダーシップのもとに図書館長、各センター長及び事務部長を中心とした態勢を整えるとともに、学則や内部組織規則等の諸規定を整備している。また、学校の管理運営に関する重要事項を審議する協議会のほか将来構想検討委員会等の各種委員会を目的ごとに設置し、担当者を校務分掌表のとおり定めている。

協議会等の議事については学内LAN(スカイボード)により閲覧できる態勢を整えており、また、重要な事項については教員会議や事務連絡会で周知し、全教職員が学内の情報を共有するとともに、教職員の管理運営に対する意識の向上を図っている。

外部評価については、教育関係者や地方自治体等の研究機関の研究者等の有識者で構成される評議員会を開催し、教育目標・計画、自己評価、中期計画、その他本校の運営に関する重要事項について審議・評価を受け、その意見等を協議会で検討のうえ、その結果、改善等を要する事項については担当する委員会等に要請している。また、改善等の実施及びその結果については各委員会から協議会に報告するとともに次回の評議員会で報告(回答)している。

また、自己点検・評価、評議員会、JABEEの受審、学生へのアンケート調査、及び企業へのアンケートを行い、本校の活動状況を確認するとともに、その調査結果により改善等を要する事項については担当の委員会等で検討し実施している。

以上より、本校の目的を達成するために必要な管理運営体制は整っている。

選択的評価基準 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点1 - : 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

本校の教育理念である、「創造性豊かな人材の育成」、「幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」、「高度に情報化した国際社会に対応する教育」、「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」、「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」を実現するために、全校的な研究体制、研究支援体制を作り、実施している。このように教育理念を実現するため、また、教育的資質を向上させるため、教員の研究活動は欠かせないと考えられる。さらに、この教育理念の一つである、地域に根ざした教育として、地域における産官学共同研究は教育的にも、地域社会にとっても重要である。

このような観点から、本校では平成3年度に校内に自助努力で、「先進技術教育研究センター」を設置し、地域との産官学共同研究の窓口として、このセンターに大型設備を集中させ、共同研究にあたって来た。平成17年4月には、このセンターを「地域連携テクノセンター」と改組し、さらに地域と連携を深めた共同研究施設としている。現在、下記のような教育的研究事項に取り組んでいる。

地域の産業界からの技術相談と地域産業に密着した研究テーマの設定（伝統産業支援、地場産業支援を引き続き進める）。

地域産業界の技術者・研究者の欲している高度技術の習得を目的とした高度技術者研修の開催。地域の産官学共同研究関係者を集めて行う、講演会と情報交換会であるJOINTフォーラムの開催。

産業界・教育界の将来を担う若者の「ものづくり」への興味喚起と理科離れ対策として実施している「マグネットコンテスト」、「さばえめがねワク waku コンテスト」の開催。

本校の有する専門的・総合的な教育機能を利用した技術的な公開講座の開催。

教員の研究内容を掲載した広報誌（教員総覧・JOINT・アニュアルレポート）を年1回発行。地元商工会議所等との情報交換・懇談会により一層の推進による地域産業界からの技術相談・共同研究の機会拡大と研究テーマの発掘。

各学科保有研究設備のリストアップ（担当教員の明示）の公開

教員の研究内容、技術シーズの公開。

高度な分析・観察設備を用いた卒業研究、特別研究支援

伝統産業支援室を設置して、和紙工業などへの技術支援。

地場産業室を設置して、眼鏡枠工業などへの技術支援。

本校の地域連携テクノセンターは、材料部門、情報処理部門、バイオ部門、環境部門、計測制御部門、原子核工学・基礎部門の6部門制をとっている。それぞれの部門に部門長、副部門長を置き、技術相談、共同研究にあたっている。また、地域連携テクノセンターの運営のため、連携テクノセンター運営委員会を設置している。同センターにはセンター長1名、副センター2名を配置し、センターの的確な企画・運営にあたっている。成果は毎年1回の共同研究発表会で発表している。運営についての評価は自己点検・評価委員会で行うほか、評議員会（外部評価）を行っている。技術的な支援体制としては、技術員からなる教育研究支援センターが存在し、教育と研究の支援を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校教育理念に沿った教育及び地域社会への支援を行うために、地域連携テクノセンターを設置して、地域社会との共同研究や技術相談を行っている。また、地域連携テクノセンター運営委員会によって運営を行っている。評価は自己点検・評価委員会、外部評価である評議員会で行っている。センターは、たくさんの共同研究、技術相談の受け入れの窓口となっている。これらにより、適切に体制が作られ、支援体制も適切であると言える。

観点1 - : 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点到に係る状況)

[1] 地域連携テクノセンターを中心とする、近隣市町との共同研究は学校と市町全体への友好協定へと前進している。

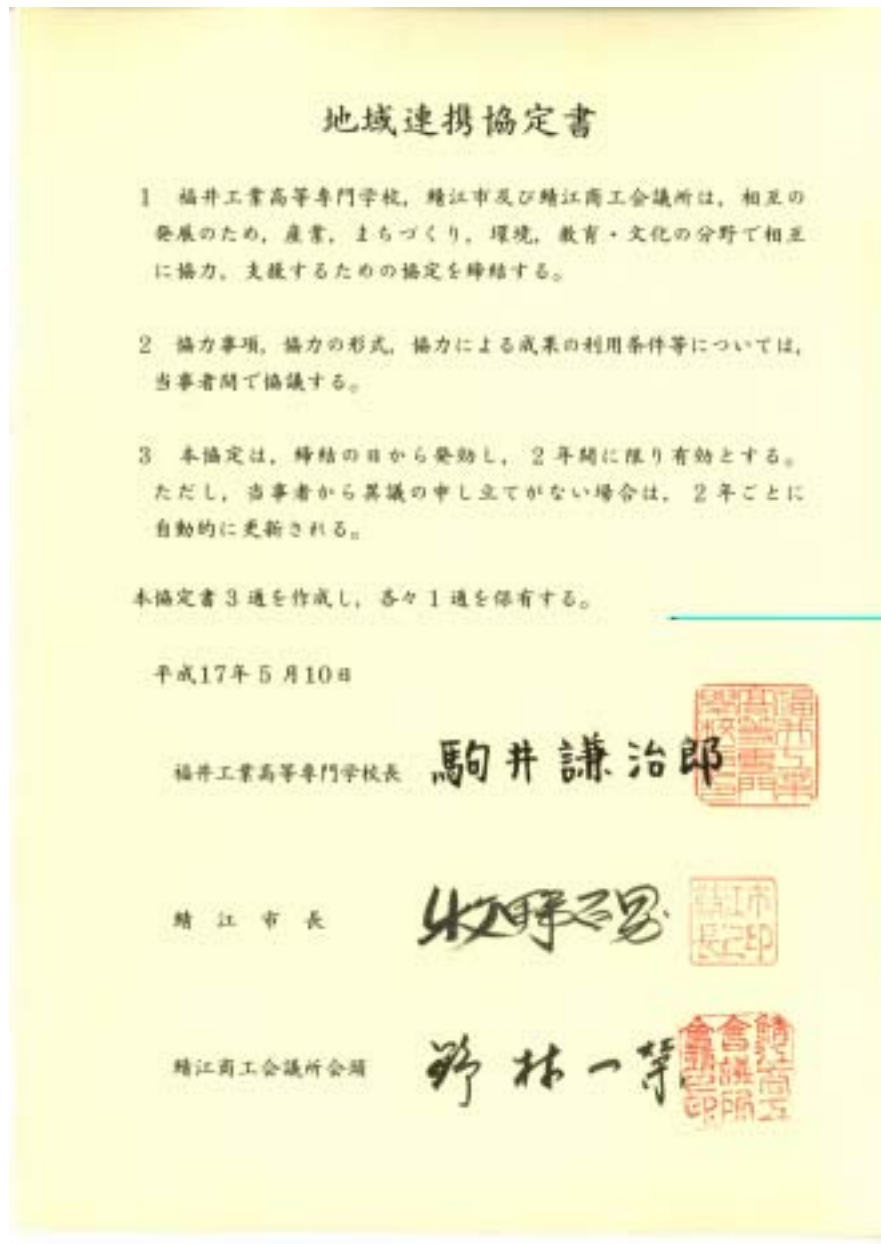
本校が位置する福井県丹南地方は県下最大の工業集積地である。地域の中心地である武生市は越前打ち刃物工業、電子材料工業が盛んである。隣接する今立町は、平安時代より和紙製造では、全国屈指の産地となっている。また、鯖江市は世界でも有数の眼鏡枠工業の集積地として有名である。地域の課題としては、全国屈指の産業である眼鏡や繊維などの振興と地域の活性化を結びつけた「まちづくり」が求められている。また、伝統産業の後継者不足、需要の低迷に対する振興策が求められている。

地場産業である眼鏡工業は近年のアジア諸国の低価格攻勢に悩み、毎年のように複数の企業が倒産に追い込まれている。この地域ではこれらの産業に従事する住民が多く、行政も大きな問題として取り上げている。

このような中、平成16年に和紙工業組合と眼鏡工業組合から、本校に共同研究の依頼があった。本校はこれらの依頼により共同研究を開始した。その後、これらの共同研究を行っている、鯖江市・武生市・今立町と、包括的な友好協定である「地域連携協定」を結ぶこととなった。平成17年5月10日に、地域の商工会議所も参加して協定が締結された。「地域連携協定」に関する鯖江市・武生市・今立町との協定書の鯖江市との例を(資料1 - - 1)に示す。この協定により、地域の伝統産業である、和紙製造工業、地場産業である眼鏡枠工業などと(資料1 - - 2)のような共同研究を進めていく。

(資料1 - - 1)

「地域連携協定書」



(出典 庶務課)

(資料1 - - 2)

「地域連携協定による共同研究テーマ」

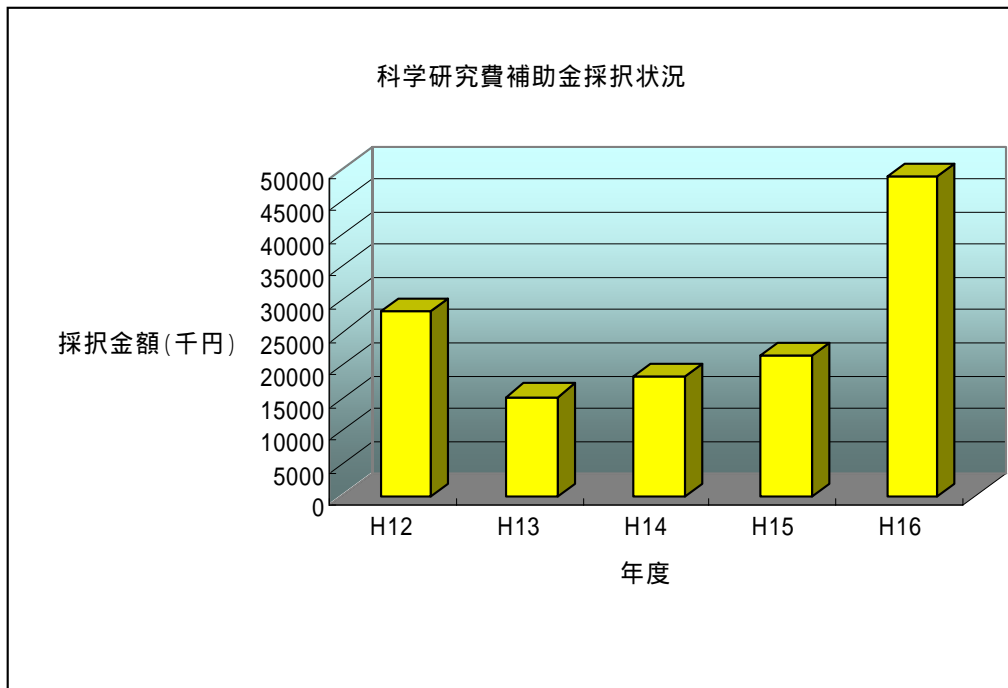
実施年度	共同研究テーマ	依頼先企業等
平成17～18年度	製紙に用いる粘着剤保存法と代替物の開発	福井県和紙工業協同組合
平成17～18年度	製紙に伴う河川の環境問題の対策法	福井県和紙工業協同組合
平成17～18年度	眼鏡枠金属新素材の開発	福井県眼鏡協会
平成17～18年度	眼鏡枠機能面・デザイントレンドを考慮したデザイン開発	福井県眼鏡協会
平成17～18年度	打ち刃物材料であるクラッド材の改良	地元金属材料企業
平成17～18年度	微生物反応と電極反応を応用した新規環境浄化技術の開発	地元繊維企業
平成17～18年度	ナノめっき技術による機能性粒子の創製	地元繊維企業

(出典 庶務課)

[2] 本校は材料科学，環境科学関係を専門とする教員が多く，特に，金属材料，電子材料，新素材，などの開発や，表面処理技術などの分野で多くの共同研究を行っている。また，生物化学の研究者も多い。したがって，地元の眼鏡工業企業より金属フレームの加工や新材料に関する多数の技術相談，共同研究依頼が寄せられている。福井県は古くから織物業が盛んであるが，近年，これらの企業が電子部品工業に業種転換している場合も多いが，電子部品関連の技術相談も多い。これらにより，科学研究費補助金をはじめとして，共同研究，受託研究，奨学寄附金等で相当の実績をあげており，これらの数値は全国55高専中すべて高位に入っている。特に，科学研究費補助金の採択件数は例年高位に位置し，平成16年度に採択された科学研究費補助金額は全国高等専門学校中1位である。本校の科学研究費補助金の採択状況を(資料1 - - 3)に示す。

(資料1 - - 3)

「近年における本校の科学研究補助金採択額」



(出典 庶務課)

[3] 国、県などとの共同研究事業である、大型の産官学共同研究にも多数参加しており、(独)科学技術振興機構事業である、福井県地域結集型共同研究事業(平成12年～平成17年)や、福井県都市エリア型共同研究事業(平成15年～平成18年)などの大型産官学共同研究に多数の教員が参加中であり、特に、スパッタリング法やメッキ法による表面処理技術では福井県内では既に定評があるところである。福井県地域結集型共同研究事業では本校教員がグループリーダーを務めている。平成14年度から平成16年度までの2年間の大型の産官学共同研究例を(資料1 - - 4)に示す。

(資料1 - - 4)

「(独)科学技術振興機構などとの大型の産官学共同研究例」

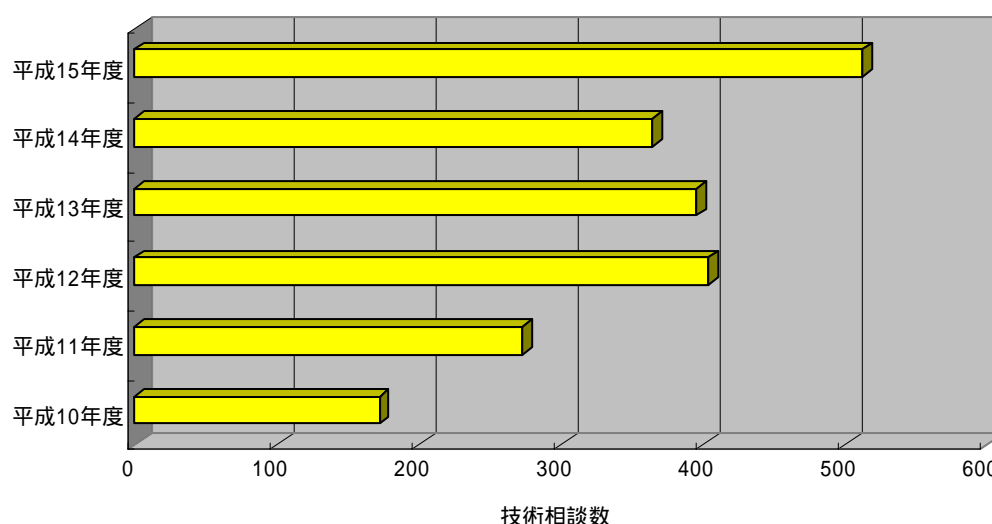
実施年度	共同研究名	相手先企業名など	事業名
平成14年度 ~16年度	長寿命H I Dランプの開発		福井県結集型共同研究 ((独)科学技術振興機構)
平成14年度 ~16年度	シリコン基板を用いたハードディスク用次世代薄膜磁性媒体の開発	地元電子材料大企業	福井県結集型共同研究 ((独)科学技術振興機構)
平成14年度 ~16年度	レーザ誘起光化学反応による低音薄膜成長技術の開発	地元化学企業	福井県結集型共同研究 ((独)科学技術振興機構)
平成14年度 ~16年度	シリコン基板の垂直記録方式用基板の開発	地元電子材料大企業	福井県戦略型地域産官学共同研究(福井県)
平成15年度 ~16年度	ナノ領域制御の薄膜形成と機能性材料創生技術開発	地元繊維企業・ 化学企業	都市エリア型産官学連携促進事業(文部科学省) 受託研究

(出典 庶務課)

[4] 「地域連携テクノセンター」を中心に共同研究を行っているが、共同研究に進む前に、先ず企業からの技術相談が寄せられる。この技術相談が共同研究に進展するので、本校では技術相談件数を重要視している。近年、地域企業からの技術相談も多く、(資料1 - - 5)のように、平成15年度には500件を超えている。現在、交流会などにおいて、高専は敷居が低く相談しやすいとの感想が企業より聞かれるが今後とも相談しやすい高専を目指したい。

(資料1 - - 5)

「技術相談件数の変移」



(出典 庶務課)

[5] 地域の企業が本校の教育と研究を支援する「福井高専教育研究振興会」が平成 6 年度に設置された。これは高松高専などに続き、全国の高専でも最も早い設立であった。本年、平成 17 年 4 月より、本校が地域企業を支援する会として、「福井高専地域連携アカデミア」として発展的に改組され、37 の企業が参加している。現在、この「福井高専地域連携アカデミア」を中心に地域の企業との様々な連携が既に行われている。同アカデミアの事務局は福井商工会議所内に置かれ、地元の経済界が福井高専の教育研究を支援する組織となっており、福井県も参加している。

本校の地域における産官学共同研究、特に、伝統産業・地場産業支援は福井県内でも大きな話題となっており、(財)ふくい産業支援センターが本校の地域で取り組む事業に連携を申し出ている。また、このような本校の取り組みは新聞などでも数多く取り上げられ、平成 16 年 6 月には(資料 1 - 6)のようにNHKニュースの東海北陸版で放映された。

(資料 1 - - 6)

「本校の共同研究を伝えるニュース」



(6) 本校, 教員が最近5カ年に出願あるいは取得した, 特許は(資料1 - - 7)のように数多い。

(資料1 - - 7)

「最近5カ年に本校教員が出願あるいは取得した特許」

出願番号	発明の名称	出願人名
特願 2002-012391	超短パルスレーザーを用いた微細加工方法及びその加工物	安丸尚樹
特願 2003-368423	炭素薄膜構造並びに炭素薄膜の加工方法及び製造方法	安丸尚樹
United States Patent, Patent No.6043510	MOLECULE-DOPED TYPE NEGATIVE-RESISTANCE DEVICE AND METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME	川本 昂
特許第 3142005 号	分子分散型負性抵抗素子とその製造方法	川本 昂
日本特許出願 2004-170379	「カーボンナノチューブ, カーボンナノワイヤおよびその製造方法」	川本 昂
European Patent EP 0844672 B1 (E P C) DE, FR, GB	MOLECULE-DOPED TYPE NEGATIVE-RESISTANCE DEVICE AND METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME	川本 昂
Deutsches Patent 0844672 (ドイツ)	NEGATIVER WIDERSTAND DES MOLEKUL ARDISPERSIONS TYPUS UND VERFAHREN ZUR HERSTELLUNG	川本 昂
French Patent 0844672 (フランス)	RESISTANCE NEGATIVE DU TYPE A DISPERSION DE MOLECULES ET SON PROCEDE DE PRODUCTION	川本 昂

(出典 教員会議資料)

(7) 本校教員は授業などに用いるテキスト, 参考書を数多く著わしており, 最近に本校教員が出版した, テキスト参考書を(資料1 - - 8)に示す。

(資料1 - - 8)

「本校教員の最近の著作」

著作本名	著者(単著・共著)	出版社	出版年
テキスト「保健体育」	島田 茂(共著)	大修館	2002年
技術者入門	原口 治(共著)	学術図書出版社	2004年
技術者倫理	原口 治(共著)	学術図書出版社	2004年
電気・電子系教科書シリーズ 電気機器工学	新谷邦弘(共著)	コロナ社	2001年
地球環境	吉村忠与志(共著)	サイエンスハウス	2004年
技術者倫理入門	吉村忠与志(共著)	オーム社	2003年
コンピュータ化学	吉村忠与志(共著)	サイエンスハウス	2003年
技術者のための Excel 活用研究	吉村忠与志(共著)	CQ 出版	2002年
グリーン・ケミストリー	吉村忠与志(共著)	三共出版	2004年
有機薄膜及び有機・無機複合膜の作製・評価と機能化 - デバイス応用の現状と課題	川本 昂(共著)	電気学会	2004年
初めて学ぶ基礎材料学	太田泰雄(共著)	日刊工業新聞社	2004年
融雪期の地すべり	太田泰雄(共著)	日本雪工学会	2004年
ネットワーク社会における情報の活用と技術	藤原正敏(共著)	実教出版	2005年

(出典 教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校教育理念の「創造性豊かな人材の育成」、「幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」、「高度に情報化した国際社会に対応する教育」、「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育」を沿った研究体制，研究支援体制を作り，実施している。特に，地域社会に連携した教育研究が進められている。

その結果，地域社会と，「地域連携協定」を締結し，今後，数多くの共同研究を行うこととなった。また，技術相談は年間500件を超え，地域での技術センターとしての役目を果たしている。また，国・県などと共に参加する大型の産官学共同研究にも多く参加している。特に伝統産業・地場産業支援を積極的に行っている。このような様子はテレビでも紹介されている。したがって，これらにより，目的に沿った成果が上がっていると言える。

観点1 - : 研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

(観点到に係る状況)

- [1] 校内に研究改善委員会を設置し，毎年度1回，教員の前年度の研究活動評価に関するアンケートを行い，報告書をまとめている。
- [2] このような研究改善委員会での調査結果を基に，学校長，副校長，各学科主任などにより構成される「自己点検・評価委員会」において，毎年度ごとに評価を適正に行っている。
- [3] 二つの市と一つの町と地域連携協定を本年5月10日に結んだが，その中に，学と市が絶えず共同研究事項などについて協議を行い，進行状況について評価を行う条項が入っている。評価を行政と本校により定期的に行う。
- [4] 本校内に，国立の複数大学長，中学校長，商工会議所会頭，大企業研究所長，報道関係役員などの外部有識者からなる評議員会を設置している。毎年1回，評議員会を開催し，本校の教育と研究の評価を行っている。教員の研究活動についても，実績や今後の研究活動について詳しい検討を行っている。
- [5] これらの評価結果は報告書やホームページで公開している。

(分析結果とその根拠理由)

研究改善委員会が設置され，十分な活動を行っている。また，自己点検・評価委員会でも教育研究評価を行っている。さらに，評議員会では外部有識者がさまざま観点から，本校の教育研究を見て，評価し，それに対して，翌年度に改良点の報告を行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

地域共同研究センターが全国の高専でほとんど設置されていなかった平成3年より、本校では地域との共同研究を支援するセンターを自助努力で立ち上げ、地域に対する支援を行ってきた。その運営体制、支援体制も存在し、機能している。また、本校に対する教育・研究の振興会も地元産業会により設置され、これも全国で最も早い地元からの支援である。共同研究・技術相談も順調に増加しており、これらにより、科学研究費補助金も全国高専で飛びぬけた採択額となっている。地域の伝統産業支援、地場産業支援も「地域連携協定」締結により積極的に行われている。全国の児童・生徒・学生を対象としたアイデアコンテストを11年前より実施、青少年の理科離れ、地域情報の発信などに大きな実績を上げている。また、研究改善委員会の設置など、いろいろな評価体制も整っている。

(改善を要する点)

特に改善する点はないが、今後とも本校の基本理念に則り、地元と連携し、地域への支援を続けていきたい。

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

本校の教育理念である、「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」、「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」に則り、全校的に研究体制、研究支援体制として、平成3年に「先進技術教育研究センター」を設置し、現在は発展的に改組して「地域連携テクノセンター」として地域との共同研究にあたっている。この地域連携テクノセンターは、現在、福井県の産官学共同研究のネットワークの拠点の一つとなっており、福井県の企業・行政から産官学共同研究の中核機関として大きな期待が寄せられている。本校の産官学共同研究は、地域への支援であると共に、教員の教育的資質を向上させるためでもある。また、地域の共同研究を行っている企業に学生をインターンシップとして派遣し、学生への教育ともなっている。これらの結果、共同研究・技術相談は順調に増加しており、科学研究費補助金も全国高専で飛びぬけた採択額となっている。

また、平成17年5月10日に本校と近隣の福井県武生市、鯖江市、今立町、及び地域の商工会議所は「地域連携協定」を結んだ。この協定により、本校は、これら地域の産業界との共同研究、地域住民に対するリカレント教育、小中学校への出前授業などを行うことを約束した。この、連携協定を結んだ地域は、福井県の第2次産業が集積した「ものづくり」地域であり、和紙工業や打ち刃物工業などの古くからの伝統産業や、眼鏡枠工業などの地場産業が盛んである。この伝統産業・地場産業支援を本校の産官学共同研究の大きな目的とすると共に、その成果を学生への教育に還元したい。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

選択的評価基準 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点1 - : 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

本校は基本理念に「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ、次のような地域・国民に対する幅広い活動を行っている。

[1] 出前授業は毎年、50件以上行っており、福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。平成16年度に行った出前授業のテーマと対象者、参加者の一部を(資料1 - - 1)に示す。

(資料1 - - 1)

「平成16年度に実施した出前授業の例」

開催した出前授業名	対 象	参加者数
水生生物による水質調査	小学生，保護者，地域住民	52名
ふるさとの水を守る	小学生，保護者，地域住民	50名
自然観察会	小学生，中学生，地域住民	50名
人と生き物のくらしと水	地域住民	43名
ロボコンをやってみよう	小学生，保護者，地域住民	120名
自分さがしから自分づくりへ	地域住民	200名
液体窒素ってなあに	小学生，中学生，地域住民	23名
ソーラーカーの走行と説明	小学生，保護者，地域住民	50名
機械設計の基本	地域住民	75名
環境マップを作ろう	小学生，中学生，地域住民	23名
地震による液状化被害	地域住民	20名
燃料電池を作ろう	小学生，中学生，地域住民	45名

(出典 庶務課)

さらに、平成17年度より、本校が出前授業に派遣する教員・学生を「サイエンスの達人」と名づけ、地域連携協定を結んだ市町の小学校・中学校を中心に派遣している。

本校の出前授業の特徴は派遣する教員のほか、ほとんどの場合、学生を帯同する。特に、中学校へ出前授業は、出前授業を開催する中学校の出身学生を出前授業に参加させ、後輩に成長した先輩の様子を見てもらうこととしている。学生も後輩に誇らしく実験を行うようである。

また、環境都市工学科では、河川の水質や水生動物と河川の汚染の関係など、住民に身近な話題で環境問題の意識を高めている。また、福井県越前海岸は第三紀層の地質のため、急斜面の崩落・地すべりが多く発生し、数年前にはマイクロバスが土砂に飲み込まれる事故も発生した。本校は環境都市工学科を中心に、その観測を行い、安全のための説明会も実施している。

[2] 福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し、地域住民対象開放講座である、福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に毎年、哲学、環境関係の講師を派遣して、事後のアンケート

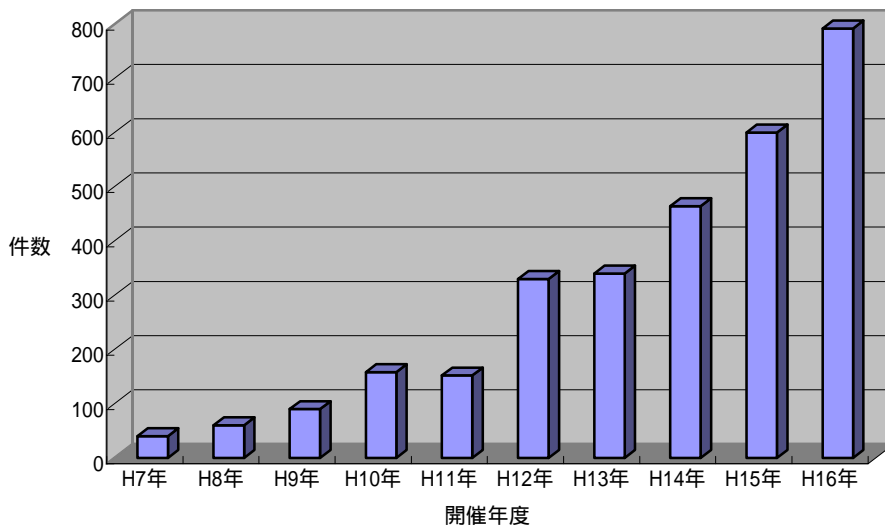
で好評を博している。特に昨年は哲学部門の講演会が人気であった。平成 17 年度も多くの本校プログラムを県民に提示している。

[3] 福井県は強力磁石の世界的な生産拠点となっている。この本校近隣の武生市の新しい地場産業である、強力磁石を製造する企業とともに、児童・生徒、学生の理科離れを防ぐために、マグネットを用いたアイデアコンテストを平成 7 年度より実施し、全国の小中学生、高校生、大学生から寄せられるアイデア数は 7 0 0 件を超えている。応募状況を（資料 1 - - 2）に示す。これらのアイデアは優秀作を実際に製作し、（資料 1 - - 3）のように、(独)若狭湾少年自然の家の玄関前に設置され、同自然の家を訪れる小・中学生にアイデアを紹介し、科学に対する興味を喚起している。また、平成 1 6 年度より、福井県の代表的な地場産業である眼鏡工業組合と共同で、全国の児童・生徒・学生対象に眼鏡に関するアイデアコンテストを開始した。1 年目であるが、やはり 8 0 0 件以上の応募があった。

これらは単に理科離れを防ぐのみならず、地元企業の全国への情報発信、本校の知名度向上などともなっている。

（資料 1 - - 2）

「マグネットコンテスト応募者の推移」



（出典 庶務課）

(資料1 - - 3)

「マグネットコンテスト優秀作の製作例」



(出典 庶務課)

[4] 平成17年5月に提携した，地域連携協定に則り，地域の青年・壮年・高齢者・女性などの団体と連携し，地域の人々に対する学習ニーズに応えるため，公開講座，高度技術者研修などを実施し，リカレント教育を実施している。この地域では高齢化が進み，生涯学習，健康を目指す生涯スポーツなどのニーズがたかまっている。本校はこのようなニーズに応えると同時に，本校の体育関係の施設の地域への開放を行って行きたい。

[5] 平成17年度より，本校に多数の受験生を送っている県内の約20の中学校と本校は提携を行う，「提携中学校制度」を準備中である。この制度により，本年度より，提携した中学校では出前授業などを開催することとなっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の基本理念に則り，数多くの正課外の教育サービスを社会に提供している。特に平成17年5月に締結された地域連携協定により，多数の出前授業，公開講座を始めた。また，技術者講習である高度技術者研修などを開催し，企業への教育研究サービスを行っている。特に，全国の児童・生徒・学生対象にアイデアコンテストを実施している。強力磁石を用いたアイデアを募集する，マグネットコンテストは11年目となっており，青少年の理科離れ防止に早くから対処してきた。これらにより，学校目的に沿って，教育サービスを十分行っていると見える。

観点1 - : サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

平成16年度の出前授業、公開講座などの開催数は50回以上であり、福井県内高等教育機関で最も多い回数となっている。また、入場者も多い場合は200名を超えている。

下記(資料1 - - 1 ~ 資料1 - - 2)に平成16年度に実施した公開講座の名称、開設対象者、募集人数一覧を示す。

(資料1 - - 1)

「平成16年度実施公開講座(1)」

講座名	日時	受講料	対象者	募集人数	講師
機械設計入門講座	5/17(月)~5/20(木), 5/24(月)~5/27(木), 5/31(月)~6/ 3(木), 6/ 7(月)~6/10(木), 19:00~21:00 (16日間:32時間)	無料	市民一般 (機械系 技術者)	20人	機械工学科 教授 阪口健一 教授 井上清一 教授 吉崎保夫 教授 田中嘉津彦 助教授 加藤寛敬 助教授 藤田克志 助教授 芳賀正和 助手 岡田将人
技術者のためのExcel活用実習	6/ 5(土), 6/12(土), 6/19(土), 6/26(土) 13:00~16:00 (4日間:12時間)	無料	市民一般 (Excel利用 者、 <u>縮小</u> を扱 う人)	20人	物質工学科 教授 吉村忠與志
英検3級合格をめざして 「春季コース」	6/5(土),6(日) 10:00~12:00 (2日間:4時間)	無料	中学生	20人	一般科目教室 教授 小寺光雄 助教授 壬生正博 助教授 森 貞 助教授 瀬川直美
Java Appletを使った簡単なコンピュータグラフィックス	7/24(土), 7/25(日) 10:00~12:00 (2日間:4時間)	無料	市民一般 (中学生 以上)	15人	電子情報工学科 全教官
おもちゃづくりから学ぶ サイエンス	7/26(月), 7/27(火) 9:00~16:00 (2日間:12時間)	無料	中学生	20人	機械工学科 教授 井上清一 教授 田中嘉津彦 助教授 藤田克志 助教授 芳賀正和 講師 村中貴幸
楽しい電子回路入門 - マイコンでロボットを動かしてみよう! -	7/31(土) ~ 8/2(月) 13:00~18:00 (3日間:15時間)	3,600円	中学生	15人	電気工学科 教授 前多信博
電気実験講座	8/2(月) 9:00~16:30 (1日間:7時間)	無料	小中学校 の理科系 教諭	15人	電気工学科 教授 新谷邦弘 教授 原田 望 教授 大久保 茂 助教授 山本幸男 助手 丸山晃生

(出典 庶務課)

(資料1 - - 2)

「平成16年度実施公開講座(2)」

講座名	日時	受講料	対象者	募集人数	講師
ブリッジコンテスト2004 - 橋をつくってみよう -	8/3(火), 8/4(水) 9:30 ~ 15:30 (2日間: 10時間)	無料	中学生	15人	環境都市工学科 教授 前島正彦 助教授 阿部孝弘 助教授 吉田雅穂 助手 辻野和彦
初心者テニス教室	8/28(土), 29(日), 9/4(土), 5(日) 9:30 ~ 12:00 (4日間: 10時間)	200円 傷害 保険料	市民一般 (小学校高学 年以上でラケ ットを持って いる人)	20人	一般科目教室 教授 島田 茂
身のまわりの統計学	10/2(土) 9:00 ~ 11:00 (1日間: 2時間)	無料	市民一般	15人	一般科目教室 教授 朝倉相一
身の回りの“もの”を作ってみよう - 高分子材料 -	10/2(土), 10/3(日) 10:00 ~ 17:00 (2日間: 12時間)	無料	中学生	10人	物質工学科 講師 加藤 敏
英検3級合格をめざして 「秋季コース」	10/9(土), 10(日) 10:00 ~ 12:00 (2日間: 4時間)	無料	中学生	20人	一般科目教室 教授 小寺光雄 助教授 壬生正博 助教授 森 貞 助教授 瀬川直美

(出典 庶務課)

(分析結果とその根拠理由)

公開講座の実施を続け、ほとんどの講座が定員を満たしている。また、出前授業、公開講座、高度技術者研修の開催数は福井県の高等機関中最も多い。また、参加者は下記(資料1 - - 3)のように概ね、満足している結果となっている。

(資料1 - - 3)

「平成16年度実施公開講座満足度」

公開講座名称	開設時間	受講対象者	満足度
機械設計入門講座	32時間	一般市民	73%
おもちゃ作りから学ぶサイエンス	12時間	中学生	63%
電気実験講座	7時間	小中学理科教諭	91%
ブリッジコンテスト(橋を作ってみよう)	15時間	中学生	100%
計	66時間		82%

(出典 庶務課)

公開講座の企画は広報委員会で行っているが、開催後、広報委員会で満足度の調査を行い、集計をする。この結果を基に、学校長、副校長、各学科主任などにより構成される自己点検・評価委員会において、毎年度ごとの評価を適正に行っている。

また、本校内に、国立の複数大学長、中学校長、商工会議所会頭、大企業研究所長、報道関係役員などの外部有識者からなる評議員会を設置しており、毎年1回、評議員会を開催し、本校の教育と研究の評価を行っている。出前授業、公開講座などの活動についても、実績や今後の研究活動について詳しい検討を行っている。

本校は、二つの市と一つの町と地域連携協定を本年5月10日に結び、学と市が絶えず協定事項について協議を行い、進行状況について評価を行うこととしている。評価を行政と本校により定期的に行うものである。

以上により、出前授業、公開講座などの評価を行い、次年度に活かしている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成16年度に小学校・中学校対象を対象に実施した出前授業は、50回を超えている。

また、平成7年度より、強力磁石を用いたアイデアを募集する「マグネットコンテスト」を全国の小・中学生、高校生、高専生、大学生を対象に開催し、昨年アイデア応募数は800件近くあった。さらに、平成16年度より眼鏡に関するアイデアを募集する「めがねワクwakuコンテスト」を同様に開催したところ、アイデア応募数は初回にもかかわらず800件を超えた。これらのコンテストは青少年の理科離れを防ぐ意義により始めたものであるが、本校の正課以外の教育サービスの中でも特筆されるものである。

また、本校のロボットコンテストの成績が良いことより、地元中学校、地域社会でのロボット実演要請が多く、地元の科学への興味の喚起に寄与している。

(改善を要する点)

現在、出前授業は各学科が主体となって行っているため、これを窓口として一元化したい。

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

本校は基本理念に「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ、地域・国民に対する幅広い活動を行っている。地元社会に開かれた学校として、出前授業は毎年50件以上行っている。本校の小・中学校への出前授業はほとんどの場合、その小・中学校出身の学生が帯同し教員と協力して出前授業を行っている。これにより、授業に参加する児童・生徒の興味が増し、実験を手伝う学生も誇りを持って行っている。また、地域の高齢化社会・健康志向社会などによる学習ニーズのたかまりに対応するため、生涯スポーツや各種の公開講座を実施している。さらに、本校主催の公開講座の他に、福井県教育委員会主催の福井県生涯学習大学開放講座協議会にも参加し地域住民への講座を開催している。本校のNHKロボットコンテストの成績は、これまで大賞を2度取るなど地域では有名である。このため、地元の小・中学校、地域社会でのロボット実演、実験指導依頼が多く、地元の科学への興味の喚起に寄与している。

さらに、青少年の理科離れを防ぐ目的で、全国の生徒・学生対象に強力磁石を用いたアイデアコンテストを10年前より開催している。インターネットによる公募もあって、応募者は次第に増加している。このコンテストは青少年の理科離れを防ぐだけでなく、地域社会の情報や本校を全国に紹介する役目も担ってきた。さらに、昨年より、地元眼鏡工業組合と共に、眼鏡に関するアイデアコンテストも主催して開催している。平成16年度は初回にも拘わらず、全国より800件を超えるアイデアが寄せられた。また、平成17年5月に提携した「地域連携協定」により、地域の住民への生涯教育や公開講座、講演、出前授業など多岐にわたる教育サービスを開始した。

昨年の「福井豪雨」には、多数の学生・教職員が数度にわたって、組織的にボランティア活動した。ボランティア活動は地域への支援とともに、学生の人間性の涵養をも目的としている。今後も地域のボランティア社会の構築のために、積極的に参加し地域社会に貢献したい。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。